EarthFinder 操作説明書

OperationManual of EarthFinder.

Version 3.7.0

国際航業株式会社
KOKUSAI KOGYO CO., LTD.

Copyright 2001-2011, KOKUSAI KOGYO CO.,LTD.

目 次

1 はじめに 1-1

1.1 機能概要 1-1
1.2 基本用語説明 1-1

2 起動方法と終了方法 2-1

2.1 起動方法 2-1
2.2 終了方法 2-1

3 メニューバーからの機能 3-1

4 左画面からの機能 4-1

4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ 4-2

5 ツールバーの活用 5-1

5.1 ツールバーを表示/非表示する 5-1
5.2 ツールバーをカスタマイズする 5-1

6 地図操作を行う 6-1

6.1 地図を表示する 6-1
6.2 特殊な地図を表示する(数値地図 50M メッシュ) 6-2
6.3 地図操作画面 6-3
6.4 スクロール 6-4
6.5 マウスホイールによる地図操作 6-4
6.6 拡大/縮小 6-5
6.7 副地図の操作 6-6
6.8 スケールを表示する 6-7
6.9 区画を表示する 6-8
6.10 画面をコピーする 6-9
6.11 地図文字編集 6-11
6.12 再描画 6-13

7 計測を行う 7-1

7.1 距離計測 7-1
7.2 面積計測 7-2

8 地図属性操作を行う 8-1

8.1 地図属性を選択する 8-2
8.2 地図属性を編集(削除)する 8-3

9 住所・目標物検索を行う 9-1

9.1 検索パネルを操作する 9-1
9.2 検索を行う 9-2
9.3 検索した地点を表示する 9-8

10 プロット操作を行う 10-1

10.1 プロットパネルを操作する 10-1
10.2 プロットグループを操作する 10-6
10.3 プロットを作成する 10-19
10.4 プロットを表示する 10-29
10.5 プロットを削除する 10-38
10.6 プロットの位置を変更する 10-39

10.7 プロットプロパティを表示・変更する 10-40
10.8 プロットを移動する 10-41
10.9 プロットを検索する 10-43
10.10 プロット距離圏を操作する 10-46
10.11 複数のプロット候補の中から目的のプロットを選択する 10-48
10.12 プロットをマウス選択して操作する 10-49
10.13 住所マッチングウィザード 10-50
10.14 プロットグループ選択 10-56
10.15 スパイダー表示を行う 10-57

11 エリア操作を行う 11-1

11.1 エリアパネルを操作する 11-1
11.2 エリアグループを操作する 11-6
11.3 エリアを作成する 11-12
11.4 エリアを表示する 11-51
11.5 エリアを削除する 11-55
11.6 エリアのプロパティを操作する 11-55
11.7 エリアを移動する 11-57
11.8 エリアを検索する 11-59
11.9 エリアを編集する 11-63
11.10 エリアの重なりをチェックする 11-76
11.11 複数のエリア候補の中から目的のエリアを選択する 11-78
11.12 エリアをマウス選択して操作する 11-78
11.13 エリアの名称サイズを変更する 11-80
11.14 エリアグループ選択 11-81
11.15 プロットを検索する 11-82
11.16 分析レポートを作成する 11-85

12 エリア・プロットのインポート/エクスポート 12-1

12.1 ファイルからのインポート/エクスポート 12-1
12.2 SHAPE からのインポート/エクスポート 12-7
12.3 既存エリアグループの SHAPE ファイルを取込む（重複データがない場合） 12-10
12.4 KML ファイルに書き込む 12-14

13 集計・グラフ操作を行う 13-1

13.1 グラフパネルを操作する 13-1
13.2 データ集計グラフを作成する 13-4
13.3 集計結果を条件指定で絞り込む 13-20
13.4 プロットグラフを作成する 13-26
13.5 エリアグラフを作成する 13-29
13.6 グラフを操作する 13-31
13.7 ユーザデータを管理する 13-64
13.8 計算指標を作成する 13-67
13.9 マウスで選択して統計データを表示する 13-72
13.10 グラフを移動する 13-76
13.11 店舗相関分析データを作成する 13-77

14 作図操作を行う 14-1

14.1 作図パネルを操作する 14-1
14.2 図形グループを操作する 14-5
14.3 図形を作成する 14-6
14.4 作成した図形を編集する 14-25
14.5 図形オブジェクトを表示する 14-28

15 ハフモデル分析を行う 15-1

15.1 ハフパネルを操作する 15-1

15.2 分析条件を設定する 15-2
15.3 購買額を設定する 15-15
15.4 ハフ分析を実行する 15-15
15.5 店舗を操作する 15-16
15.6 ハフグラフの表示状態を切り替える 15-19
15.7 帳票を出力する 15-20
15.8 分析結果を保存する 15-21
15.9 ハフ機能ボタンを利用する 15-21

16 凡例操作を行う 16-1

16.1 凡例パレットを表示/非表示する 16-1
16.2 凡例パレットを作成・編集する 16-2
16.3 凡例を読み込む 16-16
16.4 凡例を保存する 16-17
16.5 凡例を印刷する 16-18
16.6 凡例パレットを削除する 16-18

17 探索操作を行う 17-1

17.1 概説 17-1
17.2 道路種別速度を編集する 17-2
17.3 到達圏探索を行う 17-6
17.4 最短経路探索(1 対 1)を行う 17-11
17.5 最短経路探索(1 対多)を行う 17-17
17.6 最短経路探索(多対 1)を行う 17-21

18 レイヤ操作を行う 18-1

18.1 レイヤ設定を行う 18-1
18.2 地図レイヤ表示を設定する 18-18

19 その他の操作 19-1

19.1 操作マニュアルの表示 19-1
19.2 バージョン情報の表示 19-1
19.3 ローカルファイル更新 19-1
19.4 名称の重なり除去 19-2

20 印刷を行う 20-1

20.1 印刷設定を行う 20-2
20.2 印刷範囲を設定する 20-11
20.3 プレビューを行う 20-16
20.4 印刷を実行する 20-34

21 分析を行う 21-1

21.1 出店分析を行う 21-1
21.2 レポートを作成する 21-5

22 付録 22-1

22.1 取り込みファイルのフォーマット 22-1

1 はじめに

EarthFinder は、地図がもつ情報を電子化して利用・応用するシステムであり、一般的に地理情報システムまたは GIS（Geographic Information System）と呼ばれています。
さまざまなデータベースを、電子化された地図上に結びつけることにより、現実の地理的空間との関係をビジュアルに表現でき、データベースのもつ情報がより鮮明かつ多角的に見えてきます。例えば企業経営においては、企業がもつ顧客情報、代理店情報、競合他社情報などのデータベースを地理的空間に位置付ければ、営業展開、店舗展開、顧客分析などにおいて、整理、分類、統合し、新たな価値と意味を創造することができます。
EarthFinder の適用範囲は、地図とデータベースの組み合わせによって、限りなく広がる可能性をもっています。

本文中には注釈や重要事項を示す為、以下のアイコンを用いています。

アイコン	意味
	付加情報を示します。
	参照すべきページがある場合を示します。
	重要な情報を示します。
	禁止事項を示します。

1.1 機能概要

当システムは行政界地図/道路地図/住宅地図等のさまざまな地図を利用でき、主に以下の機能をもっています。

- 顧客、会員、建物等の情報を地図上にシンボルとして配置し、これらの属性情報を登録・参照できます。
- 統計情報、実績情報等にしたがって、地図上の該当位置にグラフ表示することができます。
- テリトリー、管轄地域等のエリア情報を地図上に表示し、そのエリア内に含まれるシンボル、統計情報・実績情報等を集計することができます。
- 折込パッケージでは地図上のシンボルやグラフを参照しながら、様々な方法で折込チラシの配布計画が作成できます。

1.2 基本用語説明

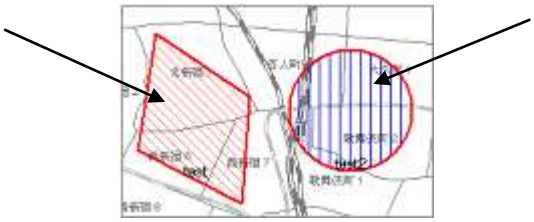
本製品、本マニュアルでは様々な用語や概念が存在します。それらの中でも主なものを以下に記述します。

1.2.1 プロット

地図と位置情報（緯度経度）をもつデータを関連付けることをプロットと言います。
当システムでは、データの位置情報にしたがって地図上の所定の位置にシンボルをプロットできます。

1.2.2 エリア

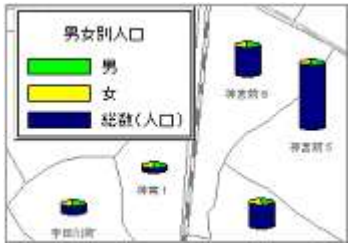
点の情報であるプロットに対して面の情報である円や多角形などをエリアと言います。



1.2.3 グラフ

お手持ちの実績データや、市販の統計データ（例えば、都道府県別人口や、市町村別店舗数等）を地図上に表示することにより、さまざまな視点から、実績データを解析することが可能になります。
当システムでは、以下の種類のグラフで表示することができます。

・棒グラフ　・3D 棒グラフ　・円グラフ　・3D 円グラフ　・界面グラフ　・メッシュグラフ

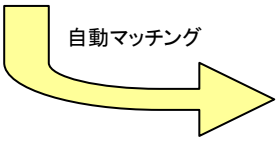


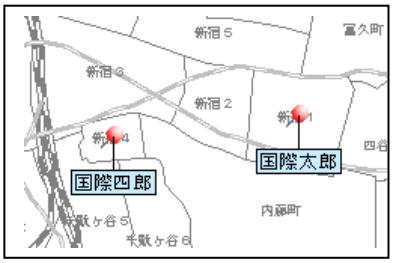
※界面グラフ、3D 円グラフの表示例

1.2.4 アドレスマッチング（ジオコーディング）

顧客情報のように住所をもつデータを、地図の位置情報（緯度経度）と結び付ける作業を、アドレスマッチングと言い、アドレスマッチングを行うことによって、顧客の住所を地図上に表示することができます。
アドレスマッチングは、住所や住所コードを利用して自動的に行えます。当システムでは、結びついた地図の位置をシンボルで表示したり、グラフで表示することが可能です。

顧客番号	氏名	住所	電話番号
1	国際太郎	東京都新宿区新宿1丁目	03-1234-5678
2	国際次郎	東京都新宿区新宿4丁目	03-1234-5681
3	国際三郎	東京都新宿区高田馬場2丁目	03-1234-5680





1.2.5 ワイルドカード

主に検索機能で用いる用語で、単語の 1 部を指定するだけでそれを含む単語を見つけるものです。
ワイルドカードには、”?”と”*”の 2 種類あり、前者が任意の 1 文字を表し、後者が任意の文字列を表します。
ワイルドカードを使用しない場合には、中間一致（*[入力文字]*と同等）検索が行われます。

例＞住所を検索する場合に、検索文字列に以下の条件を設定した場合とその結果は下表の通りです。

検索条件	検索結果	備考
神田	東京都千代田区内神田 東京都千代田区内神田1丁目 ： 東京都千代田区神田淡路町 東京都千代田区神田小川町 東京都千代田区外神田 ：	”神田”という文字が含まれる住所が検索されます。 これが、中間一致検索です。
*神田*町	東京都千代田区神田淡路町 東京都千代田区神田小川町 東京都千代田区神田鍛冶町 ：	“神田”という文字を含まれており、”町”という文字で終わる住所が検索されます。
神田*	（なし）	“神田”という文字で始まる住所が、検索結果欄に表示されます。
*神田?町	東京都千代田区神田多町 東京都千代田区神田司町 東京都千代田区神田錦町	“神田”という文字を含まれており、”神田”と”町”という文字の間に、何か 1 文字だけある住所が検索されます。

ワイルドカードは全ての検索で使用できるわけではありません。

1.2.6 メニューバー

メニューバーは、基本的な操作を行うためのコマンドが用意されている上部のメニューのことです。

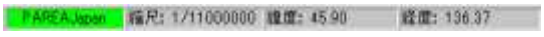
1.2.7 ツールバー

ツールバーは、メニューバーにあるコマンドをアイコン形式でまとめたものであり、アイコンをクリックするだけで機能を実行することができます。通常メニューバーの下にあります。

「5 ツールバーの活用」（p. 5-1）

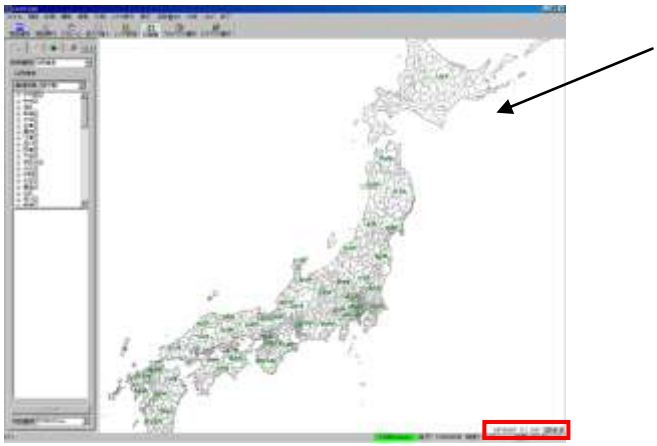
1.2.8 ステータスバー

地図描画ウィンドウの現在の情報が最下部に表示されます。ステータスバーの左から順に、現在表示している地図の名称、縮尺、緯度・経度座標が表示されます。



1.2.9 地図描画画面

地図が表示されている画面を地図描画画面（または地図画面）と言います。



⚠全ての地図画像は著作権法で保護されています。

1.2.10 レイヤ

レイヤ（layer）とは階層のことで、複数のレイヤ（例えば地図のレイヤ、エリアのレイヤ、プロットのレイヤなど）に前面/背面の関係を持たせることで地図描画画面に目的にあった地図が描かれていきます。

1.2.11 ローカルプロット、ローカルエリア

バージョン 3.5 以前の EarthFinder ではプロットやエリアは全てデータベースに保存されました。これはサーバ/クライアント構成の場合全てのクライアントでプロット、エリアを共有することとなっていましたが、ローカルプロット、ローカルエリアではデータを操作している PC 内のみで保存され共有されません。

また、ローカルファイルで保持することで高速に操作することが可能です。

⚠プロットは 1 万件以内の使用が最も快適に操作できます。（それ以上のプロットをローカルにするのは避けてください）

2 起動方法と終了方法

本章では Earth Finder の起動と終了の方法について説明します。

2.1 起動方法

1. デスクトップにある「EarthFinder」のショートカットを起動（ダブルクリック）してください。

2. EarthFinder が起動します。

上記画面の場合は、地図選択画面により、表示する地図を選択してください。

「6.1 地図を表示する」(p. 6-1)

前回作業を行っていれば、その時点の状態で起動されます。地図の種類、縮尺率、表示場所、その他プロット、エリア、レイヤ設定、などが再現されます。

2.2 終了方法

1. メニューにある「終了」を選択するか、画面に右上にある×を選択します。

2. 以下の画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックすると EarthFinder が終了します。

プロット・エリア・作図でローカル保存の作業を行った場合は終了時、ステータスバーに「ローカルファイル更新中です」というメッセージが表示されます。

「10 プロット操作を行う」(p. 10-1)
「11 エリア操作を行う」(p. 11-1)
「14 作図操作を行う」(p. 14-1)

3 メニューバーからの機能

EarthFinder の各機能は画面上部のメニューバー・ツールバーと画面左側に表示される左画面から使用します。
本章ではメニューバーからの機能について記述します。

「4 左画面からの機能」(p. 4-1)
「5 ツールバーの活用」(p. 5-1)

1. ファイル
   エリアやプロットのインポート(読み込み)やエクスポート(書き出し)ができ、印刷の機能があります。

   「12.1 ファイルからのインポート/エクスポート」(p. 12-1)
   「20 印刷を行う」(p. 20-1)
   「19.3 ローカルファイル更新」(p. 19-1)

2. 地図
   地図画面での地図の操作、表示する地図の選択、地図のコピー、地図の文字編集が行えます。

   EarthFinder 導入後、初めて操作する場合はここから始めてください。
   「6 地図操作を行う」(p. 6-1)

3. 計測
   任意に描かれた線または範囲の距離や面積を測ることができます。

   「7 計測を行う」(p. 7-1)

4. 属性
   “属性”は“地図属性”を示しています。データベースに地図属性が入っている場合はそれらの情報を表示させることが可能です。

   データベースの容量の関係上、地図によって導入されていない場合があります。
   「8 地図属性操作を行う」(p. 8-1)

5. 探索
   車、距離による到達圏や最短経路、巡回経路などの探索を行うことができます。

   こちらの機能はオプションとなっています。
   「17 探索操作を行う」(p. 17-1)

6. 凡例
   凡例に関する操作が行えます。

   「16 凡例操作を行う」(p. 16-1)

7. レイヤ表示
   レイヤに関する操作が行えます。

   ☞「18 レイヤ操作を行う」(p. 18-1)

8. 表示
   ツールバーのカスタマイズが行えます。

   ☞「5 ツールバーの活用」(p. 5-1)

9. 名称重なり
   名称の重なりを除去することができます。

   ☞「19.4 名称の重なり除去」(p. 19-2)

10. ヘルプ
    操作マニュアル、バージョン情報を表示できます。

    ☞「19.1 操作マニュアルの表示」(p. 19-1)
    ☞「19.2 バージョン情報の表示」(p. 19-1)

11. 終了
    EarthFinder を終了させます。

    ☞「2.2 終了方法」(p. 2-1)

4 左画面からの機能

EarthFinder の各機能は画面上部のメニューバー・ツールバーと画面左側に表示される左画面から使用します。
本章では左画面からの機能について記述します。

☞「3 メニューバーからの機能」(p. 3-1)
☞「5 ツールバーの活用」(p5-1)

1. 検索
   特定の住所、住所・目標物検索による地図移動が行えます。

   ☞「9 住所・目標物検索を行う」(p. 9-1)

2. プロット
   プロットに関する操作が行えます。

   ☞「10 プロット操作を行う」(p. 10-1)

3. エリア
   エリアに関する操作が行えます。

   ☞「11 エリア操作を行う」(p. 11-1)

4. 集計・グラフ
   グラフ集計に関する操作が行えます。

   ☞「13 集計・グラフ操作を行う」(p. 13-1)

5. 作図
   作図に関する操作が行えます。

   ☞「14 作図操作を行う」(p. 14-1)

6. ハフモデル
   ハフモデルに関する操作が行えます。

   ☞「15 ハフモデル分析を行う」(p. 15-1)

4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ

左画面はメニューバーから表示/非表示を設定することができます。

ツールバーの をクリックすると左画面が表示されます。

左画面が表示状態の時はボタンが凹んで表示されます。この状態でボタンをクリックすると左画面が非表示になります。

5 ツールバーの活用

EarthFinder の各機能は画面上部のメニューバー・ツールバーと画面左側に表示される左画面から使用します。
本章ではツールバーからの機能について記述します。

「3 メニューバーからの機能」(p. 3-1)
「4 左画面からの機能」(p. 4-1)

5.1 ツールバーを表示/非表示する

表示メニューから「ツールバー」を選択するとメニューバーの下にツールバーが表示されます。

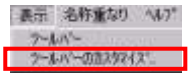
ツールバーが表示されているときは以下のようにチェックが付いています。

チェックが付いている状態で再選択するとツールバーが非表示になります。

5.2 ツールバーをカスタマイズする

ツールバーは使いやすいようにカスタマイズすることができます。

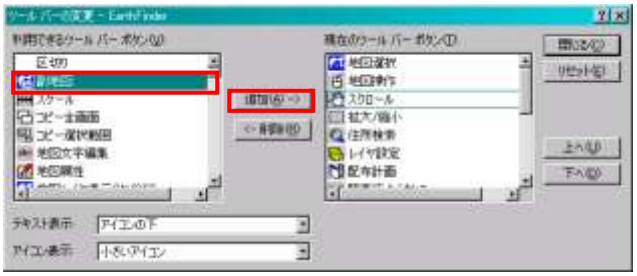
1. 表示メニューから「ツールバーのカスタマイズ」を選択します。



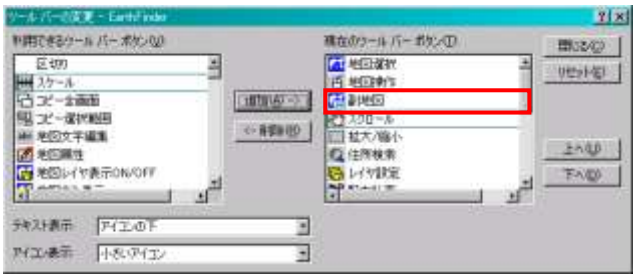
2. 「ツールバーの変更」画面が表示されます。

5.2.1 ツールバーにボタンを追加/削除する

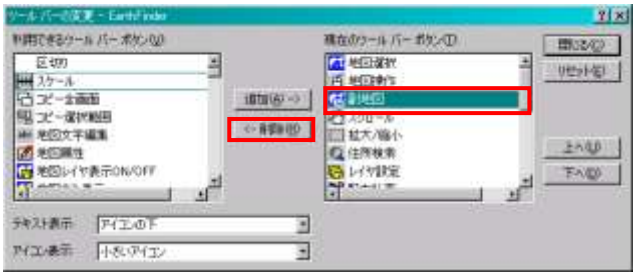
1. 左側に利用できるツールバーボタン、右側に現在表示しているツールバーボタンが表示されています。追加表示したいツールバーボタンを左側のリストから選択して[追加]ボタンをクリックします。



2. 右側のリストに追加されます。追加される位置は右側のリストで選択しているボタンの上です。



3. 表示から削除したいツールバーボタンを右側のリストから選択して[削除]ボタンをクリックします。



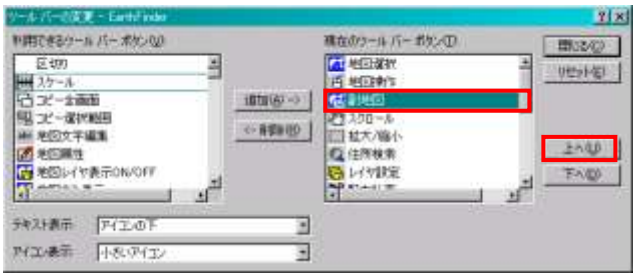
4. 右側のリストから削除されました。

[リセット]ボタンをクリックすると出荷状態の設定に戻すことができます。

5. [閉じる]ボタンをクリックするとツールバーの変更画面を閉じます。

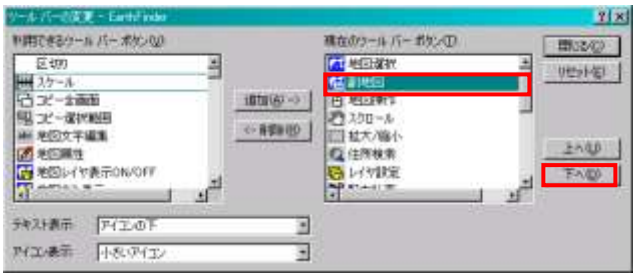
5.2.2 ツールバーの表示順序を変更する

1. 右側のリスト内では順序を変更することができます。ボタンを選択して[上へ]ボタンをクリックします。



2. ひとつ上に移動しました。

3. 同様にボタンを選択して[下へ]ボタンをクリックします。



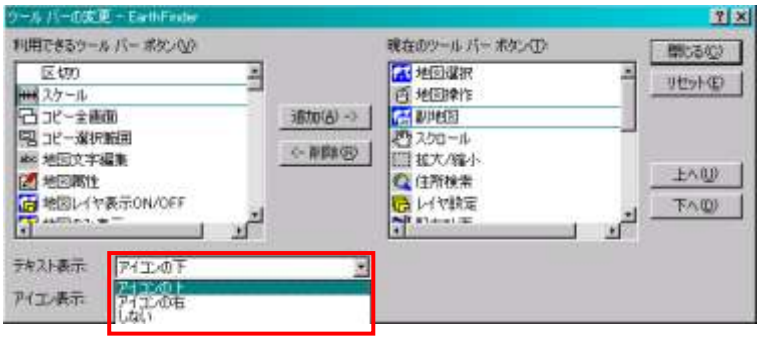
4. ひとつ下へ移動しました。

[リセット]ボタンをクリックすると出荷状態の設定に戻すことができます。

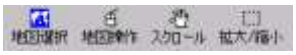
5. [閉じる]ボタンをクリックすると「ツールバーの変更」画面を閉じます。

5.2.3 ツールバーの表示方法を変更する

1. テキスト表示欄からボタン名の表示位置を選択します。



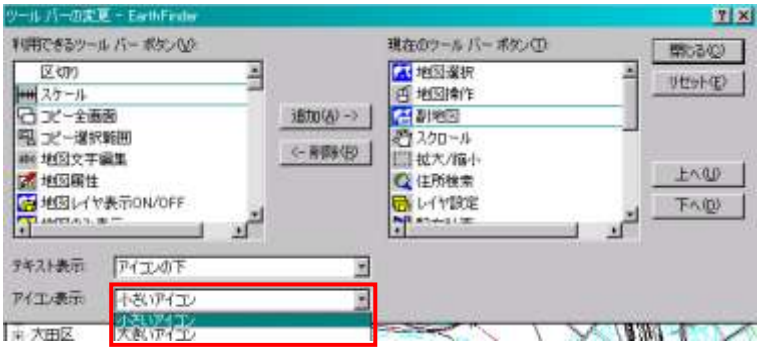
- アイコンの下



- アイコンの右

- しない

2. アイコン表示欄からアイコンの表示サイズを選択します。



- 小さいアイコン

- 大きいアイコン

[リセット]ボタンをクリックすると出荷状態の設定に戻すことができます。

3. [閉じる]ボタンをクリックすると「ツールバーの変更」画面を閉じます。

6 地図操作を行う

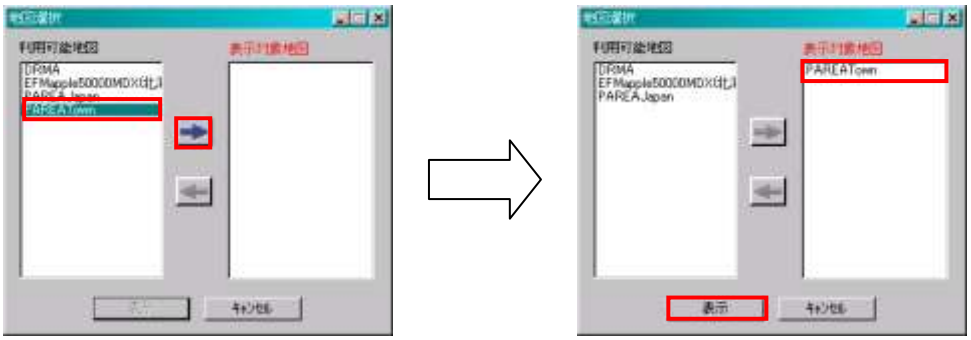
本章では地図操作について説明します。

6.1 地図を表示する

以下では地図の表示方法について説明します。

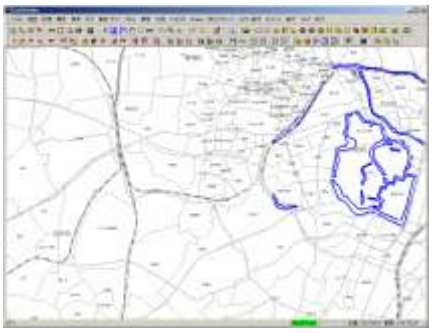
1. 「地図選択」画面を表示します。

2. 利用可能地図リスト(左側)に利用できる全ての地図が列挙されています。これらを表示対象地図リスト(右側)に[→]ボタンで移動させ、[表示]ボタンをクリックしてください。



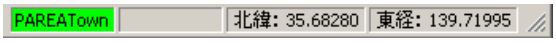
地図は Ctrl キーや Shift キーを使って複数選択することができます。(重ねて表示されます。)

3. 地図描画画面に地図が表示されます。



初期起動時などで EarthFinder のロゴ画面が出ていた場合は、地図を表示することで、メニューバーやツールバーの各機能が使えるようになります。

ステータスバーには以下のように表示している地図名称や、マウスカーソルを地図上で移動させると緯度・経度が表示されます。



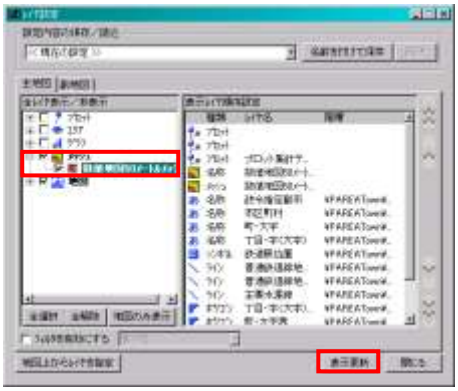
6.2 特殊な地図を表示する(数値地図 50m メッシュ)

数値地図 50mメートルメッシュについては表示方法が異なりますので、以下に記述します。

⚠数値地図 50mメートルメッシュはオプションとなっております。

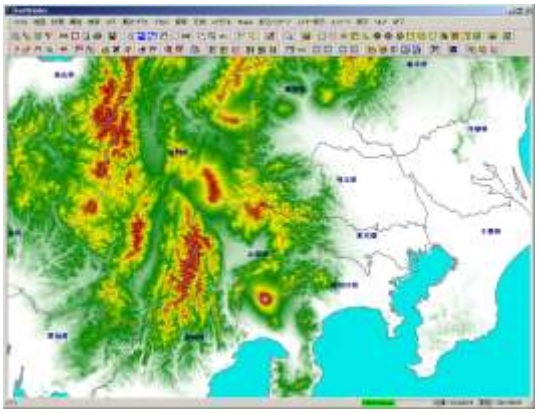
1. 「レイヤ設定」画面を表示します。

2. 「レイヤ設定」画面の中にある「数値地図 50mメートルメッシュ」のチェックボックスにチェックを付けて、[表示更新]ボタンをクリックします。



☞「18 レイヤ操作を行う」(p. 18-1)

3. 以下のようにメッシュ地図が表示されます。(緑色、黄色、茶色に色塗りされた部分)

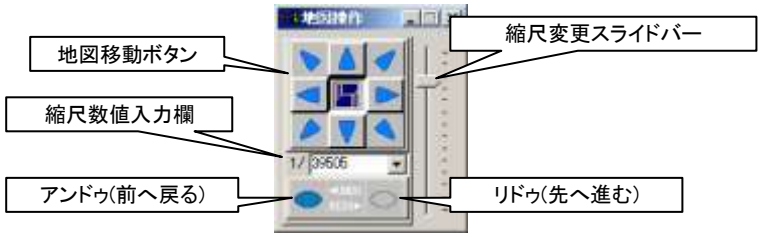


6.3 地図操作画面

地図の移動や縮尺変更が操作できます。

1. 「地図操作」画面を表示します。

2. 「地図操作」画面では以下の操作を行うことができます。



- 地図移動ボタン
  8 個の矢印ボタンを押すことで地図の移動ができます。また、押しっぱなしにすると押しっぱなしにしている分だけ移動します。

- 縮尺数値入力欄
  縮尺を直接入力して Enter キーを押すか、右側にある ▼ ボタンで縮尺を変更することができます。

- 縮尺変更スライドバー
  スライドバーを上下させることで、縮尺が変更できます。(上にすると縮小、下にすると拡大)

- アンドゥ(前へ戻る)
  一つ前の場所、縮尺に戻ります。

- リドゥ(先へ進む)
  一つ先の場所、縮尺に進みます。

アンドゥ、リドゥで操作できる履歴数の上限は 32 回です。
アンドゥ、リドゥは地図の移動や縮尺のみに対応しています。

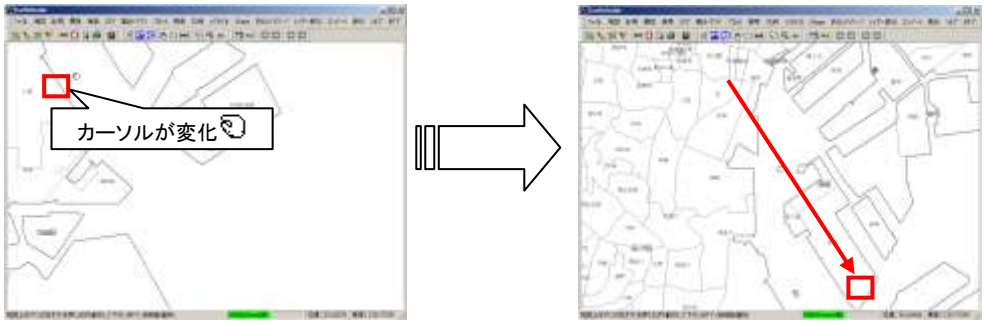
6.4 スクロール

スクロール機能は地図画面を摘んで地図移動をする方法です。(地図操作画面での地図移動と違い、細かな位置移動が可能となります)

1. 「スクロール」を選択します。

2. 地図上でマウスカーソルが手のひらの形に変わります。

3. マウスの左クリックを押しつづけることによりマウスカーソルがつまむ形に変化します。そのままマウスカーソルを移動させ、最後に左クリックを離すことにより地図をスクロールすることができます。



6.5 マウスホイールによる地図操作

ホイール付きマウスをお使いの場合は、マウスのホイールボタンを押しながらマウスカーソルを移動することにより地図をスクロールすることが可能です。

マウスホイールを使用する場合はメニュー、ツールバーからの操作は不要ですが、地図描画画面を一旦クリックしてから以下の操作を行ってください。

1. ホイールを上下に回した場合
   マウスホイールを上下に回しますと、地図の縮尺が変更されます。(上に回すと拡大、下に回すと縮小)

2. ホイールを回さずに押した場合
マウスホイールを回さずに押すとスクロール機能で、地図上をクリックした時と同じ動作をし、押したままマウスカーソルを移動させ、最後にマウスホイールを離すと地図スクロールができます。

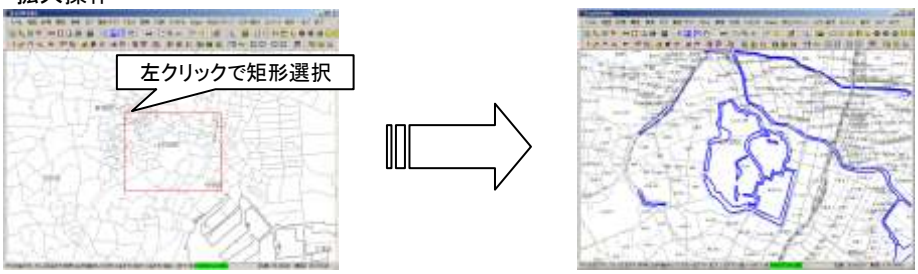
6.6 拡大/縮小

拡大/縮小では例えば地図上に表示されている複数の市区町村の 1 つだけを地図画面いっぱいに表示させたい場合に使用します。

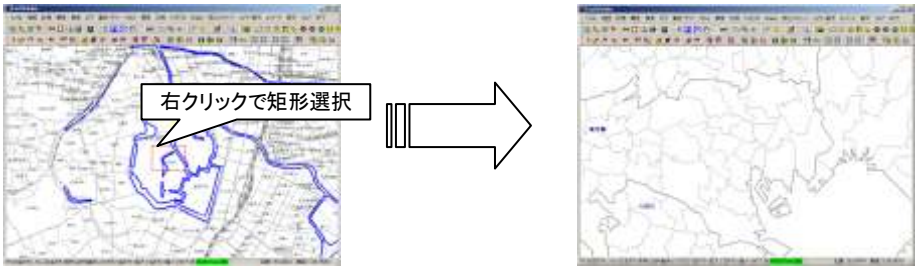
1. 「拡大/縮小」を選択します。

2. 拡大はマウスの左ボタン、縮小はマウスの右ボタンを押しながら地図上をドラッグして矩形（長方形）領域を選択することで地図が拡大/縮小されます。

- 拡大操作



- 縮小操作

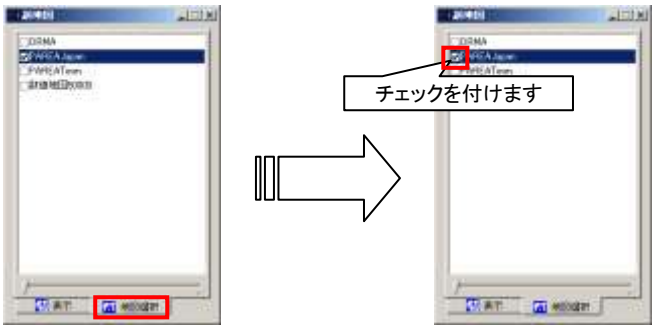


6.7 副地図の操作

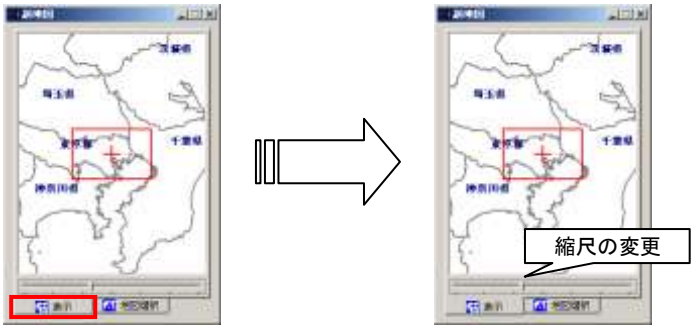
地図描画画面に表示される部分が主地図であるのに対して、副地図と呼ばれる別の地図を表示させることができます。

1. 「副地図」画面を起動します。

2. 地図選択タブを選択して、副地図として表示させたい地図の種類にチェックを付けます。

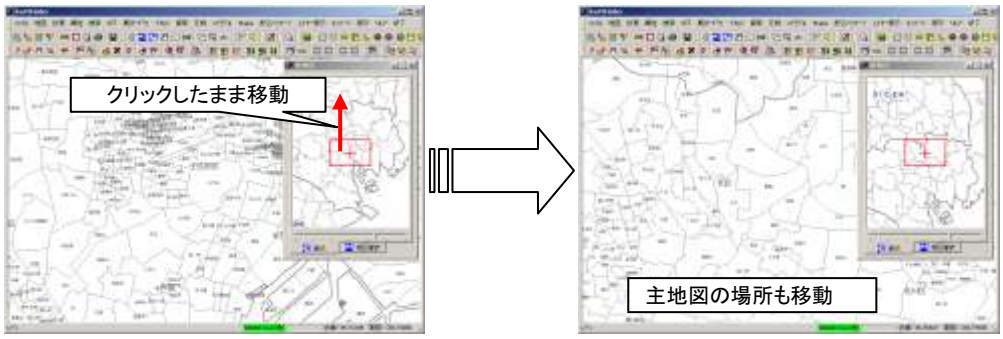


3. 表示タブを選択すると副地図が表示されます。スライドバーで縮尺の変更が行えます。



縮尺を変えていくと上図のように赤い枠が表示されます。

4. 副地図に出ている赤い枠は主地図で表示されている場所を表します。この赤い枠を移動させることで主地図の移動が可能です。

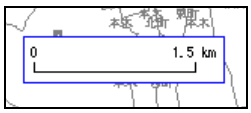


6.8 スケールを表示する

地図上にスケールを表示することができます。

1. 「スケール」を選択します。

2. 地図上にスケールが表示されます。



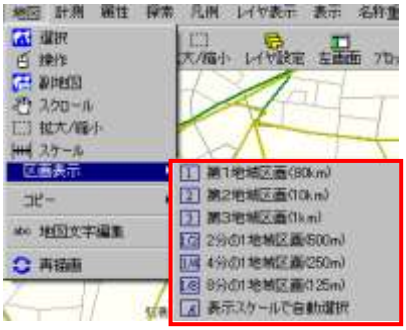
初期状態の場合は EarthFinder の画面の右下に表示されます。

スケール上を左クリックしながら移動させることでスケールの移動ができます。

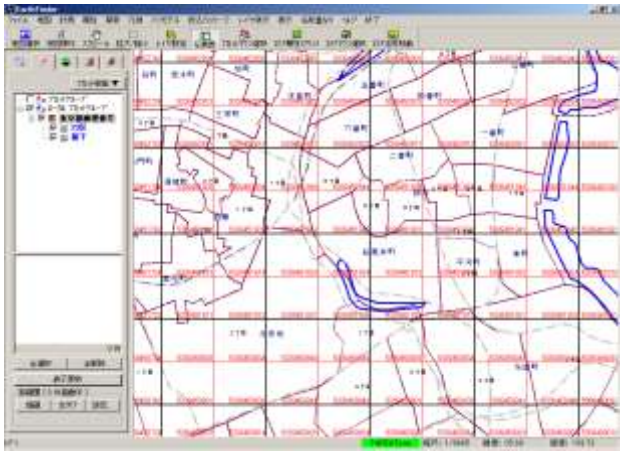
6.9 区画を表示する

地図上に区画を表示することができます。区画は第1地域区画（一次メッシュ）～8 分の 1 地域区画（8 分の 1 地域メッシュ）までの7種類です。

1. 「区画表示」から表示する区画のサイズを選択します。



2. 地図上に区画が表示されます。枠線とメッシュコードが赤色で表示され、ひとつ上の区画も黒の枠線で同時に表示されます。



「表示スケールで自動選択」を選択すると表示スケールに合った区画が表示されます。

6.10 画面をコピーする

表示中の地図画面をクリップボードへコピーすることができます。クリップボードへコピーした画像は他のアプリケーションで使用することができます。

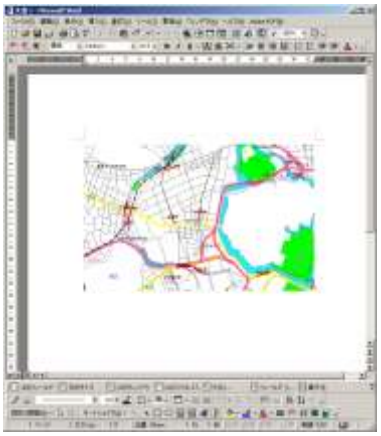
印刷プレビューからも画面をコピーする機能があります。

「20.3 プレビューを行う」(p. 20-16)

6.10.1 全画面コピー

1. 「コピー － 全画面」を選択します。

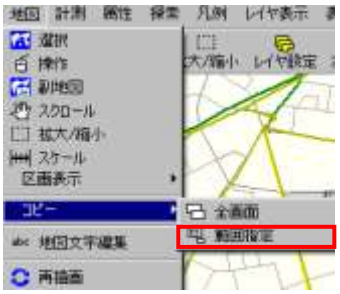
2. 例えばWordに貼り付ける場合は挿入した場所で貼り付け(Ctrl+V)を行うことで以下のように地図画面全体が貼り付けられます。



地図画面上に地図操作画面などがある場合は、それらもクリップボードにコピーされます。

6.10.2 範囲指定コピー

1. 「コピー ― 範囲指定」を選択します。



2. 地図上のコピーしたい領域を選択します。左クリックを離した時点の矩形範囲内がクリップボードにコピーされます。

貼り付けは全画面コピー時と同じです。

6.11 地図文字編集

市区町村合併などによる市区町村名の変更や、駅名変更など、地図上の名称が変更になった場合に、それらの名称の編集が行えます。

1. 「地図文字編集」画面を表示します。

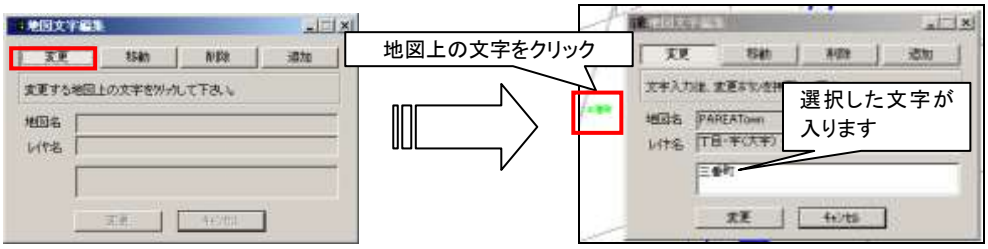
2. 以下の画面が表示された後は次ページからの手順に従ってください。

⚠一旦変更・移動・削除・追加を確定しますと元に戻すことはできません。

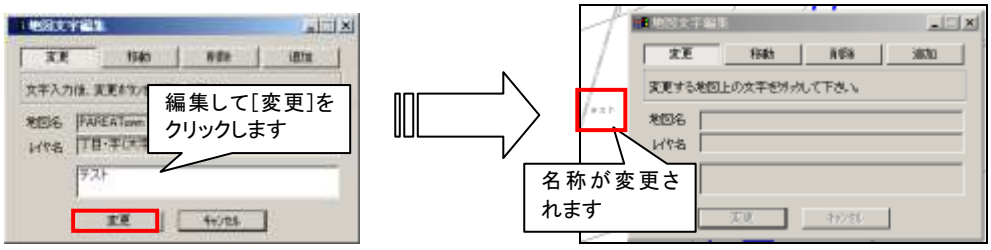
6.11.1 名称の変更

既に地図上にある名称を変更したい場合は以下の操作を行ってください。

1. [変更]ボタンをクリックし、続けて地図上の変更したい文字をクリックしてください。



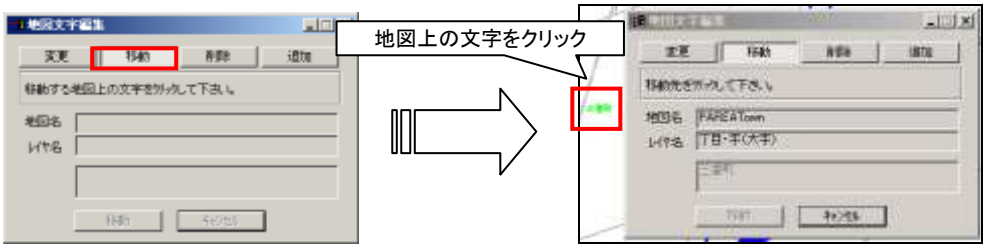
2. 変更後の文字を記入し、[変更]ボタンをクリックしてください。



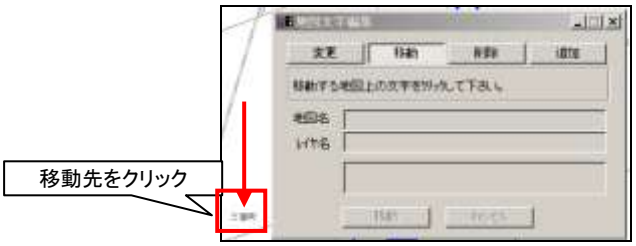
6.11.2 名称の移動

既に地図上にある名称を移動したい場合は以下の操作を行ってください。

1. [移動]ボタンをクリックし、続けて地図上の移動させたい文字をクリックしてください。



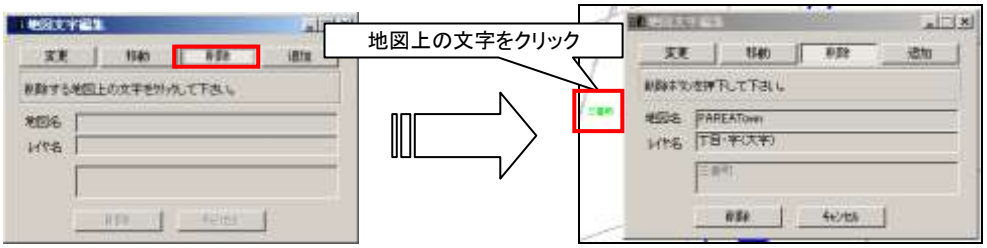
2. マウスカーソルに文字が付いて来ますので、移動先をクリックしてください。



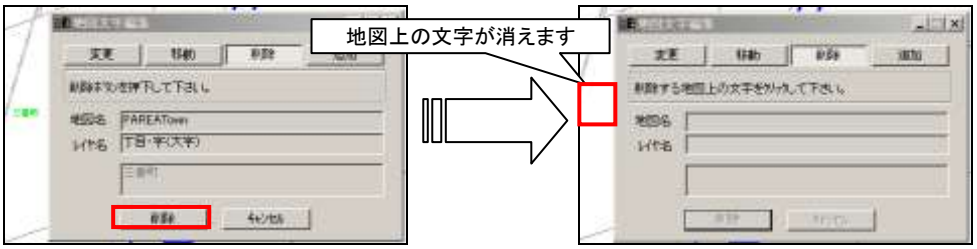
6.11.3 名称の削除

既に地図上にある名称を削除したい場合は以下の操作を行ってください。

1. [削除]ボタンをクリックし、続けて地図上の削除したい文字をクリックしてください。



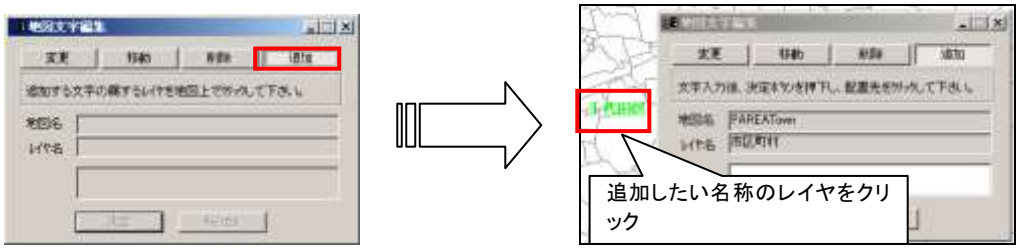
2. 下部にある[削除]ボタンをクリックして文字を削除してください。



6.11.4 名称の追加

地図上に無い名称を追加する場合は以下の操作を行ってください。

1. [追加]ボタンをクリックし、続けて地図上の追加したい名称と同じレイヤのもの（例えば市区町村名を追加する場合はどこかの市区町村名）をクリックします。



2. 追加したい名称を記入し、[決定]ボタンで決定後、配置したい場所をクリックしてください。

6.12 再描画

強制的に地図の再描画を行います。プロットやエリアなどを変更した場合、自動的に再描画される領域に文字列の端など部分的に描画が途切れた場合には、強制的に地図全面を再描画することができます。

1. 「再描画」を選択します。

2. 地図画面が再描画されます。

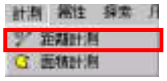
7 計測を行う

計測機能では地図上に任意の線を描いて距離を計測、また任意の範囲を描いて面積を算出することができます。

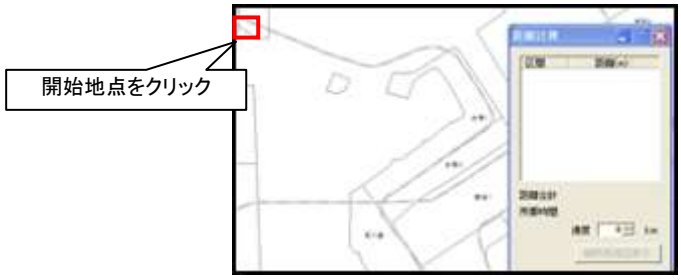
7.1 距離計測

以下では距離計測について説明します。

1. 「距離計測」画面を表示します。



2. 計測したい区間の開始地点をクリックします。



3. そのままマウスを移動させると、上記クリックした地点から現在のマウスカーソル地点までを結ぶ直線が描画されますので、計測したい区間のもう一方の地点をクリックします。

画面上の区間番号と、地図上に表示されている番号の直線が対応しています。

4. 上記 2 と 3 の操作を続けて行うことにより、連続した複数の区間を計測することができます。

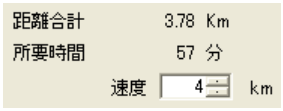
直前の計測区間を取りやめる場合は、右クリックを押して「ひとつ戻る」を選択してください。

5. 計測を確定する場合は確定したい地点でダブルクリックします。

右クリックを押して「確定」でも同じです。

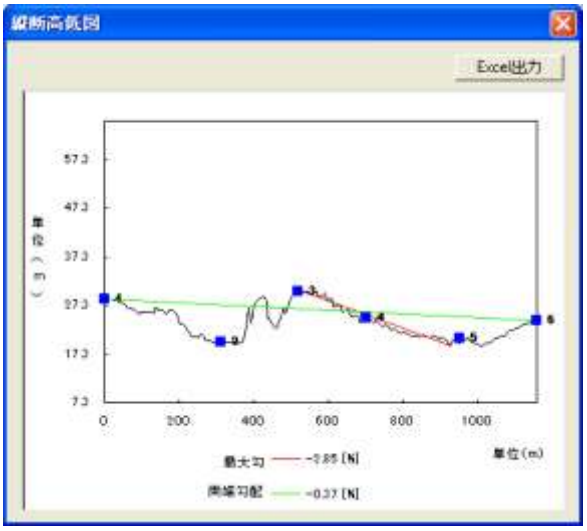
計測確定後に地図上をクリックすると、今までの計測結果をクリアし、再度計測処理を開始します。

計測結果として、直線距離以外に、設定した時速による所要時間が表示されます。



時速を変更するには、直接値を入力するか、▲▼をクリックして値を増減してください。

6. [縦断高低図表示]ボタンをクリックすると、始点－終点間の縦断高低図が表示されます。

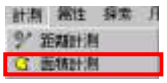


[Excel 出力]ボタンをクリックすると、この高低図と現在表示中の地図が Excel に保存できます。

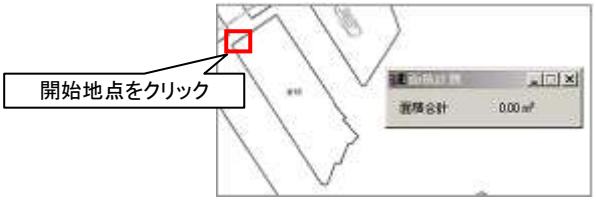
7.2 面積計測

以下では面積計測について説明します。

1. 「面積計測」画面を表示します。



2. 計測したい領域の開始地点をクリックします。



3. マウスを移動すると、上記でクリックした地点から現在のマウスカーソル地点までを結ぶ直線が描画されますので、計測したい領域の多角形上の点をクリックしていきます。

画面上の面積合計値は描いている領域の面積となります。
直前の地点を取りやめる場合は、右クリックを押して「ひとつ戻る」を選択してください。

4. 計測を確定する場合は確定したい地点でダブルクリックします。

右クリックを押して「確定」でも同じです。

計測確定後に地図上をクリックすると、今までの計測結果をクリアし、再度計測処理を開始します。

8 地図属性操作を行う

地図属性とはご購入された地図データに含まれる情報のことで、地図によって含まれる属性は異なります。例えば以下の地図では次のような地図属性情報を見ることができます。

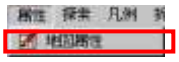
地図の種類	属性種類	基本属性	付加属性
PAREA-Japan	行政界ポリゴン	都道府県コード	(なし)
		市区町村コード	
PAREA-Town	行政界ポリゴン	都道府県コード	(なし)
		市区町村コード	
		町・大字コード	
		町目コード	
DRMA	施設形状	行政区域コード	(なし)
		名称	
		ヨミカナ	
	交通センサス	管理者名称	(なし)
		道路種別	
		路線番号	
		主従道路区分	
		行政区域コード	
		リンク長	
		リンク種別	
		自動車専用道路	
		有料道路	
		リンク通行規制	
		異常気象時通行規制	
		車両重量制限	
		車両高さ制限	
		車両幅制限	
		道路復員区分	
		車線数	
		車道幅員	
		最小車道部幅員	
		中央帯幅員	
		中央帯設置延長	
		12 時間交通量	
		ピーク時旅行速度	
		交通規制種別	
		交通規制条件種別	
		追い越し禁止	
		規制速度	

⚠データベースの容量、またはパフォーマンスの関係上、地図によって導入されていない場合があります。

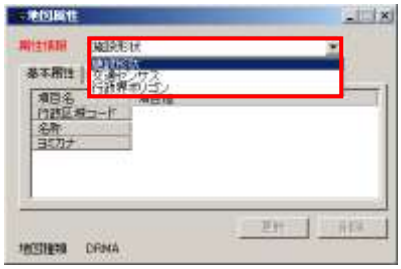
8.1 地図属性を選択する

地図上から地図属性を参照できます。

1. 「地図属性」画面を表示します。



2. 属性情報欄から見たい属性を選択します。



この際、画面下部の地図種類欄に表示されている地図（上図では“DRMA”）がその属性を持っている地図になります。見たい属性を選んだ後にその地図が表示されていない場合は「地図選択」画面から選択を行ってください。

「6.1 地図を表示する」(p. 6-1)

3. 例えば“施設形状”の場合、地図上の施設形状をクリックすると、形状が黄緑色（ハイライト表示状態）となり、地図属性画面に属性が表示されます。

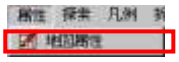
属性情報が登録されていない区画でクリックした場合、区画のハイライト表示は行われず、属性値も表示されません。

4. 続けて別の属性を表示させる場合は、そのまま 3 の操作を行い、属性情報を変えたい場合は 2 からの操作を行ってください。

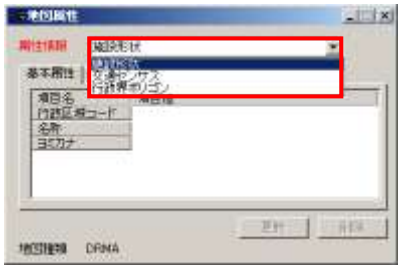
8.2 地図属性を編集(削除)する

属性情報は表示するだけでなく、編集も可能です。

1. 「地図属性」画面を表示します。

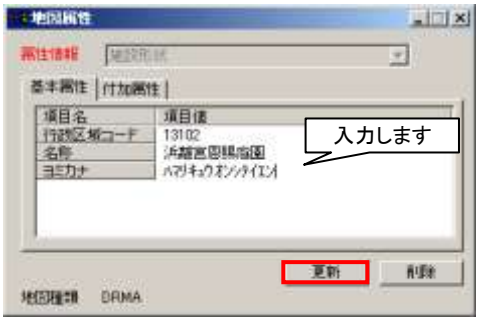


2. 属性情報欄から編集したい属性を選択します。



3. 例えば施設形状の場合、地図上の施設形状をクリックすると、形状が黄緑色(ハイライト表示状態)となり、地図属性画面に属性が表示されます。そのまま同じ場所で右クリックを押すと、[更新]ボタンなどが使用できる状態になります。

4. 編集したい属性値をクリックするとその値が編集できますので、入力後[更新]ボタンをクリックして確定します。(削除する場合は[削除]ボタンをクリックしてください。)



編集したい属性を選択した状態で直接入力することで編集も可能です。

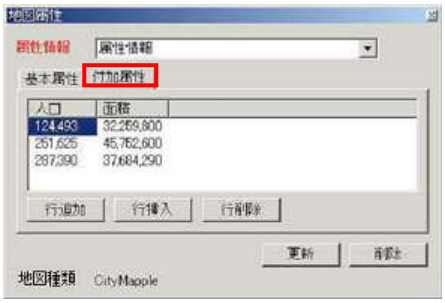
削除の場合、付加情報がある場合は付加情報と共に削除されます。

8.2.1 付加属性値の編集

1. 地図属性編集と同じ手順で属性が編集できる状態にします。

「8.2 地図属性を編集（削除）する」（p. 8-3）

2. 付加属性タブをクリックします。

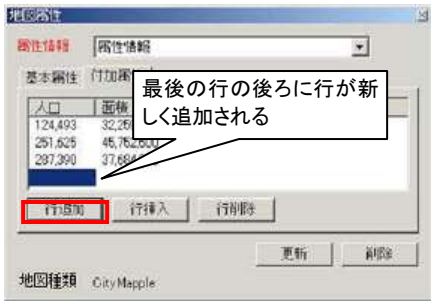


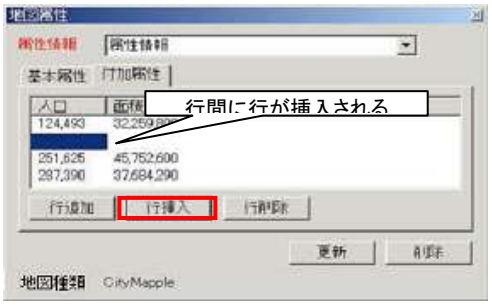
付加属性値は 1 つの項目に複数の値を設定できます。

3. 編集したい属性値をクリックするとその値が編集できます。

編集したい属性を選択した状態で直接入力することで編集も可能です。

5. [行追加]ボタンをクリックすると最下行に新しい行が追加されます（左図）。[行挿入]ボタンをクリックすると新しい行が挿入されます。（削除する場合は[行削除]ボタンをクリックしてください。）





画面右下の[削除]ボタンをクリックすると基本属性と共に属性自体が削除されます。

6. [更新]ボタンをクリックすることで変更された情報が反映されます。

9 住所・目標物検索を行う

地図移動を行う際に住所や目標物から移動したい場合に使用します。

9.1 検索パネルを操作する

左画面の をクリックすると検索パネルが表示されます。

☞「4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ」(p. 4-2)

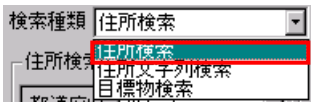
9.2 検索を行う

おおよその住所がわかっている場合には住所検索を、住所名称の一部がわかっている場合には住所文字列検索を、目標物データから検索する場合には目標物検索を使用します。

☞「9.2.1 住所検索を行う」(p. 9-2)
☞「9.2.2 住所文字列検索を行う」(p. 9-4)
☞「9.2.3 目標物検索を行う」(p. 9-6)

9.2.1 住所検索を行う

1. 検索種類に住所検索を指定します。



2. 住所検索パネルが表示されます。

3. 地図種類を選択します。

ℹ一種類しか無い場合は選択の必要はありません。

4. 都道府県を選択します。

ℹ一覧に表示される都道府県はご購入された地図の住所データが存在するもののみとなります。

5. さらに詳細な住所を指定します。

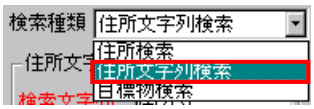
これ以上、詳細な住所を指定しない場合は次に進めてください。

6. 住所一覧に検索結果が表示されます。

「9.3 検索した地点を表示する」(p. 9-8)

9.2.2 住所文字列検索を行う

1. 検索種類に住所文字列検索を指定します。



2. 住所文字列検索パネルが表示されます。

3. 地図種類を選択します。

一種類しか無い場合は選択の必要はありません。

4. 検索文字列を入力して Enter キーを押すか[検索]ボタンをクリックします。

5. 住所一覧に検索結果が表示されます。

以下のメッセージが表示された場合は検索結果が 100 件以上あります。条件を絞ってさらに検索を行ってください。

検索結果を絞り込む場合は、ワイルドカードを使用してください。

「1.2.5 ワイルドカード」(p. 1-3)

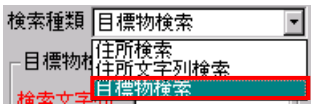
「9.3 検索した地点を表示する」(p. 9-8)

9.2.3 目標物検索を行う

目標物とは駅などの公共施設のことで、それら目標物を検索し、その場所に位置移動ができます。

⚠ご購入された地図に目標物が無い場合は目標物による検索はできません。

1. 検索種類に目標物検索を指定します。



2. 目標物検索パネルが表示されます。

3. 地図種類を選択します。

ℹ一種類しか無い場合は選択の必要はありません。

4. 検索文字列を入力して Enter キーを押すか[検索]ボタンをクリックします。

5. 住所一覧に検索結果が表示されます。

以下のメッセージが表示された場合は検索結果が 100 件以上あります。条件を絞ってさらに検索を行ってください。

検索結果を絞り込む場合は、ワイルドカードを使用してください。

「1.2.5 ワイルドカード」(p. 1-3)

「9.3 検索した地点を表示する」(p. 9-8)

9.3 検索した地点を表示する

検索結果の中から指定した地点を中心に地図を移動することができます。

1. 検索結果から移動する地点を選択してダブルクリックするか[位置移動]ボタンをクリックします。

2. 選択した地点を中心に地図が移動します。

10 プロット操作を行う

プロットは地図上に点を置く機能です。例えば自店舗や顧客データ等を地図上に点として配置し、その分布状況を調べたり、ある範囲で集計を行ったりすることができます。

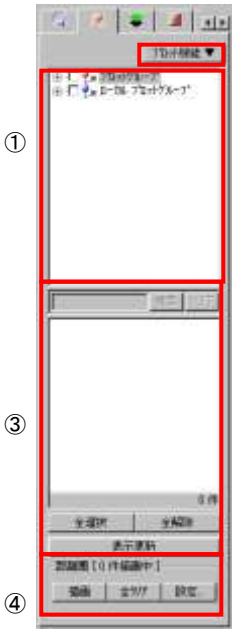
EarthFinder 内ではプロットはプロットグループという、特定のグループに属するように作成します。

10.1 プロットパネルを操作する

以下ではプロットパネルの操作について説明します。

プロットパネルはツールバーから表示することができます。
「4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ」(p. 4-2)

1. 左画面の をクリックするとプロットパネルが表示されます。



2. プロットパネルは大きく 4 箇所にわかれ、それぞれの操作を行うことができます。

① プロットグループ欄
「10.1.1 プロットグループ欄を操作する」(p. 10-2)

② プロット機能メニュー
「10.1.2 プロット機能メニューを操作する」(p. 10-3)

③ プロット欄
「10.1.3 プロット欄を操作する」(p. 10-4)

④ プロット距離圏
「10.10 プロット距離圏を操作する」(p. 10-46)

10.1.1 プロットグループ欄を操作する

登録されているプロットグループが階層に従って表示されます。プロットグループ名称横のチェックボックスではプロットグループの表示状態、名・名ボタンでは名称の表示状態を個別に操作することができます。

「10.4.1.1 プロットグループを個別に表示設定する」(p. 10-29)

「10.4.3.1 プロット名称を表示する」(p. 10-32)

プロットグループ名が反転表示されているところはそのプロットグループが選択されていることを表しています。各操作は選択しているプロットグループに対して行われます。

ﾌﾟﾛｯﾄｸﾞﾙｰﾌﾟ と ﾛｰｶﾙ ﾌﾟﾛｯﾄｸﾞﾙｰﾌﾟ の違いは以下のページを参照してください。

「1.2.11 ローカルプロット、ローカルエリア」(p. 1-4)

プロットグループ欄の上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

1. 新規グループ作成
   「10.2.1 プロットグループを作成する」(p. 10-6)
2. グループ名編集
   「10.2.2 プロットグループ名称を変更する」(p. 10-6)
3. グループ削除
   「10.2.3 プロットグループを削除する」(p. 10-7)
4. グループ移動
   「10.8.1 プロットグループを他のプロットグループ下位に移動する」(p. 10-41)
5. グループの表示/非表示
   「10.4.1.2 プロットグループを一括して表示設定する」(p. 10-30)
6. プロット追加
   「10.3.3 プロットを追加する」(p. 10-28)
7. 検索
   「10.9.1 プロット検索」(p. 10-43)

8. スパイダー表示
☞「10.15 スパイダー表示を行う」(p.10-57)

9. 自動マッチング
☞「10.3.1 プロットの取り込み(自動マッチング)」(p. 10-19)

10. 手動マッチング
☞「10.3.2.1 手動マッチングを行う」(p. 10-25)

11. エクスポート
☞「12.1.2 プロットデータをエクスポートする」(p. 12-3)

12. インポート
☞「12.1.4 プロットデータをインポートする」(p. 12-5)

13. KML ファイル書込み
☞「12.1.4.2 プロットデータの KML ファイルへの書き込み」(p.12-15)

14. 名称表示設定
☞「10.4.3.2.プロット名称を設定する」(p.10-33)

15. プロパティ
☞「10.2.4 プロットグループのプロパティを操作する」(p. 10-8)

10.1.2 プロット機能メニューを操作する

[プロット機能▼]ボタンをクリックするとプロット機能メニューが表示されます。

機能メニューは主に、プロットグループやプロットを明示的に与えない全般的な機能群です。多くは表示モードや地図画面で対象を選択するメニューとなりますが、一部グループに対するメニューでは、選択中のグループが初期値(デフォルト)となるものもあります。

1. 削除
☞「10.2.3 プロットグループを削除する」(p. 10-7)

2. 移動
☞「10.6 プロットの位置を変更する」(p. 10-39)

3. 名称位置移動
☞「10.4.3.3 プロット名称を移動する」(p. 10-35)

4. 属性表示

「10.2.4 プロットグループのプロパティを操作する」(p. 10-8)

5. 住所マッチングウィザード
「10.13 住所マッチングウィザード」(p. 10-50)

6. エクスポート
「12.1.2 プロットデータをエクスポートする」(p. 12-3)

7. インポート
「12.1.4 プロットデータをインポートする」(p. 12-5)

8. KML ファイル書込み
「12.1.4.2 プロットデータの KML ファイルへの書き込み」(p.12-15)

9. 検索
「10.9.1 プロット検索」(p. 10-43)

10. 検索結果表示
「10.4.4 検索結果のプロットのみを表示する」(p. 10-36)

11. 重なり強調表示
「10.4.5 同一地点プロットの強調表示」(p. 10-36)

12. スパイダー表示
「10.15 スパイダー表示を行う」(p.10-57)

13. マウス選択
「10.12 プロットをマウス選択して操作する」(p. 10-49)

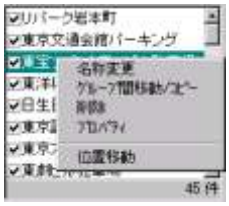
10.1.3 プロット欄を操作する

プロットグループ欄で選択しているプロットグループに属するプロットとプロット件数が表示されています。チェックを付け外しすることで表示設定を行います。
「10.4.2 プロットを表示する」(p. 10-31)

パネル内で検索が可能です。任意の文字列を入力し「検索ボタン」を押すと、文字列を含むプロットがリストの上部に並び、赤色で表示されます。

各操作はプロット欄で選択しているプロット及びそのプロットが属するプロットグループに対して行われます。プロット欄は Ctrl キーや Shft キーを使って複数選択することができます。

プロット欄の上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。



1. 名称変更
「10.3.4 プロット名称を変更する」(p. 10-28)

2. グループ間移動/コピー
「10.8.2 プロットを他のプロットグループに移動/コピーする」(p. 10-42)

3. 削除
「10.5 プロットを削除する」(p. 10-38)

4. プロパティ
「10.7 プロットプロパティを表示・変更する」(p. 10-40)

5. 位置移動
選択しているプロットを中心に地図が移動します。

10.2 プロットグループを操作する

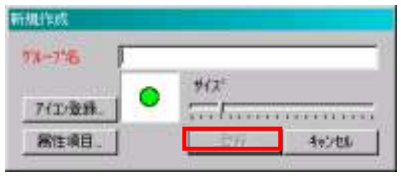
以下ではプロットグループの操作について説明します。

10.2.1 プロットグループを作成する

1. 「新規作成」画面を表示します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

2. プロットグループ名・アイコン・属性項目・サイズを設定して[登録]ボタンをクリックするとプロットグループ欄で選択しているプロットグループの直下に新規作成されます。



アイコン登録についてはアイコンの設定項を参照してください。

「10.2.5 アイコンの設定」(p. 10-8)

属性項目については属性の設定の設定項を参照してください。

「10.2.6 属性の設定」(p. 10-10)

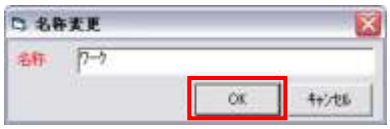
10.2.2 プロットグループ名称を変更する

既に作成されたプロットグループの名称を変更することができます。

1. プロットグループ欄でグループを指定してから「グループ名編集」を選択します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

2. 指定したグループの「名称変更」画面が表示されます。プロットグループ名を設定して[OK]ボタンをクリックしてください。



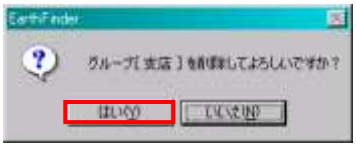
10.2.3 プロットグループを削除する

1. プロットグループ欄でグループを指定してから「削除」を選択します。

プロット機能メニュー

プロットグループ欄ポップアップメニュー

2. 指定したグループの削除確認が表示されます。削除内容を確認して[はい]ボタンをクリックしてください。



⚠プロットグループを削除すると、そのプロットグループ以下のプロットデータが全て削除されます。消去してよいデータか十分確認してください。

ℹ任意の 1 プロットを削除する場合には、当機能ではなく、プロット欄ポップアップメニューから行ってください。

☞「10.5 プロットを削除する」(p. 10-38)

ℹ属するプロットが多い場合、削除に時間がかかります。

10.2.4 プロットグループのプロパティを操作する

1. プロットグループ欄でグループを指定してから「プロパティ」を選択します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

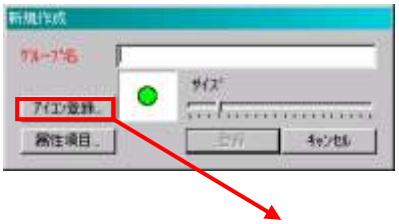
2. 指定したグループの「プロパティ」画面が表示されます。

プロットグループ欄でグループ名をダブルクリックしても同じ画面を表示することができます。

「10.2.5 アイコンの設定」(p. 10-8)
「10.2.6 属性の設定」(p. 10-10)

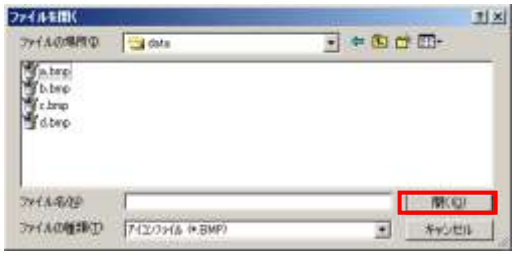
10.2.5 アイコンの設定

アイコンの設定を行う場合は[アイコン登録]ボタンをクリックして「マルチメディアファイル」一覧画面を表示します。既にアイコンが登録されている場合はそこから選択し、[選択]ボタンをクリックしてください。



- 新たにアイコンを追加する場合

[ローカルファイル]ボタンをクリックし、アイコンとするビットマップファイルを選択してしてください。



⚠GIF 形式や JPEG 形式の画像は使用できません。それらの形式の画像は画像ツールを使用してビットマップ形式に保存し直してください。（拡張子を.gif や.jpg から.bmp に変更するだけでは画像形式は変わりませんのでご注意ください。）

- アイコンの表示方法を変える場合

右上の表示欄で変更することができます。

「小さいアイコン」の場合

「一覧」の場合

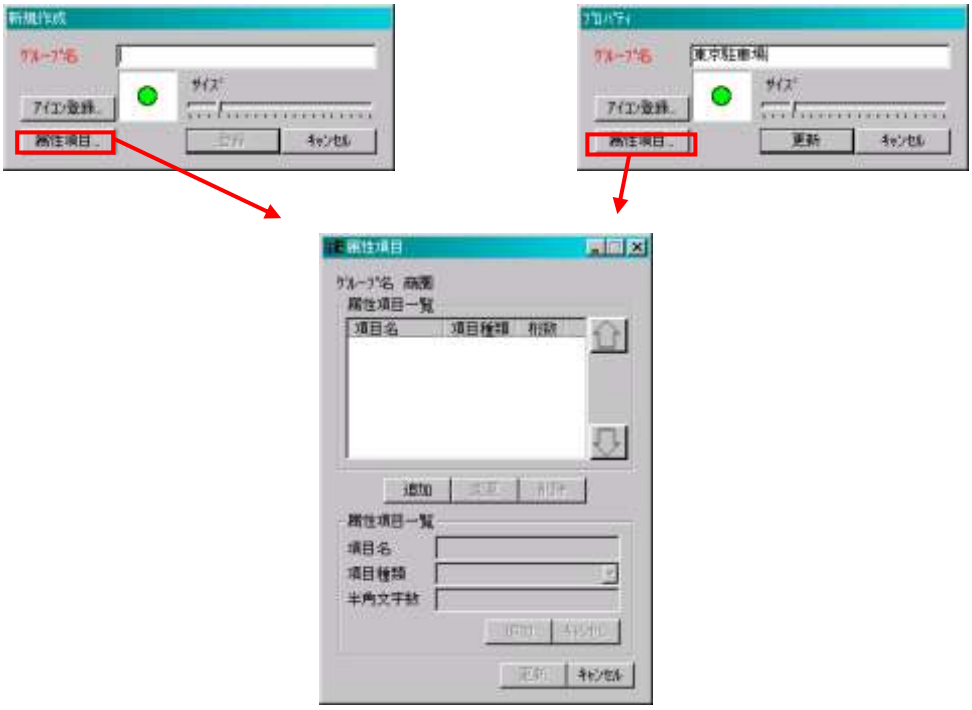
- 登録したアイコンを削除する場合

アイコンを選択した状態で[削除]ボタンをクリックしてください。クリックすると以下の画面が表示されます。問題なければ[はい]ボタンをクリックしてください。

⚠削除するアイコンが使われている場合、それらのプロットアイコンは既定のアイコンに自動的に変更されます。

10.2.6 属性の設定

属性の設定を行う場合は[属性項目]ボタンをクリックして「属性項目」画面を表示させます。



プロット属性とはプロット一つ一つに付与する情報のことです。例えば店舗のプロットの属性として「住所名」「電話番号」「売上」などの情報を言います。

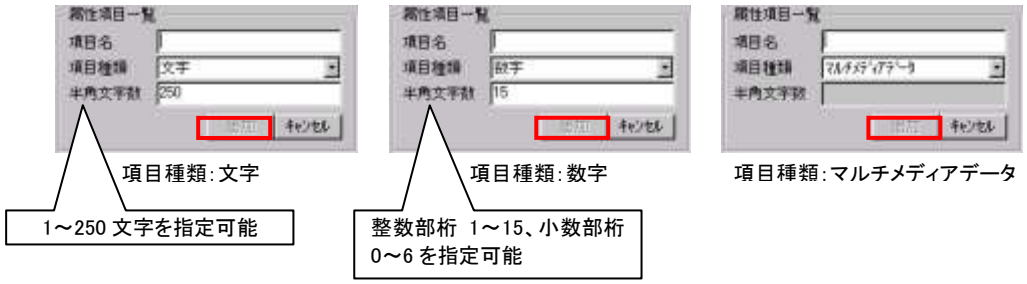
属性を登録することで、属性の値によるプロットアイコンの変更、属性値のグラフ表示などができます。

「10.2.6 属性の設定」(p. 10-10)

10.2.6.1 属性の追加を行う

1. [追加]ボタンをクリックすると属性項目の設定が入力できるようになります。

2. 属性項目欄の必須設定事項を入力し、[追加]ボタンをクリックしてください。(項目種類以下の 3 種類から選ぶことができます)



文字を選択した場合、プロットの属性情報を入力する時には、記号、数字、英字、日本語(ひらがな、カタカナ)を自由に入力することができます。

数字を選択した場合には、数字、"-"(マイナス符号)、"."(小数点)のみ入力することができます。例えば「売上率(%)」という名称で数字を選択し、桁数に「3.2」と入力した場合、整数部が 3 桁、小数部が 2 桁までの数字を表現することができることになります("74.38"などは入力可能になりますが"94.103"などは入力不可となります)。また"-"(マイナス符号)は数字の先頭にのみ入力可能です("6-5"は入力不可です)。なお、マルチメディアデータを選択した場合、文字数の設定はできません。

項目種類が「数字」の場合は実際に入力した数字の有効桁数が最大 15 桁に制限されます。例えば、数字項目の桁数を 15.5 と設定した場合、属性値として「123456789012345.12345」を入力しても実際に登録される値は「123456789012345」となります。

設定した値をシステムに反映するには、以下の項を参照して下さい。

「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

[キャンセル]ボタンをクリックすると処理を中断することができます。

10.2.6.2 属性の変更を行う

1. 変更したい属性を一覧から選択し、[変更]ボタンをクリックします。

2. 項目名を変更して[変更]ボタンをクリックすると属性項目一覧に反映されます。

既に登録されている属性項目に対して、項目種類と文字数は変更することができません。これらの値を変更したい場合は、一旦属性項目を削除して、新たな属性項目として追加してください。

既に属性によるアイコン登録の条件として使用されている属性項目に対して、項目種類と文字数は変更することができません。これらの値を変更したい場合は、先に条件式を削除してください。

「10.2.6.5.4 条件式を削除する」(p. 10-16)

設定した値をシステムに反映するには、以下の項を参照して下さい。

「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

[キャンセル]ボタンをクリックすると処理を中断することができます。

10.2.6.3 属性を削除する

1. 属性項目一覧で属性を指定してから[削除]ボタンをクリックします。

2. 指定した属性項目の削除確認画面が表示されますので、[削除]ボタンをクリックしてください。

設定した値をシステムに反映するには、以下の項を参照して下さい。

「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

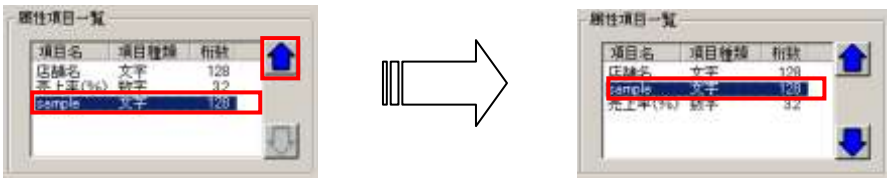
[キャンセル]ボタンをクリックすると処理を中断することができます。

10.2.6.4 属性の表示順序を変更する

「検索」画面などで属性項目を表示するときに表示順序はの追加した順番となります。表示順序を変更したい場合は以下の操作を行ってください。

「10.9 プロットを検索する」(p. 10-43)

属性項目一覧で属性項目を指定して[↑][↓]ボタンをクリックすると表示順序を変更することができます。



設定した値をシステムに反映するには、以下の項を参照して下さい。

「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

10.2.6.5 属性値によるプロットアイコンの設定

地図上に表示するプロットのアイコンやそのサイズを、プロットに設定された属性値により変化させることができます。例えば売上高が 100 万以下の店舗は黄色のアイコンを、500 万以上の店舗は赤色のアイコンを、あるいは売上高が多いほどアイコンのサイズを大きくする、というように地図上のプロットを一目で識別することが可能になります。
以下では、それら属性項目によってアイコンを変更する方法について説明します。

「条件アイコン設定」画面を表示します。

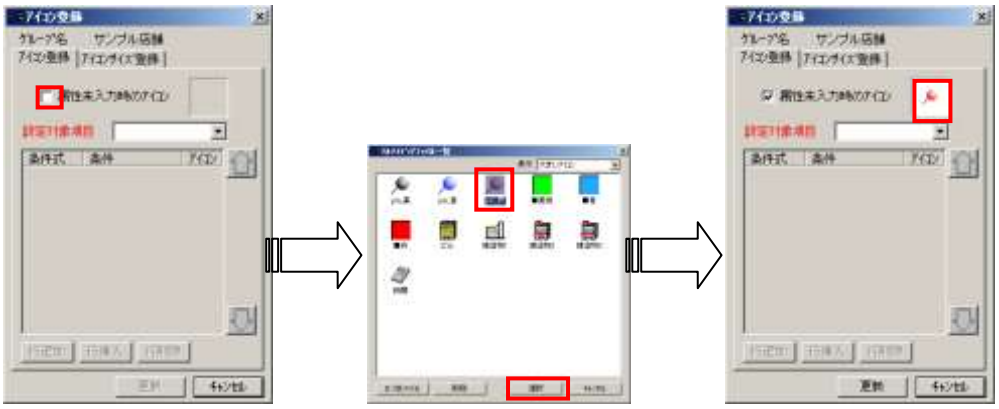
プロットグループ欄ポップアップメニュー

10.2.6.5.1 属性値が未入力のプロットのアイコンを変化させる

プロット追加によって手動で作成したプロットは、位置情報だけを保有し、属性値は保有していません。このような場合のプロットアイコンを指定するには以下のようにします。

☞「10.3.3 プロットを追加する」(p. 10-28)

アイコン登録画面の「属性未入力時のアイコン」にチェックをつけると、「マルチメディアファイル一覧」画面が表示されますので、アイコンを選択して[選択]ボタンをクリックします。



既に選択されているアイコンを変更する場合は、アイコン部分をクリックすると「マルチメディアファイル一覧」画面が表示されますので、変更したいアイコンを指定して[選択]ボタンをクリックします。

「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

10.2.6.5.2 属性値によるアイコンを条件式によって設定する

ここでは“ある属性の値が〇〇の場合、アイコンを変更する”という指定が行えます。前述した「例えば売上高が 100 万以下の店舗は黄色のアイコンを、500 万以上の店舗は赤色のアイコンを」という指定はここで行えます。

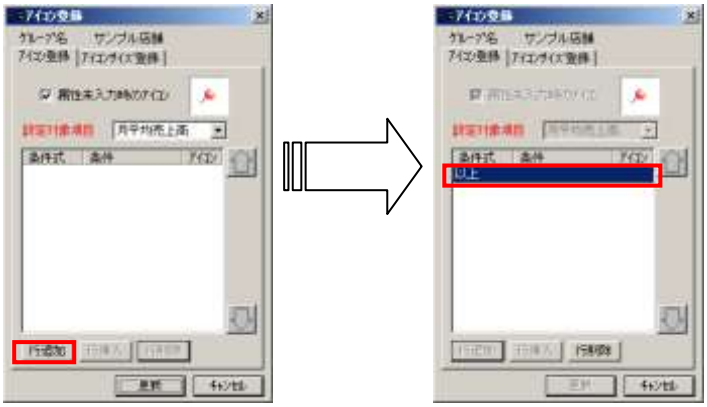
1. 設定対象項目欄から属性値によってアイコンを変更する属性を選択します。

マルチメディアデータ型の属性を選択することはできません。

既に条件式が設定されている場合は、選択することができません。変更する場合は、設定した条件式をすべて削除してください。

「10.2.6.5.4 条件式を削除する」(p. 10-16)

2. [行追加]ボタンをクリックして条件式を追加します。



既に条件式がある場合は[行挿入]ボタンでも条件が追加できます。この場合は、選択した項目の上部に条件が挿入されます。

3. 条件式、条件、それに合致した場合に表示させるアイコンを選択します。

属性が文字列型の場合と数値型の場合で表示される条件式が以下のように異なります。

主題属性	条件式	意味
文字列型	完全一致	条件値に書かれた文字列と完全一致する属性値の場合は、指定したアイコンで表示されます。
	前方一致	条件値に書かれた文字列で始まる属性値の場合は、指定したアイコンで表示されます。 例えば、属性に”東京都文京区湯島”という値をもつプロットは、条件値が“東京都”や“東京都文京区”と設定した場合において、指定したアイコンで表示されます。
数字型	以上	”≧”に値します。
	以下	”≦”に値します。
	超える	”＞”に値します。
	未満	”＜”に値します。

条件式を設定しても、その後にグループ登録画面でアイコンを変更し、属するプロットへ反映させた場合には、後で設定したアイコンで表示されます。

「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

10.2.6.5.3 設定済みの条件式を変更する

既に設定済みの条件式も条件式作成と同じ方法で変更することができます。

☞「10.2.6.5.2 属性値によるアイコンを条件式によって設定する」(p. 10-14)

ℹ条件を追加編集中の場合は他の条件を編集することはできません。

☞「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

10.2.6.5.4 条件式を削除する

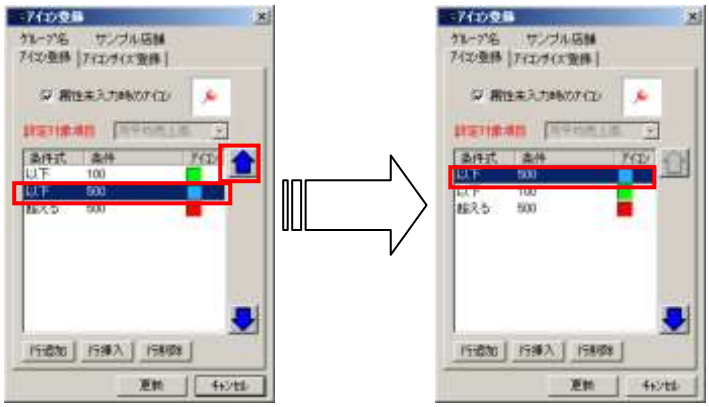
削除したい条件情報を一覧から選択し、[行削除]ボタンをクリックすると条件文が削除されます。

☞「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

10.2.6.5.5 条件式の優先順位を変更する

設定した条件は上部から優先で適用されます。よって、様々な条件式を作成した結果、上下を入れ替えなければいけなくなる場合もありますので、その場合に使用します。

条件式を指定して[↑][↓]ボタンをクリックすると順序を変更することができます。



☞「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

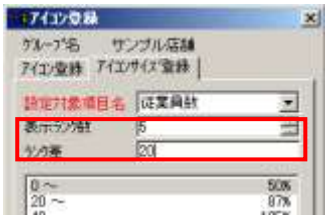
10.2.6.5.6 属性値に応じてプロットアイコンのサイズを変更する

ここでは数値の属性値に対してランクを設定し、アイコンを指定の大きさに変更することができます。「アイコン登録」タブではアイコンそのものを変更できるのに対し、ここではアイコンのサイズの変更のみとなります。

1. 「アイコンサイズ登録」タブを選択し、サイズを設定する属性を選択します。

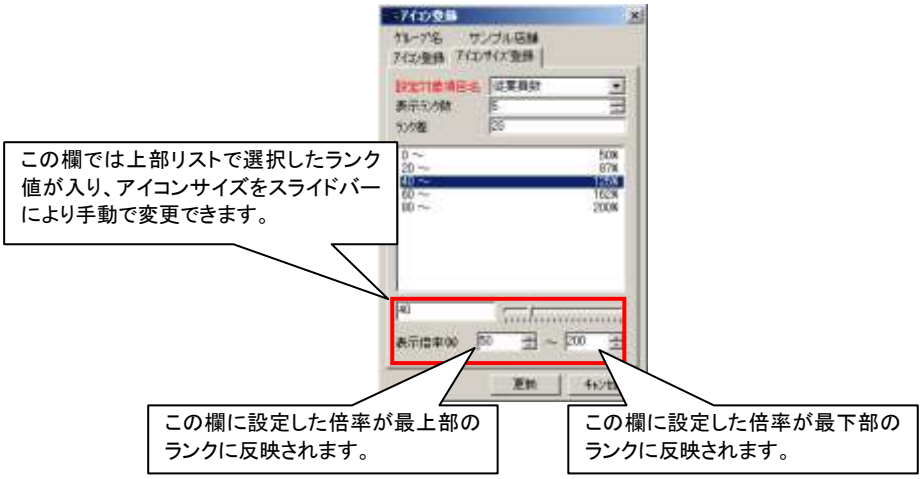
「設定対象項目名」には数字型の属性のみ表示されます。（数値型の属性が無い場合は設定できません）

2. 表示ランク数、ランク差を設定します。



ランク差には小数点も指定できます。

3. ランク数に応じる表示倍率を下部の表示倍率による一括指定か、個別に指定を行います。



表示ランク数、ランク差、表示倍率のいずれかを変更すると、各設定に従って、一覧内の項目値と表示倍率が全て再設定されます。

個々の値を手動で設定していても、「表示ランク数」、「ランク数」、「表示倍率」(両端値)を設定すると各行が再設定されますので、注意して操作を行ってください。

「10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する」(p. 10-18)

10.2.6.6 編集した属性、属性によるアイコン設定を反映する

属性の追加、変更、削除を行った操作は、当画面に表示されている属性項目一覧に反映されるだけで、システムにはまだ反映されていません。追加、変更、削除した内容を反映するためには、画面下部にある[更新]ボタンをクリックします。

編集した内容を破棄する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

10.3 プロットを作成する

プロットを作成する方法としては、以下の種類があります。

- 外部ファイル（CSV あるいは Excel 形式）を準備し、そのファイルを取り込む
- マウス操作によって地図を見ながら追加を行う

10.3.1 プロットの取り込み（自動マッチング）

ファイルデータをプロットとしてシステムに取り込む方法を説明します。位置情報（住所や住所コード）を保有するファイルデータを、自動的に取り込む方法を”自動マッチング”と言います。自動マッチングでマッチングできなかった（地図データベースに登録されている住所情報と一致しない）データに対して、位置情報を割り付ける方法を”手動マッチング”と言います。

「10.3.2 プロットの取り込み（手動マッチング）」（p. 10-24）

また住所文字列の入った CSV から緯度・経度を割り振る「ジオコーディングツール」が別途添付されておりますので、別紙「GeoCordingTool 操作説明書」を参照してください。

以下では、プロットの自動マッチングの方法について説明します。

取り込むファイルはプロットデータ用のフォーマットになっていることが必要です。

「22.1.2 プロットデータのフォーマット」（p. 22-3）

また、マッチングの方法には 3 種類ありますので、準備した外部ファイルの保持する情報に合わせてマッチングの種類を選択してください。

住所名マッチング	準備した外部ファイルに、住所が記述されている場合のマッチング方法です。 →別途添付のジオコーディングツールが使用できます。
住所コードマッチング	準備した外部ファイルに、住所コードが記述されている場合のマッチング方法です。
緯度経度マッチング	準備した外部ファイルに、緯度・経度が記述されている場合のマッチング方法です。
郵便番号マッチング	準備した外部ファイルに、郵便番号が記述されている場合のマッチング方法です。

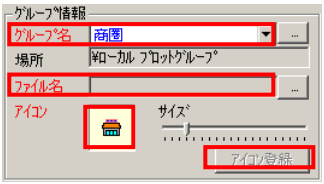
10.3.1.1 自動マッチングを行う

1. 「プロット（自動マッチング）」画面を表示します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

2. 「プロット（自動マッチング）」画面が表示されます。

3. グループ情報を設定します。



① グループ名
作成するプロットを登録するプロットグループを選択します。

「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

② ファイル名

ファイル名横の … をクリックして自動マッチングの元データとなる CSV あるいは Excel ファイルを選択してください。Excel ファイルの場合にはシートも選択します。

取り込むファイルはプロットデータ用のフォーマットになっていることが必要です。

「22.1.2 プロットデータのフォーマット」(p. 22-3)

③ アイコン

選択したプロットグループの登録アイコンが表示されています。画像をクリックすると「マルチメディファイル一覧」画面が表示され、アイコンを変更することができます。

変更されるのは自動マッチングによって作成されるプロットに対してのみです。グループ自体のアイコンを変更するにはグループプロパティを変更してください。

「10.2.4 プロットグループのプロパティを操作する」(p. 10-8)

[アイコン登録]ボタンをクリックすると属性値によるプロットアイコンの設定を行うことができます。

「10.2.6.5 属性値によるプロットアイコンの設定」(p. 10-13)

4. マッチング方法によって以下のように設定を行い、最下部の[開始]ボタンをクリックしてください。

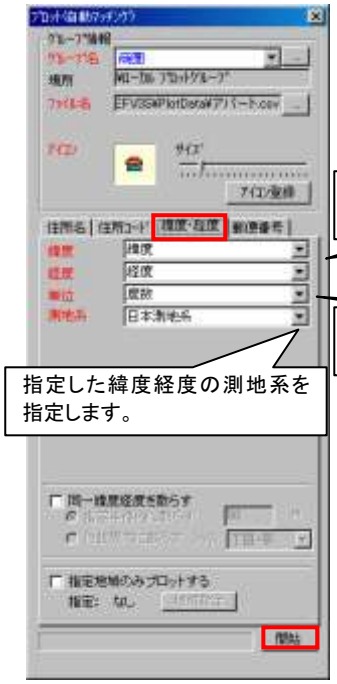
- 住所名マッチングの場合

[表記文字列設定]ボタンではファイル内の多様な丁目・番地・号の表記でも自動マッチングできるように、表記方法のパターンを登録することができます。

⚠ジオコーディングツールで変換すると上記の住所マッチングより多彩な設定が予めされております。
☞「10.13 住所マッチングウィザード」(p. 10-50)

- 住所コードマッチングの場合

- 緯度経度マッチングの場合



- 郵便番号マッチングの場合

同一緯度経度に登録されるプロットを均一に散らすことができます。

「10.3.1.2 プロット散らし機能」(p. 10-23)

地域を指定できます。

「10.3.1.3 地域指定機能」(p. 10-24)

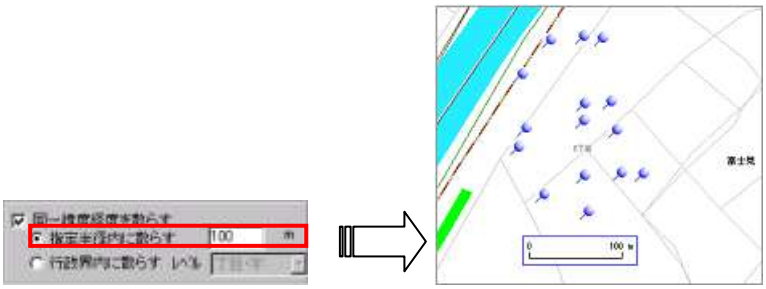
[開始]ボタンを押すとマッチングが開始され、[開始]ボタンは[中断]ボタンになります。中断する場合はクリックしてください。

自動マッチングによりプロットデータを登録した後に、同一のプロットグループに CSV ファイルから追加登録する場合には、前記自動マッチングの操作を追加する CSV ファイルを指定して実行することにより、追加されます。

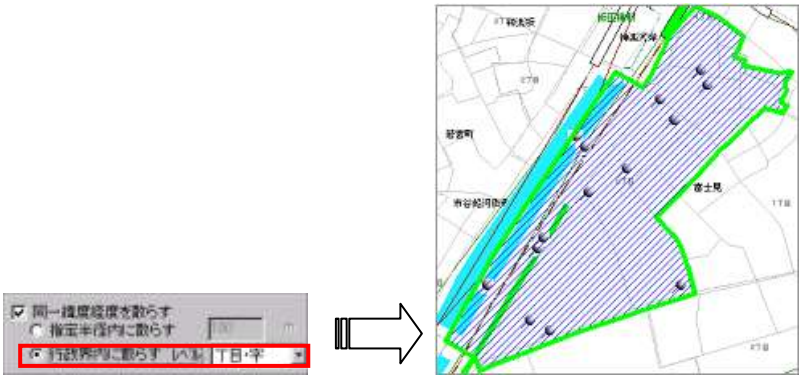
10.3.1.2 プロット散らし機能

同一住所名、同一住所コードあるいは同一緯度経度を持つデータを登録した場合に、重複するプロットを指定した範囲内に散らす機能です(散らし方はランダムです)。例えば、会員データなど多数のデータを、丁目までのマッチングで地図上にプロットした場合、丁目の代表点に重なって表示されてしまいます。それを防ぐ場合にこの機能を利用し、指定した範囲内で散らすことが可能となります。

- 指定半径内に散らす場合
  同一住所コードを持つ 15 個のプロットを半径 100m 以内に散らした例です。



- 行政界内に散らす場合
  同一住所を持つ 15 個のプロットを丁目・字内に散らした例です。



10.3.1.3 地域指定機能

プロットを取り込む地域を指定することができます。指定外の地域にはプロットは登録されません。

「指定地域のみプロットする」のチェックを入れ、「地域指定」ボタンを押してください。矢印ボタンで地域を選択し「OK」ボタンで確定します。

10.3.2 プロットの取り込み（手動マッチング）

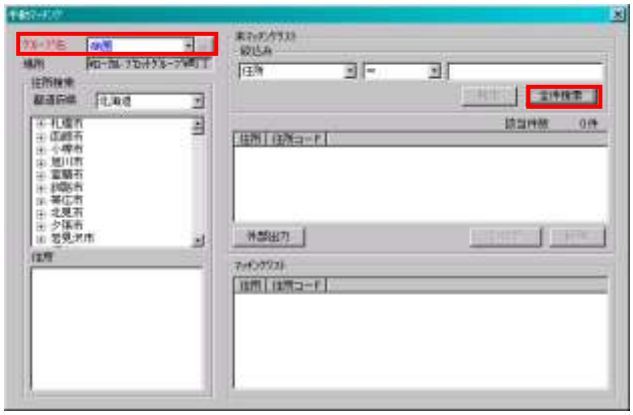
自動マッチングでマッチングできなかったデータに対して、手動でマッチングを行います。

「プロット（手動マッチング）」画面を表示します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

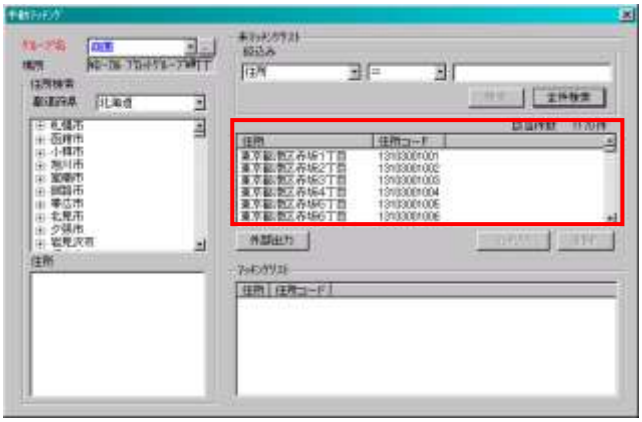
10.3.2.1 手動マッチングを行う

1. プロットグループを選択し、[全件検索]ボタンをクリックします。



「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

2. 未マッチングの件数とリストが表示されます。



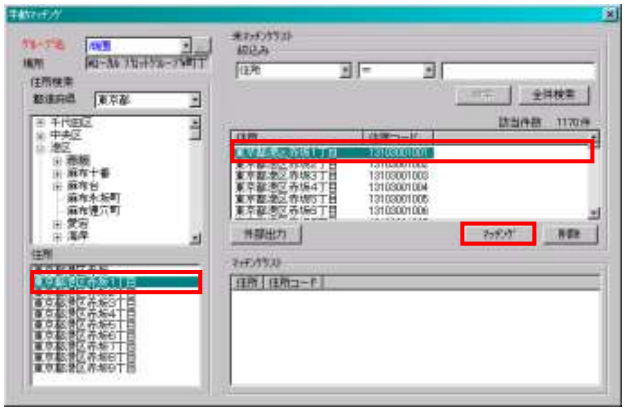
システムに取り込む必要がないプロットは削除することができます。

「10.3.2.1.1 未マッチングのプロットを削除する」(p. 10-26)

未マッチングのプロットの各属性値を編集し、再度、自動マッチングを行うことができます。

「10.3.2.1.3 未マッチングプロットのファイル出力と追加登録」(p. 10-27)

3. 未マッチングリストからマッチングを行うプロット、住所検索欄からマッチングさせる住所を選択して[マッチング]ボタンをクリックします。



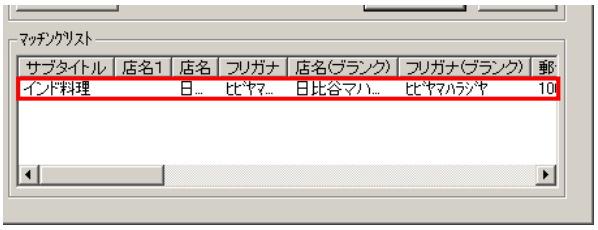
未マッチングリストから目的のプロットを見つけられない場合はさらに絞り込むことができます。

「10.3.2.1.2 未マッチングのプロットを絞り込む」(p. 10-27)

住所の選択方法は、住所検索と同じです。

「9.2.1 住所検索を行う」(p. 9-2)

4. マッチングされたプロットがマッチングリストに追加されます。

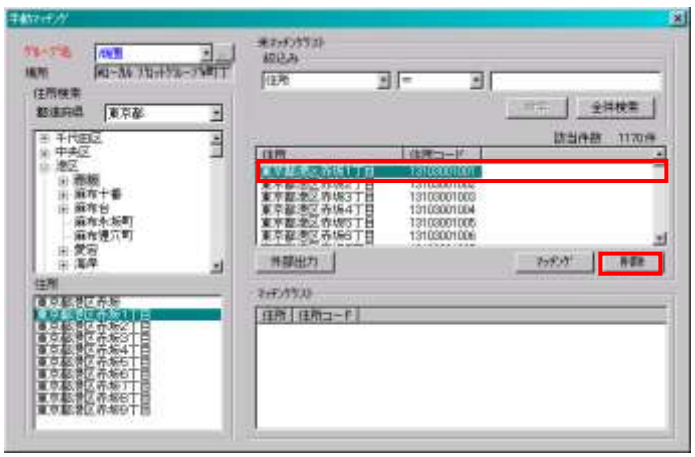


10.3.2.1.1 未マッチングのプロットを削除する

システムに取り込む必要のないプロットが、一覧に表示されていた場合、この機能で削除することができます。

1. 未マッチングリストの中から削除するプロットを選択します。

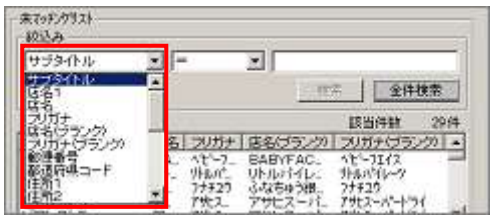
2. [削除]ボタンをクリックします。



10.3.2.1.2 未マッチングのプロットを絞り込む

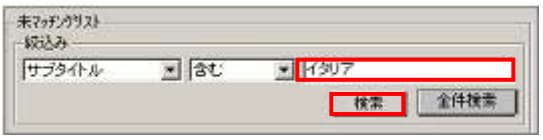
未マッチングのプロット件数が多い場合に、容易に手動マッチングしたいプロットを絞り込むことができるように、検索機能を提供します。

1. 検索条件となる、属性項目を選択します。



2. 検索条件を選択します。

3. 検索文字列を入力し、[検索]ボタンをクリックします。



再度、全未マッチングリストを表示させる場合は、[検索解除]ボタンをクリックします。

10.3.2.1.3 未マッチングプロットのファイル出力と追加登録

未マッチングプロットを一括登録する場合は、以下の通り、未マッチングプロットを外部出力（CSV 形式ファイル作成）し、次に同プロットの属性情報（住所や住所コードなど）を修正して、再度自動マッチングを実行してください。
前回のマッチング済データに、次回のマッチング済データが自動追加されます。

[外部出力]ボタンをクリックすると名前を付けて保存することができます。

10.3.3 プロットを追加する

1. 「プロット追加」を選択します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

当機能を使用している間は、検索結果表示機能が使用不可になります。
「10.4.4 検索結果のプロットのみを表示する」(p. 10-36)

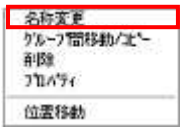
2. マウスカーソルが になります。

3. 地図上でマウスの左ボタンをクリックすると、地図上にプロットが追加されます。

10.3.4 プロット名称を変更する

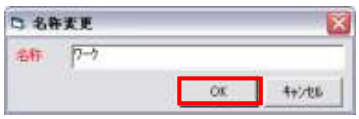
既に作成されたプロットの名称を変更することができます。

1. プロット欄でプロットを指定してから「名称変更」を選択します。



プロット欄ポップアップメニュー

2. 指定したプロットの「名称変更」画面が表示されます。プロット名を設定して[OK]ボタンをクリックしてください。



10.4 プロットを表示する

プロットの表示にはプロットグループ単位での設定とプロット個別の設定があります。プロットアイコンの表示と同時に、プロット名称を表示することができます。また、プロット検索の検索結果のみを表示することも可能です。

「10.4.1 プロットグループを表示する」(p. 10-29)
「10.4.2 プロットを表示する」(p. 10-31)
「10.9 プロットを検索する」(p. 10-43)

10.4.1 プロットグループを表示する

以下ではプロットグループ単位での表示設定について説明します。

10.4.1.1 プロットグループを個別に表示設定する

1. プロットグループ欄で表示したいプロットグループにチェックを付けます。

名・名 ボタンでは名称の表示状態を個別に操作することができます。
「10.4.3.1 プロット名称を表示する」(p. 10-32)

プロットグループ欄のチェックボックスの表示状態はそれぞれ以下のことを表しています。

No.	チェックボックスの状態	グループ名称の状態	当該グループの表示状態	サブグループの表示状態
1	☐	標準表示	非表示	非表示
2	☑	標準表示		一部が表示
3	☑	**太字表示**	表示	
4	☑	**太字表示**		表示

2. [表示更新]ボタンをクリックすると設定が地図上の表示に反映されます。

10.4.1.2 プロットグループを一括して表示設定する

プロットグループを選択することにより、そのプロットグループに下位グループ全てに設定を反映することができます。

1. プロットグループ欄でグループを指定してから「以下のグループの表示/非表示」を操作します。

2. 「全て表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのプロットを表示します。

3. 「全て非表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのプロットを非表示にします。

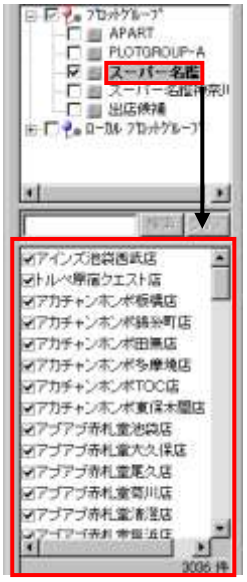
4. 「全て名称表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのプロットの名称を表示します。

5. 「全て名称非表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのプロットの名称を非表示にします。

10.4.2 プロットを表示する

以下ではプロット個別の表示設定について説明します。

1. プロットグループ欄でグループを指定すると属するプロットとプロット件数がプロット欄に表示されます。



2. プロット欄でチェックを付け外しして[表示更新]ボタンをクリックすると設定を地図上に反映します。

[全選択]ボタン・[全解除]ボタンでプロット欄の全プロットを一度に選択・解除できます。

10.4.3 プロット名称を表示する

10.4.3.1 プロット名称を表示する

1. プロットグループ欄で名称を表示したいプロットグループの[名称]ボタンをクリックします。

[名称]ボタンの状態はそれぞれ、以下のことを表しています。クリックすることで赤とグレーが切り替わります。

No.	ボタンの状態	グループ名称の表示状態
1	名	表示
2	名	非表示

3. [表示更新]ボタンをクリックすると設定を地図上に反映します。

名称の表示設定はプロットグループ単位でしか行うことができません。

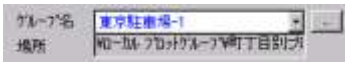
10.4.3.2 プロット名称を設定する

以下では表示するプロット名称の設定方法を説明します。

1. 「名称表示設定」画面を表示します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

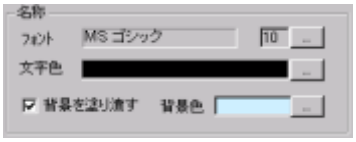
2. 名称設定をするプロットグループを選択します。



☞「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

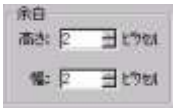
3. 表示する名称にチェックを付けて選択します。

4. フォント、文字色、背景色を選択します。

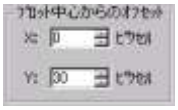


5. 名称枠の囲み線の設定を行います。

6. 余白の設定を行います。

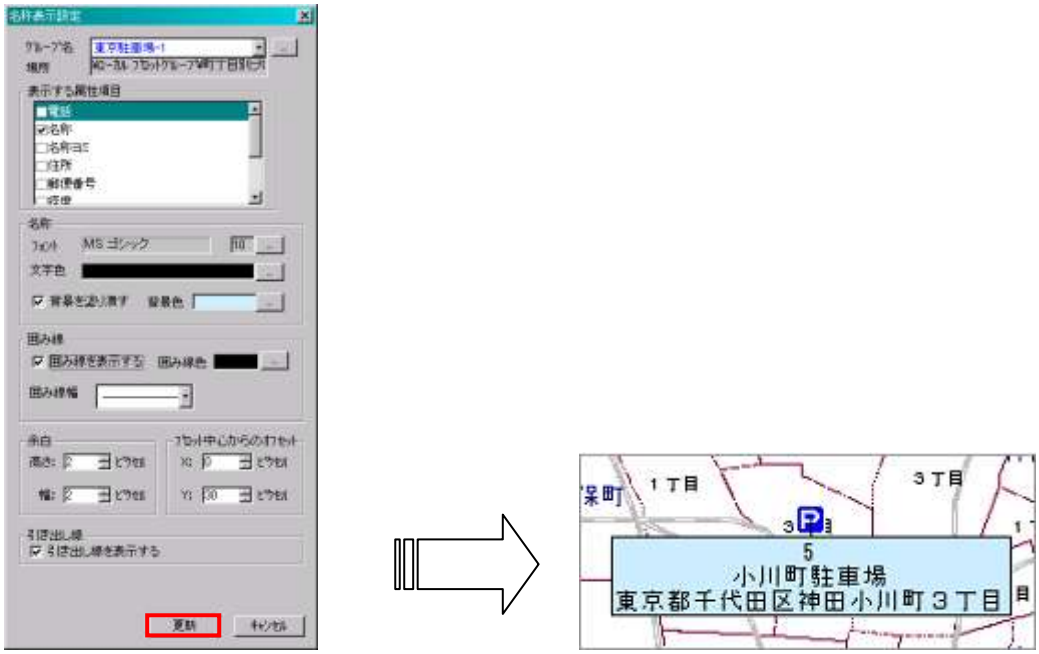


7. 引き出し線のオフセットを設定します。



8. 引き出し線を設定します。

9. [更新]ボタンをクリックすると地図上に反映されます。



10.4.3.3 プロット名称を移動する

以下では表示するプロット名称の移動方法を説明します。

1. 「名称位置移動」を選択します。

プロット機能メニュー

2. 地図上で名称を移動させたいプロットをクリックします。

3. 地図上で移動先をクリックします。

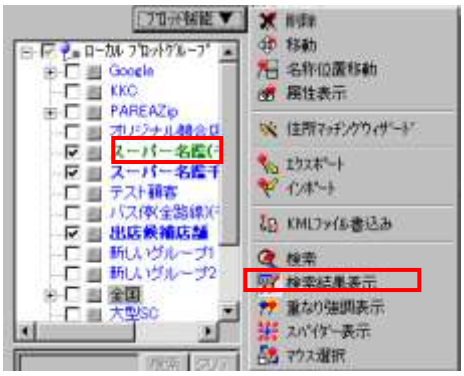
移動中に右クリックするとポップアップメニューが表示されます。キャンセルを選ぶと移動を中止することができます。

10.4.4 検索結果のプロットのみを表示する

検索を行ったあとでは検索結果のプロットのみを表示することができます。

「10.9 プロットを検索する」(p. 10-43)

1. 「検索結果表示」を選択します。



プロット機能メニュー

再度選択すると解除されます。

検索結果表示中のグループは緑色で表示されます。

2. 最新の検索結果のプロットのみを地図上に表示します。

検索されるプロットグループの表示が設定されていない場合は表示されません。

「10.4.1 プロットグループを表示する」(p. 10-29)

検索結果が存在しない時は、地図上に何も表示されません。

10.4.5 同一地点プロットの強調表示

1. 「重なり強調表示」を選択します。

プロット機能メニュー

2. 地図上の同一地点にプロットが重なって表示されている箇所が強調表示されます。

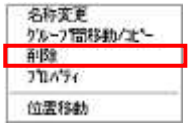
重なっているかいないかはプロットの緯度経度ではなく、表示座標によって判断されますので、地図の表示縮尺によって強調表示が行われたり解除したりします。

3. 再度、「重なり強調表示」を選択すると強調表示が解除されます。

10.5 プロットを削除する

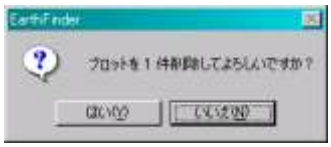
以下ではプロットの削除について説明します。

1. プロット欄でプロットを指定してから「削除」を選択します。



プロット欄ポップアップメニュー

2. 指定したプロットの削除確認が表示されます。



プロット欄では Ctrl キーや Shift キーを使用して一度に複数のプロットを選ぶことができます。

3. [はい]ボタンをクリックするとプロット欄で選択しているプロットが削除されます。

地図上のプロットをマウスで指定して削除することもできます。

「10.12 プロットをマウス選択して操作する」(p. 10-49)

10.6 プロットの位置を変更する

以下では、プロット位置の変更方法について説明します。

1. 「移動」を選択します。

プロット機能メニュー

2. 地図上の移動させたいプロットをクリックします。

選択されたプロットに複数の候補がある場合は、プロット選択画面が表示されます。

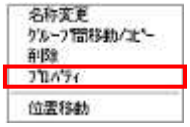
「10.11 複数のプロット候補の中から目的のプロットを選択する」(p. 10-48)

3. 地図上で移動先をクリックします。

10.7 プロットプロパティを表示・変更する

以下では、プロットプロパティの表示・変更について説明します。

1. 「プロパティ」を選択します。



プロット欄ポップアップメニュー

2. 地図上の属性を変更したいプロットをクリックすると「プロパティ」画面が表示されます。

選択されたプロットに複数の候補がある場合は、プロット選択画面が表示されます。

「10.11 複数のプロット候補の中から目的のプロットを選択する」(p. 10-48)

属性項目がマルチメディア項目の場合のみ[編集]ボタン、[削除]ボタンがクリック可能になります。

3. 各項目を設定して[更新]ボタンをクリックするとシステムに反映されます。

項目値欄をクリックすることで入力が可能になります。

[アイコン登録]ボタンをクリックするとアイコンの設定を行うことができます。

「10.2.5 アイコンの設定」(p. 10-8)

[編集]ボタンをクリックすると、「マルチメディアデータファイル一覧」画面が表示されます。

[削除]ボタンをクリックすると、設定されているマルチメディアデータファイルの設定を解除することができます。

10.8 プロットを移動する

プロットの親グループを変更することができます。変更方法はプロットグループ単位とプロット個別の方法があります。

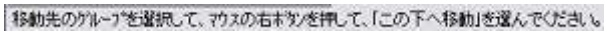
10.8.1 プロットグループを他のプロットグループ下位に移動する

以下ではプロットグループ単位で親グループを変更する方法について説明します。

1. プロットグループ欄でグループを指定してから「グループ移動」を選択します。

プロットグループ欄ポップアップメニュー

2. ステータスバーにメッセージが表示されます。



3. 移動先のプロットグループを選択して右クリックするとポップアップメニューが表示されます。「この下へ移動」を選択すると反転表示しているグループを選択したグループの直下に移動します。

「キャンセル」を選択することで移動を中止することができます。

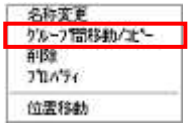
異なる保存場所の移動を実行した場合は以下の確認メッセージが表示されます。

移動先のグループに同じ名称が既にある場合は以下の警告が表示されます。

10.8.2 プロットを他のプロットグループに移動/コピーする

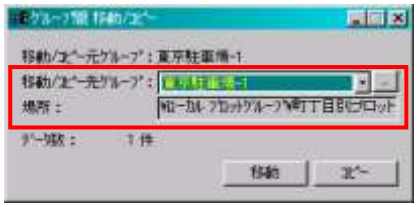
以下ではプロットを個別に他のプロットグループに変更する方法について説明します。

1. プロット欄でプロットを指定してから「グループ間移動/コピー」を選択します。



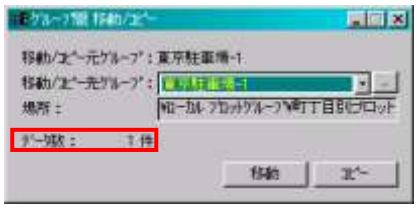
プロット欄ポップアップメニュー

2. 移動/コピー先グループを選択します。



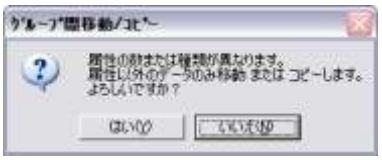
「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

3. データ数にはプロット欄で指定しているプロットの件数が表示されます。このプロットが移動/コピーされます。



プロット欄では Ctrl キーや Shift キーを使用して一度に複数のプロットを選ぶことができます。

異なる属性のプロットグループへの移動/コピーを実行した場合、以下の警告が表示されます。



10.9 プロットを検索する

以下では、プロット検索に関連した機能について説明します。

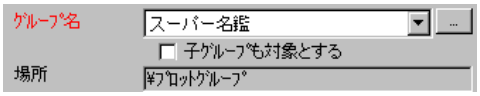
10.9.1 プロット検索

1. 「検索」画面を表示します。

プロット機能メニュー

プロットグループ欄ポップアップメニュー

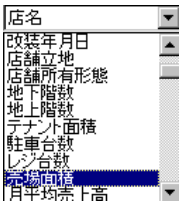
2. 検索するプロットグループを指定します。



「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

子グループも対象にすると、親子共通の属性名称に対して検索条件を与えることになります。

3. 検索条件となる属性項目を選択します。



未入力項目のチェック欄にチェックすると属性値が入力されていないプロットを検索することができます。この場合、4.～6.の操作はできません。

4. 「検索式」を選択します。

主題属性が文字列型/マルチメディアデータ型の場合と、数字型の場合では、表示される検索式が以下のように異なります。

主題属性	検索式	意味
文字列型 または マルチメディアデータ型	＝	条件に入力された値と完全に一致する属性値。
	≠	条件に入力された値と一致しない属性値。
	含む	条件に入力された値を含む属性値。
	含まない	条件に入力された値を含まない属性値。
数字型	＝	条件に入力された値と完全に一致する属性値。
	≠	条件に入力された値と一致しない属性値。
	＜	不等号の”＜”に値します。例えば、従業員数に対して条件を”100”と設定されている場合、”99”が入力されているプロットは該当しますが、”101”と入力されているプロットは該当しません。
	≦	不等号の”≦”に値します。
	＞	不等号の”＞”に値します。
	≧	不等号の”＜”に値します。

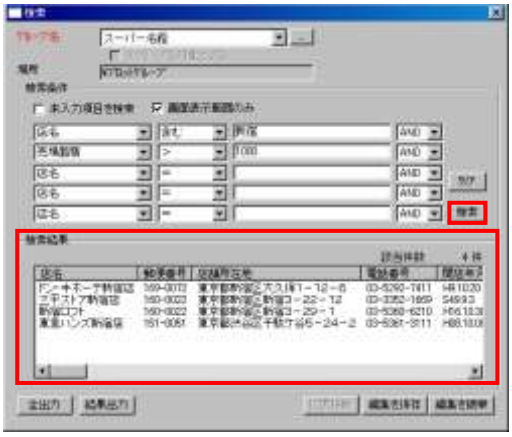
5. 検索文字列を入力します。

6. 連結式を選択します。

連結式	意味	使用例
AND	かつ	検索条件として、画面上に次の値を設定したとします。 「住所」　「含む」「東京都千代田区」 AND 「従業員」「＜」　「1000」 この場合、2 つの条件式を両方とも満たすプロットのみが検索結果として表示されます。そのため、住所に「東京都千代田区」が含まれていても、従業員が 1000 を超えているプロットは検索結果として表示されません。
OR	または	検索条件として、画面上に次の値を設定したとします。 「住所」　「含む」「東京都千代田区」 OR 「従業員」「＜」　「1000」 この場合、2 つの条件式のどちらか一方を満たすプロットのみが検索結果として表示されます。

以上の 4.～6.の操作を繰り返し、検索条件を追加することができます。

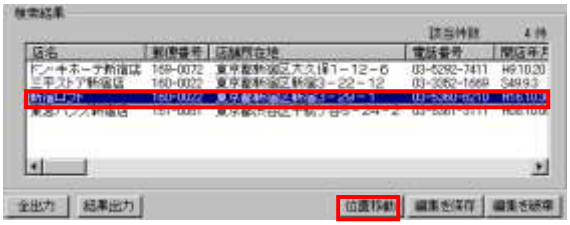
7. [検索]ボタンをクリックすると検索結果が表示されます。



[クリア]ボタンをクリックすると、入力した検索条件が初期状態に戻ります。

検索結果一覧でプロットを選択し、[位置移動]ボタンを選択すると、そのプロットの位置が地図上の中心となるように地図が移動します。

検索結果一覧で属性項目を修正できます。修正後[編集を保存]ボタンを選択すると、プロット属性としてデータベースに保存されます。破棄すると元の値に戻ります。



副地図が表示されている場合は、副地図の移動も行います。

地図上で検索結果一覧に表示されているプロットをクリックすると、検索結果一覧の該当する行が反転表示されます。それ以外の場所をクリックすると反転が解除されます。

10.9.2 外部ファイル出力

1. 「検索」画面の[全出力]ボタンを選択すると、選択したプロットグループに属する全プロットの情報が外部ファイル（CSV ファイル形式）として出力されます。

2. 同様に[結果出力]ボタンを押すと検索結果欄に表示されているプロット情報が外部ファイル（CSV ファイル形式）として出力されます。

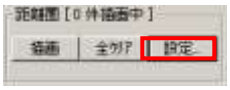
10.10 プロット距離圏を操作する

プロット距離圏とは、プロットを中心として指定した距離までの円（商圏）を作る機能です。予め設定しておいた距離圏が簡単に描画できます。

10.10.1 プロット距離圏の描画設定を行う

あらかじめよく作成する範囲、種類の距離圏を設定することができます。

1. プロットパネル距離圏欄の[設定]ボタンをクリックします。



2. 「プロット距離権描画設定」画面が表示されます。

3. 作成する距離圏の半径を入力し（小数点 3 位まで入力可能）、[追加]ボタンで追加していきます。また、種類欄から累積型かドーナツ型を選択します。

削除時は、距離圏設定リストから削除したい km を選択し（複数選択が可能）、[削除]ボタンをクリックします。

見た目上、累積型とドーナツ型の違いはありません。累積型とは 2km の円に 1km の円も含む形状で、ドーナツ型の場合は 2km の円に 1km の円は含まない、ドーナツの形状で作成されます。

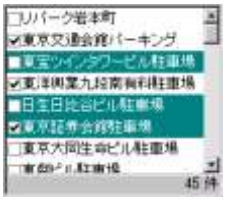
4. 距離圏描画時にどの位置にラベル（〇km という表示）を出すかを決めます。

5. 描画する円の線種を指定します。

6. ここまでの設定を次回も使用する場合は[標準値として保存]ボタンをクリックします。設定完了後は[OK]ボタンをクリックしてください。

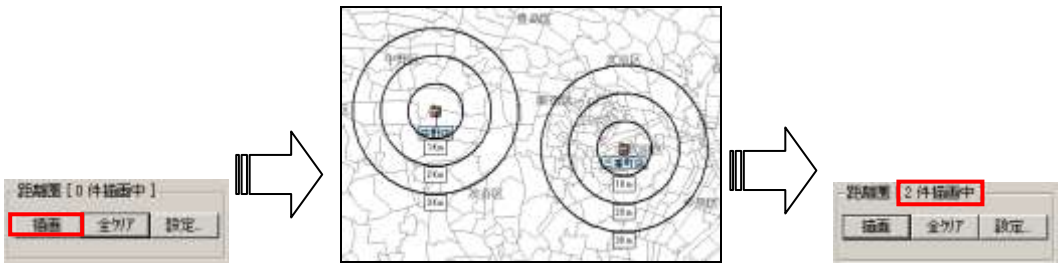
10.10.2 距離圏を描画する

1. プロット欄で描画したいプロットにチェックをつけます。



Ctrl キーや Shift キーを使用して一度に複数のプロットを選ぶことができます。

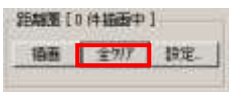
2. [描画]ボタンをクリックすると、地図上に距離圏が描かれ（中図）、プロットパネルの距離圏欄に作成した距離圏の数が表示されます（右図）。



この後、他のグループのプロットに対して距離圏を描画しても今回作成した距離圏は残っています。

10.10.3 距離圏をクリアする

[全クリア]ボタンをクリックすると、地図上に描かれた距離圏が（km ラベルも）クリアされます。



10.11 複数のプロット候補の中から目的のプロットを選択する

以下では、複数のプロット候補の中から目的のプロットを選択する方法について説明します。

1. 選択されたプロットの候補が複数あるときは「プロット選択」画面が表示されます。

2. 目的のプロットを選択して[選択]ボタンを押します。

10.12 プロットをマウス選択して操作する

地図上でプロットを指定して「グループ間移動/コピー」「プロット削除」「プロット非表示」「プロパティ」を行うことができます。

1. 「マウス選択」を選択します。

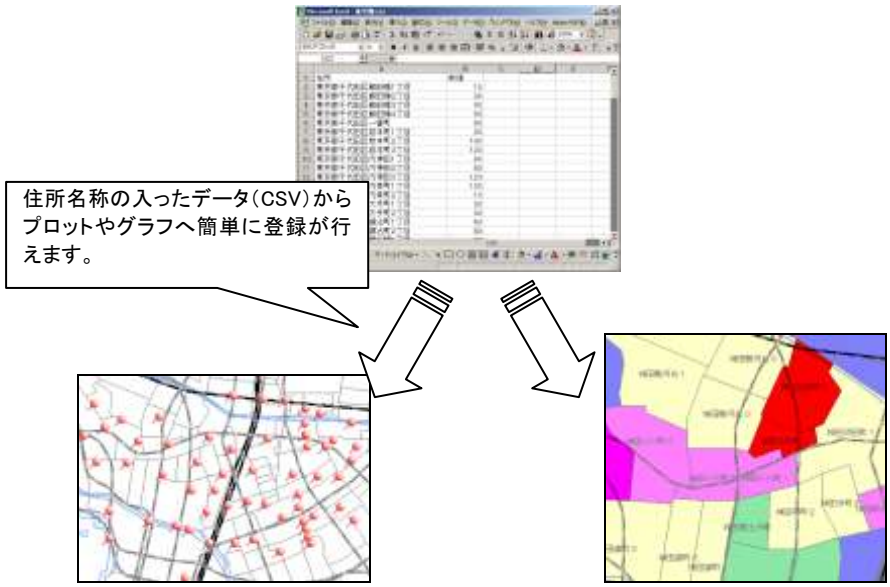
プロット機能メニュー

2. 地図上のプロットを個別にクリックするか、複数のプロットをマウスで囲んで右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

☞「10.8 プロットを移動する」(p. 10-41)
☞「10.5 プロットを削除する」(p. 10-38)
ℹ「プロット非表示」を選択するとマウス選択中のプロットを非表示にします。
☞「10.7 プロットプロパティを表示・変更する」(p. 10-40)

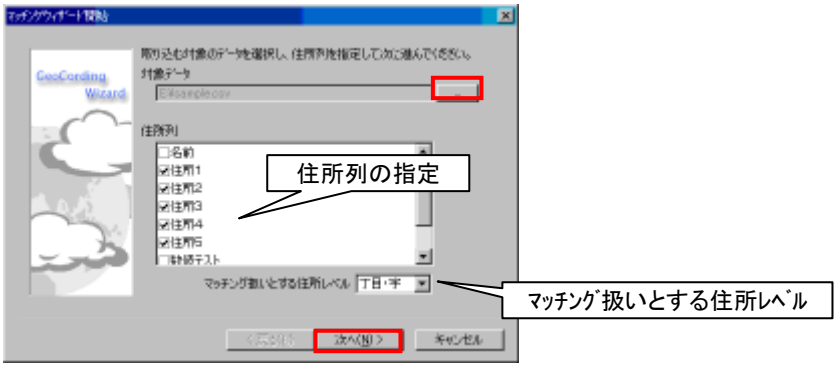
10.13 住所マッチングウィザード

ジオコーディングツールを使っての緯度・経度付与からプロットへの登録、グラフデータの作成からグラフの表示までをウィザード形式で行えます。



以下の手順はプロット登録、グラフ登録を行うまでの共通の操作手順です。

1. ジオコーディングを行う元のファイルを指定し、住所列がどれかを指定します。ファイルは CSV あるいは Excel 形式です。Excel 形式の場合にはシートの選択も行います。



⚠文字列中に「,(カンマ)」が入るようなデータがあると正常に動作しない恐れがありますので、ご注意ください。

ℹ"住所"と名の付く項目は予めチェックが付きます。複数チェックした場合は上部から連結されますのでご注意ください。(住所 1 に"東京都"、住所 2 に"千代田区"となっていた場合に住所 1 と住所 2 にチェックをしますと"東京都千代田区"でジオコーディングを行います)

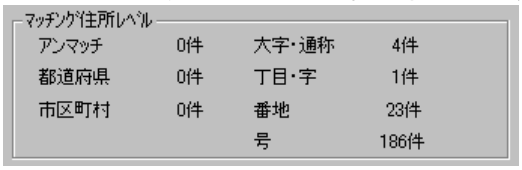
ℹマッチング扱いとする住所レベル

この選択は番地・号レベルの精度の住所データが搭載されているときに表示されます。

番地・号レベルでのジオコーディングを行った場合、そのレベルでマッチングした住所は EarthFinder に取り込まれますが、マッチしなかったものはアンマッチとなり住所情報を修正しないと地図に取り込まれません。

アンマッチのものも地図に落としたい場合は、最低マッチングレベルで番地・号よりも下のレベルの住所を指定します。例えば、ここで「丁目・字」を指定した場合、番地・号レベルではマッチしないが丁目・字でマッチしたデータは、丁目・字の代表点の位置(緯度経度)に取り込まれます。

どの住所レベルに何件マッチしたかは、ジオコーディング終了時の画面に表示されます。

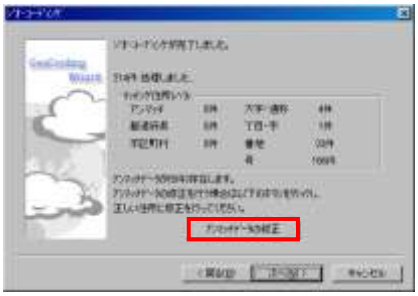


2. ジオコーディングが開始されますのでしばらくお待ちください。

- 全ての住所がマッチした場合
  全ての住所がマッチした場合は以下のような画面となりますので[次へ]ボタンで次に進みます。

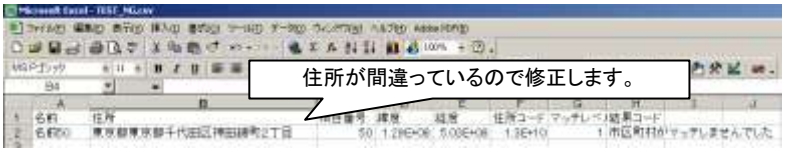
- マッチしない住所が存在する場合

a. 1 つでもマッチしない場合は以下のような画面となります。(アンマッチデータを修正する場合は[アンマッチデータの修正]ボタンをクリックします)



この段階でマッチしたもののみで良ければ[次へ]ボタンをクリックします。

b. アンマッチデータを編集すると CSV に関連付いているソフトウェア(Excel など)が起動しますので、間違っている住所を編集して上書き保存します。



上書き保存時、Excel から色々と確認メッセージが表示されますが、すべて「はい」で問題ありません。

c. 上記で修正したデータを再度ジオコーディングする場合は[はい]をクリックします。しない場合は[いいえ]をクリックします。

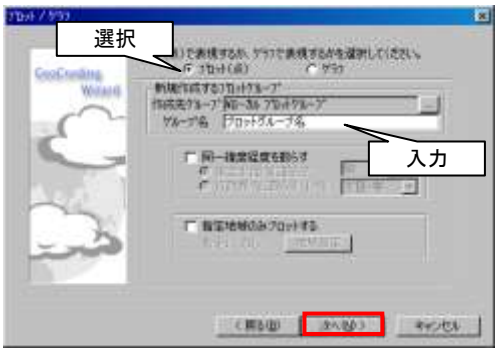
d. [はい]とした場合は再度ジオコーディングが開始されますので、住所が全てマッチすればプロット登録の設定画面が表示されます。

まだ未マッチがあるようであればこの項目を繰り返し実施します。

アンマッチデータ件数について
「アンマッチ」とは、原則的に、マッチングレベルが最初の画面で選択した「マッチング扱いとする住所レベル」に満たなかったデータとなります。ただし、マッチレベルが選択したレベルに満たないものでも、データ内の住所に完全にマッチした住所がある場合は、それはマッチデータとなります。例えば、住所に市区町村名までしか入っていないデータがあった場合、その市区町村に対応する住所データがあればマッチデータ扱いとなります。

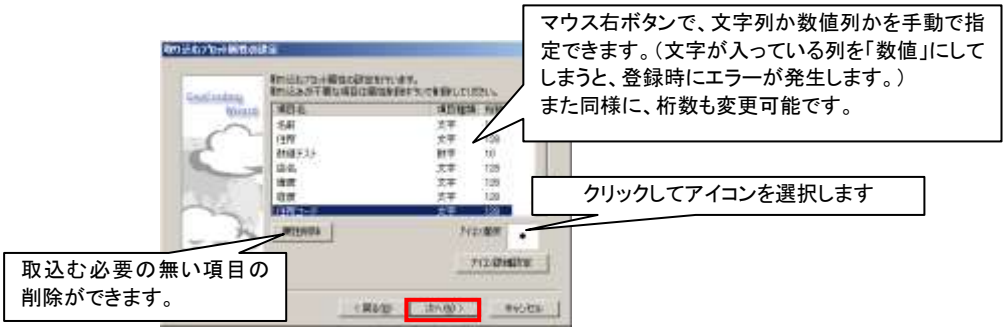
10.13.1 住所マッチングウィザード（プロット登録）

1. 以下の画面で「プロット」を選択し、登録するプロットグループ名を入力して[次へ]ボタンをクリックします。



同一緯度経度に登録されるプロットを均一に散らすことができます。
「10.3.1.2 プロット散らし機能」(p. 10-23)
地域を指定できます。
「10.3.1.3 地域指定機能」(p. 10-24)

2. 取り込む属性を文字列とするか数値とするかを選択し、登録するアイコンをアイコンが表示されている部分をクリックすることによって選択します（選択しない場合は標準のアイコンになります）。設定完了後、[次へ]ボタンをクリックします。



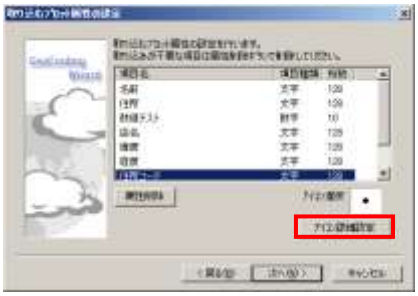
マッチング住所レベルを属性として取り込んでおくと、後で個々のプロットがどの住所レベルでマッチしたのかを参照できます。

0	アンマッチ
1	都道府県
2	市区町村
3	大字・通称
4	丁目・字
5	番地・
6	号

番号と住所レベルの対応

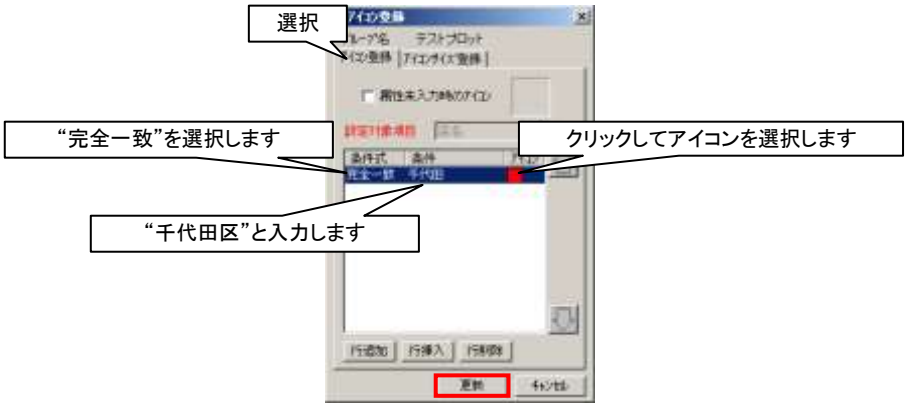
- 属性値によってアイコンを変更する場合

a. [アイコン詳細設定]ボタンをクリックします。

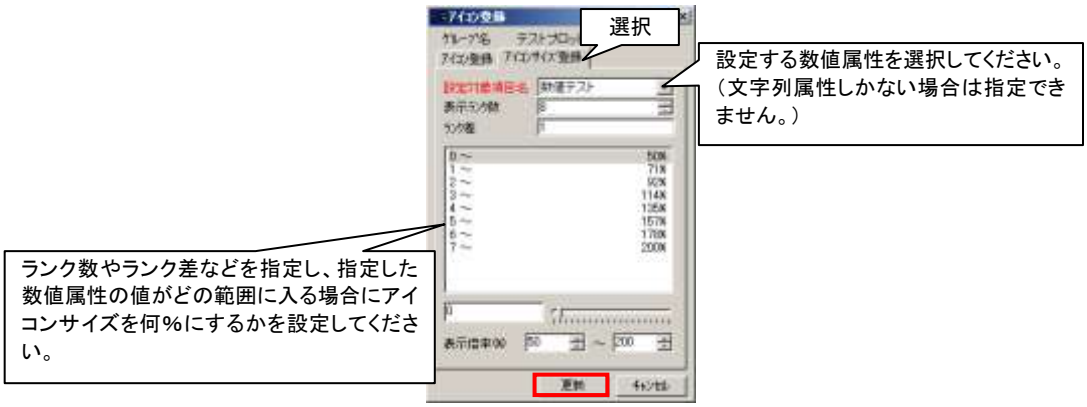


b. 以下のような画面が表示されますので、設定したい属性を選択し、条件を追加するために[行追加]ボタンをクリックします。

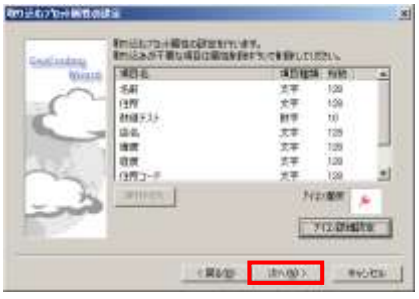
c. 以下のように完全一致で「千代田」という店名を指定し、その条件に合致した場合のアイコンを選択します。



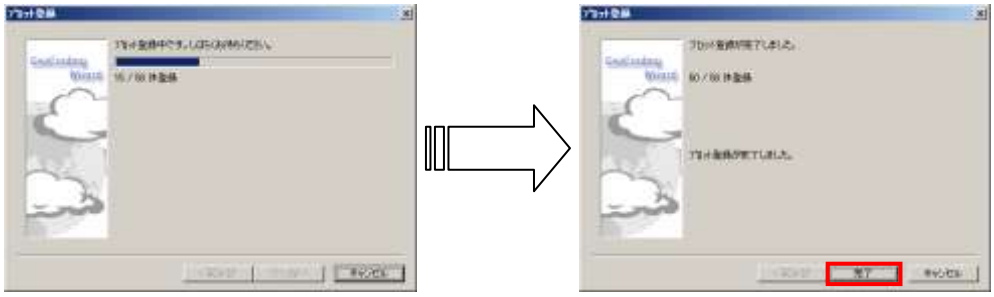
d. 数値属性の値によって、アイコンの大きさを変更したい場合は「アイコンサイズ登録」タブをクリックして、設定する属性とそのランクなどを設定します。



e. 上記プロット属性によるアイコン設定が完了しましたら[次へ]ボタンで先に進めてください。



3. プロットの登録が始まります。右図の表示になるまでしばらくお待ちください。最後は[完了]ボタンで完了してください。

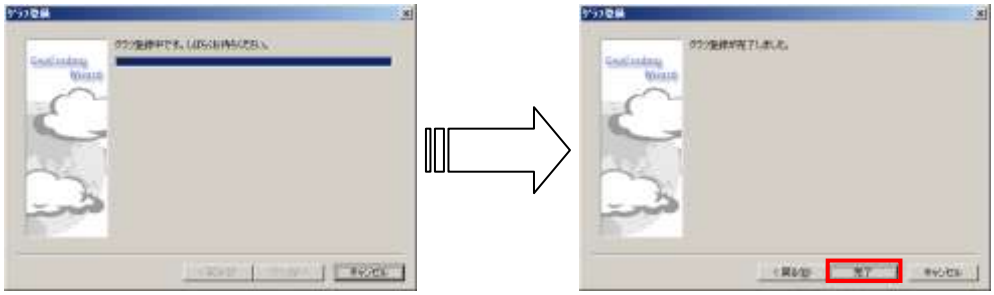


10.13.2 住所マッチングウィザード（グラフ登録）

1. 以下の画面で「グラフ」を選択し、集計単位を指定し[次へ]ボタンをクリックしてください。

複数の住所コードを持つ地図を導入されている場合は上図の「地図名称」の設定も行ってください。（基本的には PAREATown で問題はありません）

2. グラフが登録されます。しばらくお待ちください。右図の表示になるまでしばらくお待ちください。最後は[完了]ボタンで完了してください。



10.14 プロットグループ選択

様々な操作の中でプロットグループを選択する箇所があります。

グループ名欄に表示されているグループを使用したい場合はそのまま操作を続けてください。

1. 最近使用したグループや表示設定されているグループがドロップダウンの中にリストされている場合があります。その中に使用したいグループがある場合はリストから選択してください。

プロット作成（自動マッチング）画面

2. ドロップダウンリストの中にも使用したいグループが無い場合は … をクリックして「プロットグループ選択」画面を開きます。

3. 登録されているすべてのグループが保存場所によって区別されて表示されています。

データベースに保存されているグループは プロットグループ の下に、ローカルに保存されているグループは ローカル プロットグループ の下に青字で表示されています。

「1.2.11 ローカルプロット、ローカルエリア」(p. 1-4)

4. グループ名をクリックすると設定されているアイコン画像が表示されます。

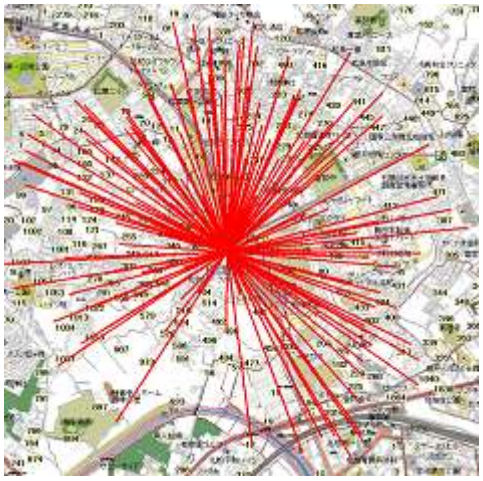
5. [選択]ボタンをクリックすると「プロットグループ選択」画面を閉じて、指定したグループが選択されます。

プロットグループ と ローカル プロットグループ は選ぶことができません。

[キャンセル]ボタンをクリックするとグループを選択しないで「プロットグループ選択」画面を閉じます。

10.15 スパイダー表示を行う

スパイダー表示は、あるプロット（例えば店舗）と他のプロット（その顧客）を地図上で直線（リンク線）で結んで表示する機能です。これにより、位置と距離を視覚的に捉えることができます。



10.15.1 スパイダー表示を行う

1. 「スパイダー表示」画面を表示します。

プロット機能メニュー

プロットグループ欄ポップアップメニュー

以降、この画面上でスパイダー表示のための設定を行いますが、操作の流れとしては、

A. 起点となるプロットの選択
B・リンク先のプロットの選択、表示属性の設定
↓
スパイダー表示実行となります。

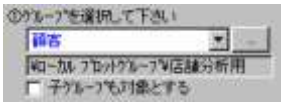
A①　起点のプロットグループを選択します。

「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

A②　起点プロットを選択します。
選択したプロットグループの中にあるプロットが一覧表示されますので、その中からスパイダー表示の起点とするプロットを選択し、チェックを付けます。

一覧上での選択時にプロットの名称で検索を行うことができます。「□表示範囲から検索」をチェックすると、現在地図画面に表示しているプロット内からの検索となります。

B①　リンク先のプロットグループを選択します。



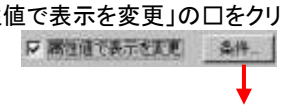
「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

B②　リンク線の表示属性を設定します。

リンク線の、線色、線種、線幅を選択します。

リンク先プロットの属性によってリンク線の表示属性を変更することができます。例えば、顧客プロットに来店回数の属性項目がある場合、来店の回数によって色や太さを変更して表示することが可能です。
以下その手順を説明します。属性値で表示を変更する必要がない場合は、B③にお進み下さい。

属性値で表示を変更する場合は「□属性値で表示を変更」の□をクリックし、[条件]をクリックします。



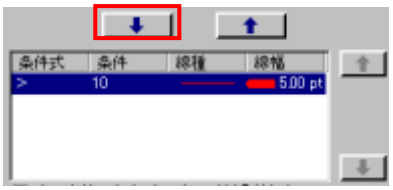
1)属性項目を選択します。
「属性項目」の右端の▼をクリックすると、リンク先プロットグループの属性一覧が表示されますので、そこから値によって表示属性を変更したい属性項目を選択します。

2)条件を選択します。

☞「10.9.1 プロット検索」(p. 10-43)

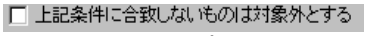
3)表示属性を選択します。

4)設定した条件、表示属性を決定します。
[↓]をクリックすると、表示条件設定一覧に登録されます。



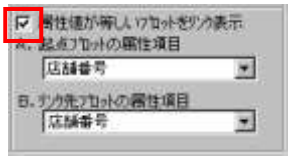
[↑]をクリックすると登録した表示条件設定が解除されます。
表示条件の判定は、上から順に行われます。判定順序を変更するには、変更したい条件式を選択して、一覧右横の[↑][↓]で行います。

5)条件の適用範囲を選択します。



ここにチェックを付けると、条件に該当しないリンク先プロットへのリンク線表示は行いません。例えば、来店回数10回以上の表示条件を設定し、ここをチェックした場合、来店回数が10回未満の顧客へのリンク線は表示されません。チェックしない場合は、来店回数が10回未満の顧客へのリンク線は、呼び出し元の画面で設定した表示属性に従います。

B③　起点とリンク先を結びつける属性項目を指定します。
スパイダー表示は、起点として選択したプロットと、リンク先として選択したプロットグループを結びつけて表示するものです。例えば、店舗と顧客で考えた場合、店舗ごとに顧客のプロットグループが分かれているケースでは、選択した店舗を対象に、その店舗の顧客グループ内の全プロットを結びつけて問題ありません。が、顧客プロットグループ内に複数の店舗の顧客が混在しているケースでは、リンク対象の顧客を選別する必要があります。このような場合は、ここでその設定を行います。
不要な場合は、この設定は必要ありませんのでB④に進んで下さい。



1) □属性値が等しいプロットをリンク表示をクリックしてチェックします。
2) 「A.起点プロットの属性項目」「B.リンク先のプロット属性項目」が有効になりますので、2つのプロットを結びつける属性項目を選択します。

B④ 対象範囲を指定します。
ここでは、起点とリンク先のプロット間の距離の上限を指定します。距離の上限値を設定することで、例えば、一時利用の遠方の顧客といったものリンク表示の対象外とすることができます。
設定を行うには、□指定するをクリックします。半径の入力が可能になりますので、km単位で入力します。

[スパイダー表示]をクリックすると表示されます。

地図上にスパイダー表示が行われ、一覧リスト欄にも表示されます。

リンク線表示設定で、複数の条件で表示属性を設定している場合は、それぞれが1行ずつ表示されます。

10.15.2 作成したスパイダー表示を変更する

一覧リスト上で変更したいスパイダー表示を選択し、マウス右ボタンをクリックするとポップアップメニューが表示されます。

[リンク線表示設定]
リンク線の表示属性が変更できます。

[削除]
現在選択している起点のスパイダー表示を削除します。
1つの起点プロットについて、属性値による表示設定を行っている場合は、その起点についてのスパイダー表示がすべて削除されます。

[位置移動]
起点プロットの位置を中心に地図表示を移動します。

10.15.3 スパイダー表示を保存する

作成したスパイダー表示は、その見た目（線分形状）をエリアデータとして保存できます。
面データとしては保存されませんので、集計対象のエリアとして利用することはできません。

1. 画面下部の[エリアグループに保存]をクリックします。

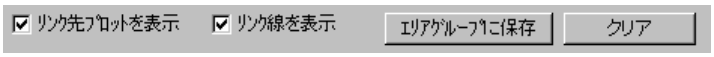
「スパイダー表示をエリアとして保存」ダイアログが表示されます。

2. 保存先のプロットグループを選択します。
「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

3. [保存]ボタンをクリックします。

10.15.4 スパイダー表示を ON/OFF する

・リンク先プロットの表示 On/Off
・リンク線表示の On/Off
・スパイダー表示のクリア
が画面下部のコントロールから行えます。



[クリア]は表示がクリアされるのではなく、この画面で作成したスパイダー表示用データがクリアされます。
クリア後に再度表示するには、再び 10.15.1 の手順でスパイダー表示用データを作成する必要があります。

11 エリア操作を行う

エリアは地図上に面を描く機能です。店舗などを中心とした商圏の作成や、描いた商圏で集計を行うなど、様々な用途があります。

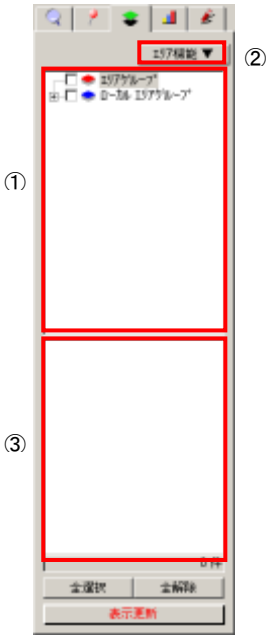
EarthFinder 内ではエリアはエリアグループという、特定のグループに属するように作成します。

11.1 エリアパネルを操作する

以下ではエリアパネルの操作について説明します。

エリアパネルはツールバーから表示することができます。
「4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ」(p. 4-2)

左画面の をクリックするとエリアパネルが表示されます。



エリアパネルは大きく 3 箇所にわかれ、それぞれの操作を行うことができます。

① エリアグループ欄
「11.1.1 エリアグループ欄を操作する」(p. 11-2)

② エリア機能メニュー
「11.1.2 エリア機能メニューを操作する」(p. 11-3)

③ エリア欄
「11.1.3 エリア欄を操作する」(p. 11-4)

11.1.1 エリアグループ欄を操作する

登録されているエリアグループが階層に従って表示されます。エリアグループ名称横のチェックボックスではエリアグループの表示状態、名・名 ボタンでは名称の表示状態を個別に操作することができます。

「11.4.1.1 エリアグループを個別に表示設定する」(p. 11-51)

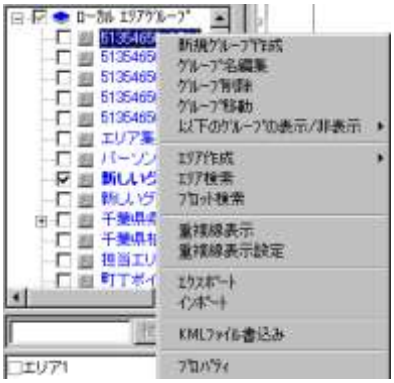
「11.4.3 エリア名称を表示する」(p. 11-54)

エリアグループ名が反転表示されているところはそのエリアグループが選択されていることを表しています。各操作は選択しているエリアグループに対して行われます。

ルートノードの「エリアグループ」と「ローカルエリアグループ」の違いは以下のページを参照してください。

「1.2.11 ローカルプロット、ローカルエリア」(p. 1-4)

エリアグループ欄の上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。



1. 新規グループ作成
   「11.2.1 エリアグループを作成する」(p. 11-6)
2. グループ名編集
   「11.2.2 エリアグループ名称を変更する」(p. 11-7)
3. グループ削除
   「11.2.3 エリアグループを削除する」(p. 11-7)
4. グループ移動
   「11.7.1 エリアグループを他のエリアグループ下位に移動する」(p. 11-57)
5. グループの表示/非表示
   「11.4.1.2 エリアグループを一括して表示設定する」(p. 11-52)
6. エリア作成
   「11.3 エリアを作成する」(p. 11-12)
7. エリア検索
   「11.8 エリアを検索する」(p. 11-59)

8. プロット検索
「11.15 プロットを検索する」(p. 11-82)

9. 重複線表示
「11.2.6 重複線表示」(p. 11-11)

10. 重複線表示設定
「11.2.7 重複線表示設定」(p. 11-12)

11. エクスポート
「12.1.1 エリアデータをエクスポートする」(p. 12-1)

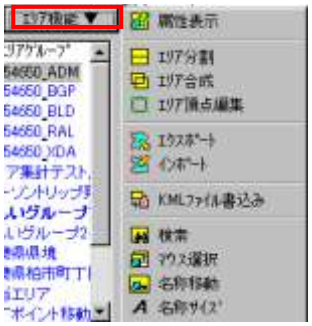
12. インポート
「12.1.3 エリアデータをインポートする」(p. 12-3)

13. KML ファイル書込み
「12.1.4.1 エリアデータの KML ファイルへの書き込み」(p.12-14)

14. プロパティ
「11.2.4 エリアグループのプロパティを操作する」(p. 11-8)

11.1.2 エリア機能メニューを操作する

[エリア機能▼]ボタンをクリックするとエリア機能メニューが表示されます。



機能メニューは主に、エリアグループやエリアを明示的に与えない全般的な機能群です。多くは表示モードや地図画面で対象を選択するメニューとなりますが、一部グループに対するメニューでは、選択中のグループが初期値(デフォルト)となるものもあります。

1. 属性表示
「11.6 エリアのプロパティを操作する」(p. 11-55)

2. エリア分割
「11.9.1 エリアを分割する」(p. 11-63)

3. エリア合成
「11.9.2 エリアを論理演算する」(p. 11-67)

4. エリア頂点編集
「11.9.3 エリアの頂点を編集する」(p. 11-70)

5. エクスポート

「12.1.1 エリアデータをエクスポートする」(p. 12-1)

6. KML ファイル書込み
「12.1.4.1 エリアデータの KML ファイルへの書き込み」(p.12-14)

7. インポート
「12.1.3 エリアデータをインポートする」(p. 12-3)

8. 検索
「11.8 エリアを検索する」(p. 11-59)

9. マウス選択
「11.12 エリアをマウス選択して操作する」(p. 11-78)

10. 名称サイズ
「11.13 エリアの名称サイズを変更する」(p. 11-80)

11.1.3 エリア欄を操作する

エリアグループ欄で選択しているエリアグループに属するエリアが表示されています。チェックを付け外しすることで表示設定を行います。
「11.4.2 エリアを表示する」(p. 11-53)

各操作はエリア欄で選択しているエリア及びそのエリアが属するエリアグループに対して行われます。

エリア欄では Ctrl キーや Shift キーを使用することで一度に複数のエリアを選択することができます。

エリア欄の上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

1. 名称変更
「11.3.10 エリア名称を変更する」(p. 11-50)

2. グループ間移動/コピー
☞「11.7.2 エリアを他のエリアグループに移動/コピーする」(p. 11-58)

3. 削除
☞「11.5 エリアを削除する」(p. 11-55)

4. プロット検索
☞「11.15 プロットを検索する」(p. 11-82)

5. プロパティ
☞「11.6 エリアのプロパティを操作する」(p. 11-55)

6. 分析レポート作成
☞「11.6 分析レポートを作成する」(p. 11-85)

7. 位置移動
選択しているエリアを中心に地図が移動します。

11.2 エリアグループを操作する

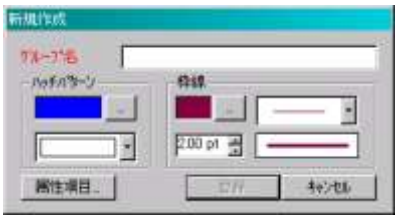
以下ではエリアグループの操作について説明します。

11.2.1 エリアグループを作成する

1. 「新規作成」画面を表示します。

エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. エリアグループ名・アイコン・属性項目・サイズを設定して[登録]ボタンをクリックするとエリアグループ欄で選択しているグループの直下に新規作成されます。



[属性項目]ボタンをクリックすると属性の設定を行うことができます。

「11.2.5 属性の設定」(p. 11-8)

11.2.2 エリアグループ名称を変更する

既に作成されたエリアグループの名称を変更することができます。

1. エリアグループ欄でグループを指定してから「グループ名編集」を選択します。

エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. 指定したグループの「名称変更」画面が表示されます。エリアグループ名を設定して[OK]ボタンをクリックしてください。

11.2.3 エリアグループを削除する

1. エリアグループ欄でグループを指定してから「グループ削除」を選択します。

エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. 指定したグループの削除確認画面が表示されます。削除内容を確認して[はい]ボタンをクリックしてください。

⚠エリアグループを削除すると、そのエリアグループ以下のエリアデータが全て削除されます。消去してよいデータか十分確認してください。

ℹ任意の 1 エリアを削除する場合には、当機能ではなく、エリア欄ポップアップメニューから行ってください。

「11.5 エリアを削除する」(p. 11-55)

属するエリアが多い場合、削除に時間がかかります。

11.2.4 エリアグループのプロパティを操作する

1. エリアグループ欄でグループを指定してから「プロパティ」を選択します。

エリア欄ｸﾞﾙｰﾌﾟポップアップメニュー

2. 指定したグループの「プロパティ」画面が表示されます。

11.2.5 属性の設定

エリア属性項目の設定は「属性項目」画面で行います。

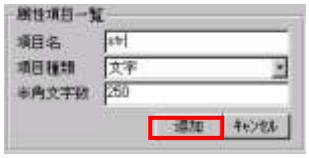
「プロパティ」画面の[属性項目]ボタンをクリックすると「属性項目」画面が表示されます。

11.2.5.1 属性の追加を行う

属性項目一覧の下の[追加]ボタンをクリックします。

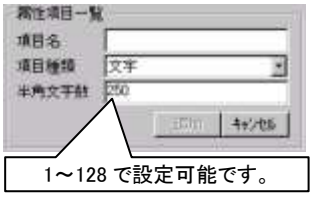
属性項目がひとつも登録されていない場合は[追加]ボタンのみ有効になっています。

[追加]ボタンをクリックすると[属性項目]欄が入力可能になります。追加内容を入力して[属性項目]欄の[追加]ボタンをクリックしてください。項目名を入力しなければ[追加]ボタンは有効になりません。
また[キャンセル]ボタンをクリックするとこの入力をキャンセルし、画面上部が有効になります。

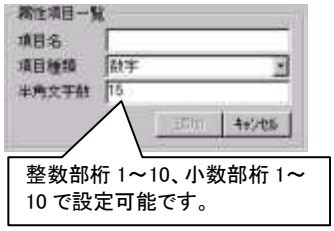


選択する項目種類によって半角文字数/桁数のタイトルが変わります。また、設定できる値も異なります。

●項目種類:文字



●項目種類:数字



項目種類が数字の場合は実際に入力した数字の有効桁数が最大 15 桁に制限されます。例えば、数字項目の桁数を 10.10 と設定した場合、属性値として「1234567890.123456789」を入力しても実際に登録される値は「1234567890.12345」となります。また、数字項目の桁数が 20.0 の場合、属性値として「12345678901234567890」を入力しても実際に登録される値は「12345678901234500000」となります。

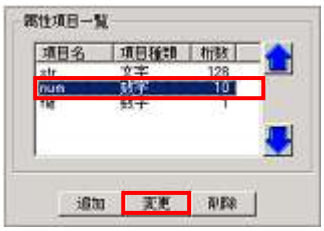
[追加]ボタンをクリックした状態では[属性項目一覧]に追加されただけで、まだこのエリアグループの属性項目として登録されていません。

「11.2.5.5 編集した属性を反映する」(p. 11-11)

11.2.5.2 属性の変更を行う

以下では、エリア属性項目の変更について説明します。

1. 属性項目一覧から属性項目を指定してから[変更]ボタンをクリックしてください。



2. 指定したした属性項目の情報が表示されます。項目名を変更して[変更]ボタンをクリックしてください。項目名を変更しなければ[変更]ボタンは有効になりません。また[キャンセル]ボタンをクリックするとこの入力をキャンセルし、画面上部が有効になります。

☞「11.2.5.5 編集した属性を反映する」(p. 11-11)

⚠既にシステムに反映されている属性項目に対して、項目種類と文字数は変更することができません。これらの値を変更したい場合は、一旦属性項目を削除して新たな属性項目として追加してください。

☞「11.2.5.3 属性を削除する」(p. 11-10)
☞「11.2.5.1 属性の追加を行う」(p. 11-9)

11.2.5.3 属性を削除する

以下では、エリア属性項目の削除について説明します。

属性項目一覧から属性項目を指定してから[削除]ボタンをクリックしてください。

⚠エリア属性項目を削除すると、エリアグループ以下のエリアデータが保持している属性項目に対する属性項目値が全て削除されます。消去してよいデータか十分確認してください。

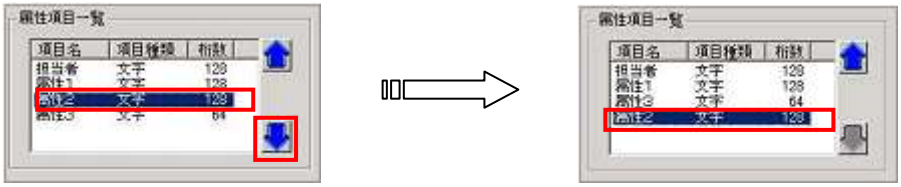
⚠エリア属性項目の削除は、エリアが保有している属性項目に対する全属性値データを削除するため、多くの処理時間を要することが考えられます。

☞「11.2.5.5 編集した属性を反映する」(p. 11-11)

11.2.5.4 属性の表示順序を変更する

「エリア検索」画面などで属性項目が表示されるとき、表示順序は追加した順序となっています。
ここでは、その表示順序を変更する方法を説明します。

属性項目一覧から属性項目をい指定してから[↑][↓]ボタンをクリックすると表示順序を変更することができます。



ℹ選択した属性項目が一番上にあるときは[↑]ボタンが、一番下にあるときは[↓]ボタンが無効になります。

☞「11.2.5.5 編集した属性を反映する」(p. 11-11)

11.2.5.5 編集した属性を反映する

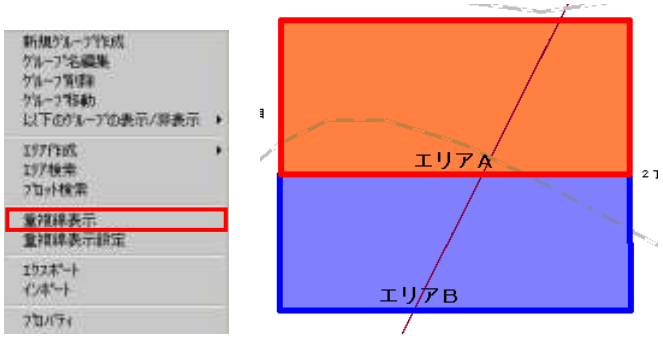
属性の追加、変更、削除を行った操作は、当画面に表示されている属性項目一覧に反映されるだけで、システムにはまだ反映されていません。追加、変更、削除した内容を反映するためには、画面下部にある[更新]ボタンをクリックします。

編集した内容を破棄する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

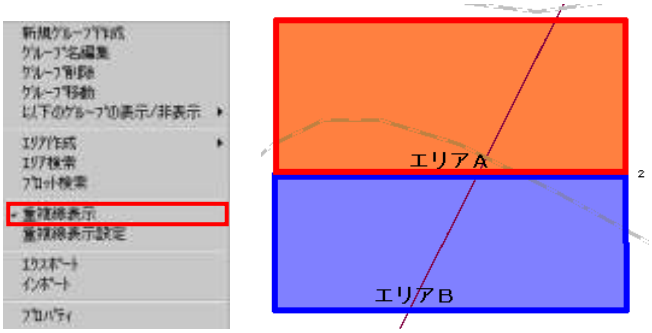
11.2.6 重複線表示

エリアグループ欄のポップアップメニューで重複線表示のオン・オフを行います。

1. 重複線表示がオフの状態ではエリア同士の重なっている部分がどちらか片方の線だけ表示されます。



2. 重複線表示をオンにすると線が両方、表示されます。



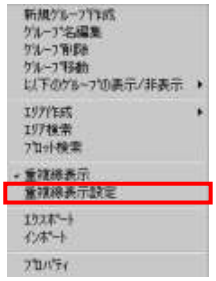
重なりの順序は「重複線表示設定」で設定できます。

「11.2.7 重複線表示設定」(p. 11-12)

11.2.7 重複線表示設定

ふたつ同一のエリアが重なった時に、どちらを上にして表示させるかを設定します。

1. エリアグループ欄ポップアップメニューで「重複線表示設定」を選択します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. 重複線表示の対象となるエリアが重なりの順にリスト表示されます。上下の変更は矢印ボタンで入れ替えます。

この機能は「重複線表示」がオンの場合に有効です。

11.3 エリアを作成する

エリア作成はその形状や作成する際に使用するデータによって以下の種類に分けられます。

1. 多角形エリア作成
「11.3.1 多角形エリア作成を行う」(p. 11-13)

2. 円エリア作成
「11.3.2 円エリア作成を行う」(p. 11-18)

3. 同心円エリア作成
「11.3.3 同心円エリア作成を行う」(p. 11-22)

4. 距離圏エリア作成
「11.3.4 距離圏エリア作成を行う」(p. 11-24)

5. 到達圏エリア作成
「11.3.5 到達圏エリア作成を行う」(p. 11-29)

6. 目標値商圏エリア作成
「11.3.6 目標値商圏エリア作成を行う」(p. 11-35)

7. バッファリングエリア作成
☞「11.3.7 バッファリングエリア作成を行う」(p. 11-39)

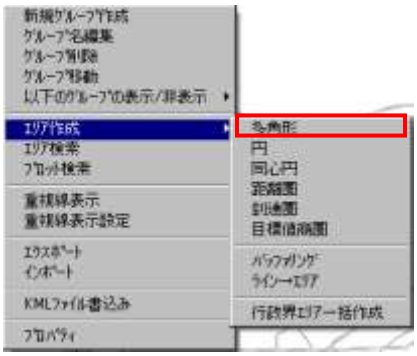
8. ライン→レイヤエリア作成
☞「11.3.8 ライン→レイヤエリア作成を行う」(p. 11-44)

9. エリアー括作成
☞「11.3.9 エリアを一括作成する」(p. 11-48)

11.3.1 多角形エリア作成を行う

以下では、ポリゴンレイヤ・住所行政界・マウス作図により、多角形エリアを作成する方法について説明します。

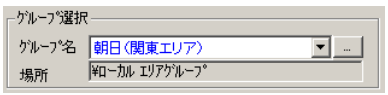
「エリア作成(多角形)」画面を表示します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

11.3.1.1 エリア作成情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。

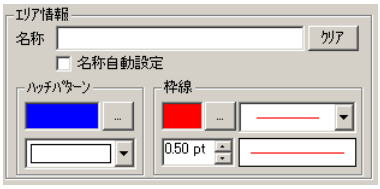


☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

2. エリアの作成方法を選択します。

「11.3.1.2 図形を確定する」(p. 11-14)

3. エリア情報を設定します。



「名称自動設定」にチェックを付けるとシステムが自動でエリア名称を付加します。

11.3.1.2 図形を確定する

多角形エリアの作成には 3 つの方法があります。

「11.3.1.2.1 ポリゴンレイヤを使用する」(p. 11-14)
「11.3.1.2.2 マウスで作図する」(p. 11-15)
「11.3.1.2.3 行政界を使用する」(p. 11-17)

11.3.1.2.1 ポリゴンレイヤを使用する

以下ではポリゴンレイヤを使用した作成方法について説明します。

11.3.1.2.1.1 一覧から使用するレイヤを選択する

1. 作成方法にレイヤを指定します。

2. 画面の中央部が拡がり、選択可能なレイヤが一覧表示されます。選択するレイヤのチェックボックスをクリックすると、チェックマークが表示されます。

レイヤー一覧には、ポリゴンレイヤ以外のレイヤも含まれています。ポリゴンレイヤ以外のレイヤを選択してもエリア多角形作成機能では無視されます。

11.3.1.2.1.2 地図上からポリゴンレイヤを選択する

マウスを地図上で動かすと、選択されたレイヤを検索して、ポリゴン図形が表示されます。必要数分マウスクリックしてエリア領域を決定し、登録作業に移ります。

「11.3.1.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-17)

11.3.1.2.2 マウスで作図する

以下ではマウス作図による作成方法について説明します。

11.3.1.2.2.1 ポリゴン図形をマウスで作図する

1. 作成方法にマウスを指定します。

2. 作成したいエリア図形の各座標を地図上で左クリックして、作図します。

(頂点スナップ機能)
上図のようにマウスを別エリアの頂点付近に移動すると四角い赤枠が表示され、そこでクリックするとその頂点座標をそのまま利用することができます。同様に既存のポリゴンエリアのライン上にマウスを移動すると青の△が表示され、そこでクリックするとライン上の点をそのまま利用することができます。

3. すべての座標をクリックしたら、マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

4. 「確定」を選択すると、図形を確定します。「続行」を選択すると、作図処理を続行します。「一点取消」を選択すると、直前に指定した座標を取り消します。「全点取消」を選択すると、すべての座標を取り消します。

「11.3.1.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-17)

11.3.1.2.2.2 隣接エリアを利用する

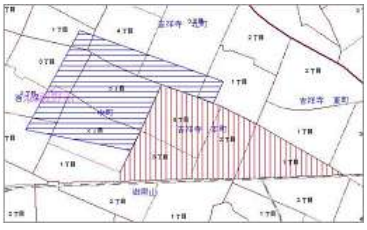
1. 作成方法にマウスを指定します。

2. 「隣接エリアのラインを利用する」をチェックします。

3. マウスによる作図と同様に、作成したいエリア図形の座標を地図上で左クリックして、作図を確定します。頂点スナップ機能が利用できます。

「11.3.1.2.2 マウスで作図する」(p. 11-15)

4. 下図のように、隣接エリアにかかる部分を利用したエリアが作成されます。



11.3.1.2.3 行政界を使用する

以下では行政界を使用した作成方法について説明します。

11.3.1.2.3.1 一覧から使用する行政界を選択する

1. 作成方法に住所を指定します。

2. 画面の中央部が拡がり、住所リストボックスが表示されます。作成したいエリアの住所を、住所リストボックスから選択し、ダブルクリックします。

3. 選択された住所へ地図表示が移動し、行政界ポリゴンを作成します。

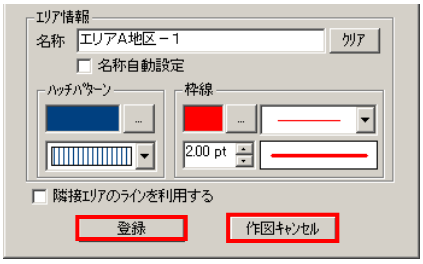
「11.3.1.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-17)

地図によっては、選択された住所名称での行政界ポリゴンが存在しない場合があります。

11.3.1.3 確定した図形をエリアとして登録する

作成した図形をシステムに登録します。

登録したい図形を作成した後、[登録]ボタンをクリックします。[キャンセル]ボタンをクリックすると作図内容を破棄します。

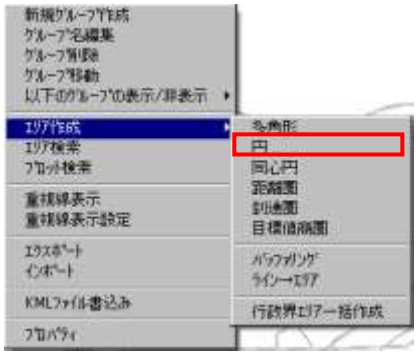


登録前に作成方法を変更すると、作図された図形は破棄されます。

11.3.2 円エリア作成を行う

以下では、半径指定、半径作図により、円・楕円エリアを作成する方法について説明します。

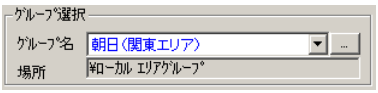
「エリア作成（円）」画面を表示します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

11.3.2.1 エリア作成情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。



☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

2. エリア情報を設定します。

「名称自動設定」にチェックを付けるとシステムが自動でエリア名称を付加します。

3. 円の作図方法を選択します。

「11.3.1.2 図形を確定する」(p. 11-14)

11.3.2.2 図形を確定する

円エリアの作成には 3 つの方法があります。

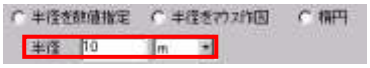
「11.3.2.2.1 半径を数値で指定する」(p. 11-19)
「11.3.2.2.2 半径をマウスで作図指定する」(p. 11-20)
「11.3.2.2.3 マウスで楕円を作図する」(p. 11-20)

11.3.2.2.1 半径を数値で指定する

以下では半径を数値で指定する作成方法について説明します。

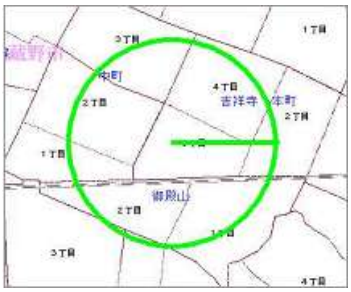
1. 「半径を数値指定」を選択します。

2. 半径の数値が入力可能になりますので、数値と単位(“m”あるいは“km”を選択)を入力します。



半径は 1～xxxxxの半角数字で設定してください。

3. 円エリアを作成したい中心点を、地図上でクリックすると、設定した半径の円が作図されます。



「11.3.2.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-21)
別の場所をクリックすると、作図した円を移動できます。
半径の値を変更すると作図中の図形に反映されます。

11.3.2.2.2 半径をマウスで作図指定する

以下では半径をマウスで作図指定する作成方法について説明します。

1. 「半径をマウス作図」を選択します。

2. 円エリアを作成したい中心点を、地図上でクリックして、マウスを動かすと、円を作成します。マウス移動中は半径がカーソルの右下に表示されます。1km 未満は m 単位、1km 以上は km 単位で表示されます。

3. マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

4. 「確定」を選択すると、図形を確定します。「続行」を選択すると、作図処理を続行します。「全点取消」を選択すると、中心座標も取り消します。

☞「11.3.2.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-21)

11.3.2.2.3 マウスで楕円を作図する

以下ではマウスで楕円を作図する作成方法について説明します。

1. 「楕円」を選択します。

2. 楕円エリアを作成したい中心点を、地図上でクリックして、マウスを動かすと、楕円を作成します。マウス移動中は縦・横の値がカーソルの右下に表示されます。1km 未満は m 単位、1km 以上は km 単位で表示されます。

3. マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

4. 「確定」を選択すると、図形を確定します。「続行」を選択すると、作図処理を続行します。「全点取消」を選択すると、中心座標も取り消します。

「11.3.2.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-21)

11.3.2.3 確定した図形をエリアとして登録する

作成した図形をシステムに登録します。

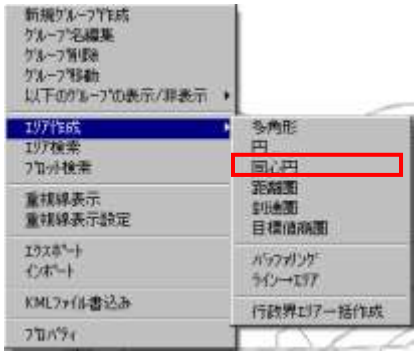
登録したい図形を作成した後、[登録]ボタンをクリックします。[キャンセル]ボタンをクリックすると作図内容を破棄します。

登録前に作成方法を変更すると、作図された図形は破棄されます。

11.3.3 同心円エリア作成を行う

以下では、同心円エリアの作成方法について説明します。

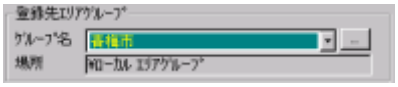
「エリア作成（同心円一括作成）」画面を表示します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

11.3.3.1 エリア作成情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。



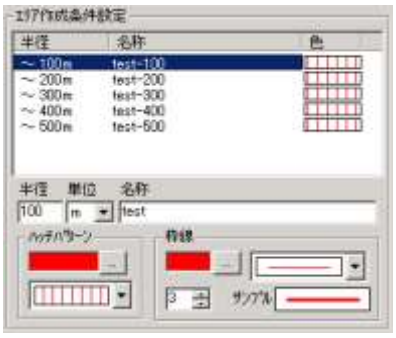
☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

2. エリア作成情報を設定して[確定]ボタンをクリックします。

- 名称：すべてのエリアに共通し、間隔の数値と単位を付加してエリア名を作成します。
  例：A 地区－100m、A 地区－200m・・・
- 円の数：作成する同心円の数を設定します。
- 円の間隔：同心円の半径間隔を設定します。
- 種類：「ドーナツ型」は相互に重ならない円と複数のドーナツ形状を作成します。
  「累積型」はすべて同一点からの複数の同心円を作成します。
- エリア名に単位を含める：エリア名の最後に単位（m または km）を付加します。

⚠円の数は 1～xxx、円の間隔は 1～xxxの半角数字で設定してください。

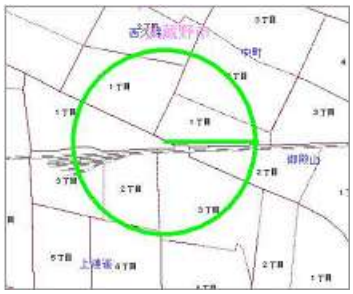
3. エリア作成条件を設定します。



11.3.3.2 図形を確定する

1. 設定が完了したら、[確定]ボタンをクリックします。[キャンセル]ボタンをクリックすると、エリア作成情報の設定画面に戻ることができます。

2. 同心円エリアを作成したい中心点を、地図上でクリックすると、設定した最大半径の円が作図されます。

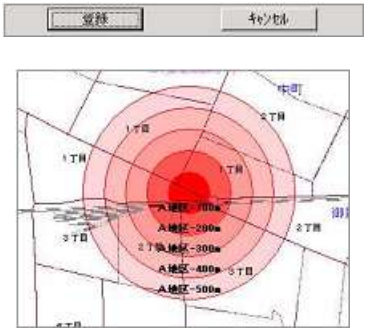


ℹ別の場所をクリックすると、作図した円を移動できます。

11.3.3.3 確定した図形をエリアとして登録する

作成した図形をシステムに登録します。

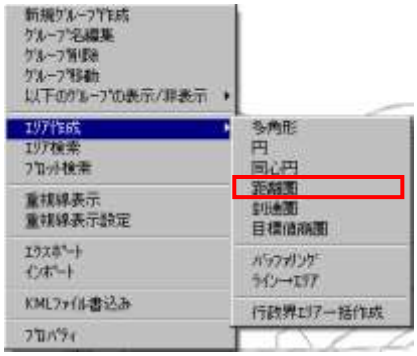
[登録]ボタンをクリックすると、同心円を登録します。[キャンセル]ボタンをクリックすると、表示中の円を破棄し、エリア作成条件設定の画面に戻ります。



11.3.4 距離圏エリア作成を行う

以下では、任意のプロットを中心とした距離圏エリアを作成する方法について説明します。

1. 「エリア作成(プロット一括作成)」画面を表示します。



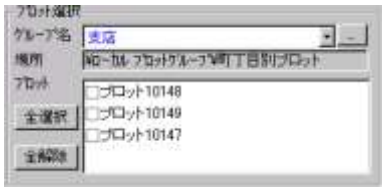
エリアグループ欄ポップアップメニュー

11.3.4.1 エリア作成情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。

「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

2. エリアの中心となるプロットを選択します。



「11.3.4.2.1 中心となるプロットを選択する」(p. 11-25)

プロットグループを選ぶとそのグループに属するプロットが表示されます。使用するプロットにチェックをつけてください。プロットは複数選択可能です。

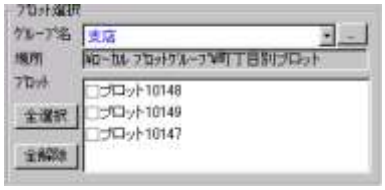
3. 円の作成情報を設定します。

「11.3.4.2.2 作成範囲を設定する」(p. 11-26)
「11.3.4.2.3 円の種類を設定する」(p. 11-26)

11.3.4.2 図形を確定する

11.3.4.2.1 中心となるプロットを選択する

同心円の中心とするプロットを選択してください。



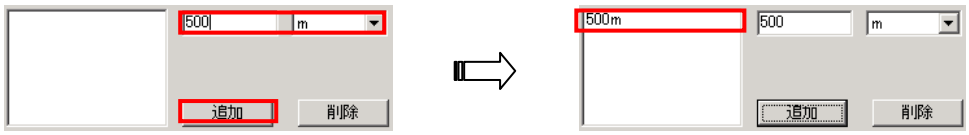
「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

プロットグループを選ぶとそのグループに属するプロットが表示されます。使用するプロットにチェックをつけてください。プロットは複数選択可能です。

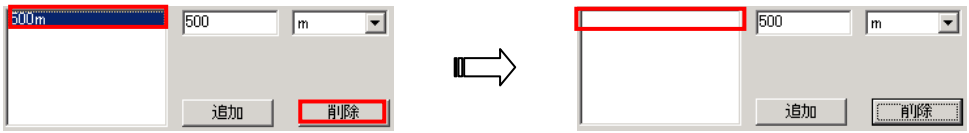
11.3.4.2.2 作成範囲を設定する

1. 作成範囲を設定します。

半径を設定して[追加]ボタンをクリックするとリストに追加されます。



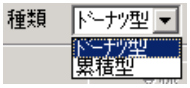
半径は単位が「m」の場合は 1～xxx、「km」の場合は xxx～xxx の半角数字で設定してください。
また、既にリストに追加された値よりも小さい値もしくは同じ値を追加しようとするとエラーメッセージが表示されます。
リストから任意の行を選択して[削除]ボタンをクリックするとリストから削除されます。



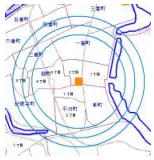
2. 枠線等、色の設定をしてください。

11.3.4.2.3 円の種類を設定する

円の種類を「ドーナツ型」「累積型」から選択してください。



- ドーナツ型と累積型



<<図 A>>

図 A はあるプロットを中心に 500m、600m、700m の同心円を描いたものです。

この同心円エリアをドーナツ型で作成すると以下のように指定した作成範囲間がそれぞれ独立したエリアとなります。

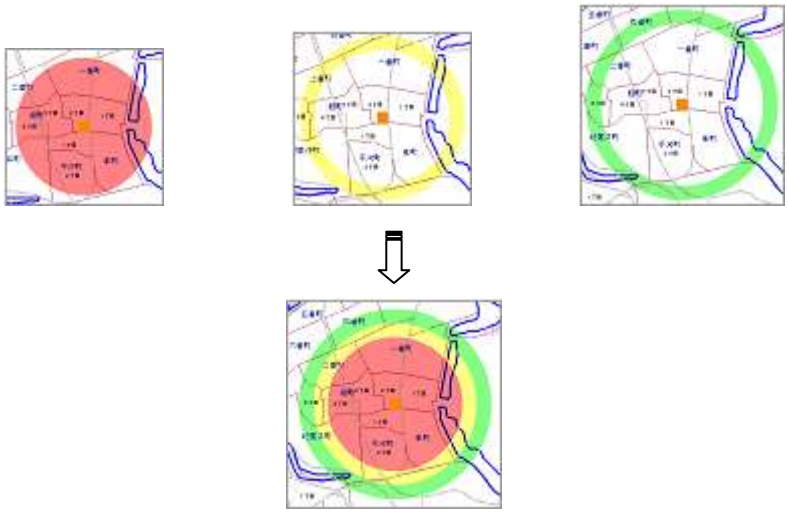
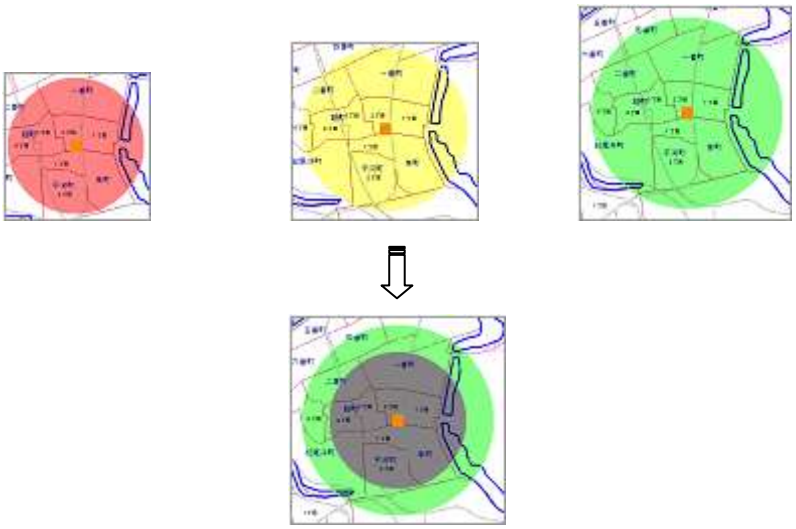


図 A の同心円エリアを累積型で作成すると以下のように中心プロットから各作成範囲までがエリアとなり累積して表示されます。



11.3.4.2.4 図形を確定する

1. 設定が完了したら、[作成]ボタンをクリックします。

2. エリアグループ選択欄、プロット選択欄、作成範囲設定欄が無効になり、[登録]ボタン・[キャンセル]ボタンが有効になります。地図上には設定した作成範囲で同心円が描画されます。

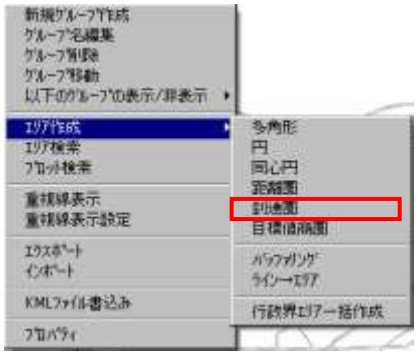
11.3.4.3 確定した図形をエリアとして登録する

[登録]ボタンをクリックすると、同心円を一括登録します。[キャンセル]ボタンをクリックすると、表示中の円を破棄し、エリアグループ選択欄、プロット選択欄、作成範囲設定欄が有効になります。

11.3.5 到達圏エリア作成を行う

以下では、任意のプロットを中心とした到達圏エリアを作成する方法について説明します。

「エリア作成（プロット中心到達圏エリア作成）」画面を表示します。



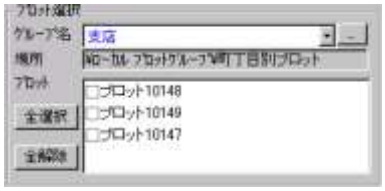
エリアグループ欄ポップアップメニュー

11.3.5.1 エリア情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。

「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

2. エリアの中心となるプロットを選択します。



「11.3.5.2.1 中心となるプロットを選択する」(p. 11-31)
プロットグループを選ぶとそのグループに属するプロットが表示されます。使用するプロットにチェックをつけてください。プロットは複数選択可能です。

3. 到達圏作成条件を設定します。

「11.3.5.2.2 到達圏作成条件を設定する」(p. 11-31)

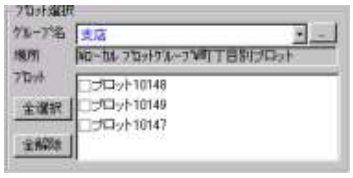
4. 円の作成情報を設定します。

「11.3.5.2.3 作成範囲を設定する」(p. 11-33)
「11.3.5.2.4 円の種類を設定する」(p. 11-34)

11.3.5.2 図形を確定する

11.3.5.2.1 中心となるプロットを選択する

到達圏の中心とするプロットを選択してください。

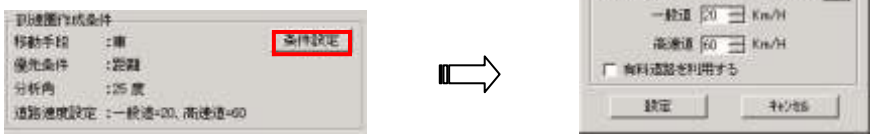


「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

プロットグループを選ぶとそのグループに属するプロットが表示されます。使用するプロットにチェックをつけてください。プロットは複数選択可能です。

11.3.5.2.2 到達圏作成条件を設定する

1. 到達圏作成条件が表示されています。この内容を変更するには[条件設定]ボタンをクリックしてください。「到達圏作成条件」画面が表示されます。



2. 移動手段を選択してください。

選択した移動手段によって設定できる項目が異なります。

●移動手段:車

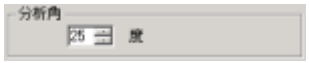
●移動手段:徒歩

●移動手段:自転車

3. 優先条件を選択してください。

「交通センサス」は移動手段が車のときのみ、有効です。

4. 分析角を設定します。



分析角は 1～90 の半角数字で設定してください。

5. 道路速度を設定します。

- 移動手段が「徒歩」「自転車」の場合は速度のみが設定可能です。

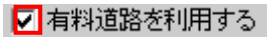
速度は 1～150 の半角数字で設定してください。

- 移動手段が「車」の場合は「簡易設定」と「詳細設定」を選択することができます。

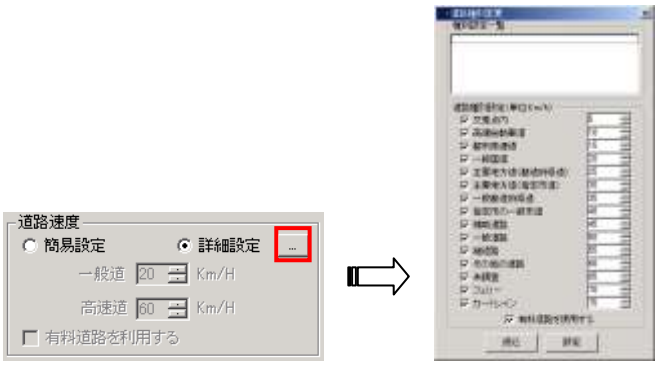
<<簡易設定>>
一般道と高速道の速度を設定します。

速度は 1～150 の半角数字で設定してください。高速道に「0」を設定すると高速道路を利用しないで到達圏を作成します。

また「有料道路を利用する」にチェックを付けると有料道路も条件に含んで到達圏を作成します。



<<詳細設定>>
詳細設定を選択すると速度欄が無効になり、[...]が有効になります。
[...]をクリックすると道路種別変更画面が表示され、道路速度を個別に設定できます。



「17.2 道路種別速度を編集する」(p. 17-2)

6. 設定が完了したら[設定]ボタンをクリックします。「到達圏作成条件」画面を閉じて設定内容を到達圏作成条件欄に反映します。

[キャンセル]ボタンをクリックすると設定内容を保持しないで「到達圏作成条件」画面を閉じます。

11.3.5.2.3 作成範囲を設定する

1. 作成範囲を設定します。

選択した優先条件によって設定できる作成範囲が異なります。

- 優先条件:距離の場合

半径は単位が「m」の場合は 1～xxx、「km」の場合は xxx～xxx の半角数字で設定してください。

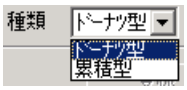
- 優先条件：時間の場合

⚠時間は 1～5、分は 0～59 の半角数字で設定してください。
⚠優先条件を「距離」⇔「時間/交通センサス」間で変更するとリスト内の値をクリアします。
ℹリストへの追加・削除方法は同心エリア作成の場合と同様です。
☞「11.3.3.1 エリア作成情報を設定する」(p. 11-22)

2. 枠線等、色の設定をしてください。

11.3.5.2.4 円の種類を設定する

作成範囲の種類を「ドーナツ型」「累積型」から選択してください。



☞「11.3.3.1 エリア作成情報を設定する」(p. 11-22)

11.3.5.2.5 図形を確定する

1. 設定が完了したら、[作成]ボタンをクリックします。

2. エリアグループ選択欄、プロット選択欄、到達圏作成条件欄、作成範囲設定欄が無効になり、[登録]ボタン・[キャンセル]ボタンが有効になります。地図上には設定した作成範囲で到達圏が描画されます。

11.3.5.3 確定した図形をエリアとして登録する

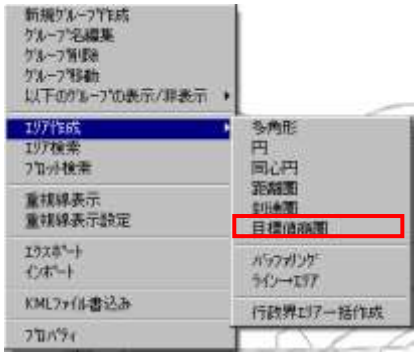
[登録]ボタンをクリックすると、到達圏を一括登録します。[キャンセル]ボタンをクリックすると、表示中の円を破棄し、エリアグループ選択欄、プロット選択欄、作成範囲設定欄が有効になります。

11.3.6 目標値商圏エリア作成を行う

以下では、指定した目標値をカバーする商圏エリアを作成する方法について説明します。

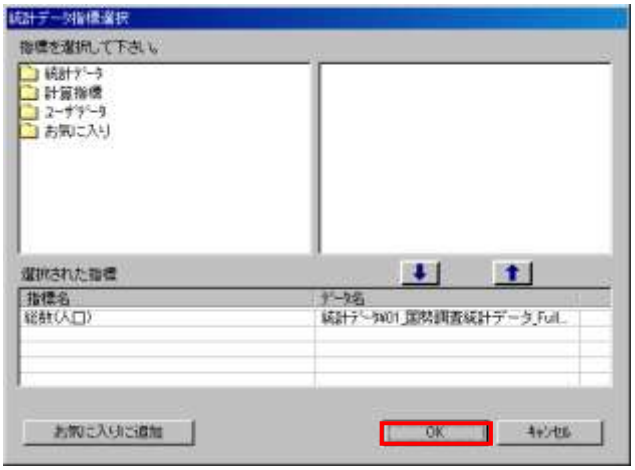
11.3.6.1 目標値商圏エリアを作成する

1. エリアグループ欄ポップアップメニューから「目標値商圏」を選択します。

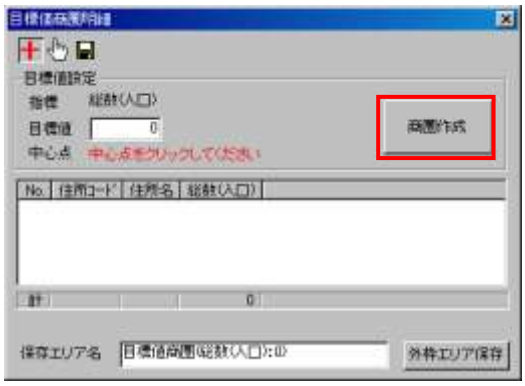


エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. 「統計データ指標選択」画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックしてください。

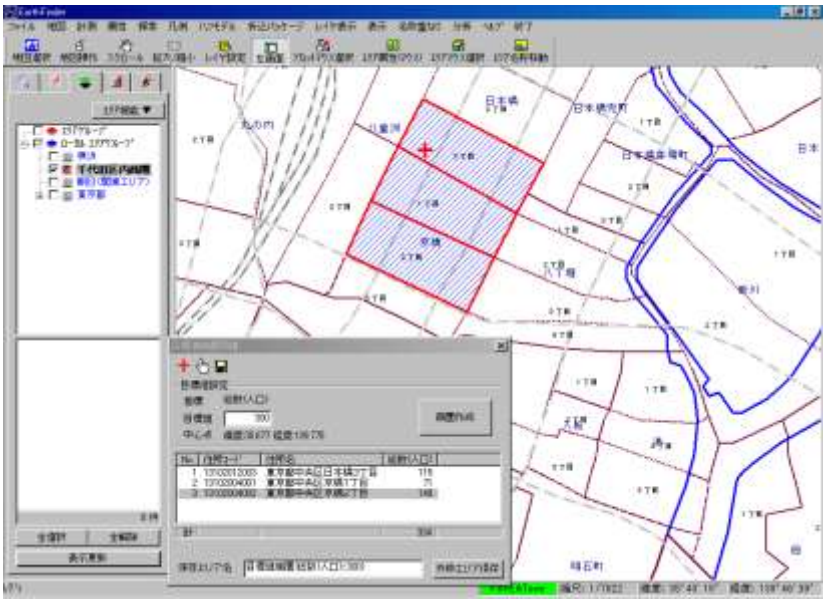


3. 「目標値商圏明細」画面が表示されます。目標値、エリアの中心点を設定して[商圏作成]ボタンをクリックします。

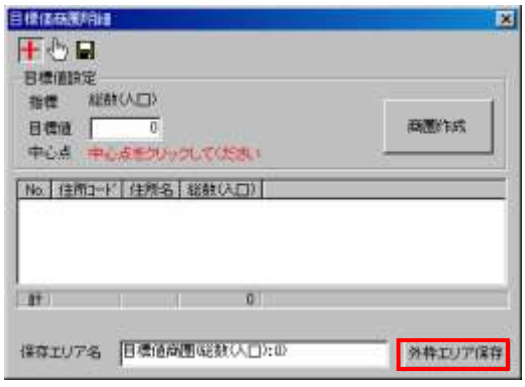


☞「11.3.6.1.1 エリアの中心点を決定する」(p. 11-37)

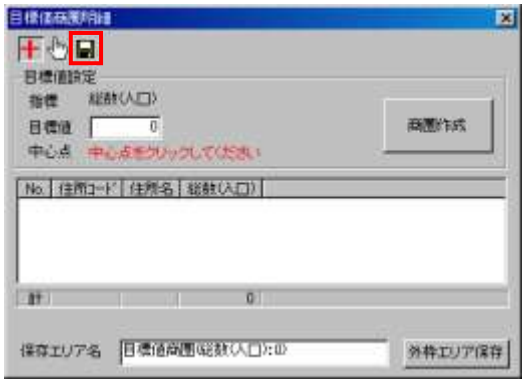
4. 商圏が作成されました。



5. [外枠エリア保存]をクリックすると作成された商圏がエリアとして保存されます。



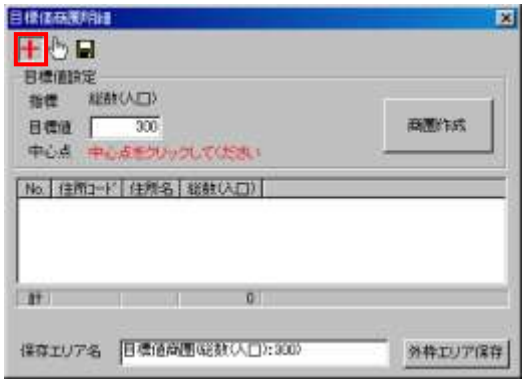
6. をクリックすると作成された商圏のデータを CSV ファイルとして保存することができます。

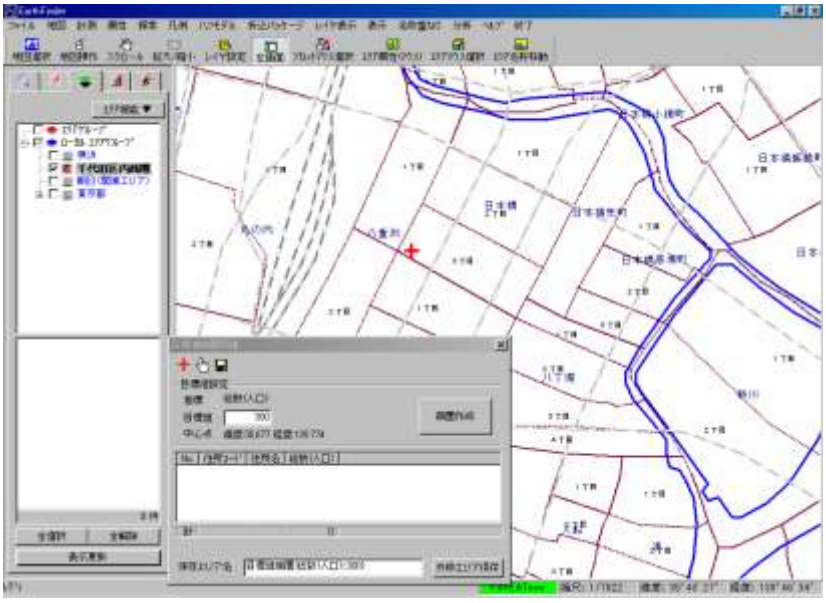


11.3.6.1.1 エリアの中心点を決定する

11.3.6.1.1.1 中心をクリックして指定する

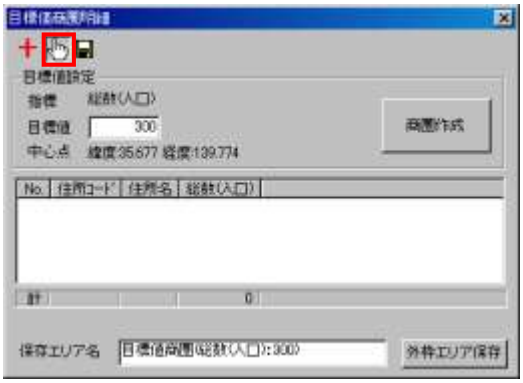
「目標値商圏明細」画面で を選択すると地図上に任意の点を指定することができます。

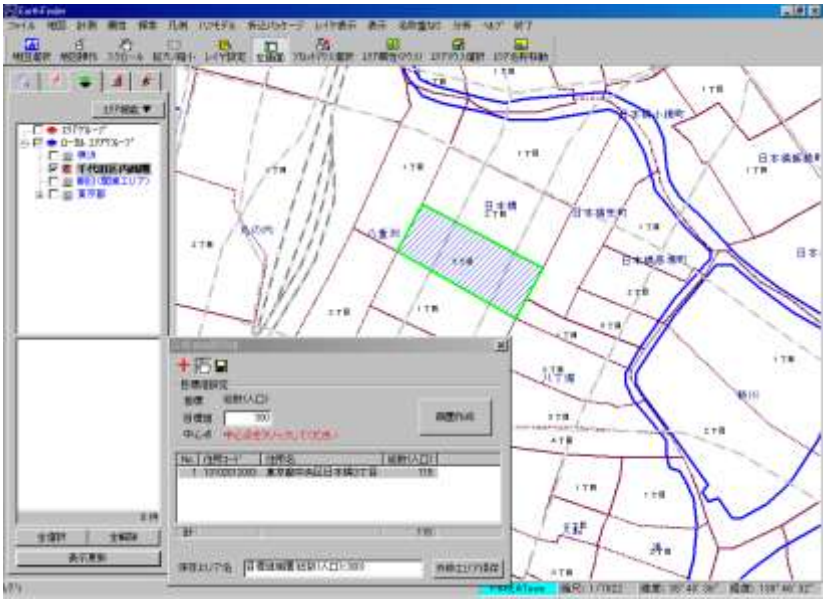




11.3.6.1.1.2 中心となる行政界を指定する

「目標値商圏明細」画面で を選択すると地図上の行政界を指定することができます。

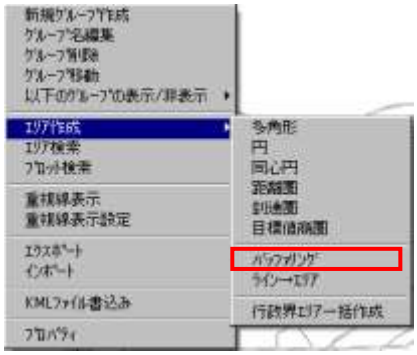




11.3.7 バッファリングエリア作成を行う

以下では、バッファリング機能を使用したエリア作成方法について説明します。

「エリア作成（バッファリング）」画面を表示します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

11.3.7.1 エリア情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。

☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

2. エリア情報を設定します。

3. ラインの作成方法を選択します。

☞「11.3.7.2 図形を確定する」(p. 11-40)

11.3.7.2 図形を確定する

バッファリングエリアの作成には 2 つの方法があります。

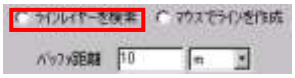
☞「11.3.7.2.1 ラインレイヤを使用する」(p. 11-41)
☞「11.3.7.2.2 マウスで作図する」(p. 11-42)

11.3.7.2.1 ラインレイヤを使用する

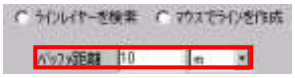
以下ではラインレイヤを使用した作成方法について説明します。

11.3.7.2.1.1 一覧からラインレイヤを選択する

1. 「ラインレイヤを検索」を選択します。



2. バッファ距離の数値を入力可能になりますので、数値と単位(“m”あるいは“km”を選択)を入入力します。



3. 選択可能なレイヤが一覧表示されます。選択するレイヤのチェックボックスをクリックすると、チェックマークが表示されます。

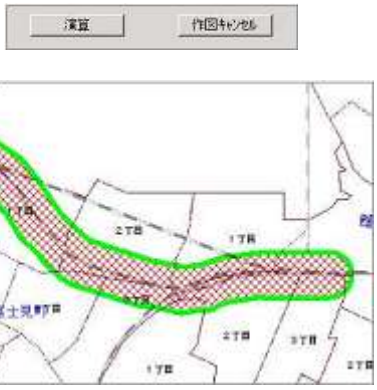
⚠レイヤー一覧には、ラインレイヤ以外のレイヤも含まれています。ラインレイヤ以外のレイヤを選択しても、バッファリング機能では無視されます。

11.3.7.2.1.2 地図上からラインレイヤを選択する

1. マウスを地図上で動かすと、選択されたレイヤを検索して、ラインが表示されます。必要数分マウスクリックして領域を決定し、確定作業に移ります。

11.3.7.2.1.3 図形を確定する

[演算]ボタンをクリックすると、選択したラインレイヤを使用して、設定された距離でバッファリングしたエリアを作成します。[作図キャンセル]ボタンをクリックすると、選択したラインレイヤはすべて破棄されます。



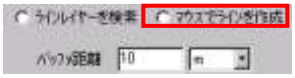
☞「11.3.7.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-43)

11.3.7.2.2 マウスで作図する

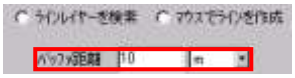
以下ではマウス作図による作成方法について説明します。

11.3.7.2.2.1 ラインをマウスで作図する

1. 「マウスでラインを作成」を選択します。



2. バッファ距離の数値を入力可能になりますので、数値と単位(“m”あるいは“km”を選択)を入力します。



3. 作成したいラインの各座標を、地図上をクリックして作図します。

4. すべての座標をクリックしたら、マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

5. 「確定」を選択すると、図形を確定します。「続行」を選択すると、作図処理を続行します。「一点取消」を選択すると、直前に指定した座標を取り消します。「全点取消」を選択すると、すべての座標を取り消します。

11.3.7.2.2.2 図形を確定する

[演算]ボタンをクリックすると、マウス作図したラインを使用して、設定された距離でバッファリングしたエリアを作成します。[作図キャンセル]ボタンをクリックすると、マウス作図したラインはすべて破棄されます。

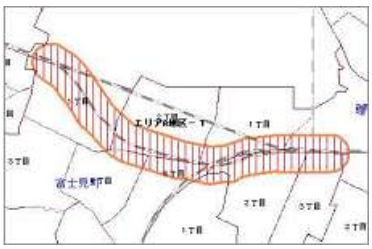
☞「11.3.7.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-43)

11.3.7.3 確定した図形をエリアとして登録する

作成した図形をシステムに登録します。

1. バッファリングエリア作成が成功すると、[演算]ボタンは、[登録]ボタンになります。

2. 引き続き[登録]ボタンをクリックすると、作成された図形を登録します。[演算キャンセル]ボタンをクリックすると、演算結果は破棄されます。

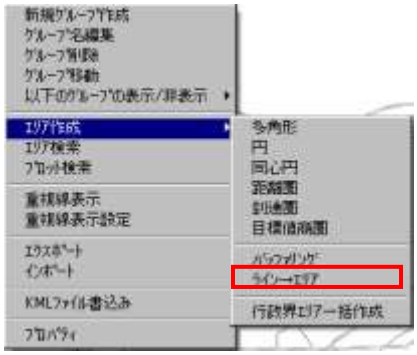


⚠演算が失敗した場合は、ラインエリア選択状態、またはマウス作図の初期状態に戻ります。

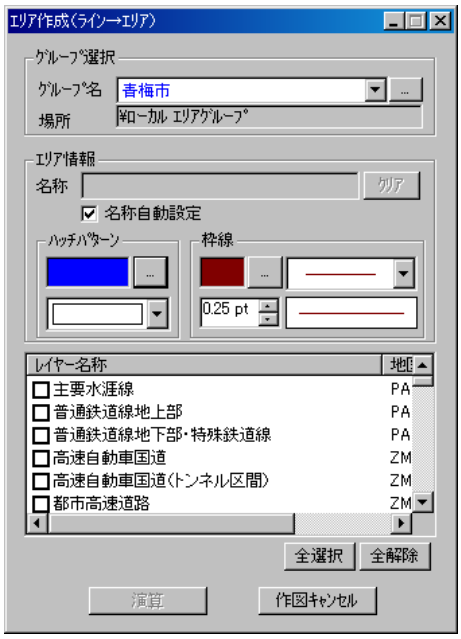
11.3.8 ライン→レイヤエリア作成を行う

以下では、ラインレイヤにより、多角形エリアを作成する方法について説明します。

「エリア作成（ライン→エリア）」画面を表示します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー



11.3.8.1 エリア情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。

☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

2. エリア情報を設定します。

3. エリアを形成するレイヤを選択します。

「11.3.8.2 図形を確定する」(p. 11-45)

11.3.8.2 図形を確定する

11.3.8.2.1 一覧から使用するレイヤを選択する

選択可能なレイヤが一覧表示されます。選択するレイヤのチェックボックスをクリックすると、チェックマークが表示されます。

⚠レイヤー一覧には、ラインレイヤ以外のレイヤも含まれています。ラインレイヤ以外のレイヤを選択してもエリア作成機能では無視されます。

11.3.8.2.2 地図上からラインレイヤを選択する

1. マウスを地図上で動かすと、選択されたレイヤを検索して、ラインが表示されます。マウスクリックすると、ラインが確定します。

2. 選択したラインで多角形を作成可能になるまで、マウスクリックを操作を繰り返します。

☞「11.3.8.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-47)

11.3.8.2.3 図形を確定する

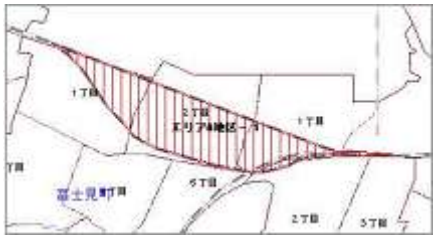
[演算]ボタンをクリックすると、選択したラインレイヤを使用して、ポリゴン図形を作成します。[キャンセル]ボタンをクリックすると、選択したラインレイヤはすべて破棄されます。

☞「11.3.8.3 確定した図形をエリアとして登録する」(p. 11-47)

11.3.8.3 確定した図形をエリアとして登録する

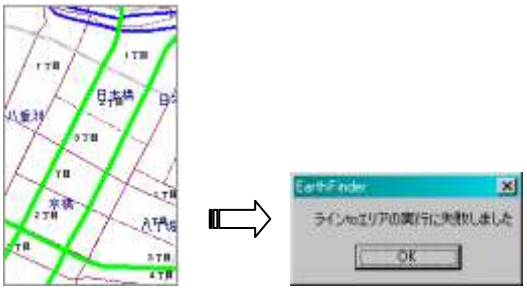
1. エリア作成が成功すると、[演算]ボタンは、[登録]ボタンになります。

2. 引き続き[登録]ボタンをクリックすると、作成された図形を登録します。[演算キャンセル]ボタンをクリックすると、演算結果は破棄されます。



⚠演算が失敗した場合は、ラインレイヤ選択状態に戻ります。

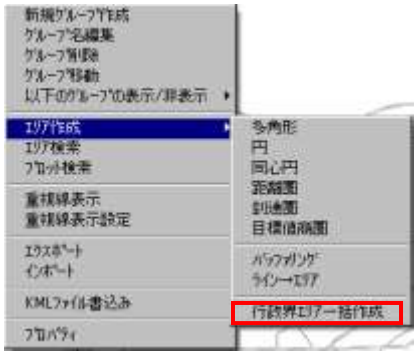
下図のように選択したレイヤで図形を作成できない場合に演算失敗となり、メッセージが表示されます。



11.3.9 エリアを一括作成する

以下では、住所行政界により、多角形エリアを一括作成する方法について説明します。

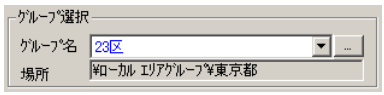
「エリア一括作成」画面を表示します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

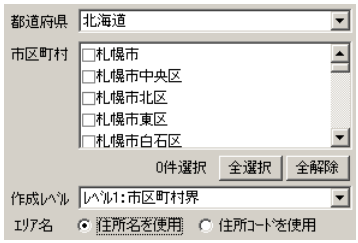
11.3.9.1 エリア情報を設定する

1. エリアを作成するグループを選択します。



☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

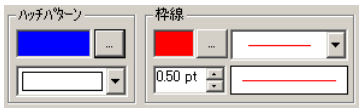
2. エリアを作成する地域と行政界レベルを選択します。



「11.3.9.2 行政界を選択する」(p. 11-49)

エリア名称は「住所名」か「住所コード」から選択します。

3. エリア情報を設定します。



11.3.9.2 行政界を選択する

1. 都道府県欄で選択された都道府県に属する市区町村が市区町村欄に一覧表示されます。その中から作成したい市区町村のチェックボックスをクリックするとチェックマークが表示されます。複数の市区町村を選択できます。

2. 作成レベル欄から「レベル 1:市区町村界」、「レベル 2:町名・大字」、「レベル 3:丁目・字」、「レベル 4:丁目(政令指定都市)」のいずれかを選択します。

3. エリア名を住所文字列と同一にしたい場合には、「エリア名に住所文字列を使用」をチェックします。エリア名を住所文字列と同一にしない場合は、エリア情報欄の「名称」にエリア名を入力します。この場合はエリアが作成された順に、エリア名-1、エリア名-2・・・のように番号が振られていきます。

11.3.9.3 確定した図形をエリアとして登録する

1. 必要事項を入力しましたら[登録]ボタンをクリックします。

2. [登録]ボタンをクリックすると「エリアー括作成リスト」画面が表示されます。

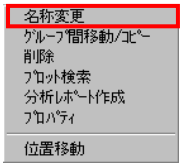
3. エリアを作成する住所のチェックボックスにチェックをするとチェックマークが表示されます。

   エリアを作成する住所を選択して[OK]ボタンをクリックすると「エリアー括作成リスト」画面を閉じて一括作成を開始します。[キャンセル]ボタンを選択内容を破棄して「エリアー括作成リスト」画面を終了します。

11.3.10 エリア名称を変更する

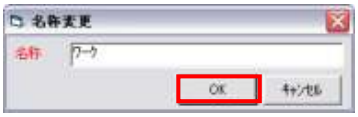
既に作成されたエリアの名称を変更することができます。

1. エリア欄でエリアを指定してから「名称変更」を選択します。



エリア欄ポップアップメニュー

2. 指定したエリアの「名称変更」画面が表示されます。エリア名を設定して[OK]ボタンをクリックしてください。



11.4 エリアを表示する

エリアの表示にはエリアグループ単位での設定とエリア個別の設定があります。エリアの表示と同時に、エリア名称を表示することができます。

11.4.1 エリアグループを表示する

以下ではエリアグループ単位での表示設定について説明します。ここで行う設定はそのエリアグループ以下全てのエリアに対して設定されます。

11.4.1.1 エリアグループを個別に表示設定する

1. エリアグループ欄で表示したいグループにチェックを付けます。

・ ボタンでは名称の表示状態を個別に操作することができます。

「11.4.3 エリア名称を表示する」(p. 11-54)

エリアグループ欄のチェックボックスの表示状態はそれぞれ以下のことを表しています。

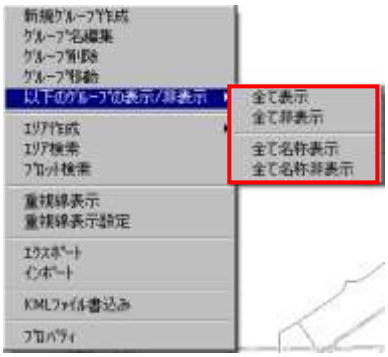
No.	チェックボックスの状態	グループ名称の状態	当該グループの表示状態	サブグループの表示状態
1	☐	標準表示	非表示	非表示
2	☑	標準表示		一部が表示
3	☑	**太字表示**	表示	
4	☑	**太字表示**		表示

2. エリアパネル下部の[表示更新]ボタンをクリックすると地図上に表示設定が反映されます。

11.4.1.2 エリアグループを一括して表示設定する

エリアグループを選択することにより、そのグループに下位グループ全てに設定を反映することができます。

1. エリアグループ欄でグループを指定してから「以下のグループの表示/非表示」を操作します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. 「全て表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのエリアを表示します。

3. 「全て非表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのエリアを非表示にします。

4. 「全て名称表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのエリアの名称を表示します。

5. 「全て名称非表示」を選択すると指定したグループを含む全ての下位グループの全てのエリアの名称を非表示にします。

11.4.2 エリアを表示する

以下ではエリア個別の表示設定について説明します。

1. エリアグループ欄でグループを指定すると属するエリアがエリア欄に表示されます。

2. エリア欄のチェックを付け外しして[表示更新]ボタンをクリックすると地図上に反映されます。

[全選択]ボタン・[全解除]ボタンでエリア欄の全エリアを一度に選択・解除できます。

11.4.3 エリア名称を表示する

1. エリアグループ欄で名称を表示したいグループの[名称]ボタンをクリックします。

[名称]ボタンの状態はそれぞれ、以下のことを表しています。クリックすることで赤とグレーが切り替わります。

No.	ボタンの状態	グループ名称の表示状態
1	名	表示
2	名	非表示

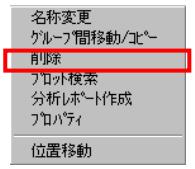
2. エリアパネル下部の[表示更新]ボタンをクリックすると地図上に表示設定が反映されます。

名称の表示設定はエリアグループ単位でしか行うことができません。

11.5 エリアを削除する

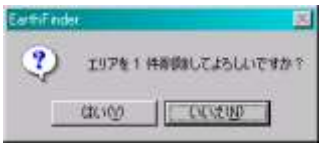
以下では、エリアを削除する方法について説明します。

1. エリア欄でエリアを指定してから「削除」を選択します。



エリア欄ポップアップメニュー

2. 指定したエリアの削除確認が表示されます。



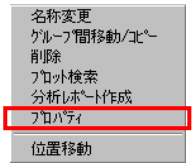
3. [はい]ボタンをクリックすると指定したエリアが削除されます。

地図上のエリアをマウスで指定して削除することもできます。
「11.12 エリアをマウス選択して操作する」(p. 11-78)

11.6 エリアのプロパティを操作する

以下では、エリアプロパティの操作について説明します。

1. 「プロパティ」を選択します。



エリア欄ポップアップメニュー

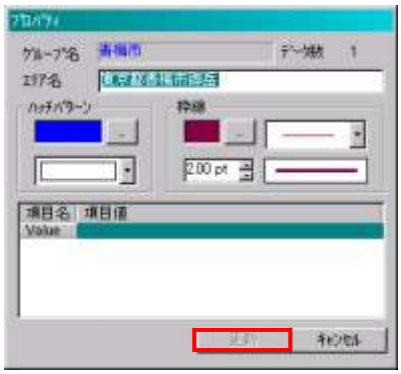
2. 地図上の属性を変更したいエリアをクリックします。

選択されたエリアに複数の候補がある場合は、エリア選択画面が表示されます。
「11.11 複数のエリア候補の中から目的のエリアを選択する」(p. 11-78)

3. 「プロパティ」画面が表示されます。

エリア欄で複数のエリアを選択していた場合は表示属性のみの変更ができます。

4. 各項目を設定して[更新]ボタンをクリックするとシステムに反映されます。



項目値欄をクリックすることで入力が可能になります。

11.7 エリアを移動する

エリアの親グループを変更することができます。変更方法はエリアグループ単位とエリア個別の方法があります。

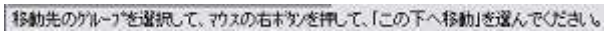
11.7.1 エリアグループを他のエリアグループ下位に移動する

以下ではエリアグループ単位で親グループを変更する方法について説明します。

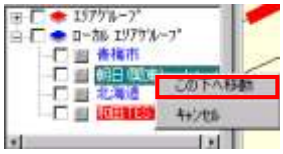
1. エリアグループ欄でグループを指定してから「グループ移動」を選択します。

エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. ステータスバーにメッセージが表示されます。



3. 移動先のグループを選択して右クリックするとポップアップメニューが表示されます。「この下へ移動」を選択すると反転表示しているグループを選択したグループの直下に移動します。



「キャンセル」を選択することで移動を中止することができます。

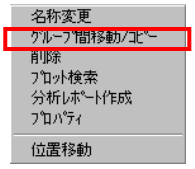
異なる保存場所の移動を実行した場合は以下の確認メッセージが表示されます。

移動先のグループに同じ名称が既にある場合は以下の警告が表示されます。

11.7.2 エリアを他のエリアグループに移動/コピーする

以下ではエリアを個別に他のグループに変更する方法について説明します。

1. エリア欄でエリアを指定してから「グループ間移動/コピー」を選択します。



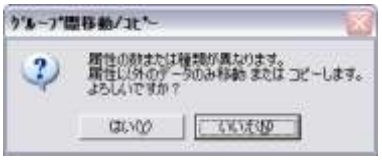
エリア欄ポップアップメニュー

2. 「グループ間移動/コピー」画面が表示されます。

3. 移動/コピー先のグループを選択して[移動]ボタンまたは、[コピー]ボタンをクリックします。

「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

異なる属性のグループへの移動/コピーを実行した場合、以下の警告が表示されます。

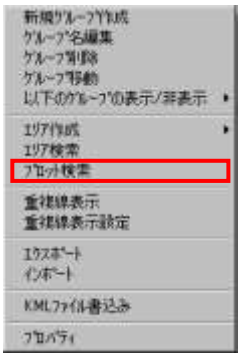


11.8 エリアを検索する

以下では、エリアを検索する方法について説明します。

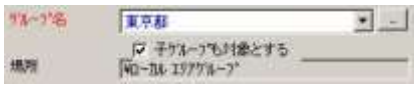
1. 「エリア検索」画面を表示します。

エリア機能メニュー



エリアグループ欄ポップアップメニュー

2. 検索するグループを選択します。



「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

子グループを持つグループを選択した場合は「子グループも対象とする」チェックボックスが有効になります。

3. 検索条件となる属性項目を選択します。

「属性未入力のエリアを表示」をチェックすると④～⑦の操作はできません。
グループ選択時に「子グループも対象とする」にチェックを付けると子グループとの共通属性が選択できます。

4. 検索式を選択します。

「属性未入力のエリアを表示」をチェックした場合は、エリア名以外の属性が未入力のエリアを検索します。
エリア属性が文字列型の場合と、数字型の場合では、表示される検索式が以下のように異なります。

エリア属性	検索式	意味
文字列型	＝	条件に入力された値と完全に一致する属性値を持つ。
	≠	条件に入力された値と完全に一致しない属性値を持つ。
	含む	条件に入力された値を含む属性値を持つ。
	含まない	条件に入力された値を含まない属性値を持つ。
数字型	＝	条件に入力された値と完全に一致する属性値を持つ。
	≠	条件に入力された値と完全に一致しない属性値を持つ。
	≧	条件に入力された値以上の属性値を持つ。
	≦	条件に入力された値以下の属性値を持つ。
	＞	条件に入力された値を超える属性値を持つ。
	＜	条件に入力された値未満の属性値を持つ。

5. 検索文字列を入力します。

6. 連結式を選択します。

以上の 4.～7.の操作を繰り返し、検索条件を追加することができます。

連結式の相違点は、以下の通りです。

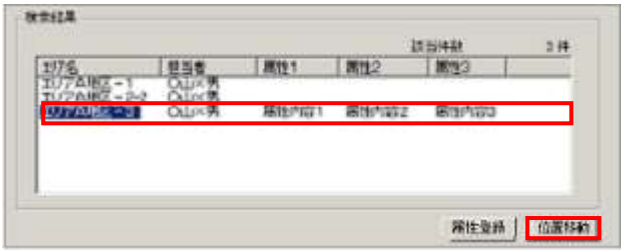
連結式	意味	使用例
AND	かつ	検索条件として、画面上に次の値を設定したとします。 「担当者」 「含まれる」「〇山」 **AND** 「顧客数」「＜」 「1000」 この場合、2つの条件式を両方とも満たすエリアのみが検索結果として表示されます。そのため、担当者に「〇山」が含まれていても、顧客数が 1000 を超えているエリアは検索結果として表示されません。
OR	または	検索条件として、画面上に次の値を設定したとします。 「担当者」 「含まれる」「〇山」 **OR** 「顧客数」「＜」 「1000」 この場合、2 つの条件式のどちらか一方を満たすエリアのみが検索結果として表示されます。

7. [検索]ボタンをクリックします。

[クリア]ボタンをクリックすると、入力した検索条件が初期状態に戻ります。

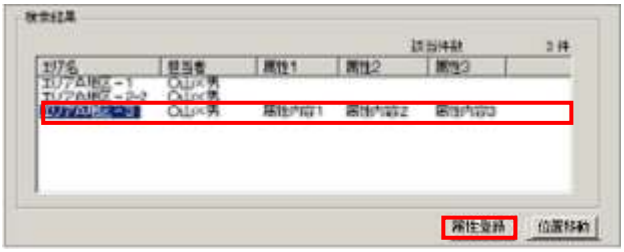
11.8.1 検索したエリアの位置に移動する

検索結果一覧でエリアをしてから[位置移動]ボタンをクリックします。



11.8.2 検索したエリアの属性情報を登録、変更する

1. 検索結果一覧でエリアを指定してから[属性登録]ボタンをクリックします。



2. 「プロパティ」画面が表示されます。
☞「11.6 エリアのプロパティを操作する」(p. 11-55)

11.9 エリアを編集する

作成されたエリアに対して、分割、エリア同士の論理演算、頂点編集を行うことができます。

☞「11.9.1 エリアを分割する」(p. 11-63)
☞「11.9.2 エリアを論理演算する」(p. 11-67)
☞「11.9.3 エリアの頂点を編集する」(p. 11-70)

11.9.1 エリアを分割する

11.9.1.1 分割するエリアを確定する

1. 「エリア分割」画面を表示します。

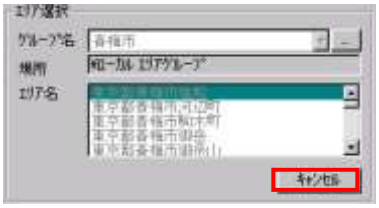
エリア機能メニュー

2. 分割するエリアを指定してから[エリア選択]ボタンをクリックします。

☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

3. 地図画面を選択されたエリアに移動、ハイライト表示します。

4. 選択を取り消す場合は、[キャンセル]ボタンをクリックします。



11.9.1.2 分割するラインを確定する

ラインの確定にはラインレイヤを使用する方法とマウス作図を行う方法があります。

11.9.1.2.1 ラインレイヤを使用する

以下ではラインレイヤを使用する方法について説明します。

11.9.1.2.1.1 一覧からラインレイヤを選択する

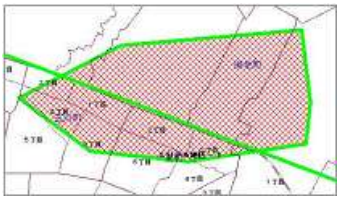
1. 分割方法に「レイヤ」を指定します。

2. 選択可能なレイヤが一覧表示されます。選択するレイヤのチェックボックスをクリックすると、チェックマークが表示されます。

⚠レイヤー覧には、ラインレイヤ以外のレイヤも含まれています。ラインレイヤ以外のレイヤを選択してもエリア分割機能では無視されます。

11.9.1.2.2 地図上からラインレイヤを検索する

1. マウスを地図上で動かすと、選択されたレイヤを検索して、ラインが表示されます。



2. 選択したいラインが表示されたら、マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

3. 「確定」を選択すると、図形を確定します。「続行」を選択すると、検索処理を続行します。

4. 選択したラインでエリアを分割可能になるまで、①～③の操作を繰り返します。

☞「11.9.1.2.4 エリアを分割する」(p. 11-66)

11.9.1.2.3 マウスで作図する

以下では分割ラインをマウス作図する方法について説明します。

1. 分割方法に「マウス」を指定します。

2. 分割するエリア図形上に分割用のライン座標を、地図上を左クリックして作図します。

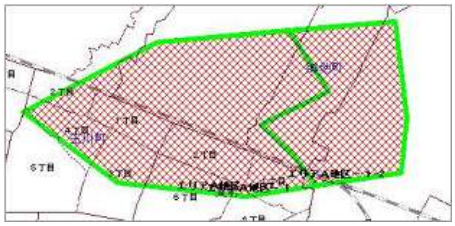
3. すべての座標をクリックしたら、マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

4. 「確定」を選択すると、図形を確定します。「続行」を選択すると、作図処理を続行します。「一点取消」を選択すると、直前に指定した座標を取り消します。「全点取消」を選択すると、すべての座標を取り消します。

☞「11.9.1.2.4 エリアを分割する」(p. 11-66)

11.9.1.2.4 エリアを分割する

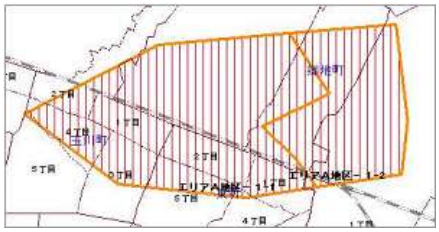
[演算実行]ボタンをクリックすると、選択したラインレイヤまたはマウスで作図されたラインを使用して、エリアを分割作成します。[作図キャンセル]ボタンをクリックすると、選択したラインレイヤまたはマウスで作図されたラインはすべて破棄されます。



11.9.1.3 分割した図形をエリアとして登録する

1. エリア分割が成功すると、[演算実行]ボタンは、[登録]ボタンになります。

2. 引き続き[登録]ボタンをクリックすると、分割された図形を登録します。[演算キャンセル]ボタンをクリックすると、演算結果は破棄されます。



登録後のエリア名称は、“[分割前エリア名]－1”、“[分割前エリア名]－2”のようになります。

11.9.2 エリアを論理演算する

以下では、エリア同士を論理演算する方法について説明します。

「エリア合成」画面を表示します。

エリア機能メニュー

11.9.2.1 演算の条件を設定する

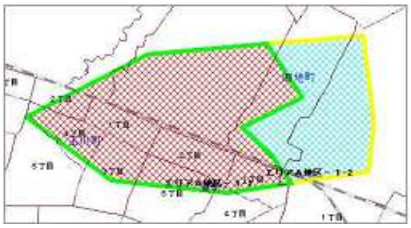
1. 演算後に、基準エリア・対象エリアを残す・残さないをチェックで指定します。デフォルトでは基準エリア、対象エリアともにチェックが外れた状態になっています。

「基準エリアを演算処理後に残す」にチェックを入れると基準エリアは所属するグループから削除され、消滅します。
「対象エリアを演算処理後に残す」にチェックを入れると対象エリアは所属するグループから削除され、消滅します。

2. 基準とするエリアを指定してから[エリア選択]ボタンをクリックしてください。

「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

3. 地図画面を選択されたエリアに移動、ハイライト表示します。



[キャンセル]ボタンをクリックすると、選択は解除されます。

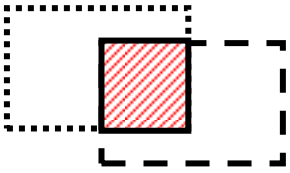
4. 演算方法を選択します。

演算方法によって、演算結果は以下のようになります。

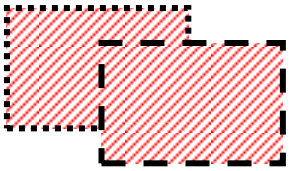
※基準エリア ▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪▪

対象エリア ▬ ▬ ▬ ▬ ▬ ▬ ▬ ▪

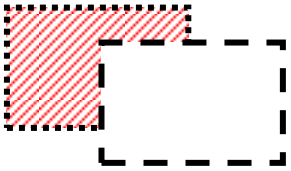
- **AND**:基準エリアと対象エリアの、**「重複する部分」**



- **OR**:基準エリアと対象エリアの、**「双方の部分」**

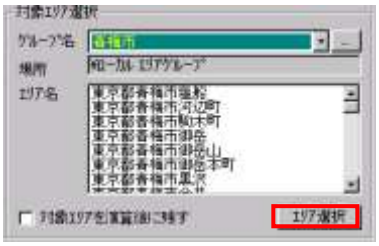


- **DIFF**：基準エリアから対象エリアを、**「削除した残りの部分」**



⚠演算方法にあわないエリアを選択した場合は、演算は失敗します。

5. 対象エリアを指定してから[エリア選択]ボタンをクリックしてください。



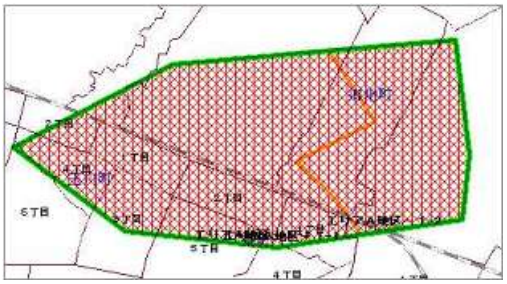
☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

演算方法に「OR」を選択した場合は、対象エリア選択画面は以下のようになり、複数エリアの選択が可能です。

11.9.2.2 論理演算を実行する

1. [演算実行]ボタンをクリックします。

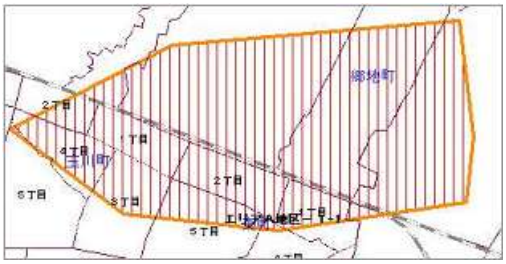
2. 地図上に演算結果が強調表示されます。



11.9.2.3 演算結果をエリアとして登録する

1. [登録]ボタンをクリックすると、演算結果を登録します。

⚠[演算キャンセル]ボタンをクリックすると、演算結果をクリアします。



⚠演算後は、エリア名・エリア属性ともに、基準エリアの内容が引き継がれ、対象エリアの内容は、削除されます。

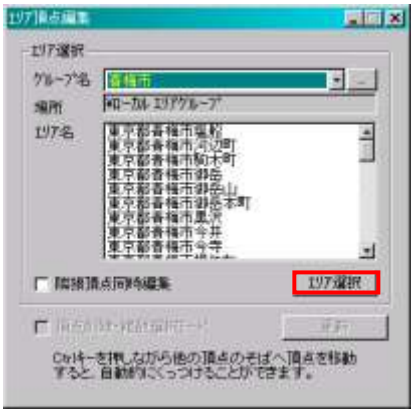
11.9.3 エリアの頂点を編集する

以下では、多角形エリアの頂点座標を編集する方法、円または楕円エリアの半径を編集する方法について説明します。

1. 「エリア頂点編集」画面を表示します。

エリア機能メニュー

2. 頂点を編集するエリアを指定してから[選択]ボタンをクリックしてください。



「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

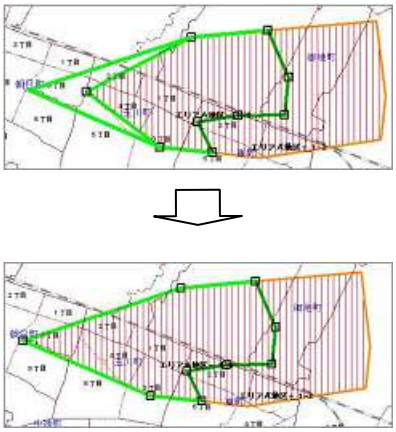
3. [選択]ボタンをクリックすると主地図が選択されたエリアを中心に移動します。選択されたエリアは強調表示され、編集(移動)可能な頂点が、"□"で表示されます。

エリアを選択するまでは[更新]ボタンがクリックできません。エリアを指定すると[選択]ボタンが[キャンセル]ボタンに変わり、同時に[更新]ボタンがクリックできるようになります。

[キャンセル]ボタンをクリックすると、選択は解除されます。

11.9.3.1 頂点を移動する

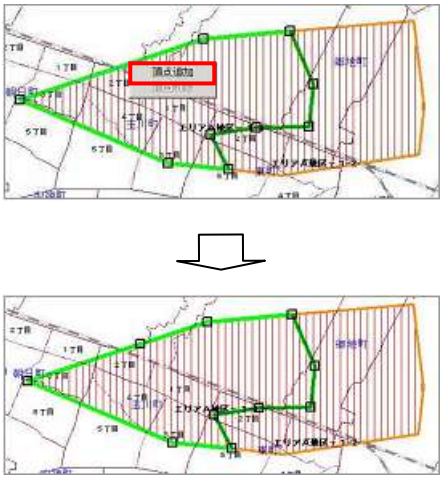
“□”で表示されている、編集（移動）可能な頂点をマウスでクリックすると、頂点を移動することができます。移動したい座標でマウスをクリックすると、頂点は固定されます。引き続き、他の頂点も繰り返し移動することができます。



Ctrl キーを押下しながら頂点を配置すると、近傍にある他エリアの辺や頂点に引っ付いて決定されます。

11.9.3.2 頂点を追加する

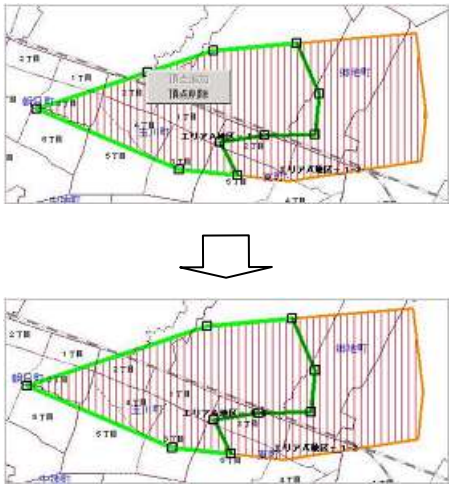
頂点を追加したい場所でマウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。「頂点追加」を選択すると、頂点が追加されます。選択中のエリアのライン上のみ有効です。



Ctrl キーを押下しながら頂点を配置すると、近傍にある他エリアの辺や頂点に引っ付いて決定されます。

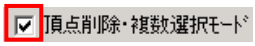
11.9.3.3 頂点を削除する

削除したい頂点の“□”表示上でマウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。「頂点削除」を選択すると、頂点が削除されます。



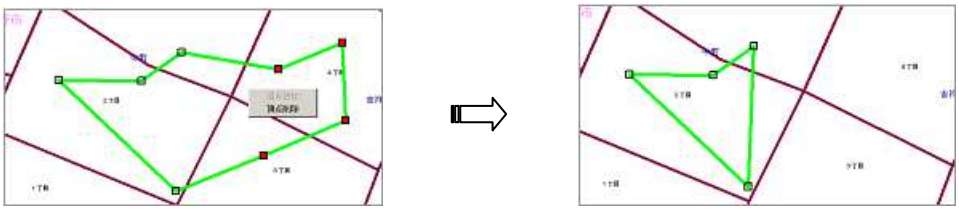
11.9.3.4 複数頂点を一度に削除する

エリア頂点編集画面で、「頂点削除・複数選択モード」をチェックします。



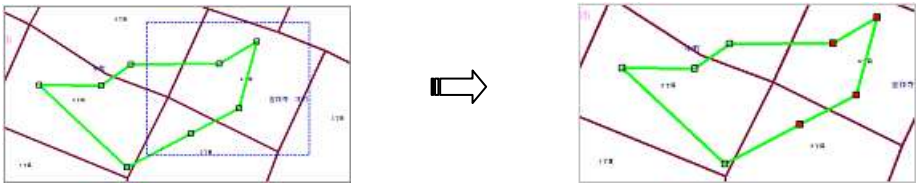
●削除したい頂点を1点1点指定する場合

頂点削除・複数選択モードでは、削除したい頂点をクリックすると、頂点上の□が赤色で表示されます。また、一度選択した頂点を再度クリックすると選択状態が解除されます（頂点上の□が元の色に変わります。）削除したい頂点をすべて指定したら、マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。「頂点削除」を選択すると、頂点が削除されます



●削除したい頂点を領域で指定する場合

頂点削除・複数選択モードにチェックをつけた状態で、削除したい頂点が含まれている領域を、拡大縮小と同じように、マウス左ボタンをクリックしながら四角形の領域を指定します。マウスボタンを離すと、領域内の頂点上の□が赤色で表示され、選択されたことを示します。



マウスボタンを離す

一度選択した頂点を再度クリックすると選択状態が解除されます（頂点上の□が元の色に変わります。）
マウス左ボタンをクリックしながら四角形の領域を指定することで解除することもできます。
指定した四角内で現在選択されている頂点は選択が解除され、選択されていない頂点は選択状態となります。

削除したい頂点をすべて指定したら、マウスを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。「頂点削除」を選択すると、頂点が削除されます

11.9.3.5 トポロジー編集を使用する

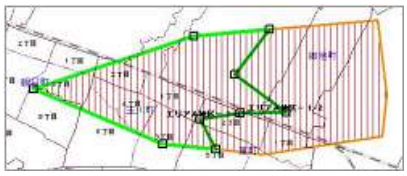
トポロジー編集機能を使用すると、重複している隣接エリアの頂点を同時に移動することができます。

1. 「トポロジー編集」のチェックをつけます。

2. 頂点の移動と同様に頂点を移動します。

「11.9.3.1 頂点を移動する」(p. 11-72)

3. 隣接エリアの重複した頂点も同時に移動されます。



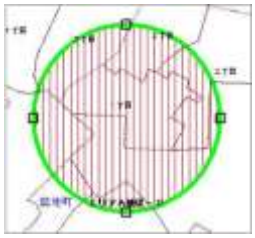
4. トポロジー編集でない場合は選択されたエリアの頂点のみ移動されます。

頂点追加、頂点削除でもトポロジー編集が利用できます。隣接エリアにも同時に頂点追加、または隣接エリアの重複した頂点を同時に削除します。

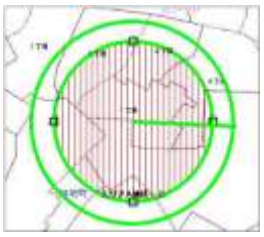
11.9.3.6 円または楕円エリアの半径を編集する

1. エリア頂点編集画面で円または楕円エリアを選択します。

2. 選択されたエリアが強調表示され、移動可能な点が、“□”で表示されます。



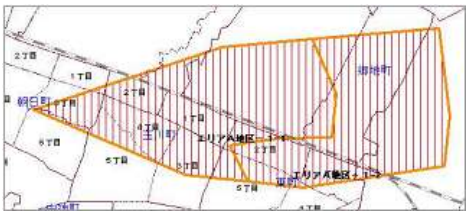
3. “□”で表示されている、移動可能な点をマウスでクリックし、移動したい座標でマウスをクリックすると、半径が変更されます。[更新]ボタンで編集内容を登録するまで、繰り返し移動できます。



⚠円または楕円エリアでは頂点追加、頂点削除はできません。

11.9.3.7 編集したエリアを登録する

1. [更新]ボタンをクリックすると、編集したエリアが登録されます。

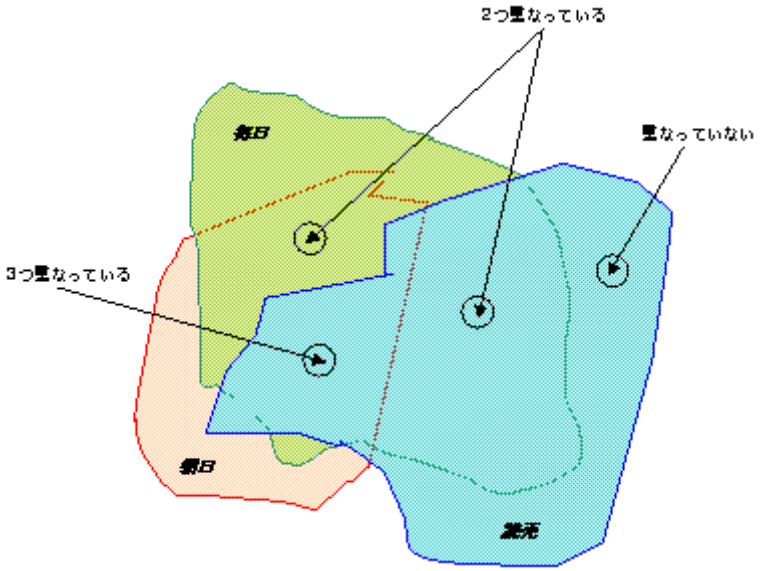


⚠頂点編集を中止する場合は、[キャンセル]ボタンをクリックして、エリア選択を解除します。
⚠エリアの辺がクロスする位置への頂点移動はできません。
⚠エリア論理演算やエリア分割などで作成された、円または楕円と多角形の複合図形の場合、あるいは半円などのエリアでは、一部の頂点編集機能が使用できません。

11.10 エリアの重なりをチェックする

以下ではエリアの重なりチェックについて説明します。

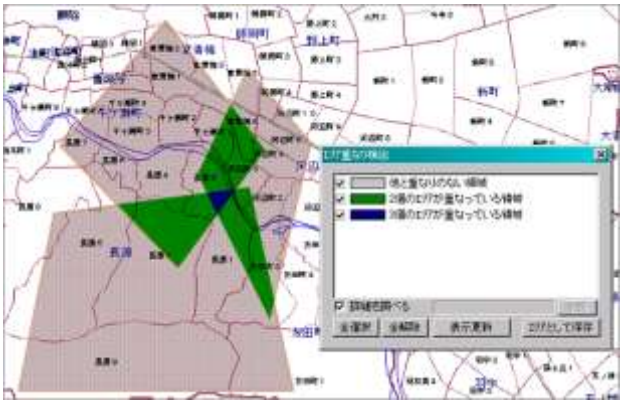
- エリアが重なっている状態



1. エリアマウス選択で、重なりを判定したいエリアを選択し、右ボタンポップアップメニューを表示させて「エリア重なりチェック」を選択します。

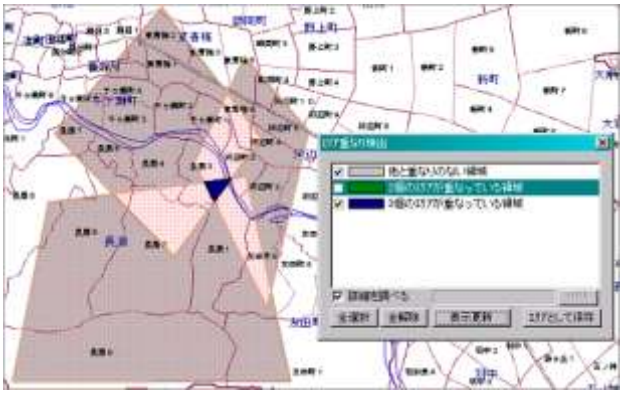
2. エリア重なりチェック結果（重なっている部分の色塗り）と、「エリア重なり検出」画面が表示されます。

3. 「詳細を調べる」チェックボックスを ON にすると、重なりの詳細（いくつのエリアが重なっているのか）の検出を行い、結果を表示します。



4. 一覧中のチェックを付け外しして、[表示更新]ボタンを押下すると、選択したものだけを表示することができます。

- 重なりの無い部分と 3 個のエリアが重なっている部分のみを表示している状態



5. 検出結果をエリアとして保存したい場合は、[エリアとして保存]ボタンを押下すると、「エリアとして保存」画面が表示されます。

ここで保存されるのは、一覧中のチェックを付けたもののみです。例えば、前ページでは 3 個のエリアが重なっている領域のみを表示させていますが、この状態で「エリアとして保存」ボタンを押下した場合、保存されるのは、3 個のエリアが重なっている部分のみとなります。

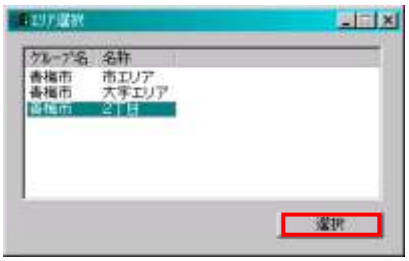
保存先エリアグループを選択し、名称を入力後、「保存」ボタンを押下するとエリアとして保存されます。保存されるエリアの名称は、入力した名称に「_n 個のエリアが重なっている領域」となります。上の例では、「エリア重複_3 個のエリアが重なっている領域」となります。

重なりチェックは対象となるエリア間総当りで論理演算を行うため、エリア数が多い場合検出処理に時間がかかります。(数分～数十分)。

11.11 複数のエリア候補の中から目的のエリアを選択する

以下では、複数のエリア候補の中から目的のエリアを選択する方法について説明します。

1. 選択されたエリアの候補が複数あるときはエリア選択の画面が表示されます。



2. 目的のエリアを指定してから[選択]ボタンを押します。

11.12 エリアをマウス選択して操作する

地図上でエリアを指定して「エリア分割」「エリア合成」「エリア頂点編集」「グループ間移動/コピー」「エリア削除」「エリア重なりチェック」「エリア非表示」「プロパティ」を行うことができます。

1. 「マウス選択」を選択します。

エリア機能メニュー

2. 地図上のエリアをマウスクリックで選択し、右ボタンをクリックするとポップアップメニューが表示されます。

「11.9.1 エリアを分割する」(p. 11-63)
「11.9.2 エリアを論理演算する」(p. 11-67)
「11.9.3 エリアの頂点を編集する」(p. 11-70)
「11.7.2 エリアを他のエリアグループに移動/コピーする」(p. 11-58)
「11.5 エリアを削除する」(p. 11-55)
「11.10 エリアの重なりをチェックする」(p. 11-76)
「11.15 プロットを検索する」(p. 11-82)
「エリア非表示」を選択するとマウス選択中のエリアを非表示にします。
「11.6 エリアのプロパティを操作する」(p. 11-55)

11.13 エリアの名称サイズを変更する

エリアの名称サイズを変更することができます。

1. 「名称サイズ」を選択します。

エリア機能メニュー

2. 「エリア名称サイズ設定」画面が表示されます。現在の設定状態が表示されています。変更するには[フォント設定]ボタンをクリックしてください。

3. 「フォント」画面が表示され、フォントや色を設定することができます。

4. [更新]ボタンをクリックすると設定が反映されます。

⚠名称サイズの設定はエリア全体になります。エリア個別には設定できません。

11.14 エリアグループ選択

様々な操作の中でエリアグループを選択する箇所があります。

グループ名欄に表示されているグループを使用したい場合はそのまま操作を続けてください。

1. 最近使用したグループや表示設定されているグループがドロップダウンの中にリストされている場合があります。その中に使用したいグループがある場合はリストから選択してください。

エリア作成(多角形)画面

2. ドロップダウンリストの中にも使用したいグループが無い場合は … をクリックして「エリアグループ選択」画面を開きます。

3. 登録されているすべてのグループが保存場所によって区別されて表示されています。

データベースに保存されているグループは エリアｸﾞﾙｰﾌﾟ の下に、ローカルに保存されているグループは ローカル エリアｸﾞﾙｰﾌﾟ の下に青字で表示されています。

「1.2.11 ローカルプロット、ローカルエリア」(p. 1-4)

4. グループ名をクリックすると設定されている表示属性が表示されます。

5. [選択]ボタンをクリックすると「エリアグループ選択」画面を閉じて、指定したグループが選択されます。

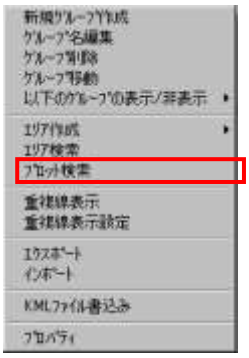
エリアｸﾞﾙｰﾌﾟ と ローカル エリアｸﾞﾙｰﾌﾟ は選ぶことができません。

[キャンセル]ボタンをクリックするとグループを選択しないで「エリアグループ選択」画面を閉じます。

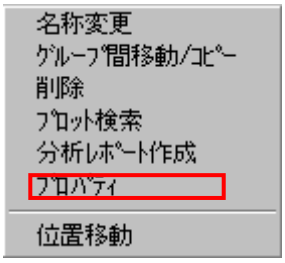
11.15 プロットを検索する

以下では、エリア内のプロットを検索する方法について説明します。

1. 「プロット検索」画面を表示します。



エリアグループ欄ポップアップメニュー

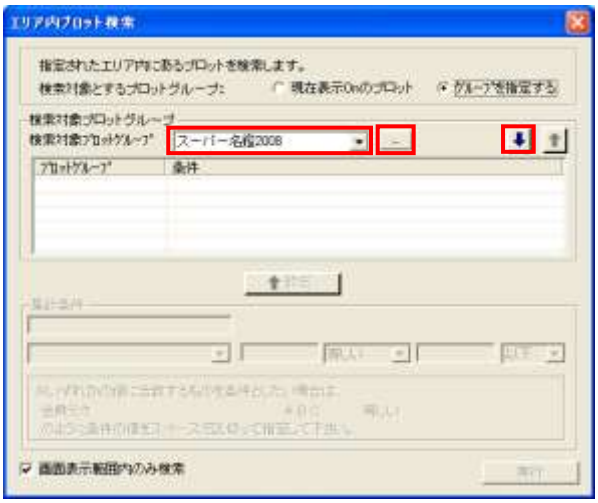


エリア欄ポップアップメニュー

2. 検索対象を「現在表示 On のプロット」とするか、「グループを指定する」を選択します。

「グループを指定」した場合には、グループの選択および条件設定に移ります。

3. グループを選択し、下方向の矢印ボタンでプロットグループのリストに追加していきます。複数のプロットグループを指定することができます。



4. 必要に応じて、検索するプロットグループに対して、検索条件を設定することができます。条件式を入力し「設定」ボタンを押します。条件の「等しい」を選択した場合には、入力文字列をスペースで区切ることにより、OR 条件となります。

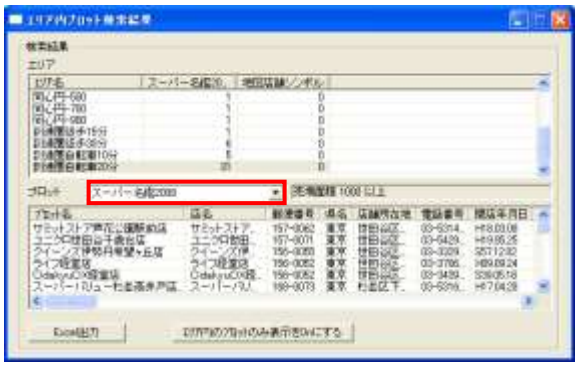
5. 検索する対象を「画面表示範囲内のみ」とするか、全てのプロットグループとするかを選び、「実行」ボタンを押します。

6. 各エリアに対して、検索されたプロットが表示されます。上部のエリアリストを選択することにより、そのエリア内に存在するプロットが下部のリストに表示されます。

エリア欄ポップアップメニューの場合（あるいはマウス選択でひとつのエリアを選択した場合）には、エリアリストの欄には、ひとつのエリアが表示されます。

複数のプロットグループを対象とした場合には、プロット名の他に「共通の属性」がリストに表示されます。

7. 検索されたプロットグループを選択すると、対象がひとつのグループとなり、プロットリストの欄には全ての属性値が表示されます。



8. 「Excel 出力」ボタンにより、結果をファイルに出力することができます。Excel ファイルの様式は、最初のシートに検索条件と検索結果（プロットの個数）を総覧し、続いて各エリア毎のシートに、検索されたプロット情報を記載します。

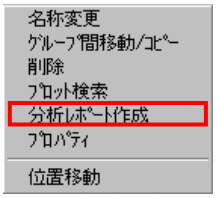
9. 「ｴﾘｱ内のﾌﾟﾛｯﾄのみ表示をOnにする」ボタンを押すと、検索対象のプロットグループに対して、エリア内で検索されたプロットのみが地図画面上で表示オンとなります。再度ボタンを押すと、全表示に戻ります。

11.16 分析レポートを作成する

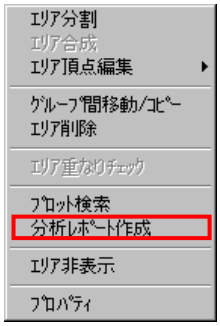
エリアパネルで作成したエリアを商圏として用いて、マーケットレポートパネルの分析レポートを作成することができます。
レポート内容はマーケットレポートのものと同一ですが、以下の制限があります。

- マーケットレポートパネルで作成中の調査地点はすべてクリアされます。
- いちどにひとつのエリアしか指定できません。すなわち、
  - 指定されたエリアを1次商圏のエリアとしてレポートを作成します。2次、3次商圏エリアは指定できません。
  - エリアを複数指定した複数地点分析レポートは作成できません。

1. 対象とするエリアを指定する
   対象エリアは、エリア欄ポップアップメニュー、もしくはエリアマウス選択ポップアップメニューから指定できます。



エリア欄ﾎﾟｯﾌﾟｱｯﾌﾟﾒﾆｭｰ



エリアマウス選択ﾎﾟｯﾌﾟｱｯﾌﾟﾒﾆｭｰ

メニューから「分析レポート作成」を選択すると、すぐに集計処理が開始されます。

2. 出力シート選択、出力先指定などレポート設定を行う。
   集計が終了すると、通常のマーケットレポート作成で「レポート Excel 出力」を選択したときと同じく「分析レポート設定」画面が表示されます。

「レポート出力する分析内容」「出力先」を設定し、[レポート出力実行]ボタンをクリックすると、レポート作成処理が行われ、分析レポート Excel ファイルが作成されます。

12 エリア・プロットのインポート/エクスポート

以下では、エリア/プロットデータのインポート/エクスポートについて説明します。

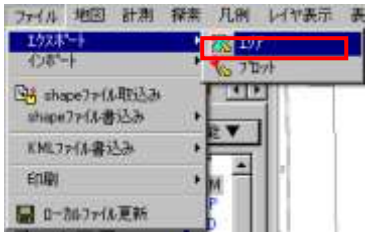
12.1 ファイルからのインポート/エクスポート

以下ではファイルを使用したエリア/プロットデータのインポート/エクスポートについて説明します。

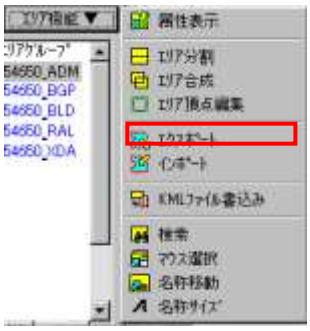
12.1.1 エリアデータをエクスポートする

以下では、エリアデータのエクスポートについて説明します。

1. 「エリアデータ書出し」画面を表示します。



ファイルメニュー



エリア機能メニュー

2. エクスポートを行うグループを選択します。

3. エクスポートファイルの書出し先を指定します。

書出し先は直接入力可能です。
... をクリックすると書出し先を選択することができます。

4. エクスポート後、グループを削除する場合は「書出し後、グループを削除する」にチェックを付けます。

5. [実行]ボタンをクリックするとエクスポートを開始します。

- エクスポート先に同名のファイルが存在している場合は上書確認が表示されます。

1) [はい]ボタンをクリックすると確認したファイルについてのみ上書します。

2) [すべてはい]ボタンをクリックすると以降、既に存在しているものが発生しても確認せずに上書します。

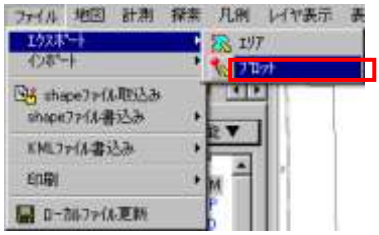
3) [いいえ]ボタンをクリックすると確認したファイルについてのみ上書しません。

4) [キャンセル]ボタンをクリックするとエクスポートを中断します。この時点までの処理は実行されています。

12.1.2 プロットデータをエクスポートする

以下では、プロットデータのエクスポートについて説明します。

「プロットデータ書出し」画面を表示します。



ファイルメニュー

プロット機能メニュー

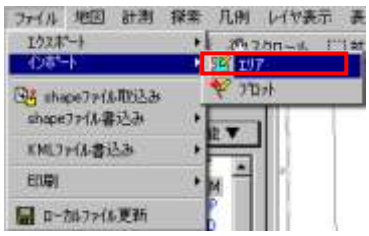
エクスポート操作はエリアデータの場合と同様です。

「12.1.1 エリアデータをエクスポートする」(p. 12-1)

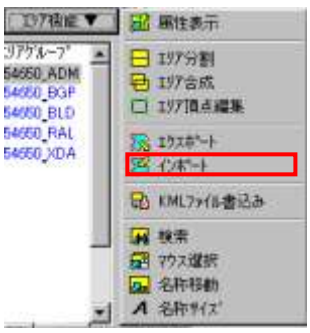
12.1.3 エリアデータをインポートする

以下では、エリアデータのインポートについて説明します。

1. 「エリアデータ取込み」画面を表示します。



ファイルメニュー



エリア機能メニュー

2. インポートファイルの読み込み元を指定します。

エリアデータのファイルは ◆ マークが付いています。◆A マークのファイルは手動で作成したデータファイルです。

「12.1.5 新規に手動でエリアデータをインポートする」(p. 12-5)

読込み元は直接入力できません。 ... をクリックしてインポートファイルを選択してください。

3. インポート先を選択します。 ... をクリックするとグループ選択画面が表示されます。

「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)
「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

4. [実行]ボタンをクリックするとインポートを開始します。

- インポート先に同名のエリアグループが存在している場合は上書確認画面が表示されます。

1) [はい]ボタンをクリックすると確認したグループについてのみ上書します。

2) [すべてはい]ボタンをクリックすると以降、既に存在しているものが発生しても確認せずに上書します。

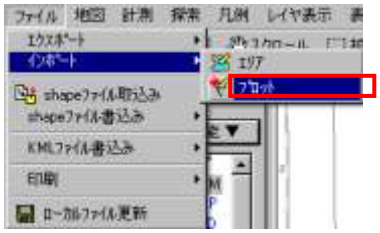
3) [いいえ]ボタンをクリックすると確認したグループについてのみ上書しません。

4) [キャンセル]ボタンをクリックするとインポートを中断します。この時点までの処理は実行されています。

12.1.4 プロットデータをインポートする

以下では、プロットデータのインポートについて説明します。

「プロットデータ取込み」画面を表示します。



ファイルメニュー

プロット機能メニュー

インポート操作はエリアデータの場合と同様です。

「12.1.3 エリアデータをインポートする」(p. 12-3)

プロットデータのファイルは マークが付いています。

12.1.5 新規に手動でエリアデータをインポートする

これまでインポートとエクスポートをペアで説明してきましたが、以下では、新規に手動でファイルを作成したものを、エリアデータとして取り込む方法を説明します。エリアの形状は住所単位となり、任意形状ではありません。

1. エリアを定義したファイルを準備します。ファイルの形式はテキストファイルで拡張子は".acode"です。

「22.1.3 エリアデータのフォーマット」(p. 22-5)

2. 通常のエリアデータのインポート操作と同様ですが、ファイルを指定する際に「コードによるエリア定義ファイル(*.acode)」を選択します。

「12.1.3 エリアデータをインポートする」(p. 12-3)

拡張子が*.acode のファイルは マークが付いています。

12.2 shape からのインポート/エクスポート

本章では shape ファイル取込みの操作方法について説明します。shape ファイル取込みは、対話形式で、対象となる shape ファイルのファイル名やデータの条件を指定しながら、データの取り込みを行います。

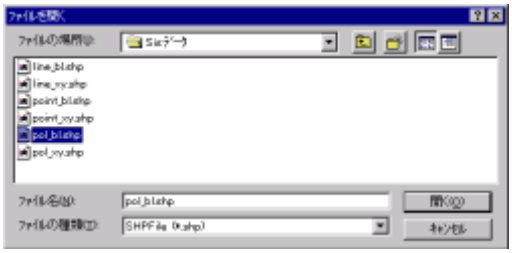
12.2.1 新規エリアグループの shape ファイルを取込む

以下では、新規エリアグループの shape ファイルを取込む方法について説明します。

1. 「shape ファイル取込み」画面を表示します。

⚠画面表示時には、ファイル名参照ボタン、測地系オプションボタン、座標単位指定コンボボックスだけが使用できます。それ以外の項目については、ファイル名を入力することにより使用することができます。

2. ... をクリックして取り込むファイルを選択してください。



3. 「shape ファイル取込み」画面に戻ります。

4. 座標単位を指定します。

5. 詳細設定を行うために[詳細設定]ボタンをクリックし、「詳細設定」画面を表示します。「詳細設定」画面では、取込む shape ファイルの登録単位、線種、線幅、線色、塗り潰し色、ハッチパターンを設定します。

⚠「詳細設定」画面の項目の意味は、以下の通りです。

- 形状欄の表示内容：エリア（ポリゴンの場合）/ライン（ラインの場合）/プロット（ポイントの場合）
- 個数欄の表示内容：shape ファイルのデータ件数
- 登録単位：データベースのレコード1件に登録する shape ファイルのデータ件数
  （「1」以外を指定した場合、属性データを取込みません）
- 線種・線幅・線色：線の種類、線の太さ、線の色
- 塗り潰し色：ポリゴンの塗り潰し色
- ハッチパターン：ポリゴンのハッチパターン

6. 線種と線幅を設定します。

7. 線色と塗り潰し色、ハッチパターンを設定します。

8. 属性が含まれているファイルの場合にはエリア名を属性名から選ぶことができます。

ℹ未選択の場合は自動採番で名称が付けられます。

9. 詳細設定が終わったら[設定]ボタンをクリックします。

10. [実行]ボタンをクリックすると取込みを開始します。

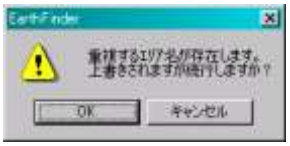
11. 完了メッセージが表示されます。

12.3 既存エリアグループの shape ファイルを取込む（重複データがない場合）

以下では、既存エリアグループの shape ファイルを取込む方法について説明します。既存エリアグループの shape ファイルを取込む方法は、新規エリアグループの shape ファイルを取込む方法と同じですが、shape ファイル取込み画面で実行ボタンをクリックした後に以下の画面が表示されます。

12.3.1 既存エリアグループの shape ファイルを取込む（重複データがある場合）

既存エリアグループの shape ファイルの取込みで、既存データとの重複データが存在する場合には、以下の手順になります。[実行]ボタンをクリック後にエリアグループ名の確認画面が表示される迄は、重複データがない場合と同じです。

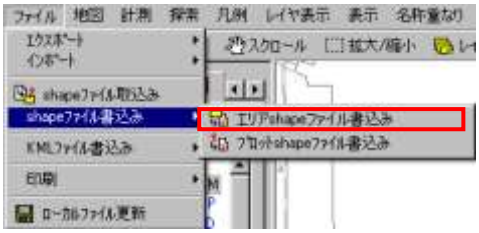


12.3.2 shape ファイルへの書き込み

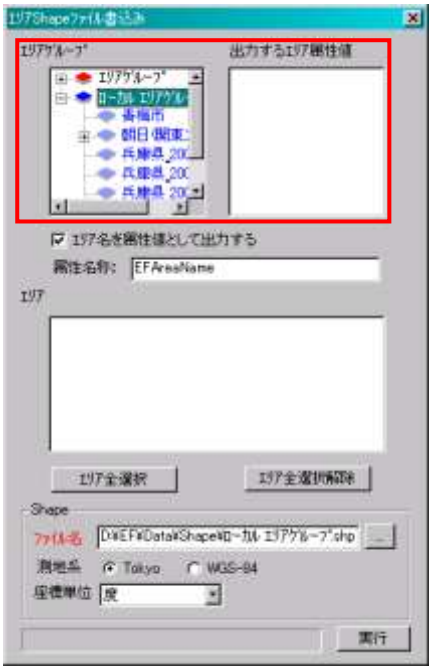
shape ファイル書き込みは、対話形式で、エリアとプロットをグループ単位で書き出す事ができます。

12.3.2.1 エリアデータの shape ファイルへの書き込み

1. 「エリア shape ファイル書込み」画面を表示します。



2. 書き込むグループを指定します。属性値欄には指定したグループに設定されている属性が表示されます。



☞「11.2.5 属性の設定」(p. 11-8)

3. 出力するエリア属性値と書き出したいエリアを選択します。

EarthFinder では各エリアに“エリア名称”を持っていますが、shape ファイルにはエリア名称を保存する事ができません。☑ エリア名を属性値として出力するにチェックを付けると、EarthFinder のエリア名称が属性として保存することができるようになります。上図の例だとエリア名称は“EFAreaName”という名前の属性として shape ファイルに書き出されます。

4. [...] をクリックし、出力する場所を選択します。

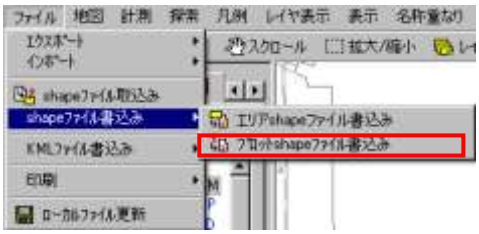
ファイル名は自動的に選択したエリアグループ名称となっています。

5. 測地系と座標単位を選択し、[実行]ボタンをクリックしてください。

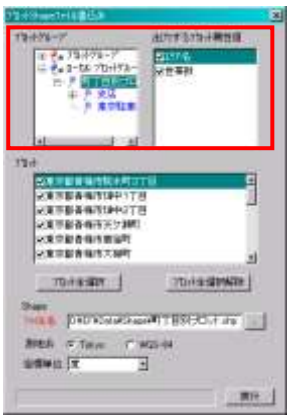
6. 完了メッセージが表示されます。

12.3.2.2 プロットデータの shape ファイルへの書き込み

1. 「プロット shape ファイル書込み」画面を表示します。



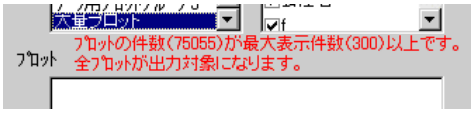
2. 書き込むグループを選択します。属性値欄には選んだグループに設定されている属性が表示されます。



「10.2.6 属性の設定」(p. 10-10)

3. 出力するプロット属性値と書き出したいプロットを選択します。

以下のような表示がある場合



選択したグループに属するプロットが、指定件数(上図では 300 件)以上の場合、プロットのリストを表示させず、全て選択されたものとみなします。

4. ... をクリックし、出力する場所を選択します。

ファイル名は自動的に選択したグループ名称となっています。

5. 測地系と座標単位を選択し、[実行]ボタンをクリックしてください。

6. 完了メッセージが表示されます。

12.4 KML ファイルに書き込む

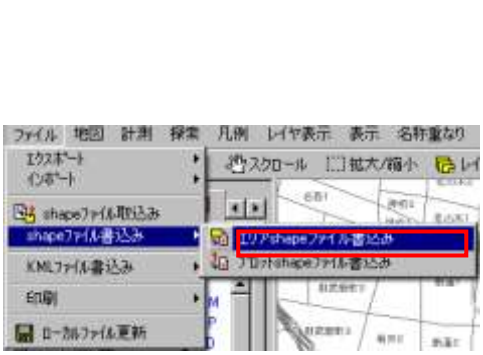
EarthFinder で作成したエリア、プロットを KML ファイルとして出力し、GoogleEarth、GoogleMap 上で表示させることができます。

地図や購入されたエリアデータ、プロットデータには一般的には著作権があります。それらを KML ファイルに書き込み、提供したり、公開することは著作権侵害となります。

GoogleMaps で取り込みの際「一般公開」か「限定公開」か選択出来ますが、「限定公開」の場合でも、URL を知っていれば誰でもアクセス出来てしまいますので、個人情報を含むデータの場合にはご注意下さい。

12.4.1 エリアデータの KML ファイルへの書き込み

1. 「ファイル」メニュー、エリアパネルの機能メニュー、エリアグループメニューのいずれかから「KML 書込み」を選択します。



「ファイル」メニュー

エリア機能メニュー

エリアグループメニュー

2. 「ファイル」メニュー、エリアパネルの機能メニューから選択した場合は、書き込み対象グループの選択画面がでますので、グループを選択します。

☞「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

3. Windows の「名前を付けて保存」ダイアログが表示されますので、保存先フォルダ、ファイル名を入力し[保存]をクリックします。

⚠ エリアの表示属性にハッチパタンを設定している場合は、塗りつぶしで出力されます。

12.4.2 プロットデータの KML ファイルへの書き込み

1. 「ファイル」メニュー、プロットパネルの機能メニュー、プロットグループメニューのいずれかから「KML 書込み」を選択します。

「ファイル」メニュー

プロット機能メニュー

プロットグループメニュー

2. 「ファイル」メニュー、エリアパネルの機能メニューから選択した場合は、書き込み対象グループの選択画面がでますので、グループを選択します。

☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

3. Windows の「名前を付けて保存」ダイアログが表示されますので、保存先フォルダ、ファイル名を入力し[保存]をクリックします。

⚠ プロットのアイコンは反映されません。ピンで出力されます。アイコン条件設定も同様です。条件でアイコンを変更するように設定していても同一のピンで出力されます。

13 集計・グラフ操作を行う

グラフは地図上にグラフを描く機能です。グラフを作成するためには行政界やメッシュ単位の指標値（例えば人口、世帯数、事業所数等）の市販の統計データあるいはお手持ちの実績データが必要になります。

Earth Finder 内では統計データあるいはお手持ちのユーザデータをファイルとして準備し（あるいは導入時に準備されており）、それらのファイルを集計してグラフを作成します。集計にはウィザードが使用されます。

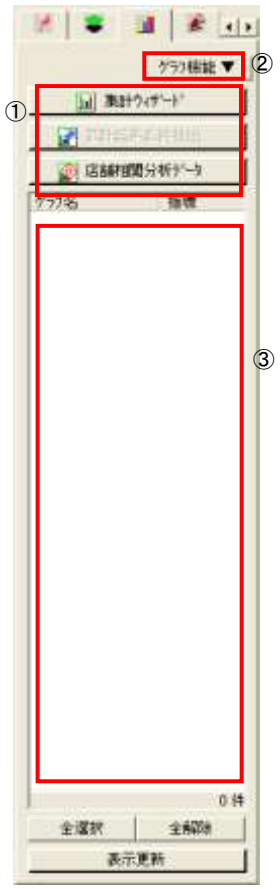
13.1 グラフパネルを操作する

以下ではグラフパネルの操作について説明します。

グラフパネルはツールバーから表示することができます。

「4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ」(p. 4-2)

左画面の をクリックするとグラフパネルが表示されます。



グラフパネルは大きく 3 箇所にわかれ、それぞれの操作を行うことができます。

① グラフ機能ボタン

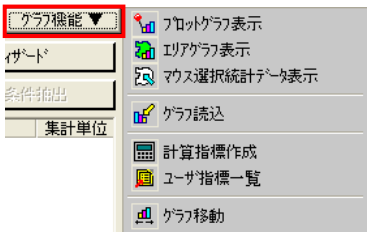
「13.2 データ集計グラフを作成する」(p. 13-4)
「13.3 集計結果を条件指定で絞り込む」(p. 13-20)
「13.3 店舗相関分析データを作成する」(p. 13-77)

② グラフ機能メニュー
「13.1.1 グラフ機能メニューを操作する」(p. 13-2)

③ グラフ欄
「13.1.2 グラフ欄を操作する」(p 13-2.)

13.1.1 グラフ機能メニューを操作する

[グラフ機能▼]ボタンをクリックするとグラフ機能メニューが表示されます。



機能メニューによりグラフを作成したり管理します。

1. プロットグラフ表示
「13.4 プロットグラフを作成する」(p. 13-26)
2. エリアグラフ表示
「13.5 エリアグラフを作成する」(p. 13-29)
3. マウス選択統計データ表示
「13.9 マウスで選択して統計データを表示する」(p. 13-72)
4. グラフ読込み
「13.6.5 グラフを読込む」(p. 13-47)
5. 計算指標作成
「13.8 計算指標を作成する」(p. 13-67)
6. ユーザ指標一覧
「13.7 ユーザデータを管理する」(p. 13-64)
7. グラフ移動
「13.10 グラフを移動する」(p. 13-76)

13.1.2 グラフ欄を操作する

作成されたグラフが表示されています。チェックを付け外しすることで表示設定を行います。

「13.6.2.1.2 グラフを個別に設定する」(p. 13-33)

指標をクリックすると、表示指標を変更することができます。

指標名を選択すると、現在の表示設定(ランク数等)で界面グラフを表示します。
「クロス集計」および「バブルグラフ」を選択した場合は、「グラフ表示編集」画面が開くので、そこで表示対象の指標を選択してください。
その他(棒、円)が選択された場合は、全指標を用いて当該グラフを表示します。

各操作はグラフ欄で選択しているグラフに対して行われます。

グラフ欄の上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

1. 名称変更
「13.6.1 グラフ名称を変更する」(p. 13-32)

2. 指標追加
「13.6.1 指標を追加する」(p. 13-63)

3. データ表示
「13.6.2.2 データの表示」(p. 13-35)

4. 削除
「13.6.4.2 グラフを個別に削除する」(p. 13-47)

5. グラフ保存
「13.6.6 グラフ保存」(p. 13-48)

6. レポート出力
「13.6.7.1 レポートを出力する」(p. 13-48)

7. 集計結果 Excel 出力
「13.6.7.2.1 Excel 形式で出力する」(p. 13-49)

8. 集計結果 CSV 出力
「13.6.7.2.2 CSV 形式で出力する」(p. 13-50)

9. 名称表示
「13.6.2.4.2 グラフを個別に設定する」(p. 13-45)

10. 名称表示設定
「13.6.3 グラフ名称表示設定」(p. 13-45)

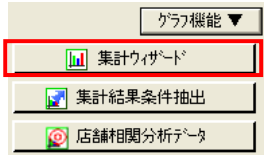
11. プロパティ
「13.6.8 プロパティを操作する」(p. 13-51)

12. 位置移動
選択しているグラフを中心に地図が移動します。

13.2 データ集計グラフを作成する

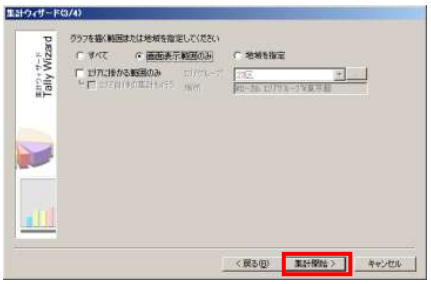
データを集計しグラフを作成する方法を説明します。対象データにはプロットグループも含まれます。作成は「集計ウィザードボタン」を使用します。

1. 「集計ウィザード」ボタンにより、集計を開始します。

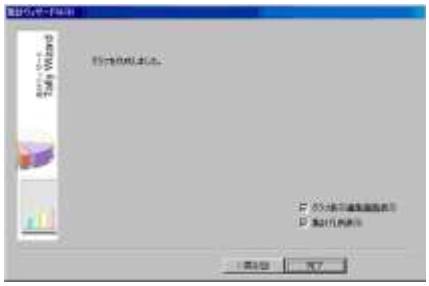


2. ウィザードの第 1 画面から第 3 画面で設定を行います。条件により、第 1－2画面を設定する場合があります。設定が終わったら第 3 画面の[集計開始]ボタンをクリックしてください。

「13.2.1.1 指標あるいはプロットを選択する」(p. 13-6) （第 1 画面）
「13.2.1.2 プロットグループに条件を指定する」(p. 13-10) （第 1－2画面）
「13.2.1.3 集計単位を設定する」(p. 13-11) （第2画面）
「13.2.1.4 集計範囲を設定する」(p. 13-15) （第3画面）



3. 第 4 画面で完了メッセージが表示されます。



「グラフ表示編集画面表示」にチェックを付けると、[完了]ボタンをクリックした時に編集画面が表示されます。
「13.6.8 プロパティを操作する」(p. 13-51)
「集計凡例表示」にチェックを付けると、[完了]ボタンをクリックした時に凡例画面が表示されます。
「16.2.2 凡例パレットを編集する」(p. 16-2)
集計途中の中断やデータの誤り、指定ミス等により集計に失敗するとグラフは作成されません。
「13.2.2 集計時のメッセージ」(p. 13-18)
「13.2.2 集計時のメッセージ」(p. 13-18)

13.2.1 集計情報の設定

13.2.1.1 指標あるいはプロットを選択する

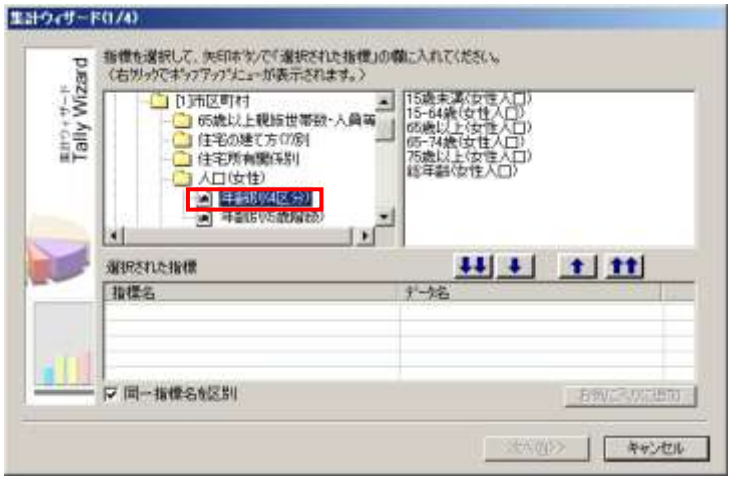
ここでは第 1 画面の指標選択について説明します。

データとしては、統計データと計算指標とユーザデータおよびプロットグループがあります。統計データには市販の統計データが登録されており、ユーザデータには予めお手持ちの実績データを登録しおきます。

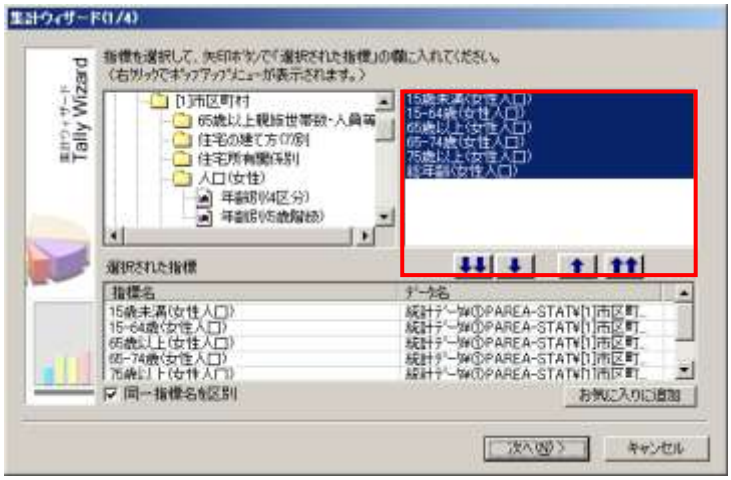
計算指標とは、市販の統計データやお手持ちの実績データから計算によって作成できる指標です。例えば人口と面積から計算可能な人口密度、男性人口と人口から計算可能な男性割合のような指標が設定可能です。

「13.8 計算指標を作成する」(p. 13-67)

1. 集計したいデータあるいはプロットグループを選択すると右側のリストに含まれる指標（プロットグループの場合には属性）が表示されます。



（ア） 各種データから集計する指標あるいはプロット属性をマウス選択し [↓]ボタンで決定します。決定した指標を取り消すには選択済みの指標を選び[↑]ボタンを使用します。[↓↓]ボタンは全選択、[↑↑]ボタンは全解除になります。



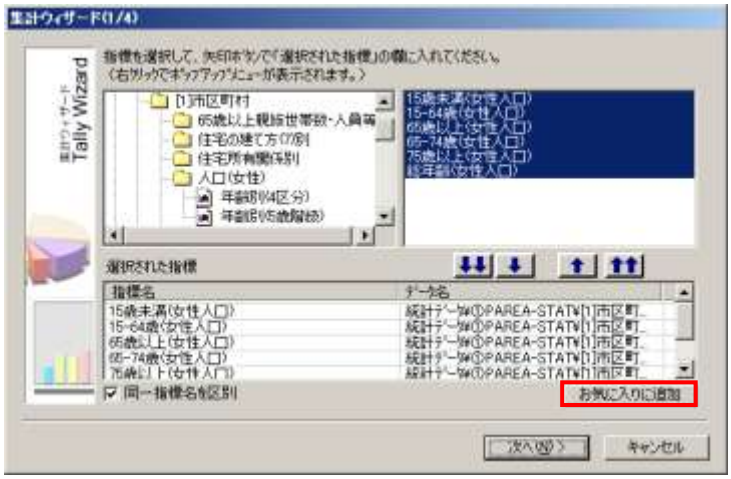
選択する指標は統計データ、計算指標、ユーザデータおよびプロットグループの中から任意に選択することができ、異なるデータの混在も可能です。

混在時は全ての指標や地域が集計され、欠落指標や欠落地域の扱いは 0（指標値＝0）となります。

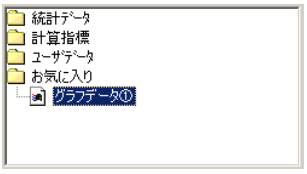
「同一指標名を区別」にチェックを付けると、異なるデータで同一指標のものは同一集計されます。異なる地域が別データになっている場合に効果があります。

プロットを集計した場合には、選択した属性の他、プロットの個数が必ず集計されます。

（イ） よく使用する指標は「お気に入りに追加」ボタンで登録でき再利用可能です。



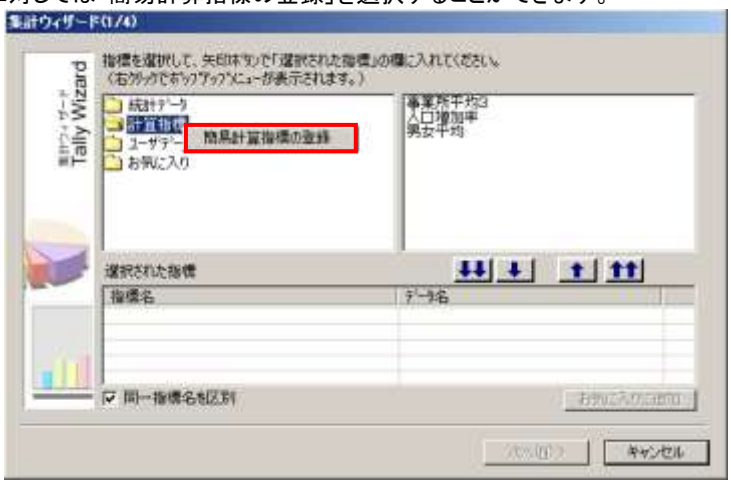
登録した指標は左側のリストに追加されます。



（ウ） 各種データの上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

⚠統計データの上ではポップアップメニューは表示されません。

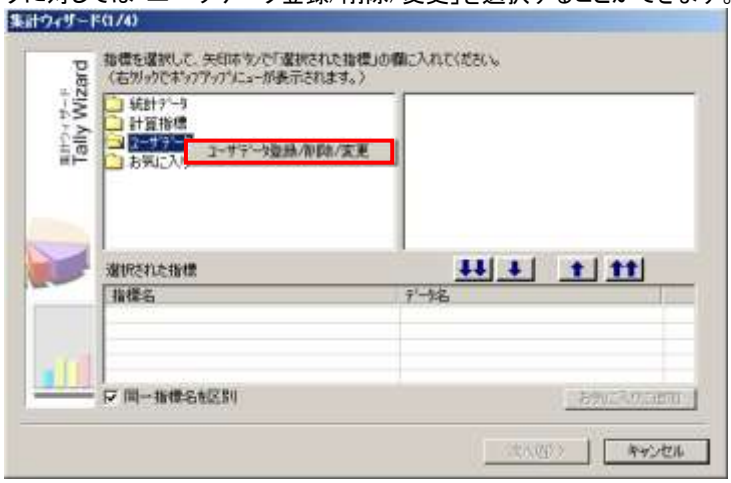
ℹ計算指標に対しては「簡易計算指標の登録」を選択することができます。



「簡易計算指標作成」では集計に使用する指標をその場で作成することができます。

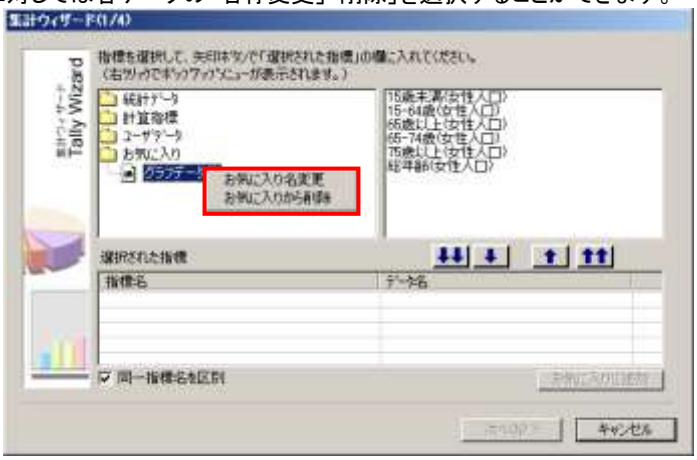
☞「13.8 計算指標を作成する」(p. 13-67)

ℹユーザデータに対しては「ユーザデータ登録/削除/変更」を選択することができます。

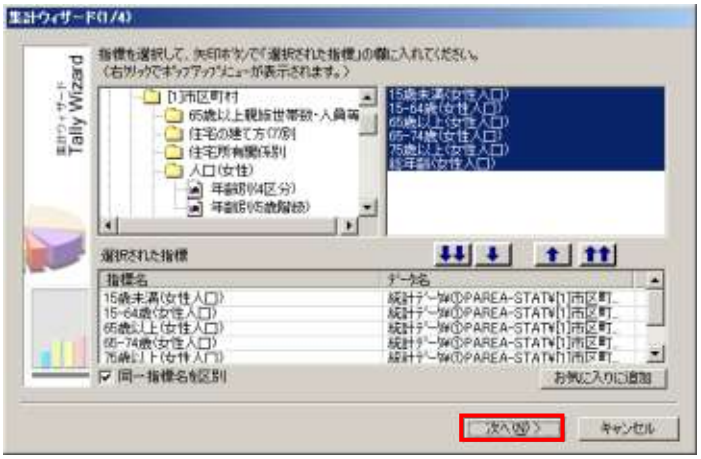


☞「13.7 ユーザデータを管理する」(p. 13-64)

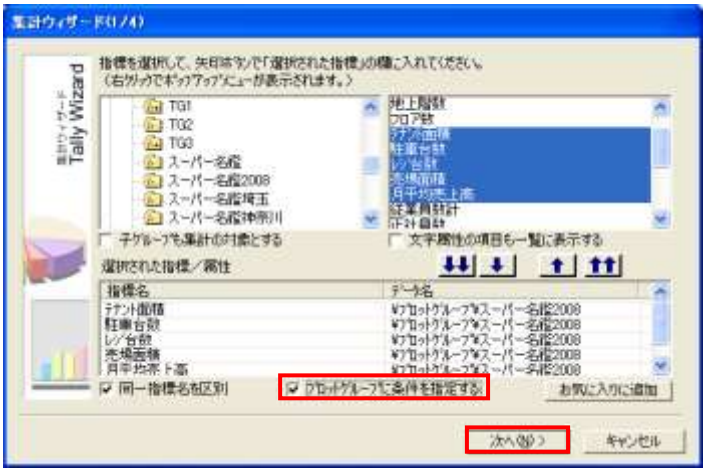
お気に入りに対しては各データの「名称変更」「削除」を選択することができます。



2. 指標の設定が完了したら[次へ]ボタンをクリックします。



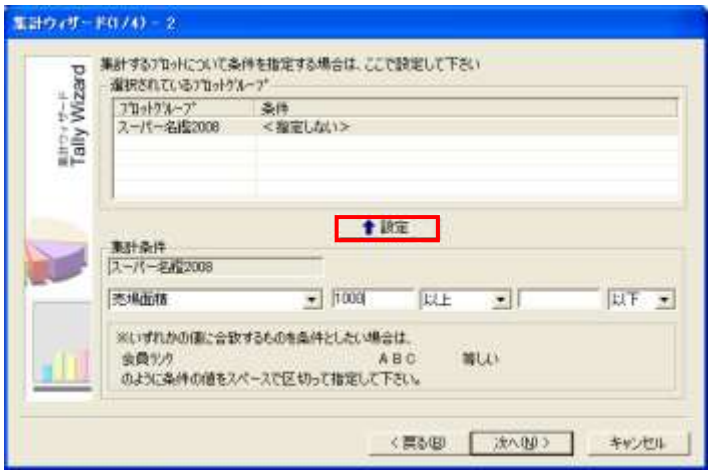
3. プロットグループを選択した場合には、集計するプロットの条件を指定することができます。その場合は、チェックをオンにしてから「次へ」ボタンをクリックします。



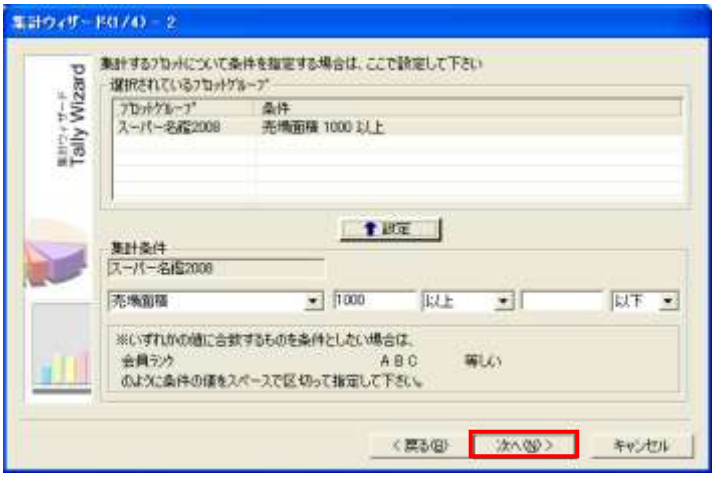
13.2.1.2 プロットグループに条件を指定する

ここでは第１－２画面のプロットグループ条件について説明します。

1. 集計対象となっているプロットグループに対して、条件を指定します。プロット属性をコンボボックスから選択し、「以上」「以下」「等しい」などの条件と数値を入力して［↑］ボタンで設定します。条件の「等しい」を選択した場合には、入力文字列をスペースで区切ることにより、OR 条件となります。



2. 条件を設定したら「次へ」ボタンをクリックします。



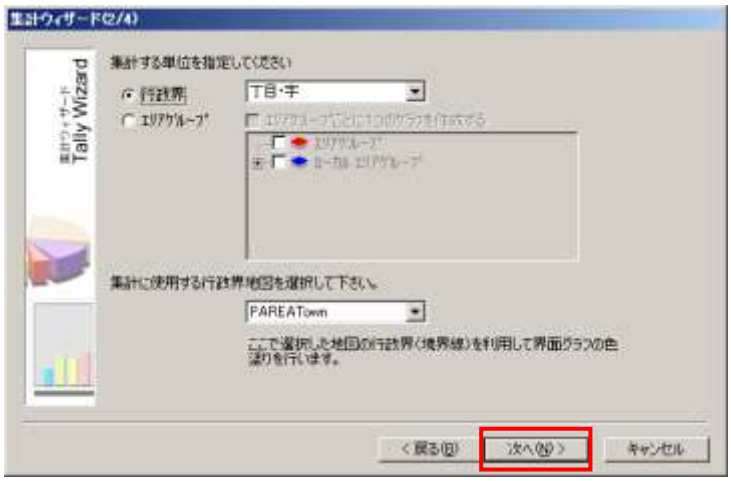
13.2.1.3 集計単位を設定する

ここでは第 2 画面の集計単位設定について説明します。

集計単位は行政界集計、メッシュ集計、エリア集計の 3 種類がありますが行政界集計とメッシュ集計は第 1 画面で選んだ指標のタイプによって自動設定されます。

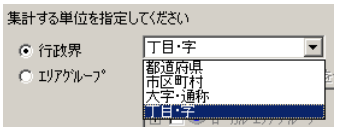
☞「13.2.1.3.1 行政界単位で集計する」(p. 13-11)
☞「13.2.1.3.2 メッシュ単位で集計する」(p. 13-12)
☞「13.2.1.3.3 郵便番号で集計する」(p. 13-12)
☞「13.2.1.3.4 エリアグループ単位で集計する」(p. 13-13)

集計単位の設定が終わったら[次へ]ボタンをクリックします。

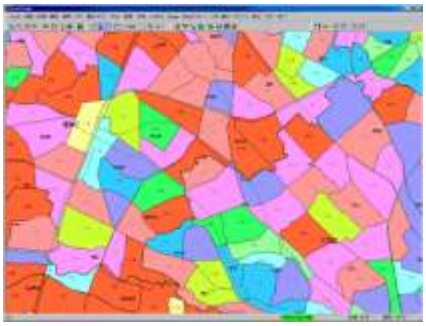


13.2.1.3.1 行政界単位で集計する

行政界データを選択した場合は集計する行政界単位（例えば市区町村単位あるいは丁目単位等）および集計の元になる行政界地図を選択します。



行政界単位で集計を行うと、住所レベルの指定に応じて画面上に以下のような行政界グラフが表示されます。



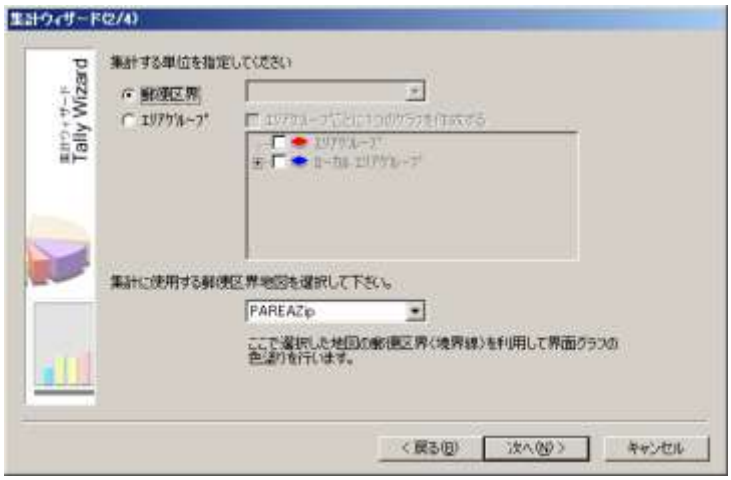
13.2.1.3.2 メッシュ単位で集計する

メッシュを選択した場合は集計するメッシュ単位（例えば 2 次メッシュ、3 次メッシュ等）を選択します。

メッシュ単位で集計を行うと、メッシュレベルの指定に応じて画面上に以下のようなメッシュグラフが表示されます。

13.2.1.3.3 郵便番号で集計する

第 1 画面で郵便番号の指標を選択すると集計単位が郵便区界になります。



郵便区界地図を選択してグラフ作成すると、画面上に以下のような郵便区界グラフが表示されます。

13.2.1.3.4 エリアグループ単位で集計する

行政界あるいはメッシュデータでエリアグループを選択した場合は、エリアグループのエリア形状で集計されたグラフが表示されます。

エリアグループは複数指定することができます。

行政界・メッシュ、どちらの指標を選んだ場合でもエリア集計は指定することができます。

エリアグループ単位で集計を行うと、統計データ（行政界あるいはメッシュ共に）グループに属するエリアの形状で按分し、按分集計値により画面上にグラフが表示されます。

エリアグラフとは異なります。エリアグラフはエリアの持つ属性をグラフ表現するものであり、エリア集計は統計データをエリアの形状で按分集計するものです。

「13.5 エリアグラフを作成する」(p. 13-29)

エリアグループ単位で集計を選んだ場合、集計実行前に下に示す集計方法の選択画面が表示されます。

集計方法の選択

面積按分	行政界（メッシュ）にエリアが掛かっている割合で、統計値を按分して集計します。
重心が含まれれば集計	行政界（メッシュ）の重心点がエリア内に含まれていれば、その行政界（メッシュ）の統計値を 100%集計します。

Xx%以上かかれば集計	行政界（メッシュ）がエリアに指定した割合以上かかっている場合は、その行政界（メッシュ）の統計値を 100%集計します。0%を指定すると、少しでもかかっていれば集計、を意味します。

集計値算出方法

エリアの集計値として、エリア内に含まれる行政界（メッシュ）の値をどのように集計した結果を採用するかを選択します。それぞれの値を「合算」するのが一般的ですが、「合算」の他に、「平均」「最大」「最小」も選択可能です。

算出方法のカラムをクリックすると、一覧が表示されますのでそこから選択してください。

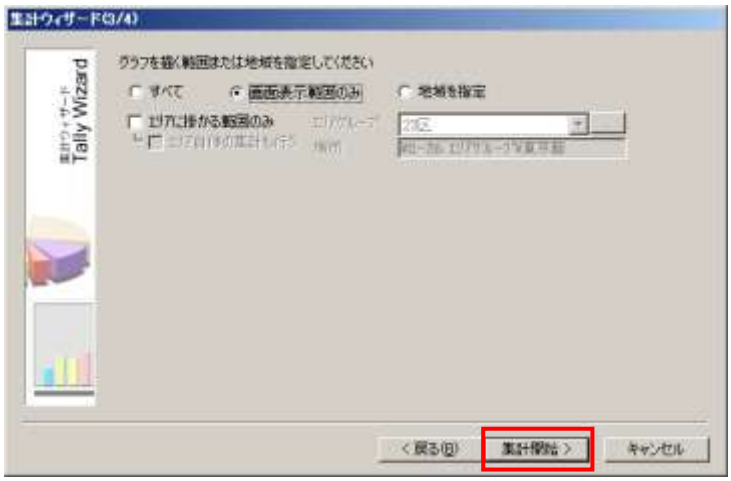
13.2.1.4 集計範囲を設定する

ここでは第 3 画面の集計範囲設定について説明します。

集計範囲はすべて、画面表示範囲のみ、地域指定の 3 種類があります。さらにその条件に合わせてエリアグループに掛かる範囲のみを集計することもできます。

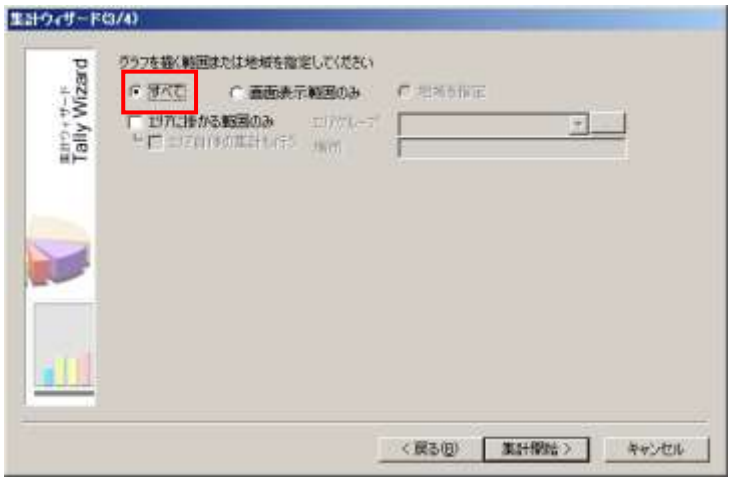
☞「13.2.1.3.1 行政界単位で集計する」(p. 13-11)
☞「13.2.1.3.2 メッシュ単位で集計する」(p. 13-12)
☞「13.2.1.3.3 郵便番号で集計する」(p. 13-12)
☞「13.2.1.3.4 エリアグループ単位で集計する」(p. 13-13)

集計情報の設定はここまでです。[集計開始]ボタンをクリックすると集計が開始されます。



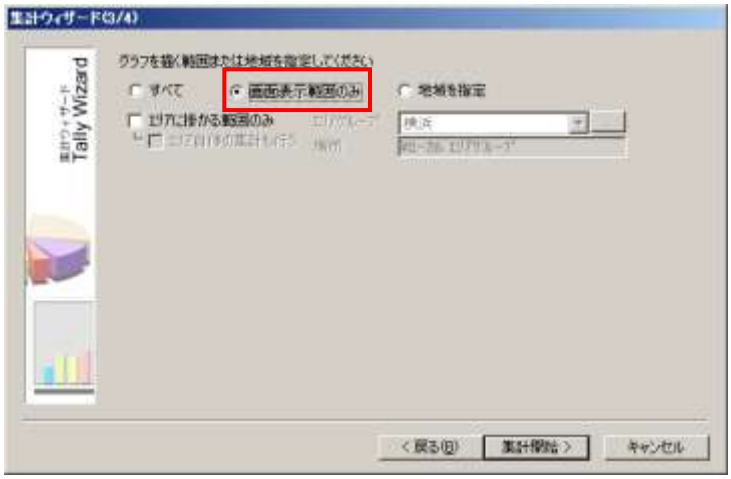
13.2.1.4.1 すべての範囲を集計する

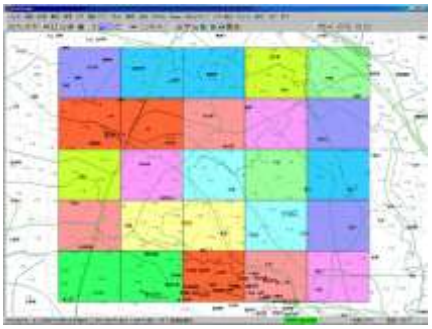
「すべて」の場合はデータで定義されている領域（行政界あるいはメッシュコードすべて）を集計します。



13.2.1.4.2 表示されている範囲のみを集計する

「画面表示範囲のみ」の場合は現在ディスプレイ上に表示されている地図範囲のみを集計します。この場合、ディスプレイ上に一部表示されている行政界あるいはメッシュが集計対象となります。

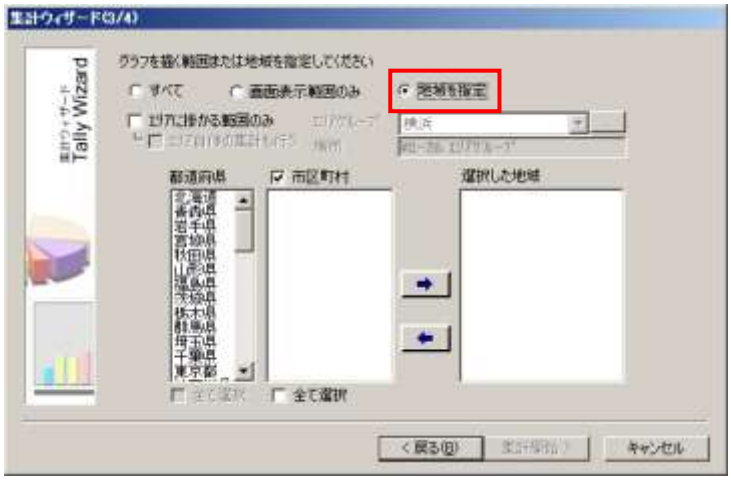




13.2.1.4.3 地域を指定して集計する

「地域を指定」の場合は明示的に地域を指定することができます。

1. 地域を指定を選択します。

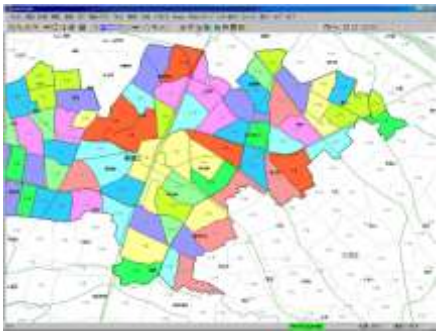


2. 都道府県をマウスで選択すると、都道府県に属する市区町村がリスト上に表示されます。

3. 市区町村をマウスで選択して[→]ボタンで右側の選択地域に登録します。

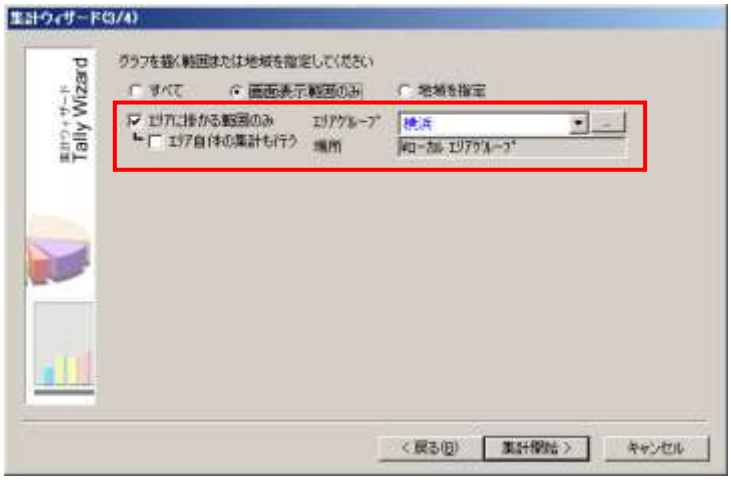
4. 必要に応じて[→]ボタンと[←]ボタンにより登録の入れ替えを行います。

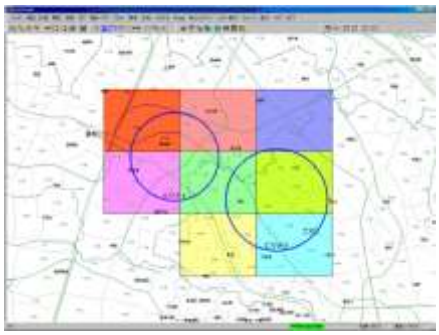
5. [集計開始]ボタンにより、登録された地域のみを集計します。



13.2.1.4.4 エリアグループの掛かる範囲のみを集計する

「エリアに掛かる範囲のみ」にチェックを付けた場合は、集計範囲の指定の他に更にその中で、指定したエリアに掛かる範囲のみを集計します。さらに「エリア自体の集計も行う」にチェックを付けるとエリア按分された集計結果が出力されます。



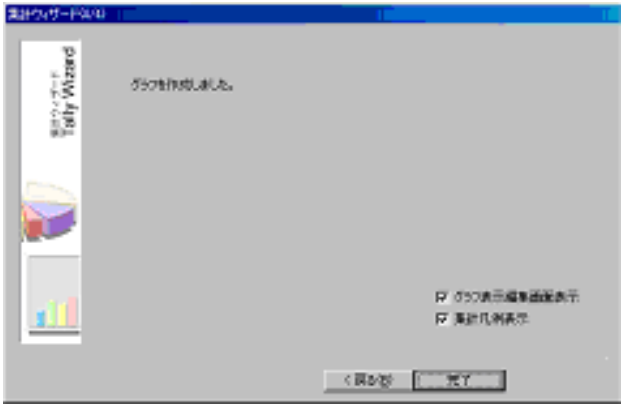


部分的に掛かっている領域も集計します。

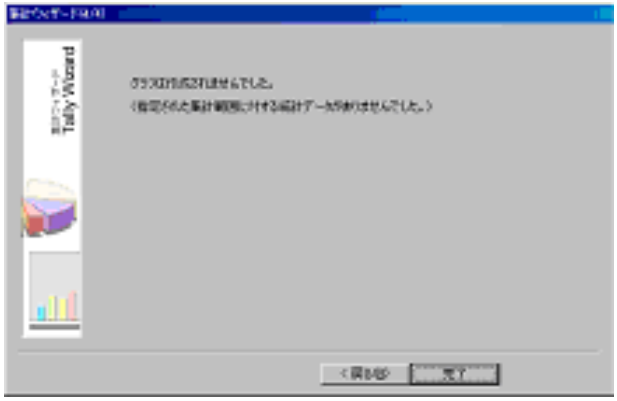
13.2.2 集計時のメッセージ

集計時のメッセージについて説明します。メッセージは第 4 画面に表示されます。

- 正常終了の場合



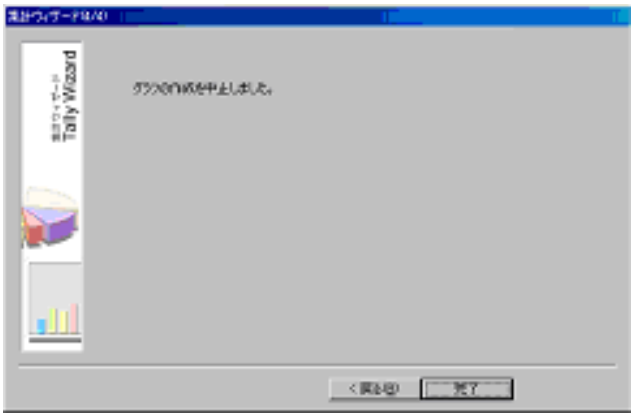
- 指定した集計範囲にデータが存在しない場合



- 集計不能なデータが存在する場合

⚠集計できない地域の詳細情報がリストに表示されます。リスト内容は「クリップボードへコピー」することができます。

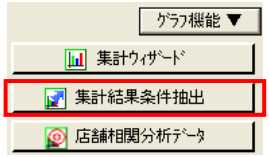
- 集計途中で[キャンセル]ボタンが押された場合



13.3 集計結果を条件指定で絞り込む

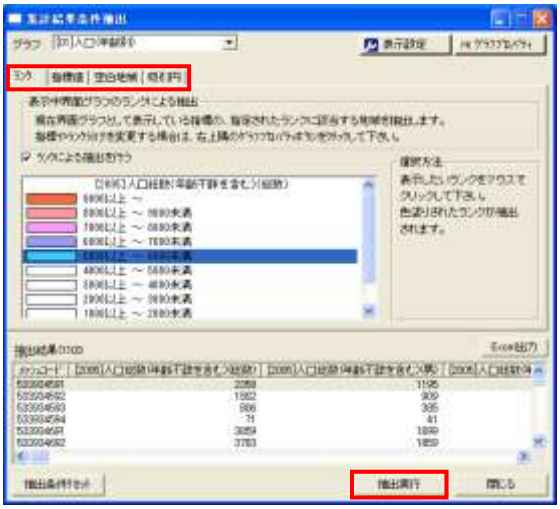
以下では、集計結果を条件指定で絞り込む方法について説明します。

1. グラフを作成した後、「集計結果条件抽出」ボタンをクリックします。



2. 対象のグラフを選択してください。

3. 条件はランク、指標値、空白地域、吸引エリアのいずれか（あるいは複数）で設定します。設定後、「抽出実行」ボタンにより、集計結果を絞り込むことができます。



☞「13.3.1.1 ランク条件を設定する」(p. 13-21)
☞「13.3.1.2 指標値条件を設定する」(p. 13-21)
☞「13.3.1.3 空白地域条件を設定する」(p. 13-22)
☞「13.3.1.4 吸引エリア条件を設定する」(p. 13-23)

13.3.1 条件の設定

ランク、指標値、空白地域、吸引エリアによる条件設定方法について説明します。

13.3.1.1 ランク条件を設定する

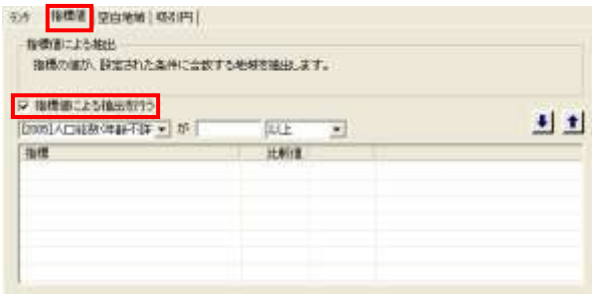
1. 「ランク」タブを選択し、「ランクによる抽出を行う」のチェックをオンにします。

グラフの種類は界面グラフが対象となります。

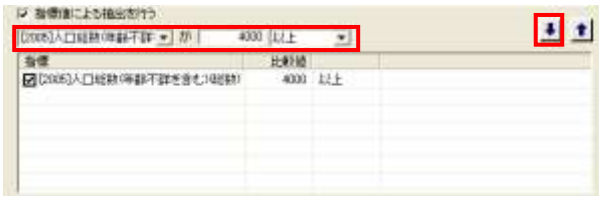
2. 抽出したいランクをマウスで選択していきます。再度マウスをクリックすると、未選択に戻ります。

13.3.1.2 指標値条件を設定する

1. 「指標値」タブを選択し、「指標値による抽出を行う」のチェックをオンにします。



2. 指標値を選択し、条件の選択と数値の入力を行い[↓]ボタンをクリックします。条件のキャンセルは[↑]ボタンを使用します。

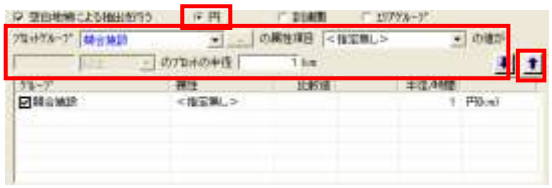


13.3.1.3 空白地域条件を設定する

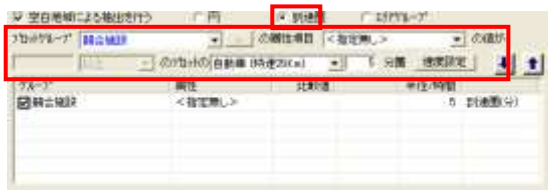
1. 「空白地域」タブを選択し、「空白地域による抽出を行う」のチェックをオンにします。

2. 空白地域エリアを設定します。
空白地域の選択種類には「円」「到達圏」「エリアグループ」があります。

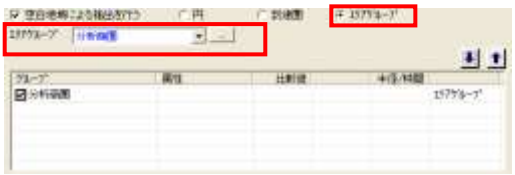
2.1 空白地域エリアを円商圏で指定する場合
エリアの種類として「円」を選択します。
プロットグループを選選択し、プロットの半径を入力し[↓]ボタンをクリックします。属性値による条件を付けたい場合には、属性項目とその条件を入力します。これにより、指定されたプロットを中心とした圏内を、抽出領域から除外することができます。設定のキャンセルは[↑]ボタン、あるいはリスト左側のチェックをオフにします。



2.2 空白地域エリアを到達圏商圏で指定する場合
エリアの種類として「到達圏」を選択します。
プロットグループを選択し、移動手段（車／自転車／徒歩）を選んで、移動時間を入力し[↓]ボタンをクリックします。[速度設定]をクリックすると、速度の変更が行えます。
属性値による条件については円商圏での指定と同じです。



2.3 空白地域を任意のエリアで指定する場合
エリアの種類として「エリアグループ」を選択します。
続いて作成済みのエリアグループを選択します。
属性値による条件については円商圏での指定と同じです。



13.3.1.4 吸引エリア条件を設定する

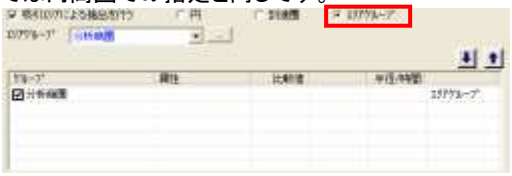
1. 「吸引エリア」タブを選択し、「吸引エリアによる抽出を行う」のチェックをオンにします。

2. 吸引エリアを指定します。
吸引エリアの選択種類には「円」「到達圏」「エリアグループ」があります。

2.1 吸引エリアを円商圏で指定する場合
エリアの種類として「円」を選択します。
プロットグループを選択し、プロットの半径を入力し[↓]ボタンをクリックします。属性値による条件を付けたい場合には、属性項目とその条件を入力します。これにより、指定されたプロットを中心とした圏内が、抽出領域となります。設定のキャンセルは[↑]ボタン、あるいはリスト左側のチェックをオフにします。

2.2 吸引エリアを到達圏商圏で指定する場合
エリアの種類として「到達圏」を選択します。
プロットグループを選択し、移動手段（車／自転車／徒歩）を選んで、移動時間を入力し[↓]ボタンをクリックします。[速度設定]をクリックすると、速度の変更が行えます。
属性値による条件については円商圏での指定と同じです。

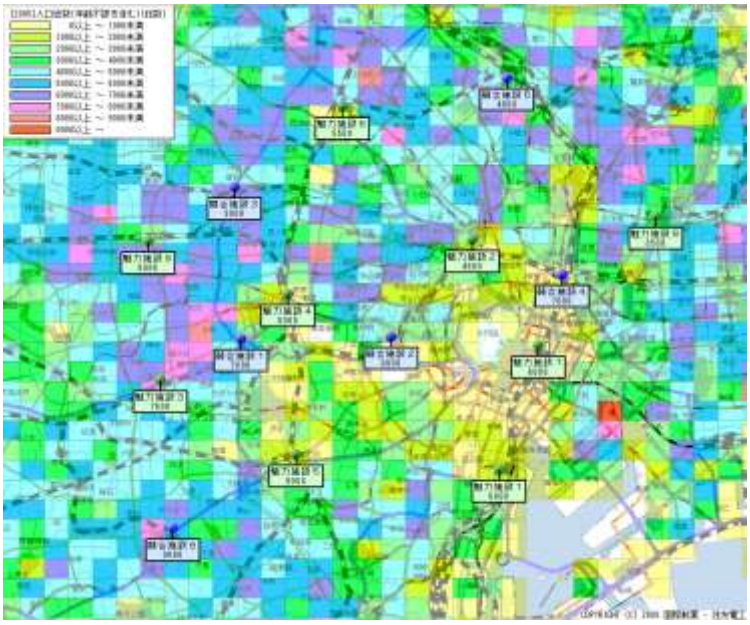
2.3 吸引地域を任意のエリアで指定する場合
エリアの種類として「エリアグループ」を選択します。
続いて作成済みのエリアグループを選択します。
属性値による条件については円商圏での指定と同じです。



13.3.2 抽出実行と条件のリセット

以下では、抽出の実行と条件のリセットについて説明します。

1. 条件を設定し「抽出実行」ボタンをクリックすると、条件に合致した領域が地図上に表示されます。



⇩

「抽出条件」は以下の通りです。
[ランク]：大きい方から5つを選択
[指標値]：[2005]人口総数が 5500 以上
[空白地域]：競合施設の施設面積が 5000 以上、1km 圏
[吸引エリア]：魅力施設の施設面積が 5000 以上、2km 圏

2. 「抽出条件リセット」ボタンをクリックすると、条件がクリアされ、元のグラフ表示に戻ります。

13.3.3 表示設定とグラフプロパティ

以下では、集計結果条件抽出の表示設定とグラフプロパティについて説明します。

13.3.3.1 表示設定を行う

1. 「表示設定」ボタンをクリックします。

2. 抽出したグラフおよび空白地域や吸引エリアの表示方法を設定（変更）できます。

13.3.3.2 グラフプロパティを変更する

1. 「グラフプロパティ」ボタンをクリックします。

2. 抽出したグラフおよび空白地域や吸引エリアの表示方法を設定（変更）できます。

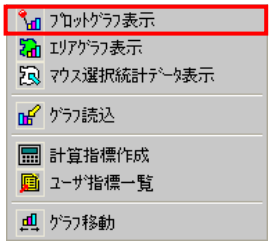
☞「13.6.8 プロパティを操作する」(p. 13-51)

13.4 プロットグラフを作成する

以下では、プロットグラフ表示の作成について説明します。

> **プロットグラフ:**
> プロット集計とは異なり集計単位はありません。単純にプロットごとに属性値をグラフ化します。
> 店舗の売上、売り場面積などをグラフ表示することができます。

1. 「プロットグラフ表示」画面を表示します。



グラフ機能メニュー

2. 集計情報、集計対象属性を設定してください。

「13.4.1 集計情報の設定」(p. 13-27)
「13.4.2 表示対象属性の設定」(p. 13-28)

「子グループも対象とする」にチェックを付けると子グループとの共通属性(同一名称)に対して集計可能となります。(指定したプロットグループに子グループが無い場合はこのチェックは無効です。)

3. [集計]ボタンをクリックすると、設定された条件で集計処理が開始されます。処理の進行状況はプログレスバーで確認できます。

プロットグラフ凡例は自動作成されます。
[中断]ボタンをクリックすると集計処理を中断し、グラフは作成されません。

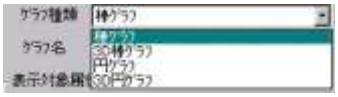
<<プロットグラフ表示で作成したグラフ>>

13.4.1 集計情報の設定

1. グラフ表示を行うプロットグループを選択します。

「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)
グループを選択するとグラフ名欄にグループ名称が自動表示されます。グラフ名は変更可能です。

2. グラフ種類は4種類の中から選択してください。

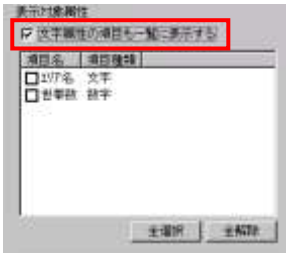


13.4.2 表示対象属性の設定

以下では、表示対象属性の設定について説明します。

1. 選択したプロットグループの属性項目が表示されます。ここでチェックを付けた項目に対して集計処理を行います。

2. 初期表示では数字項目のみが表示されています。「文字属性の項目も一覧に表示する」にチェックを付けると文字項目も表示されます。



3. [全選択]ボタンをクリックすると全項目にチェックが付きます。

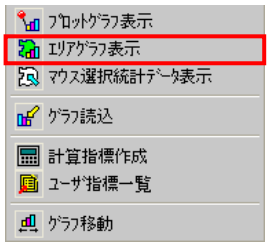
4. [全解除]ボタンをクリックすると全項目のチェックが外れます。

13.5 エリアグラフを作成する

以下では、エリアグラフ表示の作成について説明します。

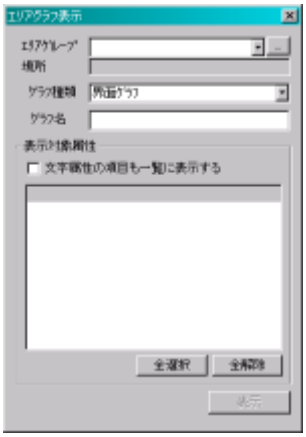
> **エリアグラフ:**
> エリアごとに属性値をグラフ化します。
> テリトリ内の顧客数、売上などをグラフ表示することができます。

1. 「エリアグラフ表示」画面を表示します。



グラフ機能メニュー

2. 集計情報、集計対象属性を設定してください。

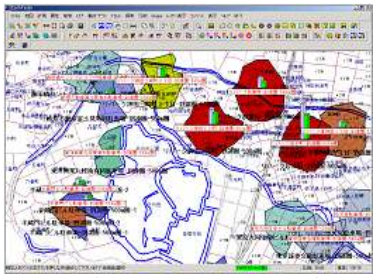


☞「13.5.1 集計情報の設定」(p. 13-30)
☞「13.5.2 集計対象属性の設定」(p. 13-31)

3. [集計]ボタンをクリックすると、設定された条件で集計処理が開始されます。処理の進行状況はプログレスバーで確認できます。

エリアグラフ凡例は自動作成されます。

[中断]ボタンをクリックすると集計処理を中断し、グラフは作成されません。



<<エリアグラフ表示で作成したグラフ>>

13.5.1 集計情報の設定

1. グラフ表示を行うエリアグループを選択してください。

「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

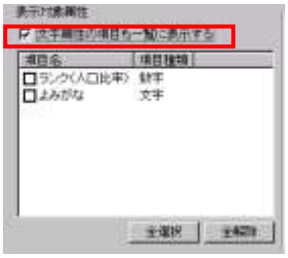
2. グラフ種類は5種類の中から選択してください。

13.5.2 集計対象属性の設定

以下では、集計対象属性の設定について説明します。

1. 選択したプロットグループの属性項目が表示されます。ここでチェックを付けた項目に対して集計処理を行います。

2. 初期表示では数字項目のみが表示されています。「文字属性の項目も一覧に表示する」にチェックを付けると文字項目も表示されます。



3. [全選択]ボタンをクリックすると全項目にチェックが付きます。

4. [全解除]ボタンをクリックすると全項目のチェックが外れます。

13.6 グラフを操作する

作成したグラフに対して以下の操作を行うことができます。

1) 名称変更
☞「13.6.1 グラフ名称を変更する」(p. 13-32)

2) 表示設定
☞「13.6.2 表示設定を行う」(p. 13-32)

3) 削除
☞「13.6.4 グラフ削除」(p. 13-46)

4) 読込み
☞「13.6.5 グラフを読込む」(p. 13-47)

5) 保存
☞「13.6.6 グラフ保存」(p. 13-48)

6) 出力
☞「13.6.7.1 レポートを出力する」(p. 13-48)
☞「13.6.7.2.1 Excel 形式で出力する」(p. 13-49)
☞「13.6.7.2.2 CSV 形式で出力する」(p. 13-50)

7) プロパティ操作
☞「13.6.8 プロパティを操作する」(p. 13-51)

13.6.1 グラフ名称を変更する

以下ではグラフ名称の変更について説明します。

1. グラフ欄でグラフを指定してから「名称変更」画面を表示します。

グラフ欄ポップアップメニュー

2. グラフ名を設定して[OK]ボタンをクリックしてください。

13.6.2 表示設定を行う

グラフ表示は 4 種類あります。

1) グラフの表示
☞「13.6.2.1.1 グラフ種類別に設定する」(p. 13-33)
☞「13.6.2.1.2 グラフを個別に設定する」(p. 13-33)

2) データの表示
☞「13.6.2.2.1 データを表示する」(p. 13-35)
☞「13.6.2.2.2 データを反転表示する」(p. 13-37)
☞「13.6.2.2.3 データを出力する」(p. 13-38)

3) グラフ詳細の表示
☞「13.6.2.3 グラフ詳細を表示する」(p. 13-44)

4) グラフ名称の表示
☞「13.6.2.4.1 グラフ種類別に設定する」(p. 13-44)

☞「13.6.2.4.2 グラフを個別に設定する」(p. 13-45)

13.6.2.1 グラフの表示

グラフ種類別に一括して表示設定を行う方法とグラフ個別に表示設定を行う方法があります。

☞「13.6.2.1.1 グラフ種類別に設定する」(p. 13-33)
☞「13.6.2.1.2 グラフを個別に設定する」(p. 13-33)

13.6.2.1.1 グラフ種類別に設定する

1. グラフ種類欄で表示したいグラフ種類にチェックを付けます。

2. [表示更新]ボタンをクリックすると選んだグラフ種類のグラフが全て表示されます。

13.6.2.1.2 グラフを個別に設定する

1. グラフ種類欄でグラフ種類を選択すると属するグラフがグラフ欄に表示されます。

2. 表示するグラフにチェックを付けて[表示更新]ボタンをクリックするとチェックを付けたグラフのみを地図上に表示します。

[全選択]ボタン・[全解除]ボタンでエリグラフ欄の全グラフを一度に選択・解除できます。

グラフ個別の表示設定はレイヤメニューからも操作できます。

「18.1.2 レイヤの表示/非表示を設定する」(p. 18-11)

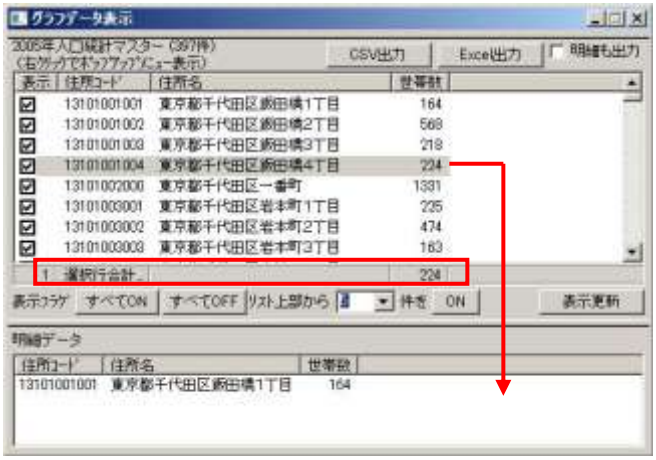
13.6.2.2 データの表示

以下では、データの表示について説明します。

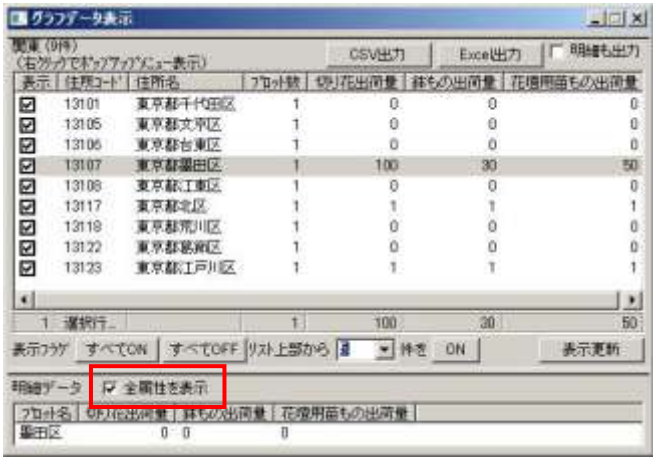
13.6.2.2.1 データを表示する

1. グラフ欄でグラフを指定してから「データ表示」画面を表示します。

グラフ欄ポップアップメニュー



上部のデータ行をクリックすると対応する明細が下部に表示されます。プロット集計の場合は「全属性を表示」が指定できます。また複数行を選択して、選択した数とそれぞれの属性値の合計を確かめることもできます。



2. 任意のデータ行をの上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

3. 選択した行を Excel 形式または CSV 形式で出力することができます。
☞「13.6.2.2.3 データを出力する」(p. 13-38)

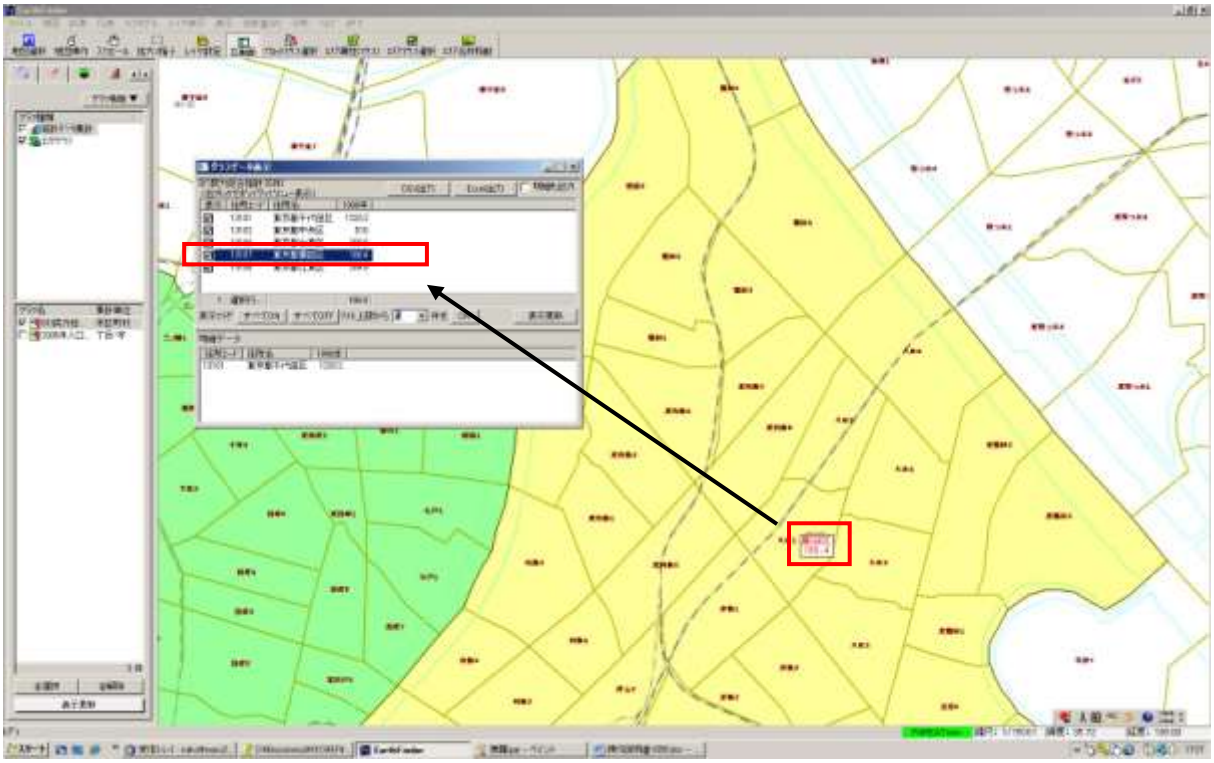
4. 選択したデータを表示・非表示することができます。
☞「13.6.2.2.4 データの表示・非表示を設定する」(p. 13-41)

5. 選択した行を削除することができます。
☞「13.6.2.2.5 データを削除する」(p. 13-42)

6. 「位置移動」を選択するとそのデータを中心に地図が位置移動します。
⚠複数行を選択している場合は「位置移動」は選択できません。

13.6.2.2.2 データを反転表示する

地図上に表示されたグラフをクリックするとデータ表示画面の該当行がハイライト表示されます。



13.6.2.2.3 データを出力する

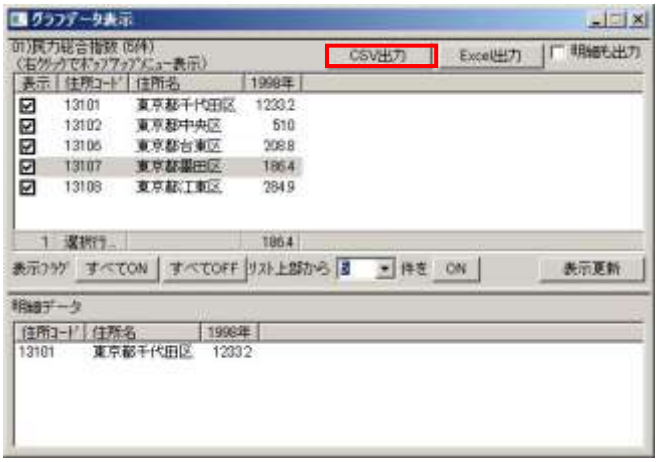
データ出力には Excel 形式と CSV 形式があります。また全データの出力と任意データの出力を指定できます。

13.6.2.2.3.1 Excel 形式で出力する

[Excel 出力]ボタンをクリックするかポップアップメニューから「Excel 出力」を選択してください。

13.6.2.2.3.2 CSV 形式で出力する

[CSV 出力]ボタンをクリックするかポップアップメニューから「CSV 出力」を選択してください。



13.6.2.2.3.3 明細データを出力する

「明細も出力」にチェックを付けて出力実行するかポップアップメニューから「選択行とその明細を出力」を選択してください。

Excel 形式で出力した場合は明細ごとにシートが作成されます。

CSV 形式で出力した場合は保存先のフォルダに明細ファイルを格納したフォルダが作成されます。

13.6.2.2.4 データの表示・非表示を設定する

任意のデータの表示・非表示を設定できます。

13.6.2.2.4.1 選択行の表示・非表示を設定する

ポップアップメニューから「選択行のみ表示」・「選択行を非表示」を選択すると該当行のデータの表示・非表示を設定できます。

13.6.2.2.4.2 データを指定して表示・非表示を設定する

各データの表示チェックボックスの付け外しによって表示・非表示を設定できます。[表示更新]ボタンをクリックするとチェックの付いているデータを表示し、チェックの外れているデータを非表示にします。

[すべて ON]・[すべて OFF]ボタンで全データのチェックの付け外しが行えます。

13.6.2.2.4.3 データを件数で指定して表示・非表示を設定する

リスト上部からの件数を指定して[ON]ボタンをクリックすると該当行のチェックが付きます。その後、[表示更新]ボタンをクリックすることで表示更新されます。

13.6.2.2.5 データを削除する

ポップアップメニューから「選択行を削除」を選択すると該当行のデータを削除できます。

13.6.2.2.6 プロット明細を集計する

ポップアップメニューから「選択行を削除」を選択すると該当行のデータを削除できます。
プロットを集計している場合は、明細データ（行政界内／商圏内のプロット）について、明細集計を行うことができます。

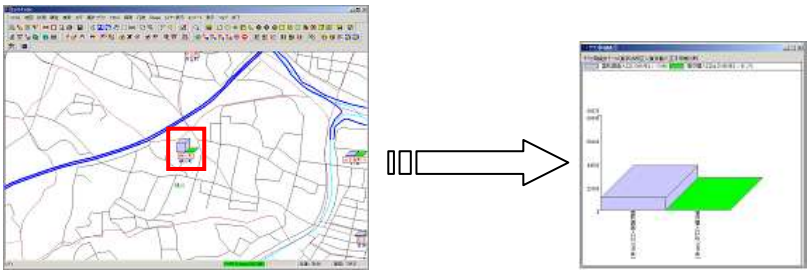
グラフデータ表示画面で[明細集計]ボタンをクリックすると、明細集計中の表示が出て、終了後「明細データ集計」画面が表示されます。

集計する属性項目を変更すると、明細集計中が表示され、終了後右側の集計結果一覧に反映されます。
[Excel 出力]ボタンをクリックすると、現在表示している明細が Excel ファイルに保存されます。

13.6.2.3 グラフ詳細を表示する

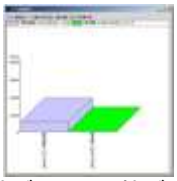
以下では、グラフの詳細表示について説明します。

1. 地図上のグラフをダブルクリックすると詳細が表示されます。

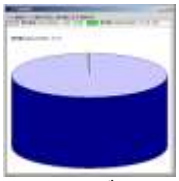


⚠界面グラフからは詳細を表示することができません。

2. 詳細表示もグラフの表示方法によって異なります。


<<棒グラフ・3D棒グラフ>>

<<円グラフ>>


<<3D円グラフ>>

13.6.2.4 グラフ名称を表示する

グラフ種類別に一括して表示設定を行う方法とグラフ個別に表示設定を行う方法があります。

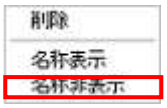
☞「13.6.2.4.1 グラフ種類別に設定する」(p. 13-44)
☞「13.6.2.4.2 グラフを個別に設定する」(p. 13-45)

13.6.2.4.1 グラフ種類別に設定する

1. グラフ種類欄ポップアップメニューから「名称表示」を選択すると選択しているグラフ種類で作成されている全グラフの名称が表示設定になります。

グラフ種類欄ポップアップメニュー

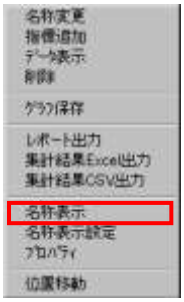
2. グラフ種類欄ポップアップメニューから「名称非表示」を選択すると選択しているグラフ種類で作成されている全グラフの名称が非表示設定になります。



グラフ種類欄ポップアップメニュー

13.6.2.4.2 グラフを個別に設定する

1. グラフ欄ポップアップメニューの「名称表示」を選択すると選択しているグラフの名称が表示設定になります。



グラフ欄ポップアップメニュー

表示設定されている時はチェックマークが付きます。再選択するとチェックマークが外れ、非表示設定になります。

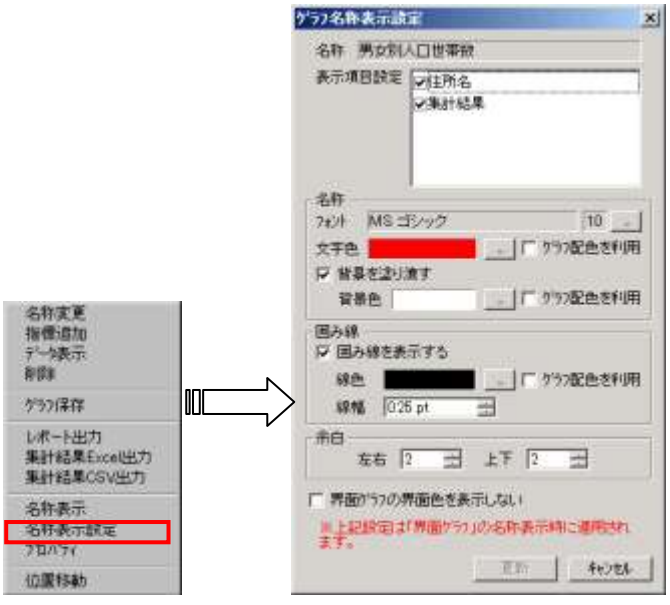
グラフ個別の名称表示設定はレイヤメニューからも操作できます。

「18.1.2 レイヤの表示/非表示を設定する」(p. 18-11)

13.6.3 グラフ名称表示設定

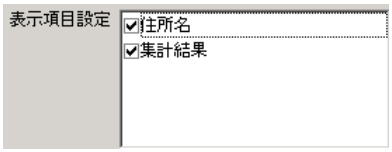
グラフの名称表示を設定することができます。

1. グラフ欄ポップアップメニューの「名称表示設定」を選択し、グラフ表示設定画面を表示します。

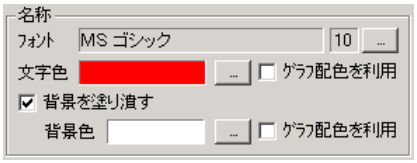


グラフ欄ポップアップメニュー

2. 表示する項目にチェックを付けて選択します。



3. フォント、文字色、背景色を選択します。



4. 名称枠の囲み線の設定を行います。

5. 余白の設定を行います。

6. 界面グラフで名称を表示するときに界面色を表示しない場合はチェックを付けます。

13.6.4 グラフ削除

グラフ種類別に一括して削除する方法とグラフ個別に削除する方法があります。

☞「13.6.4.1 グラフ種類別に削除する」(p. 13-46)
☞「13.6.4.2 グラフを個別に削除する」(p. 13-47)

13.6.4.1 グラフ種類別に削除する

1. グラフ種類欄でグラフ種類を指定してから「削除」を選択します。

グラフ種類欄ポップアップメニュー

2. 指定したグラフ種類で作成されたグラフが全て削除されます。

13.6.4.2 グラフを個別に削除する

1. グラフ欄でグラフを指定してから「削除」を選択します。

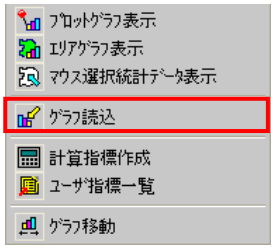
グラフ欄ポップアップメニュー

2. 指定したグラフが削除されます。

13.6.5 グラフを読込む

以下では、グラフ読込みについて説明します。

1. 「グラフ読込」を選択します。



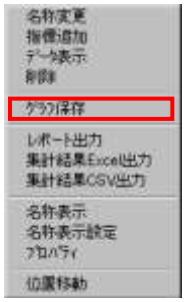
グラフ機能メニュー

2. 読込み元、ファイル名を指定すると保存してあったグラフを読み込むことができます。

13.6.6 グラフ保存

以下では、グラフ保存について説明します。

1. グラフ欄でグラフを指定してから「グラフ保存」を選択します。



グラフ欄ポップアップメニュー

2. 保存先、ファイル名を指定すると選択したグラフが保存されます。

この方法で保存したファイルが「グラフ読込み」で読込むことのできるファイルです。

「13.6.5 グラフを読込む」(p. 13-47)

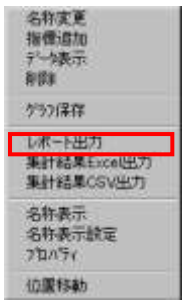
13.6.7 グラフ出力

以下では、グラフ出力について説明します。

13.6.7.1 レポートを出力する

レポート出力では地図上に描画されたグラフイメージとデータが Excel ファイルに保存されます。

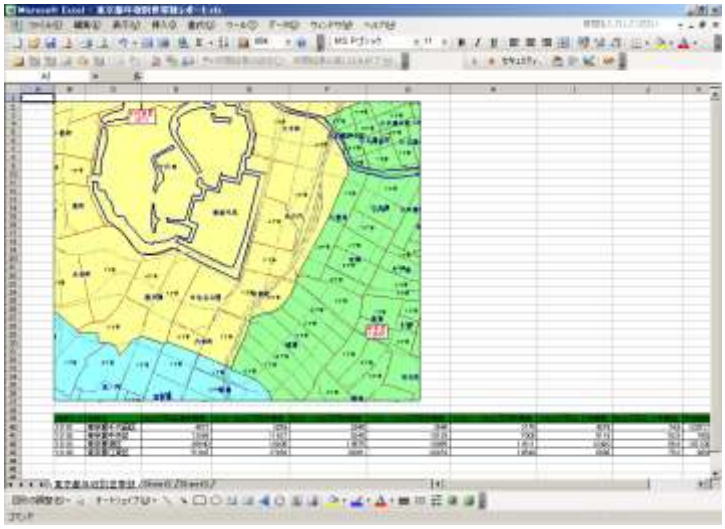
1. グラフ欄でグラフを指定してから「レポート出力」を選択します。



グラフ欄ポップアップメニュー

2. 出力が完了するとメッセージが表示されます。

[はい]を選択すると出力結果が表示されます。



13.6.7.2 集計結果を出力する

集計結果出力では Excel 形式と CSV 形式を選択できます。

13.6.7.2.1 Excel 形式で出力する

1. グラフ欄でグラフを指定してから「集計結果 Excel 出力」を選択します。

グラフ欄ポップアップメニュー

2. 保存先、ファイル名を指定すると選択したグラフが Excel 出力されます。

13.6.7.2.2 CSV 形式で出力する

1. グラフ欄でグラフを指定してから「集計結果 CSV 出力」を選択します。

グラフ欄ポップアップメニュー

2. 保存先、ファイル名を指定すると選択したグラフが CSV 出力されます。

13.6.8 プロパティを操作する

以下では、グラフプロパティの編集について説明します。

1. グラフ欄でグラフを指定してから「グラフ表示編集」画面を表示します。

グラフ欄ポップアップメニュー

2. [更新]ボタンをクリックすると設定した内容で地図上にグラフを表示します。

「13.6.8.1 編集グラフの設定」(p. 13-52)
「13.6.8.2 表示条件設定」(p. 13-52)

[更新]ボタンをクリックしても地図上にグラフが表示されない場合はグラフ自体が非表示設定になっている可能性があります。

「13.6.2.1 グラフの表示」(p. 13-33)

グラフ作成時に自動作成された凡例には表示編集の変更内容が反映されます。

13.6.8.1 編集グラフの設定

以下では、編集グラフの設定について説明します。

1. グラフ名ドロップダウンから編集を行うグラフを選択してください。

2. 選択したグラフの現在の設定内容が反映されます。

グラフ名をキーボードで編集して[更新]ボタンを押すと名称が変更されます。

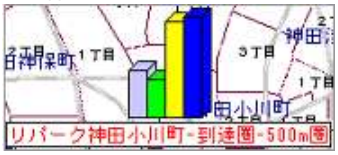
13.6.8.2 表示条件設定

以下では、表示条件設定について説明します。

1. グラフ種類には以下のものがあります。

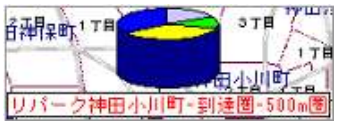
●棒グラフ

●3D 棒グラフ



●円グラフ

●3D 円グラフ



●バブルグラフ

●界面グラフ

2. 選択するグラフ種類によって[表示条件設定]欄の項目が変わります。

「13.6.8.2.1 棒グラフ・3D 棒グラフで表示する」(p. 13-53)
「13.6.8.2.2 円グラフで表示する」(p. 13-55)
「13.6.8.2.3 3D 円グラフで表示する」(p. 13-56)
「13.6.8.2.4 バブルグラフで表示する」(p. 13-58)
「13.6.8.2.5 界面グラフで表示する」(p. 13-59)
プロットグラフ表示で作成したグラフの場合は界面グラフで表示することはできません。

13.6.8.2.1 棒グラフ・3D 棒グラフで表示する

1. 最大グラフ高、最大グラフ幅を設定します。

最大グラフ高、最大グラフ幅はそのグラフ中の最大値を表示するときの高さと幅です。よって最大グラフ高、最大グラフ幅を大きくすればグラフ自体が大きく表示されます。

- 最大グラフ高:100、最大グラフ幅:20

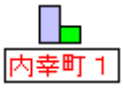
- 最大グラフ高:200、最大グラフ幅:40

最大グラフ高は 1～200、最大グラフ幅は 1～100 の半角数字で設定してください。

2. 基準線値を設定します。

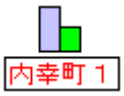
基準線値はグラフ高の基準となる値です。

- 基準線値:0



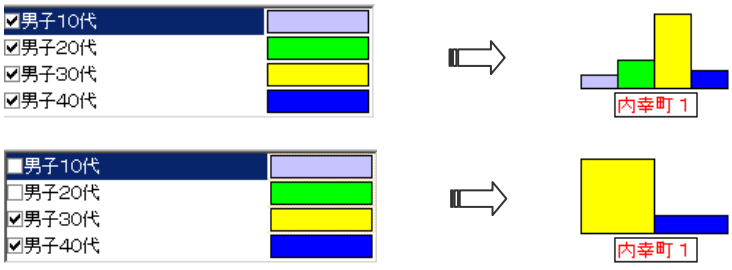
- 基準線値:100

- 基準線値:-100



基準線値は-9999999～2147483647 の半角数字で設定してください。

3. 表示する項目を選択します。



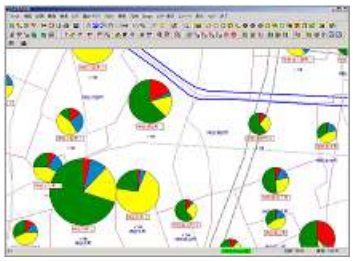
4. 項目ごとに表示色、ハッチパターンを設定できます。

13.6.8.2.2 円グラフで表示する

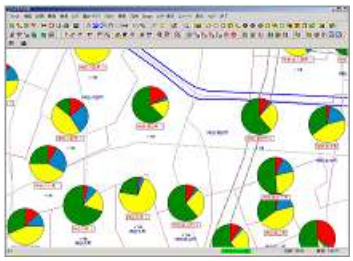
1. 最大円半径、最小円半径を設定します。

最大円半径、最小円半径はそのグラフ中の最大値と最小値を表示するときの半径です。よって最大円半径と最小円半径の差を大きく設定すると地図上の円グラフの大きさの差が広がります。

- 最大円半径:100、最小円半径:1



- 最大円半径：60、最小円半径：55



⚠円半径は 1～100 の半角数字で設定してください。また最大円半径は常に最小円半径より大きい値しか設定できません。

2. 表示色、ハッチパターンを設定します。

☞「13.6.8.2.1 棒グラフ・3D 棒グラフで表示する」(p. 13-53)

13.6.8.2.3 3D 円グラフで表示する

1. 半径を設定します。

☞「13.6.8.2.2 円グラフで表示する」(p. 13-55)

2. 高さ情報を設定します。

3. 3D 最大グラフ高を設定します。

最大グラフ高はそのグラフ中の最大値を表示するときの高さです。よって最大グラフ高を大きくすればグラフ自体が高く表示されます。

- 最大グラフ高:50

- 最大グラフ高:150

最大グラフ高は 1～150 の半角数字で設定してください。

4. 表示色、ハッチパターンを設定します。

「13.6.8.2.1 棒グラフ・3D 棒グラフで表示する」(p. 13-53)

13.6.8.2.4 バブルグラフで表示する

1. 指標を設定します。

2. 最大円半径・最小円半径を設定します。

指標値の大きさに従って、円(バブル)の大きさを変えて表示されます。バブルの大きさは最大円半径と最小円半径の間で表示されます。

3. 表示色、ハッチパターンを設定します。

「13.6.8.2.1 棒グラフ・3D 棒グラフで表示する」(p. 13-53)

13.6.8.2.5 界面グラフで表示する

1. 表示ランク数を設定します。

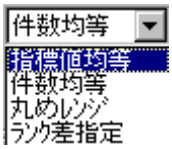
表示ランク数はグラフデータの値をランク分けする値です。大きい値を設定する程、細かく色分け表示されます。また、表示ランク数欄の入力はその都度、項目ごと設定欄に反映されます。

- ランク数:4

- ランク数:2

表示ランク数は 1～214 の半角数字で設定してください。

2. ランク分類を 4 種類の中から選択します。



「13.6.8.2.5.1 ランク分類の設定」(p. 13-60)

3. 配色を「既定の配色」か「グラデーション色」とします。

「13.6.8.2.5.2 グラデーション表示」(p. 13-61)

4. 二つ目の項目を選択すると、クロス集計表示となります。

「13.6.8.2.5.3 クロス集計表示」(p. 13-62)

5. 表示色、ハッチパターンを設定します。

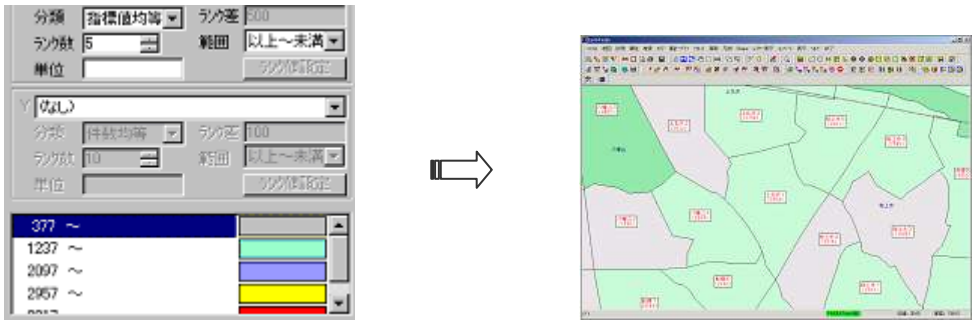
「13.6.8.2.1 棒グラフ・3D 棒グラフで表示する」(p. 13-53)

6. 任意で単位を設定します。単位は凡例に反映されます。

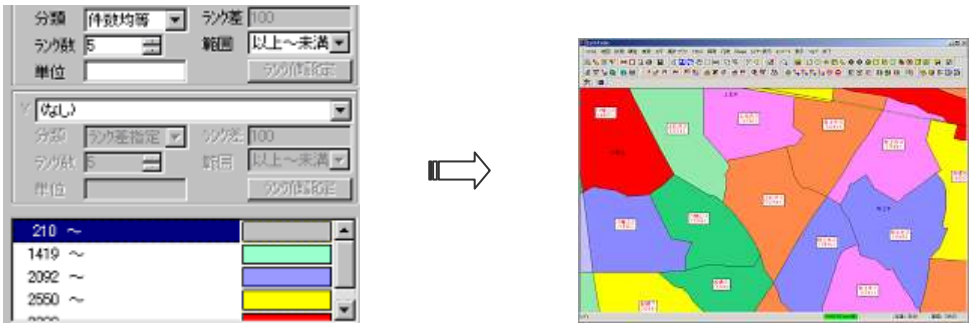
「16.2.2 凡例パレットを編集する」(p. 16-2)

13.6.8.2.5.1 ランク分類の設定

1. 指標値均等を選択すると、グラフデータの最大値と最小値間を指定したランク数で均等に割って表示します。

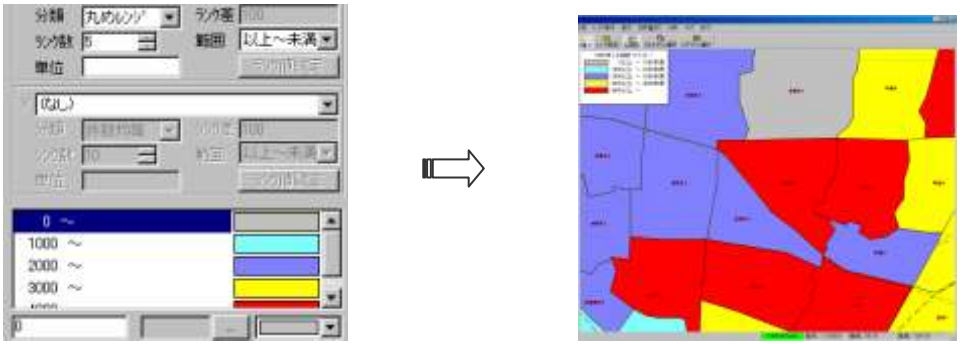


2. 件数均等を選択すると、指定した各ランクで件数が等しくなるように値が割り振られます。

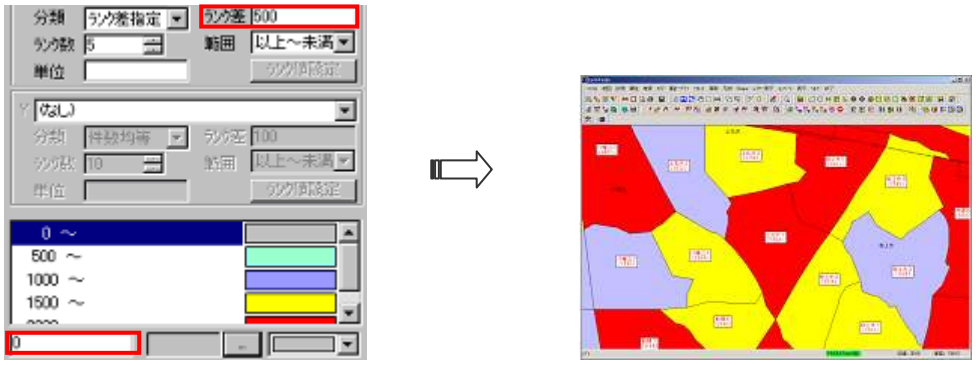


⚠件数均等の場合は、データのランク分類種類によって、設定できるランク数が制限されます。例えば全てのデータが「0」か「1」のいずれかに属する場合、ランク数は「2」までしか設定できません。

3. 丸めレンジを選択すると、ランクのきざみ幅をスッキリした数字に丸めます。



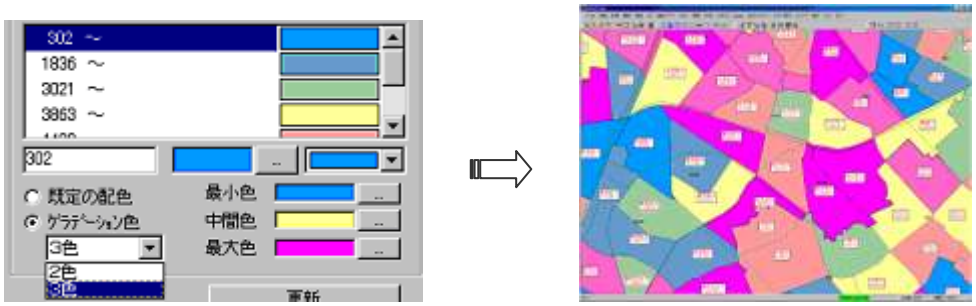
4. ランク差指定を選選択するとランク差入力欄が有効になります。指定したランク数とランク差に従って表示されます。



ℹランク差指定の場合は通常、初期値（上記例では 0）とランク差をキー入力します。

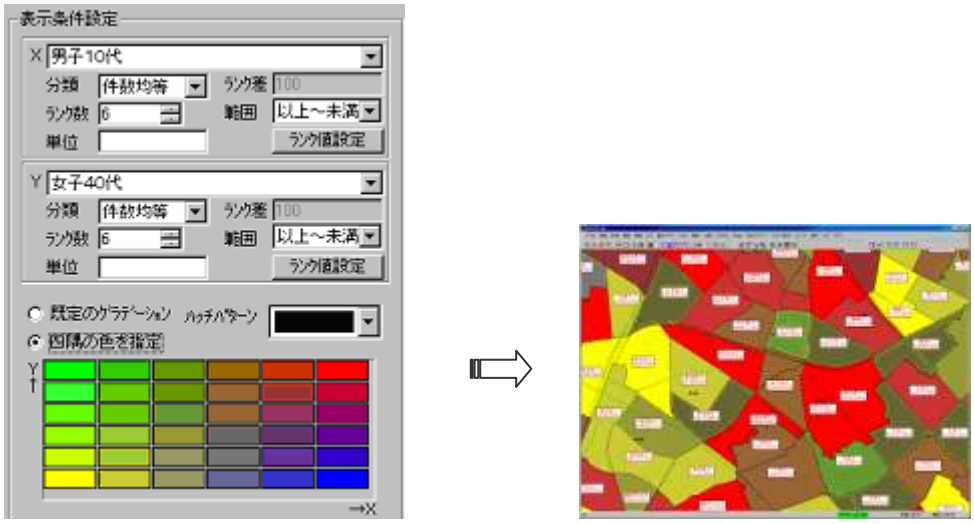
13.6.8.2.5.2 グラデーション表示

グラデーション色の場合は「2 色」あるいは「3 色」を選択し、最小色と最大色（3 色の場合は中間色も）を与えます。設定色の間の色が自動補間されます。



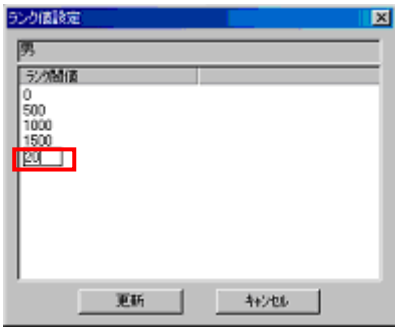
13.6.8.2.5.3 クロス集計表示

1. 一つ目の項目(X軸)に加えて、二つ目の項目(Y軸)を設定するとクロス集計表示となります。2 つの指標の大小を連携させて分析することができます。



2. 「四隅の色を指定」を選択し、四隅のどれかの色をマウスクリックすると任意を色を設定することができます。

3. クロス集計の場合のランク値の設定は、[ランク値設定]ボタンを使用します。ランク値設定画面上で、数値をダブルクリックしてキー入力します。



通常の界面グラフとクロス集計の界面グラフでは凡例の表示方法が異なります。

「16.2.2 凡例パレットを編集する」(p. 16-2)

13.6.8.3 表示オプション設定

地図の表示サイズに従ってグラフもリサイズすることができます。

設定方法は「レイヤ設定」画面と同じです。

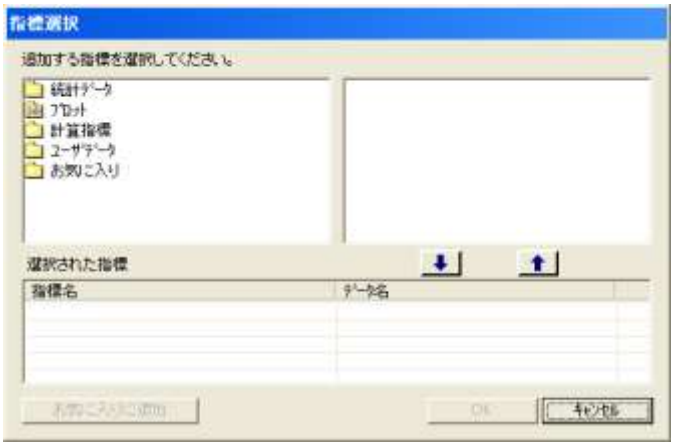
「18.1.4.6 リサイジングを設定する」(p. 18-16)

13.6.9 指標を追加する

すでに作成したグラフに対して、後から指標を追加することができます。

グラフ欄でグラフを指定してから右ボタンポップアップメニューで「指標追加」を選び、「指標選択」画面を表示します。

グラフ欄ポップアップメニュー

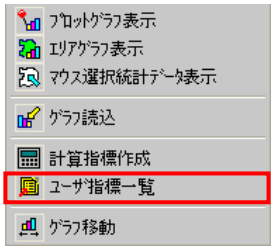


集計ウィザードの統計指標と同様の操作で追加する指標を選択します。

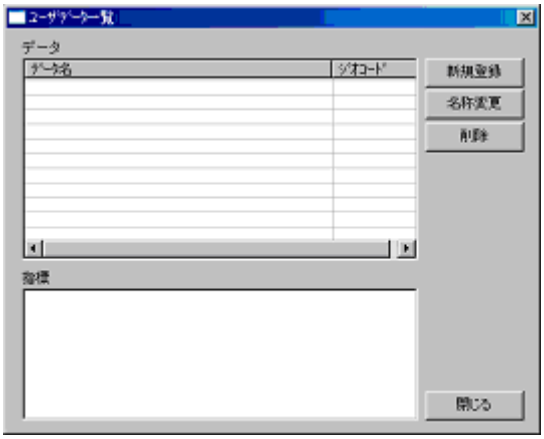
13.7 ユーザデータを管理する

お手持ちのデータを管理します。ユーザデータに登録することで市販の統計データと同様の操作でグラフを作成することができます。

「ユーザ指標一覧」画面を表示します。

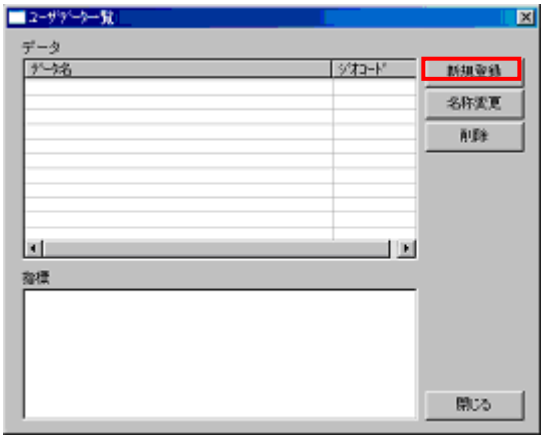


グラフ機能メニュー



13.7.1 ユーザデータを登録する

1. [新規登録]ボタンをクリックし、ファイルを指定します。



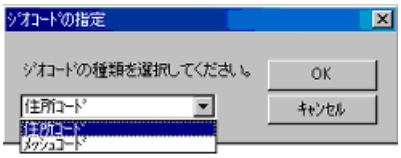
指定するファイルは CSV ファイル、または Excel ファイルです。

「22.1.1 グラフデータのフォーマット」(p. 22-1)

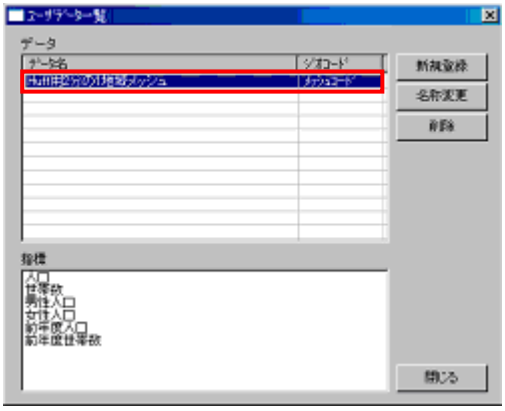
登録したファイルの内容が変更された場合は、一度削除して再登録して下さい。

「13.7.3 ユーザデータを削除する」(p. 13-66)

2. ファイルを指定した後、ジオコードの種類を選択します。Excel ファイルの場合にはシートの選択も行います。

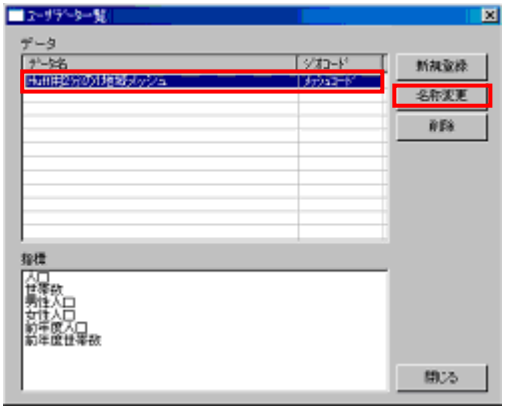


3. 「ユーザデーター覧」画面に登録されます。



13.7.2 ユーザデータの名称を変更する

1. 一覧からユーザデータを指定してから[新規登録]ボタンをクリックします。



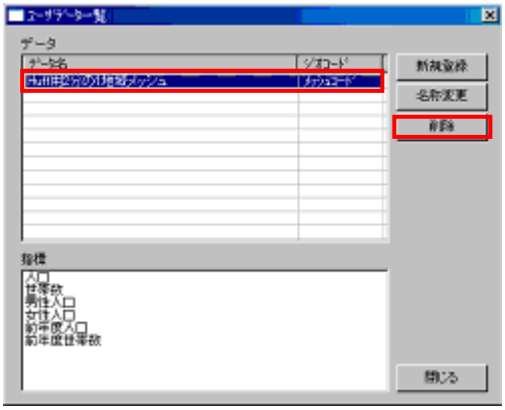
2. 「名称の変更」画面が表示されます。

⚠計算指標で使用されているユーザデータは名称変更できません。

☞「13.8 計算指標を作成する」(p. 13-67)

13.7.3 ユーザデータを削除する

1. 一覧からユーザデータを指定してから[新規登録]ボタンをクリックします。

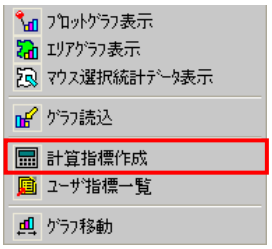


2. 削除確認が表示されます。

13.8 計算指標を作成する

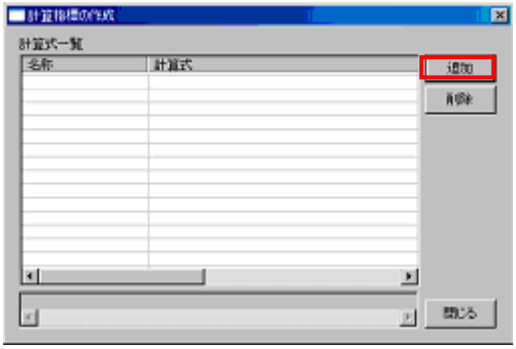
既存の指標の他に、いくつかの指標を組み合わせて計算する新たな指標を定義することができます。

1. 「計算指標作成」画面を表示します。



グラフ機能メニュー

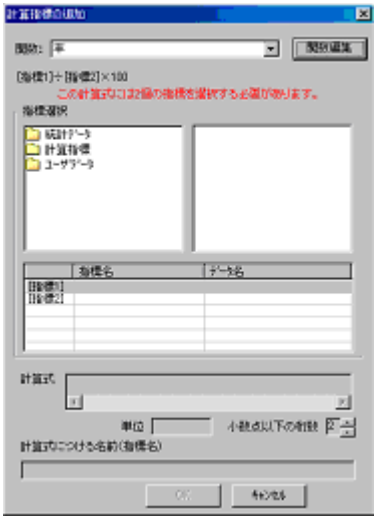
2. [追加]ボタンにより新たな計算指標を追加します。



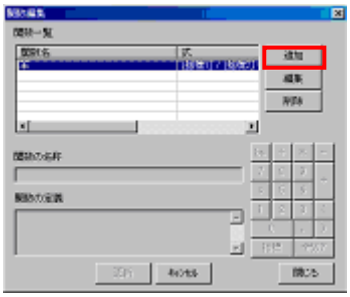
13.8.1 関数を追加する

計算指標を作成するには予め関数を登録する必要があります。関数とは、指標をパラメータにした場合の計算式です。

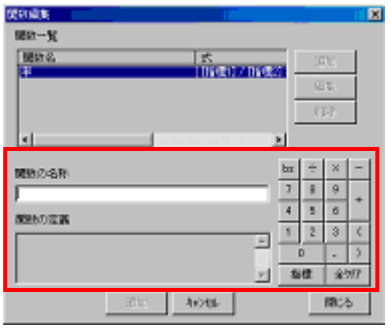
1. [追加]ボタンをクリックすると「計算指標の追加」画面が表示されます。



2. [関数編集]ボタンをクリックすると「関数編集」画面が表示されます。[追加]ボタンをクリックします。



3. 入力ができるようになります。

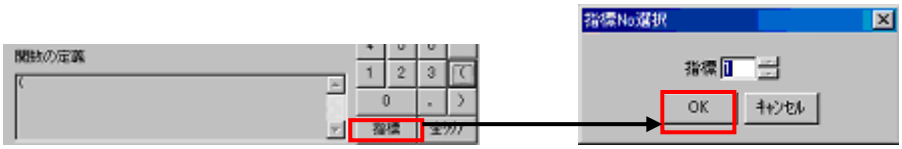


4. 関数の名称を入力します。

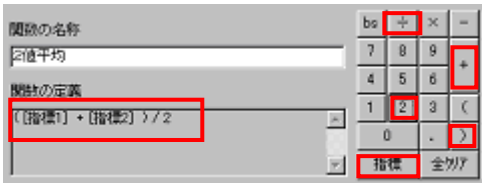
5.からは 2 値平均の関数作成を例に説明します。

5. 括弧を追加します。

6. 指標を追加します。



7. 「＋」「指標」と続けて、更に「」」「÷」「2」で関数定義を完成させます。



同一指標が複数計算式に現れる場合は、指標設定の際にスピンコントロールで増減して下さい。

8. 計算式が正しいことを確認して[追加]ボタンを押して下さい。関数編集画面上に新たに 2 値平均が追加されます。

計算式に誤りがあった場合は、必要に応じて「全クリア」「bs（バックスペース）」を使用します。

9. 計算式登録後、修正や削除が必要になったら[編集][削除]ボタンを使用します。修正方法は追加方法と同じです。

式中の演算子の優先度は通常の四則演算に準拠します。

この他の例として「100 分率（指標 1÷指標 2×100）」「割合（指標 1÷指標 2）」「3 値平均（（指標 1＋指標 2＋指標 3）÷3）」なども考えられます。

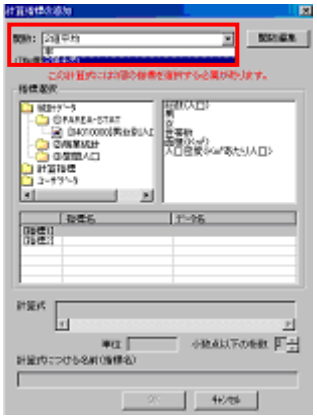
関数は計算指標を定義する際に何度でも使えるので、予め必要個数を用意すると良いかもしれません。

「13.8.1 関数を追加する」(p. 13-67)

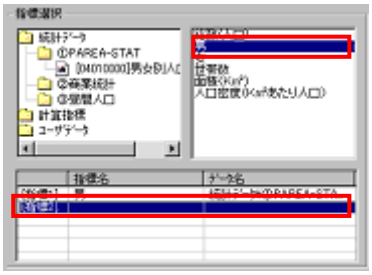
13.8.2 計算指標を追加する

関数を使って計算指標を追加します。

1. 計算指標追加画面で、予め定義された関数を選択します。



2. 選択された関数により割り当てる指標の数が特定されます。最初は指標 1 が選択状態となっているので、その指標に統計データあるいはユーザデータの任意の指標を割り当てます。割当方法は指標をダブルクリックします。



3. 同様に残りの指標にも、既存の任意の指標をダブルクリックすることにより割り当てます。

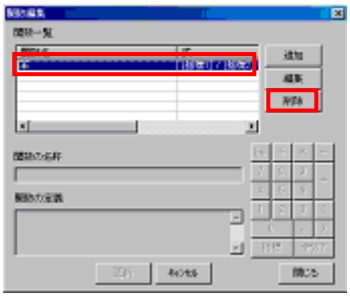
既存データの指標の他に、既に登録されている計算指標の結果を関数の一つの指標に割り当てて、より複雑な計算をすることも可能です。

4. 最後に計算式に名前を付けます。任意で単位を入れ[OK]ボタンをクリックすると、計算指標の作成画面に追加・登録されます。

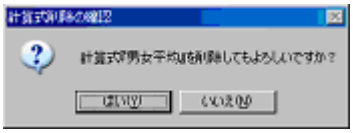
13.8.3 計算指標を削除する

計算指標の作成画面上で[削除]ボタンをクリックし、確認をします。

1. 指標を指定してから[削除]ボタンをクリックします。



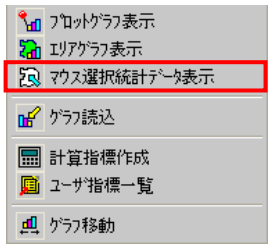
2. 削除確認が表示されます。



13.9 マウスで選択して統計データを表示する

以下では、マウス選択統計データ表示について説明します。

1. 「統計データ表示」画面を表示します。



グラフ機能メニュー

2. 選択した場所の統計データがリストに追加され、CSV 形式か Excel 形式でファイル出力することができます。

場所の指定は「マウスクリック」または「フリー円作成」で行います。

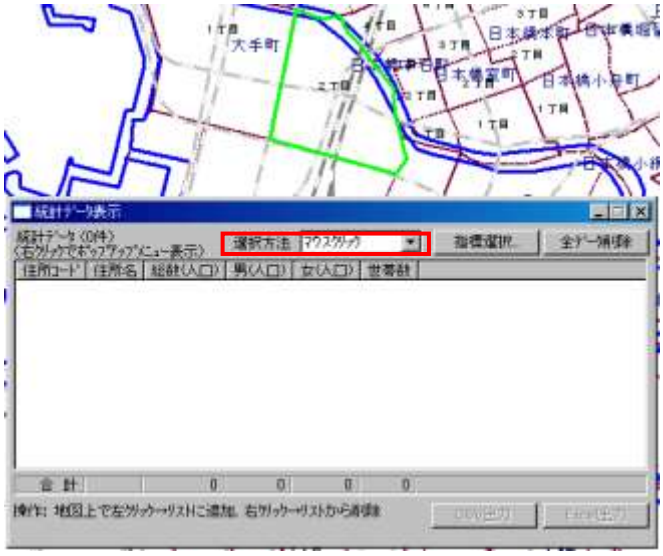
「13.9.1.1 マウスクリックで指定する」(p. 13-73)
「13.9.1.2 フリー円作成で指定する」(p. 13-74)
「13.9.2 統計データのファイル出力」(p. 13-75)

13.9.1 場所の指定

以下では、場所の指定方法について説明します。

13.9.1.1 マウスクリックで指定する

1. 「選択方法」でマウスクリックを選択すると地図上の行政界がハイライト表示されます。



2. 左クリックするとこの場所の統計データがリストに追加されます。

右クリックするとリストから削除されます。

[全データ削除]ボタンをクリックするとリストがクリアされます。

[指標選択]ボタンをクリックすると「指標選択」画面が表示されます。

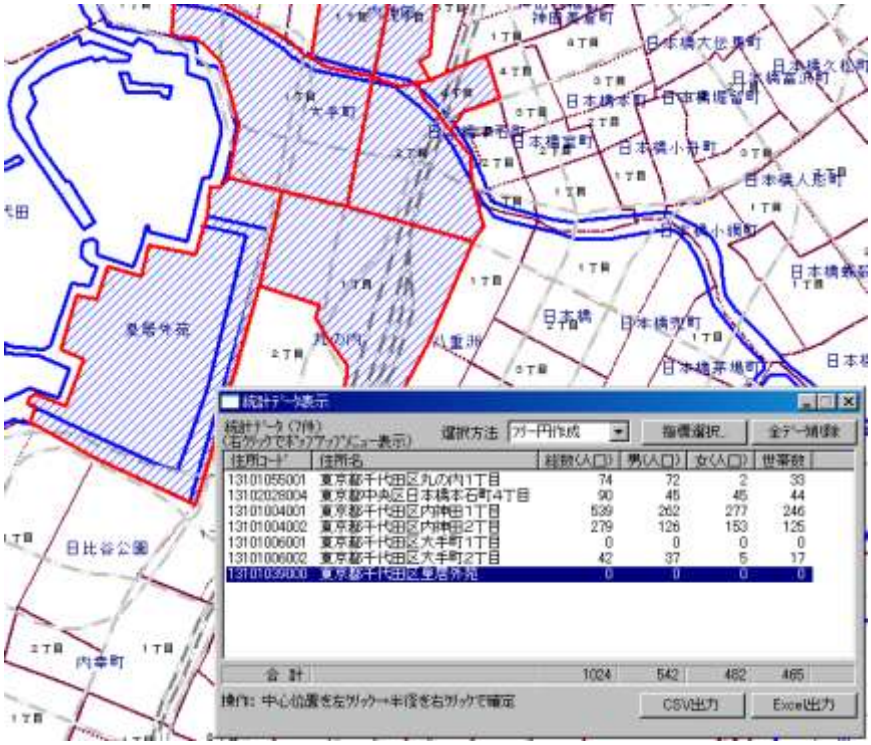
「13.2.1.1 指標あるいはプロットを選択する」(p. 13-6)

13.9.1.2 フリー円作成で指定する

1. 「選択方法」でフリー円作成を選択して地図上で左クリックし、円の中心位置を決定します。そのままドラッグすると円が描かれます。

2. 右クリックして「確定」を選択すると円が確定されます。「リセット」を選択すると円を描きなおすことができます。

3. 描いた円がかかる地域が選択され、その場所の統計データがリストに追加されます。



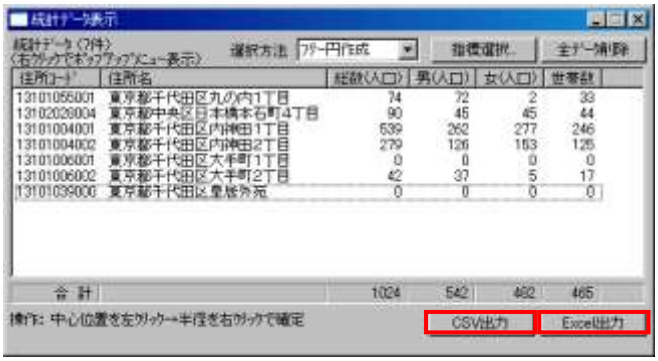
[全データ削除]ボタンをクリックするとリストがクリアされます。

[指標選択]ボタンをクリックすると「指標選択」画面が表示されます。

「13.2.1.1 指標あるいはプロットを選択する」(p. 13-6)

13.9.2 統計データのファイル出力

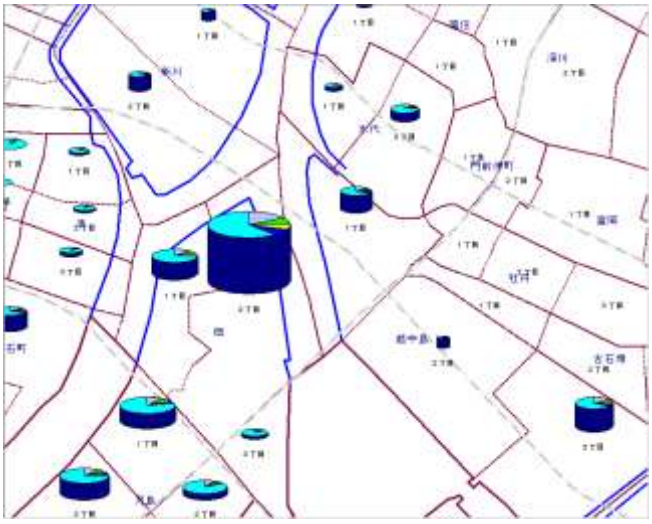
[CSV 出力]ボタン、[Excel 出力]ボタンをクリックすると「名前を付けて保存」画面が表示されます。



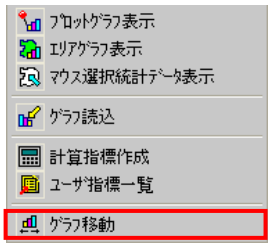
13.10 グラフを移動する

以下では、グラフ移動について説明します。グラフ移動はグラフ同士が重なったり密着していて見づらい場合に便利です。

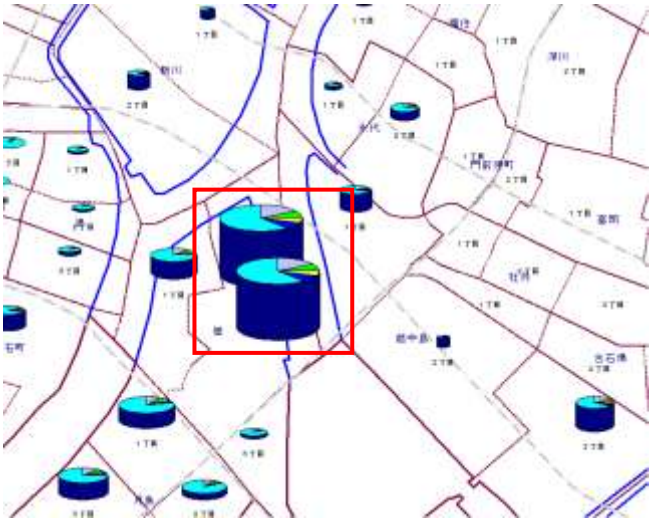
1. 界面以外のグラフを表示します。



2. グラフ機能メニューの「グラフ移動」をクリックしてから地図上のグラフをクリックすると移動が可能になります。再度、地図上をクリックするとグラフの位置が確定されます。



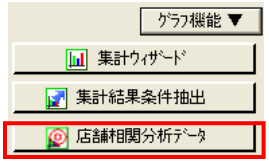
グラフ機能メニュー



13.11 店舗相関分析データを作成する

以下では、プロット（店舗）を中心とした商圏を作成し、統計値、近傍プロットとの距離、プロットの属性値などの集計を行う「店舗相関分析データ作成」の操作方法について説明します。

1. 「店舗相関分析データ」ボタンをクリックします。



「店舗相関分析データ集計」画面が開きます。

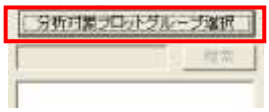
店舗相関分析データの作成はこの画面上で、

- 分析対象プロットグループ選択 ☞「13.11.1 分析対象プロットグループを選択する」(p. 13-78)
- 集計範囲設定 ☞「13.11.2 集計範囲を設定する」(p. 13-79)
- 集計項目設定 ☞「13.11.3 集計項目を設定する」(p. 13-82)
- 集計実行 ☞「13.11.4 集計を実行する」(p. 13-86)
- 集計結果出力 ☞「13.11.5 集計結果を出力する」(p. 13-87)

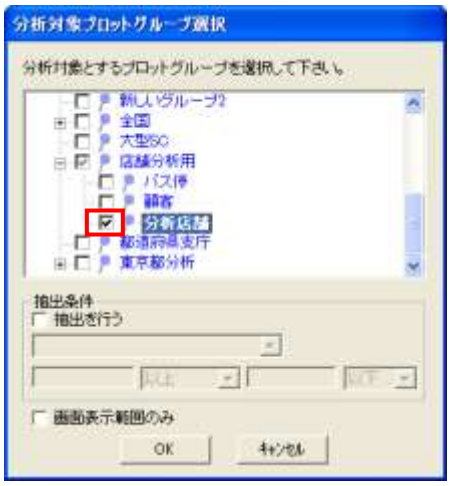
の順で操作を行ってゆきます。

13.11.1 分析対象プロットグループを選択する

1. 「分析対象プロットグループ選択」ボタンをクリックします。



2. 「分析対象プロットグループ選択」画面が開きます。
分析対象とするプロットグループについて、プロットグループツリー上の□をクリックしてチェックします。



3. （必要であれば）条件による抽出を行います。
選択したプロットグループに対して、条件を付けて対象とするプロットデータを抽出することができます。

① 「□抽出を行う」の□をクリックします。
② 「▼」をクリックして、条件を設定する属性項目を選択します。
③ 条件値の範囲を設定します。
④ 抽出の範囲を画面表示内のみとする場合は、「□画面表示範囲のみ」の□をクリックします。

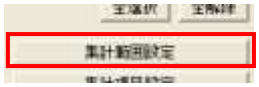
画面表示範囲のみは、「□抽出を行う」にチェックしなくても指定可能です。

4. 「OK」ボタンをクリックします。

5. 「店舗相関分析データ集計」画面に一覧が表示されるので、分析対象とするプロットを選択してください。

13.11.2 集計範囲を設定する

1. 「集計範囲設定」ボタンをクリックします。



2. 「集計範囲設定」画面が開きます。
集計範囲の設定は、
① 円
② 到達圏
③ ｴﾘｱｸﾞﾙｰﾌﾟ
のいずれかで指定できます。

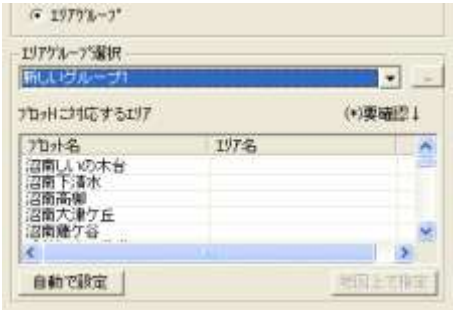
① 円商圏で指定する。
半径を設定し、[追加]ボタンをクリックしてください。

② 到達圏商圏で指定する

・ 移動手段（車/徒歩/自転車）を、ドロップダウンリストから選択します。
・ [速度設定]ボタンをクリックすると、速度の変更が行えます。

・ 「○時間」または「○距離」を選択し、値を設定して[追加]ボタンをクリックしてください。

③ ｴﾘｱｸﾞﾙｰﾌﾟで指定する。
「作成方法」で「○ｴﾘｱｸﾞﾙｰﾌﾟ」を選択します。設定画面の下部がｴﾘｱｸﾞﾙｰﾌﾟの選択画面に変わります。
商圏エリアとして設定するエリアグループを選択してください。。
☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

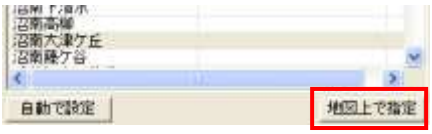


次に、個々のプロットと商圏エリアを結びつけを行います。2つの方法があります。

・ 自動で設定
[自動で設定]ボタンをクリックすると、ひとつひとつのプロットについてそれを含むエリアを検索し、自動で結びつけを行います。そのプロットを含むエリアが複数ある場合は、エリアの重心点とプロットの距離が一番近いものをそのプロットの商圏エリアと判定します。この場合、一覧上に「*」を付けて、候補が複数あったことを示します。

確認をするには、一覧上で「*」のある行を選択すると、地図上でエリアが反転表示されます。エリアとの結び付けを変更するには[地図上で指定]ボタンをクリックします。

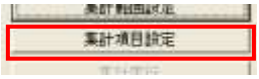
・ 地図上で指定
プロットとエリアの結びつきを地図上で指定する場合は、結び付けを行うプロットを一覧上から選択し[地図上で指定]ボタンをクリックします。



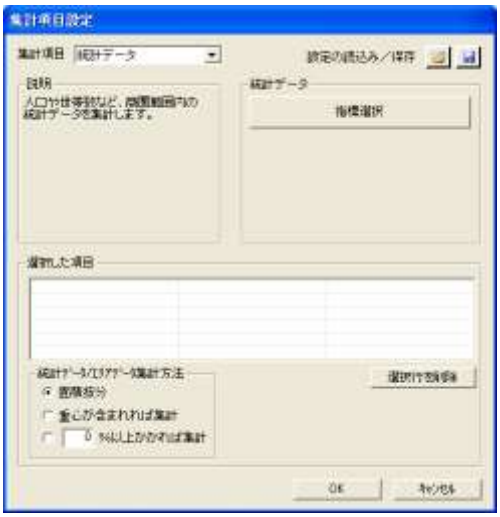
「地図上で指定」ダイアログが地図上に表示されますので、商圏とするエリアをクリックしてください。

13.11.3 集計項目を設定する

1. 「集計項目設定」ボタンをクリックします。



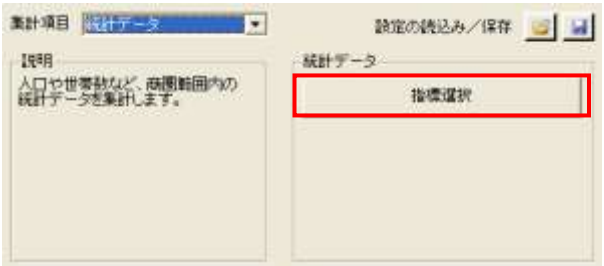
2. 「集計項目設定」画面が開きます。



集計する項目を設定します。以下を組み合わせて選択することが可能です。
① 統計データ
② プロット属性
③ プロット距離
④ 商圏内プロット集計
⑤ エリア属性値
⑥ エリア集計

集計項目の選択は画面左上部のドロップダウンリストの「▼」をクリックして行います。

① 統計データ
人口や世帯数など、商圏範囲内の統計データを集計します。集計値の算出方法は、面積按分／重心／n%かかる、から選択可能です。



・　[指標選択]ボタンをクリックしてください。

・　集計ウィザードの指標選択と同様の指標選択画面が開きますので対象とする指標を選択してください。

② プロット属性
分析対象プロットの属性値を集計表に取り込みます。例えば、店舗プロットの「売り上げ」などを指定します。

分析対象プロットグループで選択したプロットグループの属性項目が一覧表示されます。集計表に取り込む属性値を□をクリックして選択してください。
選択後、[↓]追加ボタンをクリックして下さい。

③ プロット距離
分析対象プロットの最も近傍にある他プロットとの直線距離を集計します。例えば、駅や大型SCなどを指定します。

対象プロットグループを選択して、[↓]追加ボタンをクリックして下さい。
☞「10.14　プロットグループ選択」(p. 10-56)

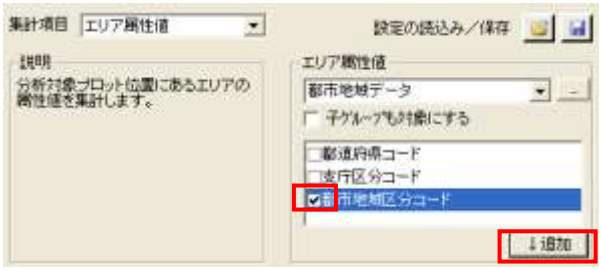
④　商圏内プロット集計
商圏範囲内にあるプロットの件数や属性値を集計します。例えば顧客プロットグループを指定することで、商圏内の顧客数や来店回数などを集計できます。

・　集計したいプロットグループを選択します。
「10.14　プロットグループ選択」(p. 10-56)

・　選択したプロットグループの属性項目が一覧表示されますので、集計したい項目の□をクリックして選択してください。

・　[↓]追加ボタンをクリックして下さい。

⑤　エリア属性値
分析対象プロット位置にあるエリアの属性値を集計表に取り込みます。例えば、都市地域のエリアデータがあるとして、そのプロット位置の都市地域コードを取り込むなどが考えられます。
プロットを含むエリアが複数ある場合は、プロット位置とエリアの重心点の直線距離が最も近いエリアの属性値が採用されます。



・　集計したいエリアグループを選択します。
「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

・　選択したエリアグループの属性項目が一覧表示されますので、集計したい項目の□をクリックして選択してください。

・　[↓]追加ボタンをクリックして下さい。

⑥　エリア集計
商圏範囲内にあるエリアの件数や属性値を集計します。例えば、緑地のエリアデータを指定して、商圏内の緑値面積を集計するなど。

・　集計したいエリアグループを選択します。
☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

・　選択したエリアグループの属性項目が一覧表示されますので、集計したい項目の□をクリックして選択してください。

・　[↓]追加ボタンをクリックして下さい。

⑦　面積按分の指定
統計データ集計、エリア集計については、商圏エリアにかかる行政界/メッシュ/エリアデータの集計方法が指定できます。

集計方法の選択

面積按分	行政界（メッシュ）にエリアが掛かっている割合で、統計値を按分して集計します。
重心が含まれれば集計	行政界（メッシュ）の重心点がエリア内に含まれていれば、その行政界（メッシュ）の統計値を 100%集計します。
xx%以上かかれば集計	行政界（メッシュ）がエリアに指定した割合以上かかっている場合は、その行政界（メッシュ）の統計値を 100%集計します。0%を指定すると、少しでもかかっていれば集計、を意味します。

⑧　選択した項目の削除
集計対象として選択した項目は、一覧リスト上に記載されています。
項目を削除するには、削除したい行をクリックして[選択行を削除]ボタンをクリックします。

⑨　選択した項目の保存／読み込み
選択した項目は、読み込みアイコン、保存アイコンをクリックすることでファイルに保存／読込ができます。

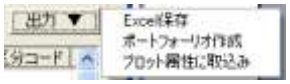
13.11.4 集計を実行する

分析対象プロットグループ選択、集計範囲設定、集計項目設定を終えると「集計実行」ボタンが有効になります。

[集計実行]ボタンをクリックすると集計が行われ、集計結果一覧に集計値がセットされます。

- 集計結果を表示する商圏範囲を変更するには、商圏名の右の「▼」をクリックし、ドロップダウンリストから選択します。

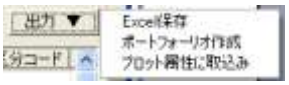
- [出力▼]ボタンをクリックすると、出力メニューが表示されます。



☞「13.11.5集計結果を出力する」(p. 13-87)

13.11.5 集計結果を出力する

1. 集計結果表上の出力▼]ボタンをクリックすると、出力メニューが表示されます。



以下の出力が可能です。
① Excel 保存
　集計結果を Excel に出力します。
② ポートフォーリオ作成

③ プロット属性に取り込み

⑩ Excel 保存
集計結果を Excel に保存します。

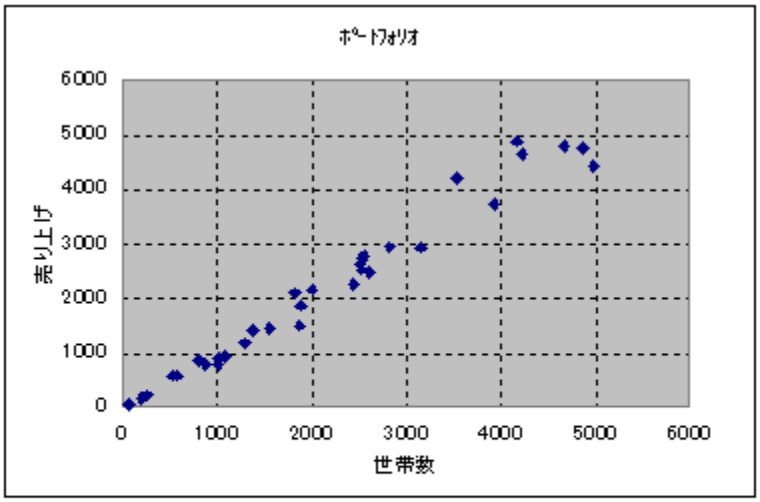
メニューから[Excel 保存]を選択すると、名前を付けて保存ダイアログが表示されます。

保存先フォルダ、保存ファイル名を設定して、[保存]ボタンをクリックしてください。

⑪ ポートフォーリオ作成
集計結果から2つの指標を選択して、Excel にポートフォーリオを出力します。

メニューから[ポートフォーリオ作成]を選択すると、「ポートフォーリオ作成」画面が開きます。

分析項目となる2指標と、出力先を指定して[Excel 出力]ボタンをクリックするとポートフォーリオ Excel ファイルが作成されます。



プロット名	世帯数	売り上げ
沼南しいの木台	2604	2498
沼南下清水	61	69
沼南高柳	526	592
沼南大津ケ丘	1548	1459
沼南藤ケ谷	247	238
千葉沼南五條谷	194	184

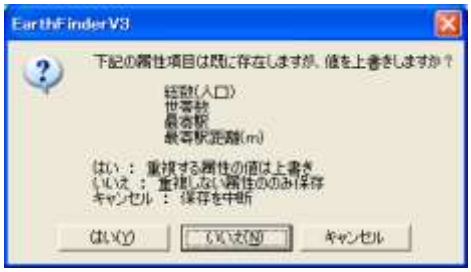
⑫　プロット属性に取込み

集計結果を分析対象プロットの属性項目に取り込むことができます。例えば、この機能を使って店舗の最寄駅を店舗プロットにセットすることなどが可能です。

メニューから[プロット属性に取り込み]を選択すると、「プロット属性に取り込み」画面が開きます。

取り込む属性項目、何次商圏の値を取り込むのかを指定し、[OK]ボタンをクリックすると、集計値のプロット属性への取り込みが行われます。

指定した項目がすでにプロットグループの属性に存在する場合は、以下のようなメッセージが表示されます。



・ 上書きで取り込む場合は「はい」を、
・ 重複しない属性のみ取り込み、重複している属性項目については上書きしない場合は「いいえ」を、
・ そもそも、今回の取り込み自体を行わない場合は「ｷｬﾝｾﾙ」を
選択してください。

14 作図操作を行う

作図は地図上に図形を描く機能です。新たに施設された道路や鉄道を描くなど、様々な用途があります。

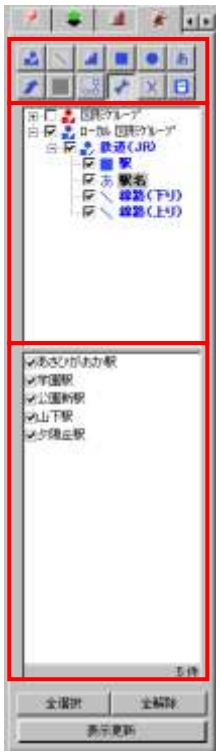
EarthFinder 内では作図は図形グループという、特定のグループに属するように作成します。

14.1 作図パネルを操作する

以下では作図パネルの操作について説明します。

作図パネルはツールバーから表示することができます。
「4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ」(p. 4-1)

左画面の をクリックすると作図パネルが表示されます。



作図パネルは大きく 3 箇所にわかれ、それぞれの操作を行うことができます。

① 機能ボタン
「14.1.1 機能ボタンを操作する」(p. 14-2)

② 図形グループ欄
「14.1.2 図形グループ欄を操作する」(p. 14-3)

③ 図形オブジェクト欄
「14.1.3 図形オブジェクト欄を操作する」(p. 14-4)

14.1.1 機能ボタンを操作する

図形作成用の機能ボタンは上段に、編集用の機能ボタンは下段に表示されます。

1. グループ作成
   「14.2.1 図形グループを作成する」(p. 14-5)

2. ライン作成
   「14.3.1 ライン作成を行う」(p. 14-7)

3. 多角形作成
   「14.3.2 多角形作成を行う」(p. 14-10)

4. 四角形作成
   「14.3.3 四角形作成を行う」(p. 14-14)

5. 円作成
   「14.3.4 円作成を行う」(p. 14-18)

6. 文字作成
   「14.3.5 文字作成を行う」(p. 14-22)

7. 図形移動
   「14.4.1 図形移動を行う」(p. 14-25)

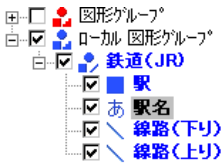
8. 図形頂点編集
   「14.4.2 図形頂点編集を行う」(p. 14-26)

9. 図形編集
   「14.4.3 図形属性編集を行う」(p. 14-26)

10. 図形削除
    「14.4.4 図形削除を行う」(p. 14-27)

11. 図形マウス選択
    「14.4.5 図形マウス選択を行う」(p. 14-27)

14.1.2 図形グループ欄を操作する



登録されている図形グループが階層に従って表示されます。図形グループ名称横のチェックボックスでは図形グループの表示状態を操作することができます。

「14.5.1.1 図形グループを個別に表示設定する」(p. 14-28)

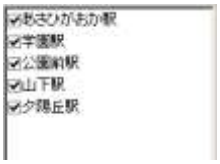
図形グループ名が反転表示されているところはその図形グループが選択されていることを表しています。各操作は選択している図形グループに対して行われます。

図形グループ欄の上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

1. 新規グループ作成
   「14.2.1 図形グループを作成する」(p. 14-5)
2. グループ名編集 （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.2.2 図形グループ名称を変更する」(p. 14-5)
3. グループ削除 （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.2.3 図形グループを削除する」(p. 14-6)
4. ライン作成 （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.3.1 ライン作成を行う」(p. 14-7)
5. 多角形作成 （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.3.2 多角形作成を行う」(p. 14-10)
6. 四角形作成 （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.3.3 四角形作成を行う」(p. 14-14)
7. 円作成 （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.3.4 円作成を行う」(p. 14-18)
8. 文字作成 （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.3.5 文字作成を行う」(p. 14-22)
9. エキスポート （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
   「14.5.3.1 図形データをエキスポートする」(p. 14-30)

10. インポート （最上位グループを選択した場合は表示されません。）
「14.5.3.2 図形データをインポートする」(p. 14-31)

14.1.3 図形オブジェクト欄を操作する



図形グループ欄で選択している図形グループに属する図形オブジェクトが表示されています。チェックを付け外しすることで表示設定を行います。
「14.5.2 図形オブジェクトを表示する」(p. 14-29)
各操作は図形オブジェクト欄で選択している図形オブジェクト及びその図形オブジェクトが属する図形グループに対して行われます。
図形オブジェクト欄では Ctrl キーや Shift キーを使用することで一度に複数の図形オブジェクトを選択することができます。
図形オブジェクト欄の上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

1. 名称変更
図形オブジェクト欄で 1 つの図形オブジェクトを選択している場合のみ選択できます。「データ名称の入力」画面が表示されますので入力して[更新]ボタンをクリックしてください。

2. 削除
図形オブジェクト欄で選択している図形オブジェクトに対する削除確認画面が表示されます。削除件数を確認して[はい]ボタンをクリックしてください。

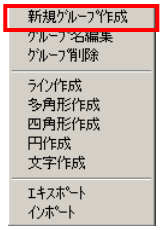
3. 位置移動 （単一選択の場合のみ表示されます。）
選択している図形オブジェクトを中心に地図が移動します。

14.2 図形グループを操作する

以下では図形グループの操作について説明します。

14.2.1 図形グループを作成する

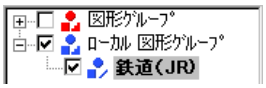
1. ボタンをクリックするか図形グループ欄ポップアップメニューから「グループ作成」画面を表示します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 図形グループ名を入力して[登録]ボタンをクリックします。

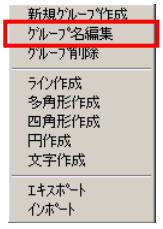
3. 図形グループ欄で選択しているグループの直下に新規作成されます。



14.2.2 図形グループ名称を変更する

既に作成された図形グループの名称を変更することができます。

1. 図形グループ欄でグループを指定してから「グループ名編集」を選択します。

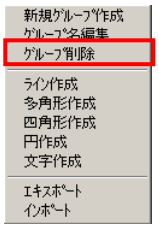


図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 指定したグループの「名称変更」画面が表示されます。図形グループ名を設定して[OK]ボタンをクリックしてください。

14.2.3 図形グループを削除する

1. 図形グループ欄でグループを指定してから「グループ削除」を選択します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 指定したグループの削除確認画面が表示されます。削除内容を確認して[はい]ボタンをクリックしてください。

⚠図形グループを削除すると、その図形グループ以下の図形オブジェクトが全て削除されます。消去してよいデータか十分確認してください。

ℹ任意の 1 オブジェクトを削除する場合には、当機能ではなく、機能ボタンか図形オブジェクト欄ポップアップメニューから行ってください。

☞「14.4.4 図形削除を行う」(p. 14-27)
☞「14.1.3 図形オブジェクト欄を操作する」(p. 14-4)

ℹ属する図形オブジェクトが多い場合、削除に時間がかかります。

14.3 図形を作成する

図形作成はその形状や作成する際に使用するデータによって以下の種類に分けられます。

1. ライン作成
☞「14.3.1 ライン作成を行う」(p. 14-7)

2. 多角形作成
☞「14.3.2 多角形作成を行う」(p. 14-10)

3. 四角形作成
☞「14.3.3 四角形作成を行う」(p. 14-14)

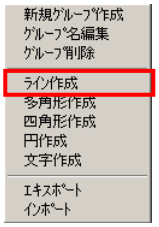
4. 円作成
☞「14.3.4 円作成を行う」(p. 14-18)

5. 文字作成
☞「14.3.5 文字作成を行う」(p. 14-22)

14.3.1 ライン作成を行う

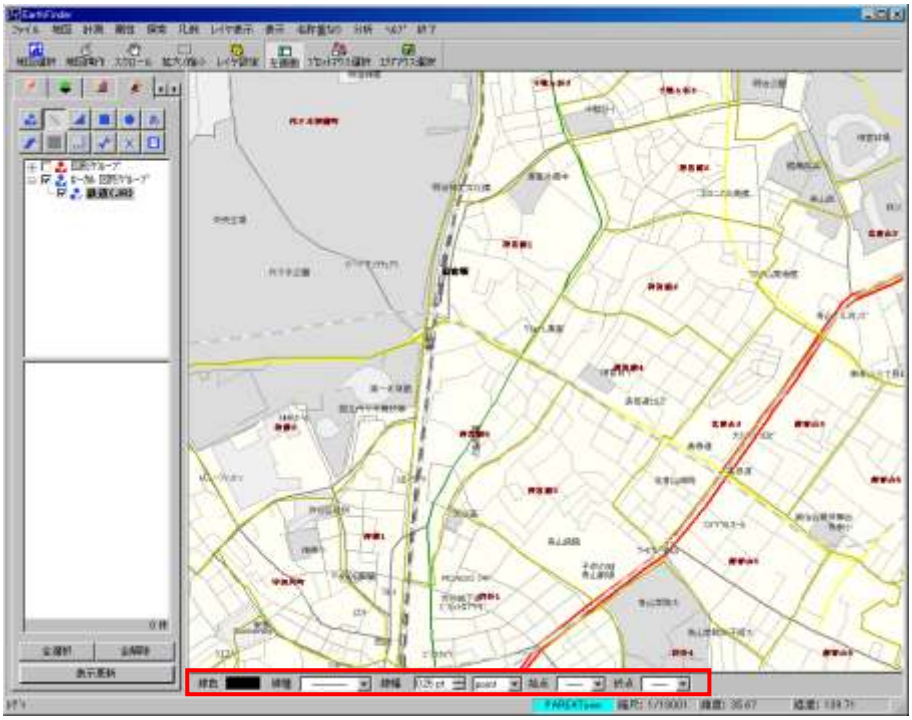
以下では、地図上にラインを描画する方法について説明します。

1. ボタンをクリックするか図形グループ欄ポップアップメニューから「ライン作成」を選択します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 地図上の下部にライン属性設定欄が表示されます。



14.3.1.1 ライン属性を設定する

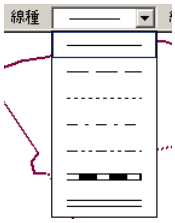
線色・線種・線幅・始終点のスタイルを設定します。

14.3.1.1.1 ラインの線色を設定する

線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

14.3.1.1.2 ラインの線種を設定する

プルダウンで線種を選択してください。

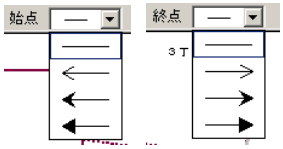


14.3.1.1.3 ラインの線幅を設定する

線幅のスピンボタンを上下すると 0.25 ずつ変化します。また線幅の単位はプルダウンで選択できます。

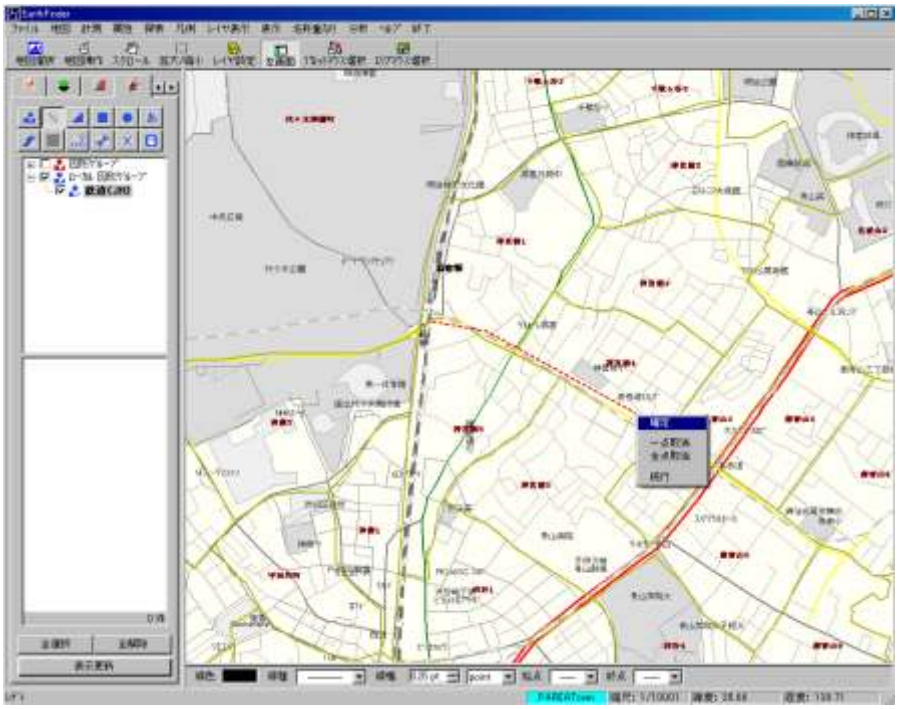
14.3.1.1.4 始終点のスタイルを設定する

始点と終点のスタイルをプルダウンで設定します。



14.3.1.2 図形を確定する

1. 地図上の任意の場所に点を打つとラインが描画されます。



1) ラインの開始地点をクリックします。

2) そのままマウスを移動させると、上記クリックした地点から現在のマウスカーソル地点までを結ぶ直線が描画されます。

3) 上記 1 と 2 の操作を続けて行うことにより、連続したラインを描画することができます。

> 直前の計測区間を取りやめる場合は、右クリックを押して「一点取消」を選択してください。「全点取消」を選択すると描画を中止します。

4) ラインを確定する場合は確定したい地点でダブルクリックします。

> 右クリックを押して「確定」でも同じです。

[計測]－[距離計測]と同様の方法です。
「7.1 距離計測」(p. 7-1)

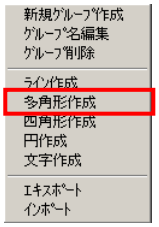
2. 図形を確定すると図形グループ欄で指定されたグループ直下に追加されます。

図形グループ欄で図形グループもしくはライン以外の図形グループを選択している場合は新規にライングループを作成し、その配下に登録されます。
図形グループ欄でライングループを選択している場合はその配下に登録されます。

14.3.2 多角形作成を行う

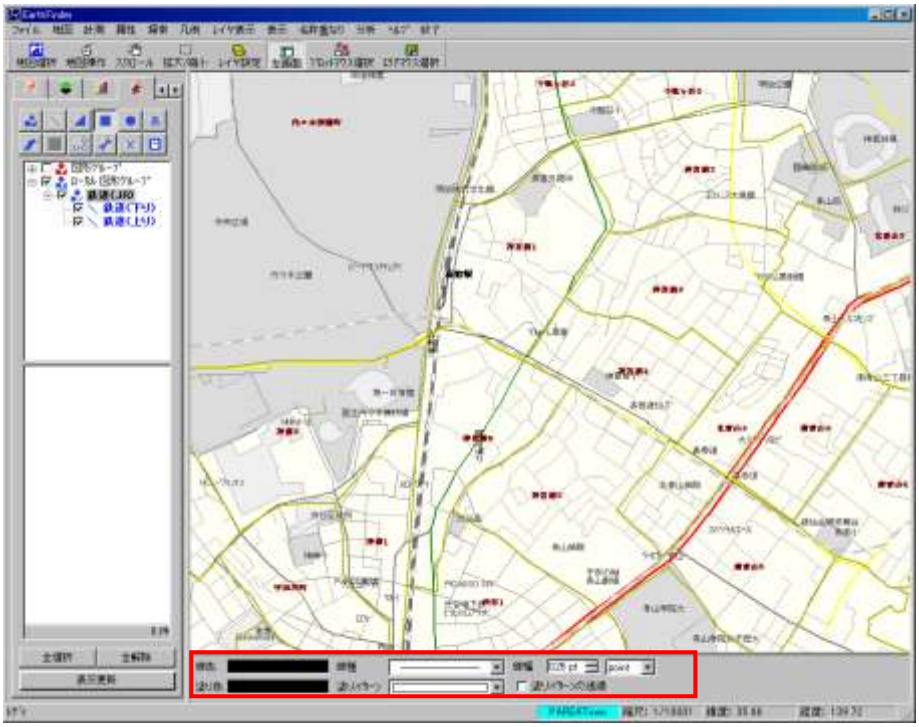
以下では、地図上に多角形を描画する方法について説明します。

1. ボタンをクリックするか図形グループ欄ポップアップメニューから「多角形作成」を選択します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 地図上の下部に多角形属性設定欄が表示されます。



14.3.2.1 多角形属性を設定する

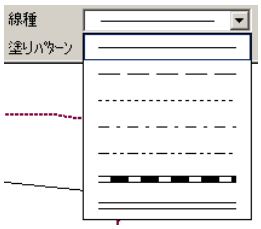
以下では多角形属性の設定について説明します。

14.3.2.1.1 多角形の線色を設定する

線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

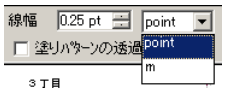
14.3.2.1.2 多角形の線種を設定する

プルダウンで線種を選択してください。



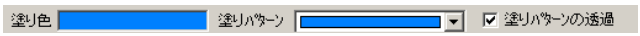
14.3.2.1.3 多角形の線幅を設定する

線幅のスピンボタンを上下すると 0.25 ずつ変化します。また線幅の単位はプルダウンで選択できます。



14.3.2.1.4 多角形の塗りを設定する

以下では多角形を塗りつぶす方法について説明します。

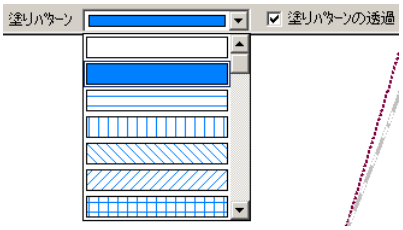


14.3.2.1.4.1 多角形の塗り色を設定する

線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

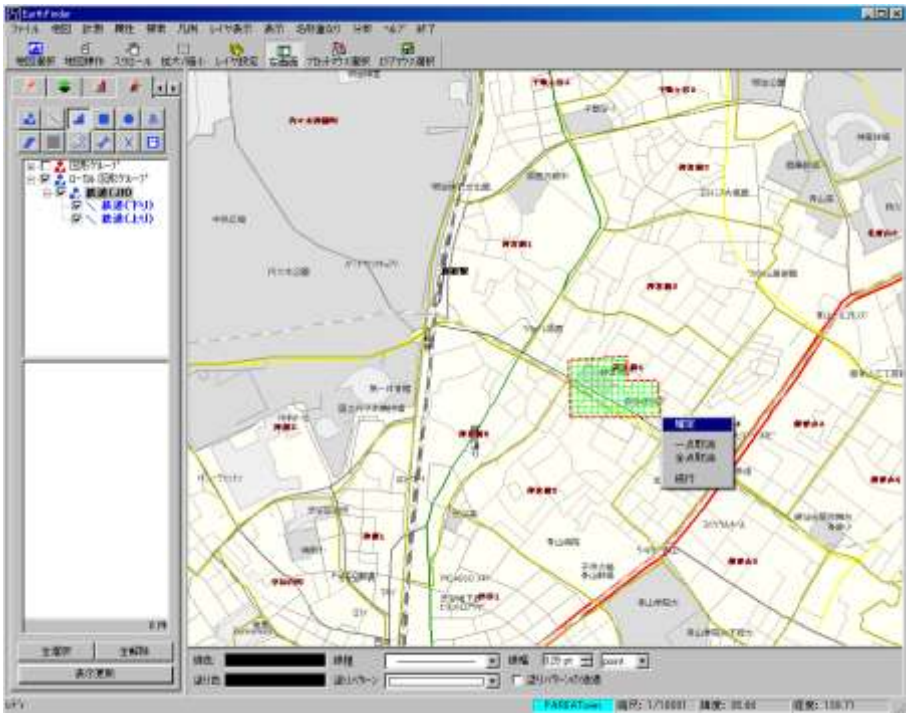
14.3.2.1.4.2 多角形の塗りパターンを設定する

塗りパターンをプルダウンから選択します。「塗りパターンの透過」にチェックを付けると透過されます。



14.3.2.2 図形を確定する

1. 地図上の任意の場所に一点ずつマウスで点を打ち、多角形を描画します。



1) 多角形の開始地点をクリックします。

2) そのままマウスを移動させると、上記クリックした地点から現在のマウスカーソル地点までを結ぶ直線が描画されます。

3) 上記 1 と 2 の操作を続けて行うことにより、直線の連続した多角形を描画することができます。

直前の直線を取りやめる場合は、右クリックを押して「一点取消」を選択してください。「全点取消」を選択すると描画を中止します。

4) 多角形を確定する場合は確定したい地点でダブルクリックします。

右クリックを押して「確定」でも同じです。

[エリア]－[多角形エリア]と同様の方法です。

「11.3.1 多角形エリア作成を行う」(p. 11-13)

2. 図形を確定すると図形グループ欄で指定されたグループ直下に追加されます。

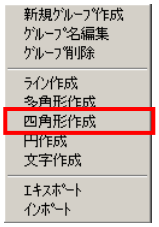
図形グループ欄で図形グループもしくは多角形以外の図形グループを選択している場合は新規に多角形グループを作成し、その配下に登録されます。

図形グループ欄で多角形グループを選択している場合はその配下に登録されます。

14.3.3 四角形作成を行う

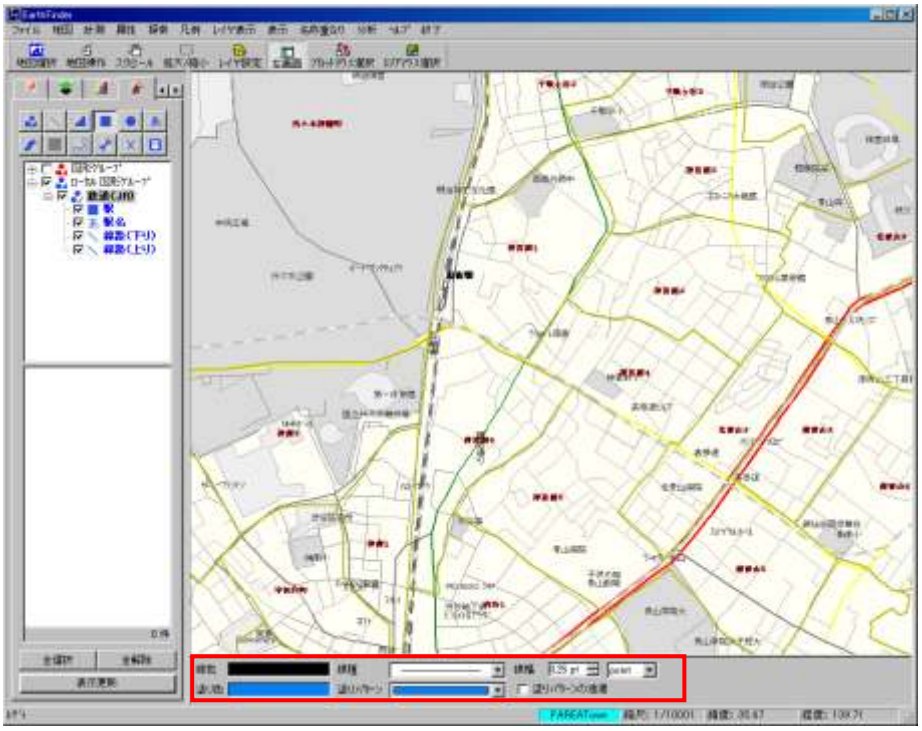
以下では、地図上に多角形を描画する方法について説明します。

1. ボタンをクリックするか図形グループ欄ポップアップメニューから「四角形作成」を選択します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 地図上の下部に四角形属性設定欄が表示されます。



14.3.3.1 四角形属性を設定する

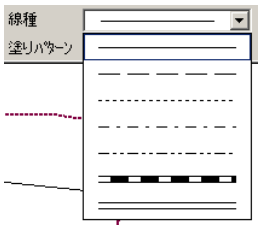
以下では四角形属性の設定について説明します。

14.3.3.1.1 四角形の線色を設定する

線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

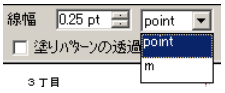
14.3.3.1.2 四角形の線種を設定する

プルダウンで線種を選択してください。



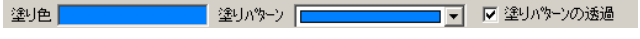
14.3.3.1.3 四角形の線幅を設定する

線幅のスピンボタンを上下すると 0.25 ずつ変化します。また線幅の単位はプルダウンで選択できます。



14.3.3.1.4 四角形の塗りを設定する

以下では多角形を塗りつぶす方法について説明します。

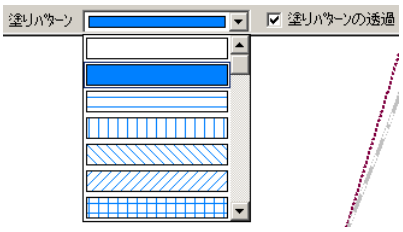


14.3.3.1.4.1 四角形の塗り色を設定する

線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

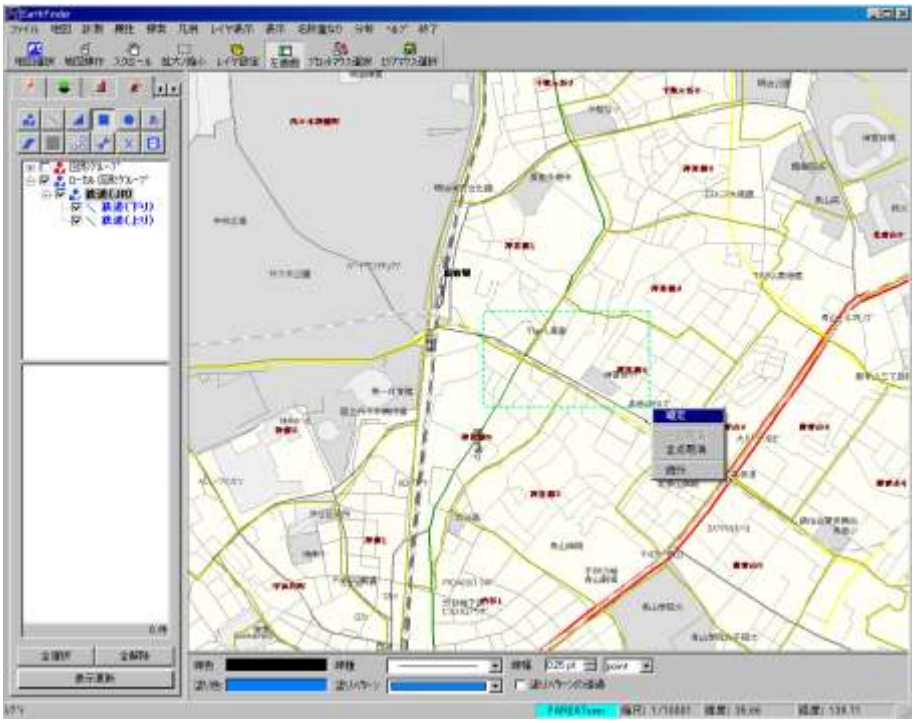
14.3.3.1.4.2 四角形の塗りパターンを設定する

塗りパターンをプルダウンから選択します。「塗りパターンの透過」にチェックを付けると透過されます。



14.3.3.2 図形を確定する

1. 地図上の任意の場所にマウスドラッグで四角形を描画します。



1) マウスで範囲指定すると四角形が描画されます。

中止する場合は、右クリックを押して「全点取消」を選択してください。

2) 四角形を確定する場合は確定したい地点でダブルクリックします。

右クリックを押して「確定」でも同じです。

[拡大/縮小]と同様の方法です。
「6.6 拡大/縮小」(p. 6-5)

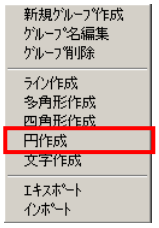
2. 図形を確定すると図形グループ欄で指定されたグループ直下に追加されます。

図形グループ欄で図形グループもしくは四角形以外の図形グループを選択している場合は新規に四角形グループを作成し、その配下に登録されます。
図形グループ欄で四角形グループを選択している場合はその配下に登録されます。

14.3.4 円作成を行う

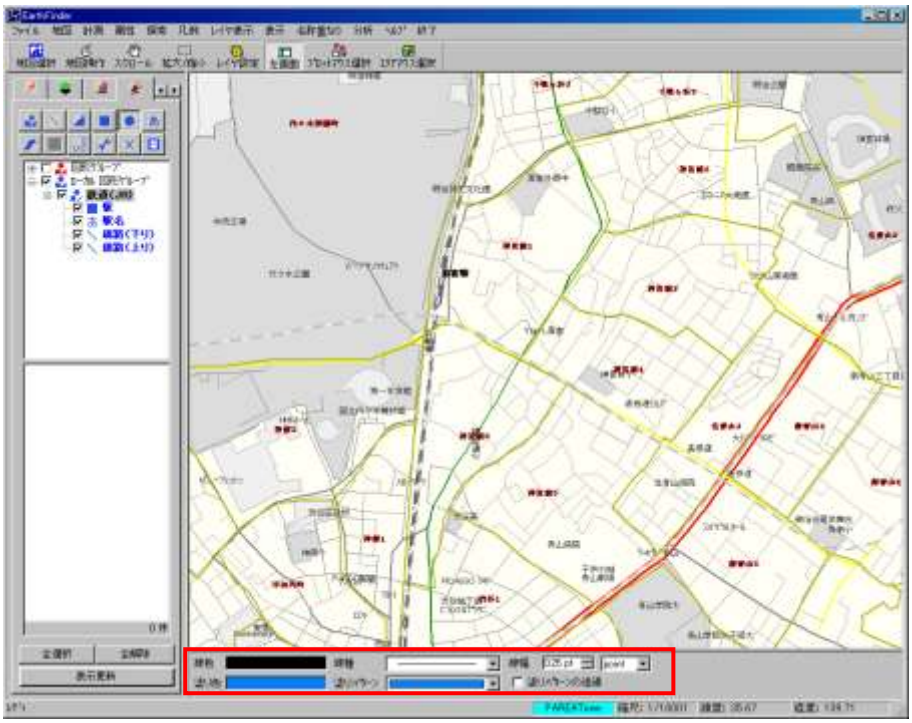
以下では、地図上に円を描画する方法について説明します。

1. ボタンをクリックするか図形グループ欄ポップアップメニューから「円作成」を選択します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 地図上の下部に円属性設定欄が表示されます。



14.3.4.1 円属性を設定する

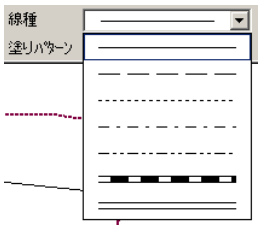
以下では円属性の設定について説明します。

14.3.4.1.1 円の線色を設定する

線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

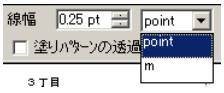
14.3.4.1.2 円の線種を設定する

プルダウンで線種を選択してください。



14.3.4.1.3 円の線幅を設定する

線幅のスピンボタンを上下すると 0.25 ずつ変化します。また線幅の単位はプルダウンで選択できます。



14.3.4.1.4 円の塗りを設定する

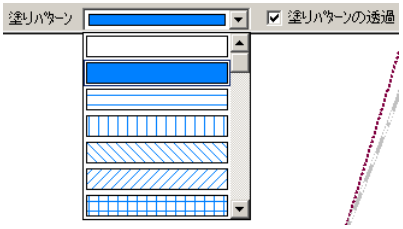
以下では多角形を塗りつぶす方法について説明します。

14.3.4.1.4.1 円の塗り色を設定する

線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

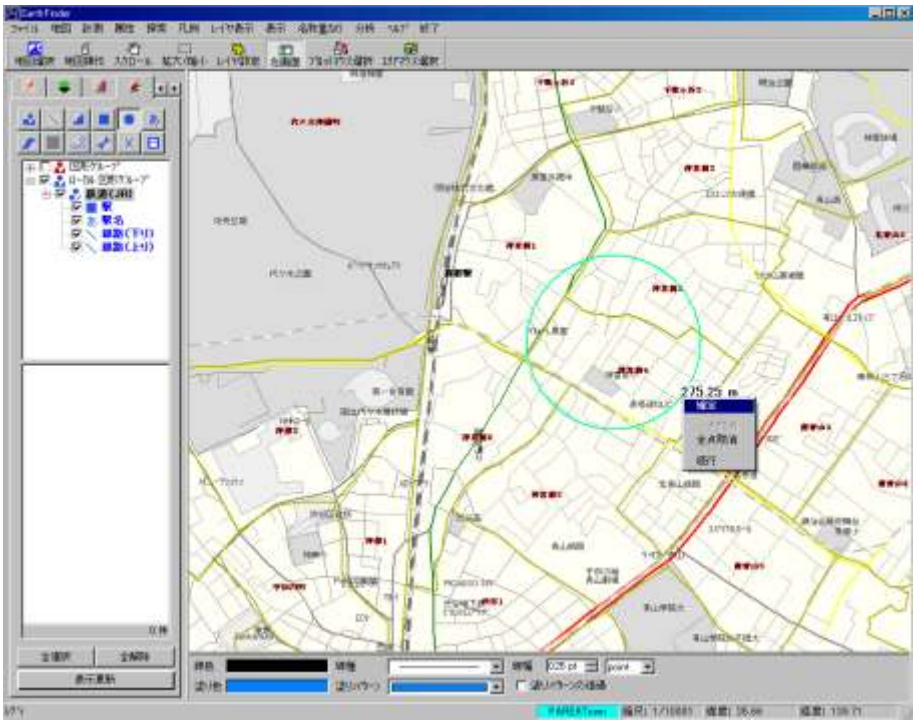
14.3.4.1.4.2 円の塗りパターンを設定する

塗りパターンをプルダウンから選択します。「塗りパターンの透過」にチェックを付けると透過されます。



14.3.4.2 図形を確定する

1. 地図上の任意の場所にマウスドラッグで円を描画します。



1) 円の中心地点をクリックします。

2) そのままマウスを移動させると、上記クリックした地点を中心に円が描画されます。

中止する場合は、右クリックを押して「全点取消」を選択してください。

3) 円を確定する場合は確定したい地点でダブルクリックします。

右クリックを押して「確定」でも同じです。

[エリア]-[円エリア作成]と同様の方法です。
「11.3.2 円エリア作成を行う」(p. 11-18)

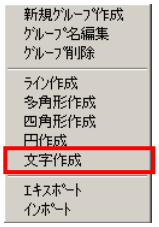
2. 図形を確定すると図形グループ欄で指定されたグループ直下に追加されます。

図形グループ欄で図形グループもしくは円以外の図形グループを選択している場合は新規に円グループを作成し、その配下に登録されます。
図形グループ欄で円グループを選択している場合はその配下に登録されます。

14.3.5 文字作成を行う

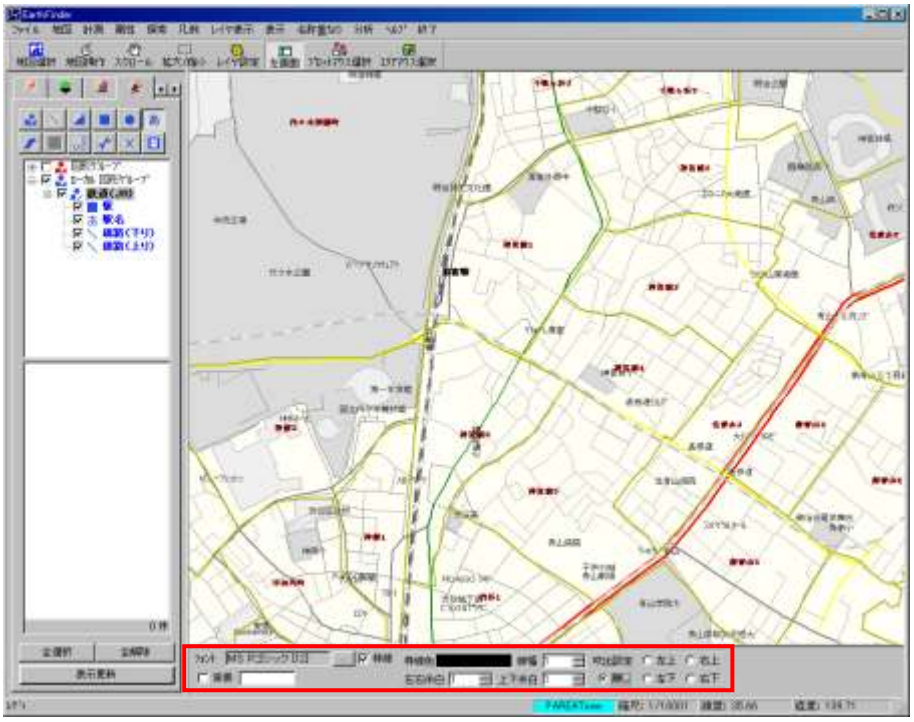
以下では、地図上に文字を作成する方法について説明します。

1. あ ボタンをクリックするか図形グループ欄ポップアップメニューから「文字作成」を選択します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. 地図上の下部に文字属性設定欄が表示されます。



14.3.5.1 文字属性を設定する

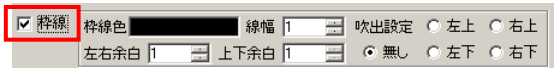
以下では文字属性の設定について説明します。

14.3.5.1.1 文字フォントを設定する

[...] ボタンをクリックすると「フォント」画面が表示されます。

14.3.5.1.2 文字の枠線を設定する

「枠線」にチェックを付けると枠線設定欄が有効になります。



14.3.5.1.2.1 文字枠線の色を設定する

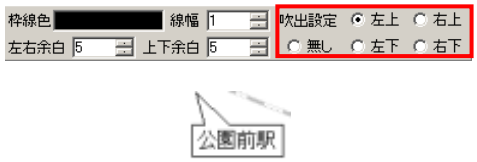
線色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

14.3.5.1.2.2 文字枠線の線幅を設定する

線幅のスピンボタンを上下すると 0.25 ずつ変化します。

14.3.5.1.2.3 文字枠線を吹出しに設定する

吹出設定を「無し」以外にすると文字枠線に吹出しが付きます。



14.3.5.1.2.4 文字枠線の余白を設定する

余白のスピンボタンを上下すると 1 ずつ変化します。

14.3.5.1.3 文字の背景を設定する

1. 「背景」にチェックを付けると文字に背景が付きます。

2. 背景色欄をクリックすると「色の設定」画面が表示されます。

14.3.5.2 図形を確定する

1. 地図上の任意の場所をクリックすると「文字書込み」画面が表示されます。

2. 文字を入力して[確定]ボタンをクリックすると地図上に反映されます。

図形グループ欄で図形グループもしくは文字以外の図形グループを選択している場合は新規に文字グループを作成し、その配下に登録されます。
図形グループ欄で文字グループを選択している場合はその配下に登録されます。

14.4 作成した図形を編集する

作成した図形に対して以下の編集を行うことができます。

1. 図形移動
「14.4.1 図形移動を行う」(p. 14-25)

2. 図形頂点編集
「14.4.2 図形頂点編集を行う」(p. 14-26)

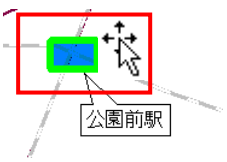
3. 図形属性編集
「14.4.3 図形属性編集を行う」(p. 14-26)

4. 図形削除
「14.4.4 図形削除を行う」(p. 14-27)

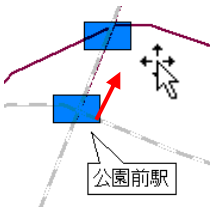
5. 図形マウス選択
「14.4.5 図形マウス選択を行う」(p. 14-27)

14.4.1 図形移動を行う

1. ボタンをクリックしてから地図上の図形オブジェクトにカーソルを当てるとカーソル形状が変わり、図形オブジェクトがハイライト表示されます。

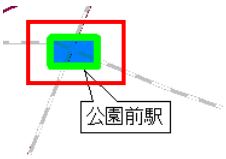


2. ドラッグ＆ドロップで図形移動を行います。

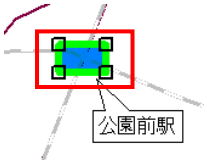


14.4.2 図形頂点編集を行う

1. ボタンをクリックしてから地図上の図形オブジェクトにカーソルを当てると図形オブジェクトがハイライト表示されます。

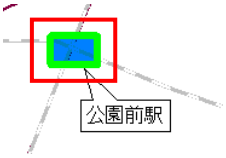


2. 図形オブジェクトをクリックすると頂点が編集できるようになります。



14.4.3 図形属性編集を行う

1. ボタンをクリックしてから地図上の図形オブジェクトにカーソルを当てると図形オブジェクトがハイライト表示されます。

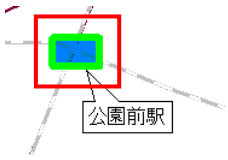


2. 図形オブジェクトをクリックすると地図上の下部に選択した図形オブジェクトに合った属性設定欄が表示されます。

「14.3.1.1 ライン属性を設定する」(p. 14-8)
「14.3.2.1 多角形属性を設定する」(p. 14-11)
「14.3.3.1 四角形属性を設定する」(p. 14-15)
「14.3.4.1 円属性を設定する」(p. 14-19)
「14.3.5.1 文字属性を設定する」(p. 14-23)

14.4.4 図形削除を行う

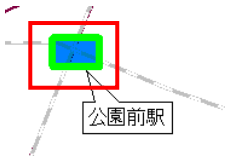
1. ボタンをクリックしてから地図上の図形オブジェクトにカーソルを当てると図形オブジェクトがハイライト表示されます。



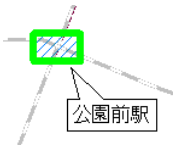
2. 図形オブジェクトをクリックすると削除確認画面が表示されます。削除するには[はい]ボタンをクリックしてください。

14.4.5 図形マウス選択を行う

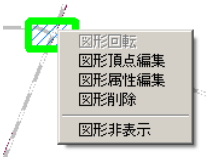
1. ボタンをクリックしてから地図上の図形オブジェクトにカーソルを当てると図形オブジェクトがハイライト表示されます。



2. 図形オブジェクトをクリックするとその図形オブジェクトが選択されます。



3. 図形オブジェクトの上で右クリックするとポップアップメニューが表示され、各機能を行うことができます。



☞「14.4.2 図形頂点編集を行う」(p. 14-26)
☞「14.4.3 図形属性編集を行う」(p. 14-26)
☞「14.4.4 図形削除を行う」(p. 14-27)

14.5 図形オブジェクトを表示する

図形オブジェクトの表示には図形グループ単位での設定と図形オブジェクト個別の設定があります。

14.5.1 図形グループを表示する

以下では図形グループ単位での表示設定について説明します。ここで行う設定はその図形グループ以下全ての図形オブジェクトに対して設定されます。

14.5.1.1 図形グループを個別に表示設定する

1. 図形グループ欄で表示したいグループにチェックを付けます。

エリアグループ欄のチェックボックスの表示状態はそれぞれ以下のことを表しています。

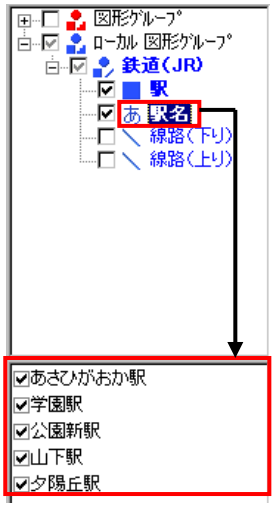
No.	チェックボックスの状態	当該グループの表示状態	サブグループの表示状態
1	☐	非表示	非表示
2	☑	非表示	一部が表示
3	☑	表示	一部が表示
4	☑	表示	表示

2. 作図パネル下部の[表示更新]ボタンをクリックすると地図上に表示設定が反映されます。

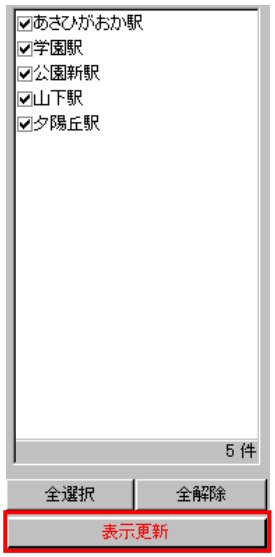
14.5.2 図形オブジェクトを表示する

以下では図形オブジェクト個別の表示設定について説明します。

1. 図形グループ欄でグループを指定すると属する図形オブジェクトが図形オブジェクト欄に表示されます。



2. 図形オブジェクト欄のチェックを付け外しして[表示更新]ボタンをクリックすると地図上に反映されます。



[全選択]ボタン・[全解除]ボタンで図形オブジェクト欄の全図形オブジェクトを一度に選択・解除できます。

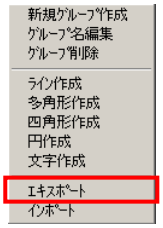
14.5.3 図形データのインポート/エキスポート

以下では図形データのインポート/エキスポートについて説明します。

14.5.3.1 図形データをエキスポートする

以下では、図形データのエキスポートについて説明します。

1. 「図形データ書出し」画面を表示します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

2. エキスポートを行うグループを選択します。

3. エキスポートファイルの書出し先を指定します。

書出し先は直接入力可能です。

... をクリックすると書出し先を選択することができます。

4. エキスポート後、グループを削除する場合は「書出し後、グループを削除する」にチェックを付けます。

5. [実行]ボタンをクリックするとエキスポートを開始します。

- エキスポート先に同名のファイルが存在している場合は上書確認が表示されます。

1) [はい]ボタンをクリックすると確認したファイルについてのみ上書します。

2) [すべてはい]ボタンをクリックすると以降、既に存在しているものが発生しても確認せずに上書します。

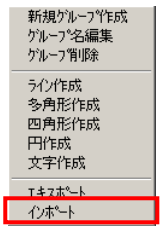
3) [いいえ]ボタンをクリックすると確認したファイルについてのみ上書しません。

4) [キャンセル]ボタンをクリックするとエキスポートを中断します。この時点までの処理は実行されています。

14.5.3.2 図形データをインポートする

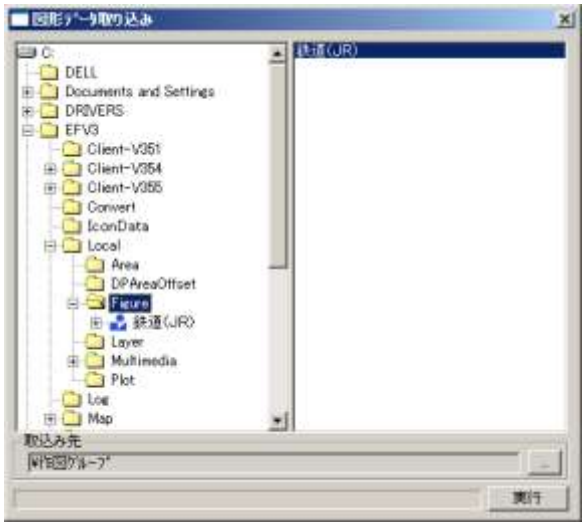
以下では、図形データのインポートについて説明します。

1. 「図形データ取込み」画面を表示します。



図形グループ欄ポップアップメニュー

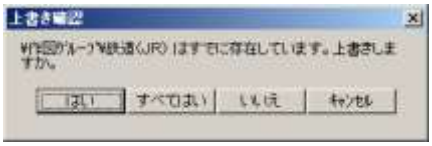
2. インポートファイルの読み込み元を指定します。



3. インポート先を選択します。 ... をクリックするとグループ選択画面が表示されます。

4. [実行]ボタンをクリックするとインポートを開始します。

- インポート先に同名のグループが存在している場合は上書確認画面が表示されます。



1) [はい]ボタンをクリックすると確認したグループについてのみ上書します。

2) [すべてはい]ボタンをクリックすると以降、既に存在しているものが発生しても確認せずに上書します。

3) [いいえ]ボタンをクリックすると確認したグループについてのみ上書しません。

4) [キャンセル]ボタンをクリックするとインポートを中断します。この時点までの処理は実行されています。

15 ハフモデル分析を行う

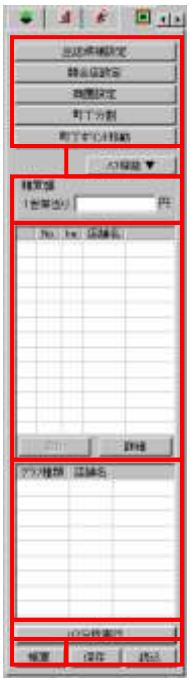
ハフモデル分析では、競合店の属性情報や町丁目の世帯数を使って出店候補の吸引率を求め、売上予測を行います。

15.1 ハフパネルを操作する

以下ではハフパネルの操作について説明します。

エリアパネルはツールバーから表示することができます。
「4.1 ツールバーによる左画面のオン・オフ」(p. 4-2)

左画面の をクリックするとハフパネルが表示されます。



① 設定ボタン
「15.2 分析条件を設定する」(p. 15-2)
② 購買額
「15.3 購買額を設定する」(p. 15-15)
③ 実行ボタン
「15.4 ハフ分析を実行する」(p. 15-15)
④ 店舗リスト
「15.5 店舗を操作する」(p. 15-16)
⑤ グラフリスト
「15.6 ハフグラフの表示状態を切り替える」(p. 15-19)
⑥ 帳票ボタン
「15.7 帳票を出力する」(p. 15-20)
⑦ 保存読込ボタン
「15.8 分析結果を保存する」(p. 15-21)
⑧ その他のメニュー
「15.9 ハフ機能ボタンを利用する」(p. 15-21)

ハフモデル分析では、売場面積等の属性を持つ店舗情報をプロットグループとして予め登録する必要があります。

「10.2.1 プロットグループを作成する」(p. 10-6)
「10.3.1 プロットの取り込み(自動マッチング)」(p. 10-19)

登録されたプロットグループを表示状態にしてください。

「10.4.1 プロットグループを表示する」(p. 10-29)

15.2 分析条件を設定する

設定ボタンによりハフ分析の条件を設定します。

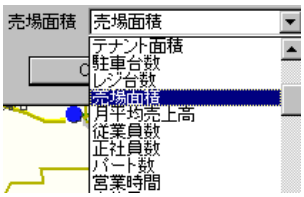
② 出店候補を設定する
① 競合店を設定する
③ 商圏を設定する／④商圏を編集する
⑤ 町丁目の分割を行う
⑥ 町丁目の中心を修正する

15.2.1 競合店を設定する

ハフ分析を行う店舗グループを指定し売場面積等の魅力要因を設定します。

1. 競合店となるプロットグループを指定します。複数のグループを指定できますが、売場面積等、共通の属性を持つ必要があります。

2. 属性の中から魅力要因を選択してください。通常は売場面積を指定します。



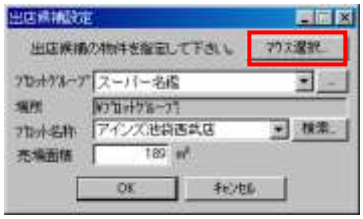
本操作による設定条件はEarthFinderを終了しても保持されます。従って、通常は初回の操作だけ必要となります。

15.2.2 出店候補を設定する

ハフモデルの計算対象となる店舗を設定します。

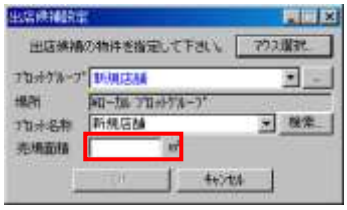
15.2.2.1 任意の場所を指定する

1. 「マウス選択」ボタンを押します。



2. 地図上の任意の場所をクリックします。

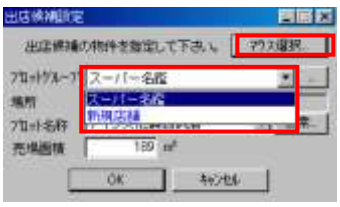
3. 出店予定の売場面積の値を入力し「OK」ボタンを押します。クリックした地点にはマークが表示されます。



任意の場所に配置されるプロットは一時的なデータで、データベースには登録されません。

15.2.2.2 既に登録されている店舗を地図上から指定する

1. 登録されているプロットグループを選択し、「マウス選択」ボタンを押します。



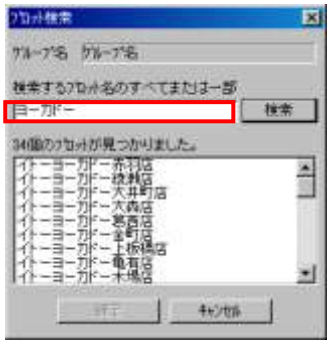
2. 地図上のプロットシンボルをクリックします。

3. 指定したプロットの店舗名称と売場面積がダイアログに入ります。売場面積を修正するとプロット属性の値が変更されます。最後に「OK」ボタンを押します。

15.2.2.3 既に登録されている店舗をリストから指定する

1. 登録されているプロットグループを選択し、プロット名称リストから分析する店舗を選択します。

2. 「検索」ボタンにより店舗名を検索することも可能です。店舗名称に含まれる文字列を入力してから検索を実行します。「確定」ボタンを押すと店舗名と売場面積がダイアログに入ります。



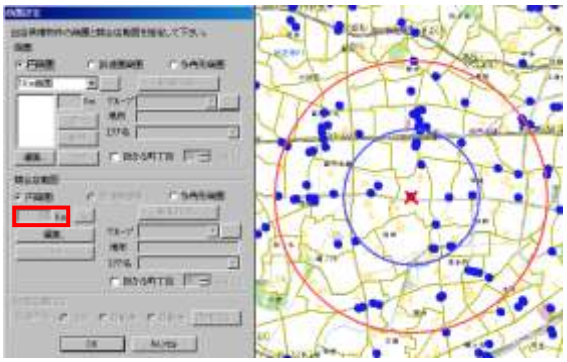
15.2.3 商圏を設定する

分析対象の町丁目（商圏）および競合店の取り込み範囲を設定します。

15.2.3.1 既定の円商圏を設定する

1. リストボックスの中から相応しい商圏（距離圏）を選択します。選択した距離圏を商圏としたハフモデル計算を行っていきます。

2. この時、競合店範囲としては商圏の2倍の値が自動的に設定されます。地図上で範囲を確認し「OK」ボタンを押します。



3. 掛かる町丁目を指定すると、真円ではなく、町丁目の境界（商圏）となります。

15.2.3.2 任意の円商圏を設定する

1. リストボックスの中から「<<個別指定>>」を選択します。任意の距離を入力し「追加」ボタンを押します。不要な距離圏は「削除」ボタンで削除します。複数の距離圏を設定できますが、ハフモデル計算に使用される範囲は最外円となります。

2. 競合店範囲には最外円の2倍の値が自動的に設定されますが「…」ボタンで修正することも可能です。最後に「OK」ボタンを押します。

15.2.3.3 到達圏商圏を設定する

1. リストボックスの中から「自動車／徒歩／自転車」を選択します。時速を変更する場合には「…」ボタンを押し、時速の数値を入力します。

2. 到達圏の時間を入力し「設定」ボタンを押します。地図上には到達圏の形状が表示されます。

3. 競合店範囲に到達圏を使用する場合には「…」ボタンで時間を設定します。

到達圏商圏の場合も、掛かる町丁目を設定できます。

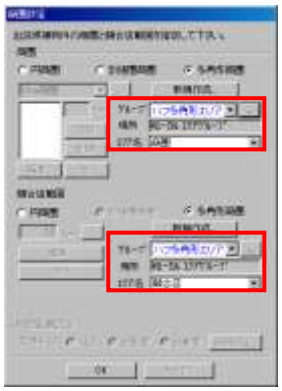
「15.2.3.1 既定の円商圏を設定する」(p. 15-5)

15.2.3.4 多角形商圏を設定する

1. 多角形商圏に切り替え「新規作成」ボタンを押します。

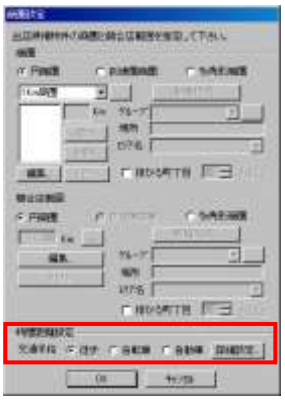
2. 地図上をクリックしていき多角形を作成していきます。最後に右ボタンメニューの「確定」を選択します。競合店範囲についても同様の操作となります。

3. 既に登録されたエリアを使用する場合には、エリアグループとエリア名を選択します。最後に「OK」ボタンを押します。



15.2.3.5 時間距離を設定する

1. 経路探索エンジンを搭載している場合には、ハフ計算において、直線の代わりに最短経路の時間距離を使用することができます。時間距離の設定として、交通手段を選択します。



2. 詳細設定ボタンにより、速度等を変更できます。

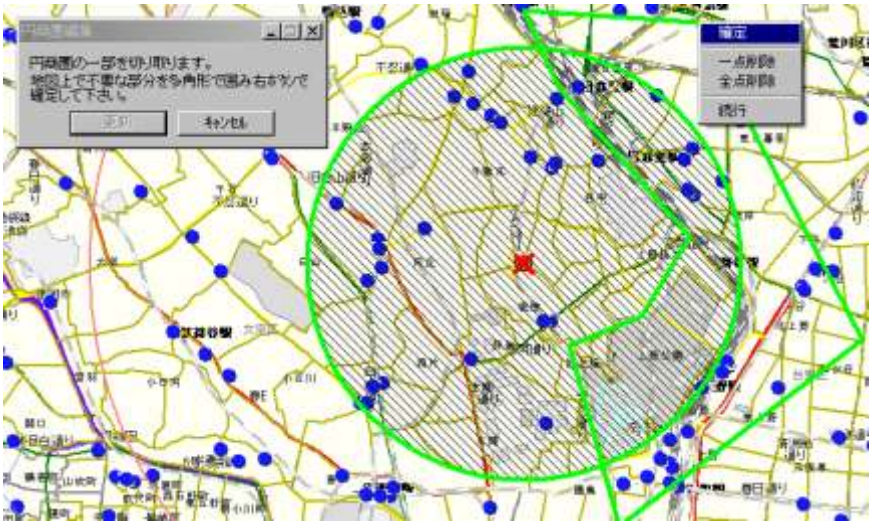
時間距離を使用する場合はハフ計算に時間がかかります。広域商圏で利用される場合には、直線距離を推奨します。

15.2.4 商圏を編集する

円商圏の一部を切り取る機能です。これにより、幹線道路、鉄道、河川などで遮られた範囲を除外することができます。本機能は円商圏の場合に有効となります。

1. 商圏設定ダイアログの「編集」ボタンを押します。

2. 地図上でカットする領域をマウスでクリックしていきます。カットする多角形を作成し、右ボタンメニューで「確定」、さらに「更新」すると、多角形の領域が円から切り取られます。



3. 競合店範囲についても同様の操作となります。「編集」ボタンを押してください。また「リセット」ボタンにより、編集した（切り取った）円商圏を元に戻すことができます。

15.2.5 町丁目の分割を行う

大きな公園や河川・沼地など、町丁目内の世帯分布が極端にアンバランスな場合に分割を行うことができます。

15.2.5.1 町丁目の分割を行う

1. 地図上でマウスを動かすと町丁目界がハイライトされます。分割する町丁目をクリックします。

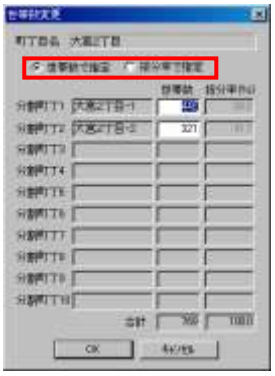
2. 次に、マウスにより分割ラインをクリックしていきます。2分割されるようにラインを作成していき（ひと続きの線分列）右ボタンメニューで「確定」を選択します。

3. マウスクリックの最中に、右ボタンメニューで操作を元に戻したりキャンセルすることが可能です。確定すると分割された町丁目がデータベースに登録されます。既に分割された町丁目（の片方）を選び、分割すると3分割の町丁目が登録されることになります。分割数は最大10となっています

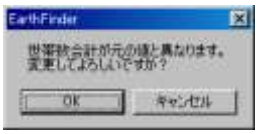
15.2.5.2 分割された町丁目の世帯数割当を変更する

1. リストアップされた町丁目をマウスで選択し「世帯数変更」ボタンを押します。

2. 「世帯数で指定」あるいは「按分率で指定」を選択し、数値を入力します。

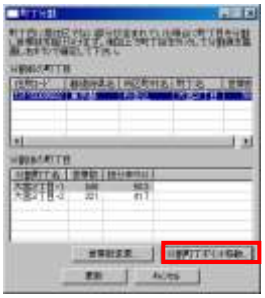


3. 「OK」ボタンで確定しますが、合算した値が元の世帯数に合わない場合には警告が表示されます。警告画面で「OK」ボタンを押すと入力された値で登録されます。



15.2.5.3 分割された領域の中心点を修正する

1. 「分割町丁ポイント移動」ボタンを押します。地図上でポイントをドラッグします。変更されたポイントは赤く表示されます。「設定」ボタンで確定します。



15.2.5.4 町丁目の分割を解除する

1. リストアップされた町丁目をマウスで選択し、右ボタンメニューで「分割解除」を選択します。解除すると元のひとつの町丁目が復元されます。

2. 右ボタンメニューの「位置移動」で選択された町丁目を地図の中心にすることができます。これで場所の特定が可能となります。

3. 分割された町丁目をマウスで選択し、右ボタンメニューで「名称変更」することも可能です。

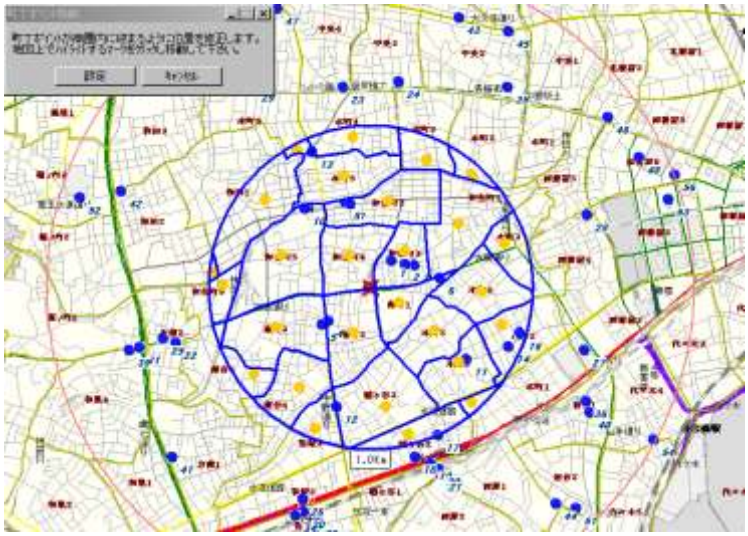
町丁目の分割はハフ分析実行前に行ってください。出店候補の設定や商圏の設定に関係なく、登録作業を行うことができます。

分割情報はエリアグループとしてデータベースに保存されるため、大量の町丁目分割はパフォーマンスの低下につながります。

15.2.6 町丁目の中心を修正する

ハフモデル計算される町丁目の中心点を修正することができます。

1. 町丁ポイント移動により、地図上には商圏内の町丁目中心が黄色の丸で表示されます。



2. ポイントをドラッグすることにより町丁目の中心位置を変更することができます。変更されたポイントは赤く表示されます。

3. 「設定」ボタンにより確定します。

本操作は一連のハフ分析の中でのみデータが保持されます。ハフクリアや商圏の再設定で設定内容はクリアされます。

町丁目の境界が商圏で分割される場合には、分割された町丁目の中心が自動算出されます。この位置も修正可能です。また、世帯数は面積按分された値で計算されます。

15.3 購買額を設定する

ハフ分析による売上予測の際の、1世帯当たりの年間購買額を入力します。

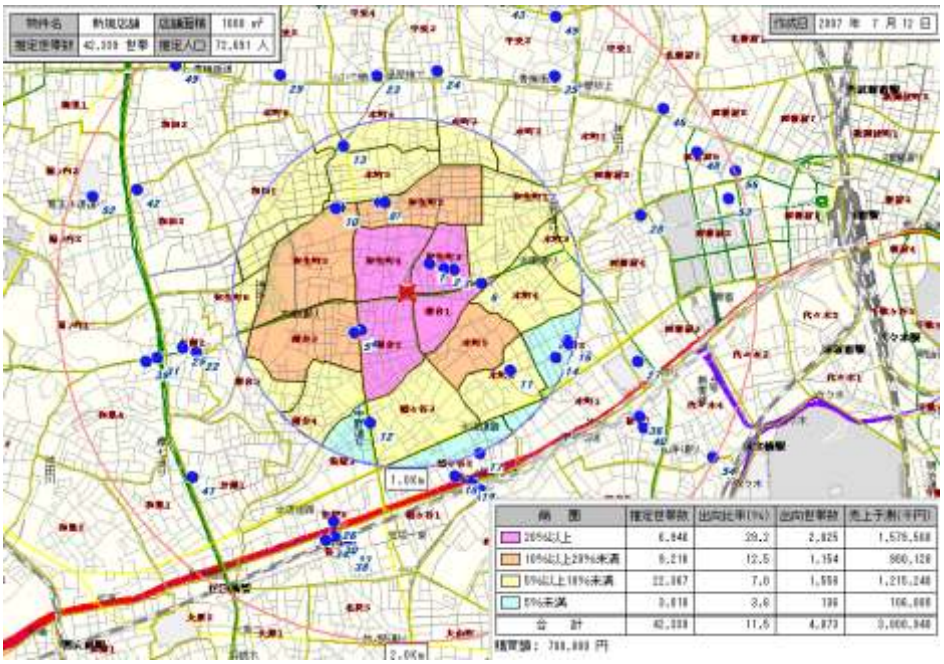
1. 年間購買額の値をキー入力します。3桁区切りのカンマは使用せず、半角数字のみで入力してください。

15.4 ハフ分析を実行する

ハフモデル計算を実行します。

1. 「ハフ分析実行」ボタンによりハフモデル計算が開始されます。計算に際しては、店舗の売場面積等の魅力要因と、店舗と町丁目間の直線距離による吸引率計算と、購買額による売上予測が行われます。

2. 実行が完了すると、地図上には町丁目の吸引率に応じた界面グラフと3種類の凡例（計算結果等）が配置されます。

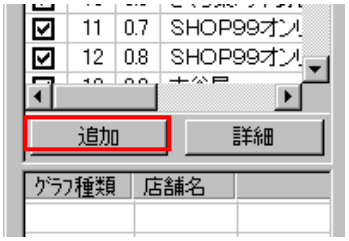


15.5 店舗を操作する

ハフ分析を行う競合店の追加や除外、売場面積等の属性変更、店舗の一覧表示などを行います。

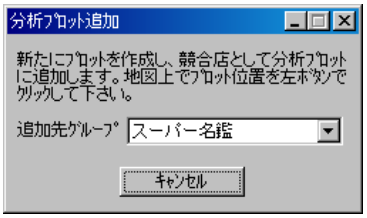
15.5.1 店舗を追加する

1. 左パネルの「追加」ボタンを押します。



2. 地図上で店舗位置をマウスクリックすると、店舗名称と売場面積等のプロット属性を入力する画面が現れます。適宜名称を変更し、属性の値を入力してから「更新」ボタンを押します。複数の競合店グループを設定している場合には、予めグループを選択してください。

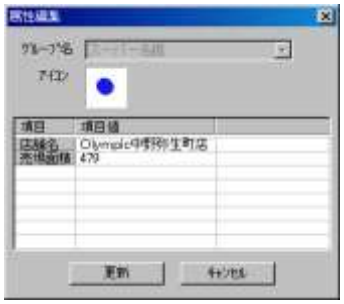
3. 複数の店舗を続けて追加できますが、追加操作が終わったら「キャンセル」ボタンを押してください。



15.5.2 店舗属性を修正する

1. 左パネルの店舗をマウスで選択し、右ボタンメニューで「属性編集」を実行します。

2. 必要な属性項目を修正し「更新」ボタンを押します。



修正するとデータベース上のプロット属性の値が変更されます。

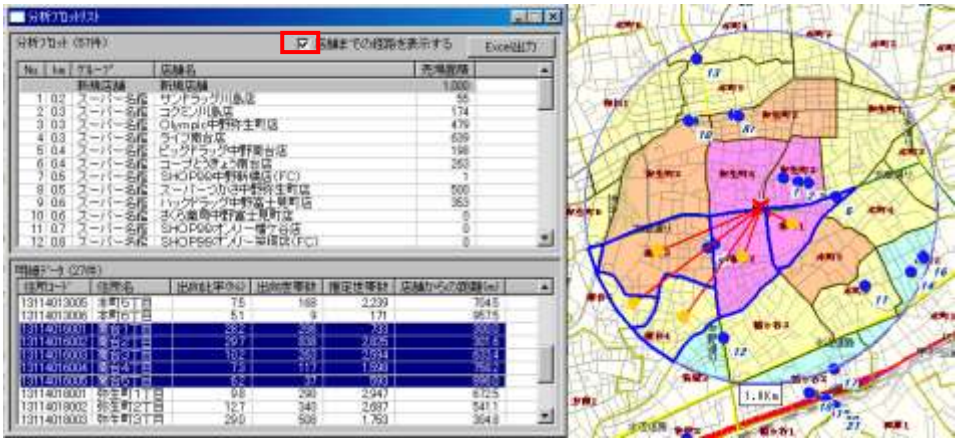
15.5.3 店舗一覧を確認する

1. 左パネルの「詳細」ボタンを押します。。

2. 店舗と店舗属性が一覧表になります。この表を Excel ファイルに出力することもできます。

15.5.4 分析実行後に経路を確認する

1. 分析実行後に「詳細」ボタンを押すと、店舗一覧の他に（画面の下部に）町丁目の一覧が表示されます。「店舗までの経路を表示する」にチェックを入れ町丁目をマウス選択すると、地図上に店舗－町丁目間の経路が表示されます。シフトキーやコントロールキーを使ってマウス選択すると、一度に複数の町丁目の経路を表示できます。



15.5.5 競合店から店舗を除外する

1. 左パネルで店舗のチェックをオフすると、ハフ分析においてその店舗は計算から除外されます。

2. 左パネルで店舗を選択し、右ボタンメニューで「削除」を実行すると店舗リストから除外されます。

チェックオフも削除も計算結果は同じです。

削除を行ってもプロット（店舗）が削除されることはありません。次回の分析では利用可能です。

15.5.6 店舗を地図の中心に置く

1. 左パネルで店舗を選択し、右ボタンメニューで「位置移動」を実行すると、その店舗が地図の中心になります。

15.6 ハフグラフの表示状態を切り替える

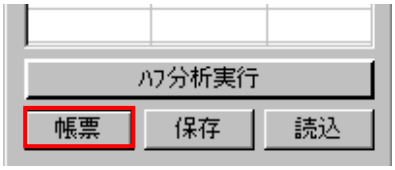
吸引率の界面グラフや凡例表示をオン・オフします。

1. ハフ分析のチェックをオフすると、地図上の界面グラフと凡例が非表示になります。

15.7 帳票を出力する

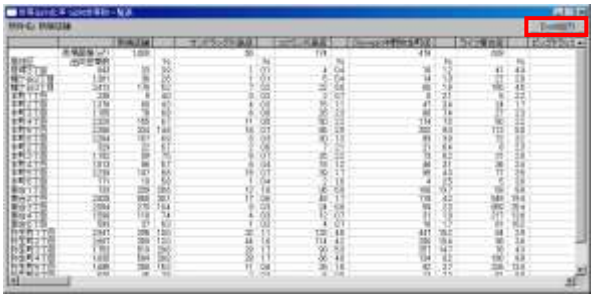
分析結果を画面上で確認したり Excel ファイルに出力します。

1. 「帳票」ボタンを押します。



2. 帳票の種類を選択します。

3. 画面上で確認すると共に「Excel 出力」ボタンによりファイルに出力することができます。



帳票の種類	内容
出向世帯数一覧表	店舗（出店候補と競合店）対商圏内の町丁目との吸引率（出向確率）および吸引世帯数の一覧表
町丁目一覧表	商圏内町丁目の吸引率、吸引世帯数、面積算入率、世帯数、人口、出店候補までの距離等の一覧表
競合店リスト	競合店の店舗名称、出店候補までの距離、売場面積等の一覧表
売上内訳	商圏区分毎の売上予測サマリー
売上分析データ	売上予測のサマリー

町丁目一覧表には「ユーザー指標に登録」ボタンが付いています。住所コードで登録すると、町丁目の集計データをグラフ機能で使用することができます。

「13.2.1.1 指標あるいはプロットを選択する」(p. 13-6)

15.8 分析結果を保存する

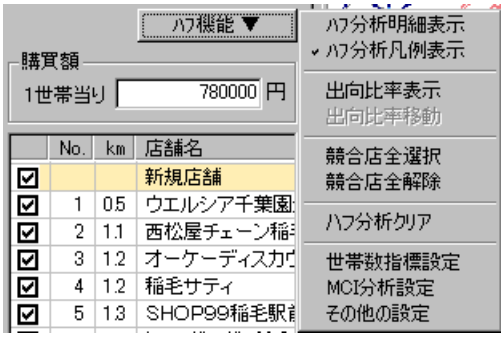
分析結果や分析条件を保存したり読み込んで再利用します。

1. 「保存」ボタンにより分析結果や分析条件をファイルに保存することができます。保存された結果は「読込」ボタンにより再現することができます。

店舗の位置や売場面積、町丁分割の状況など、保存時と設定条件が変化している場合には完全に復元することはできません。警告画面で変化内容を確認できます。

15.9 ハフ機能ボタンを利用する

ハフ機能ボタンにより、種々の操作を行います。



① ハフ分析明細表示を行う
② ハフ分析凡例表示を行う
③ 出向比率表示を行う
④ 出向比率移動を行う
⑤ 競合店全選択を行う
⑥ 競合店全解除を行う
⑦ ハフ分析クリアを行う
⑧ 世帯数指標の設定を行う。
⑨ MCI分析設定を行う
⑩ その他の設定を行う

15.9.1 ハフ分析明細表示を行う

ハフ分析実行後、結果の詳細表示を行います。これは左パネルの「詳細」ボタンと等価です。

「15.5.4 分析実行後に経路を確認する」(p. 15-18)

15.9.2 ハフ分析凡例表示を行う

ハフ分析実行後、凡例表示(分析結果)のオン・オフを切り替えます。これはトグルスイッチになっています。

15.9.3 出向比率表示を行う

ハフ分析実行後、町丁目の吸引率（出向比率）表示を界面グラフから数値表示に切り替えます。数値は上段が出向世帯数、下段が出向比率（%）となります。これはトグルスイッチになっています。

15.9.4 出向比率移動を行う

出向比率表示がオンの状態で、本メニューを実行すると数値の位置移動となります。マウスのドラッグで移動させてください。ドラッグ中のキャンセルはマウス右ボタンです。本メニューはトグルスイッチ（移動状態のオン・オフ）になっています。

15.9.5 競合店全選択を行う

左パネルの競合店のチェック状態を、全店舗でオンにします。

15.9.6 競合店全解除を行う

左パネルの競合店のチェック状態を、全店舗でオフにします。

15.9.7 ハフ分析クリアを行う

出店候補や商圏、購買額等、全ての分析条件をクリアします。

15.9.8 世帯数指標の設定を行う

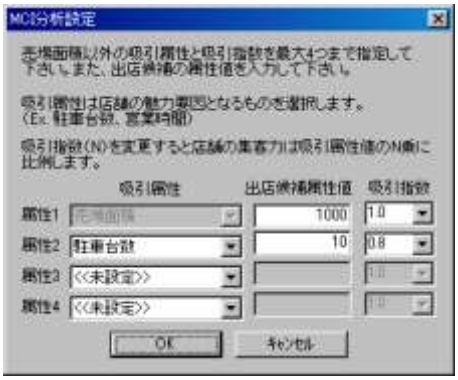
一度設定した、世帯数、人口に対応する統計指標を選択し直すことができます。

グラフ集計ウィザードと同様の指標選択画面が開きますので、対応する統計指標を選択してください。

⚠ ここで世帯数に対応する指標として他の指標（例えば高齢者人口など）を選択し、それをターゲットとしたハフ分析を行うことも可能です。ただし、画面や帳票に表示される指標名は「世帯数」「人口」となります。それぞれ読み替えて運用下さい。

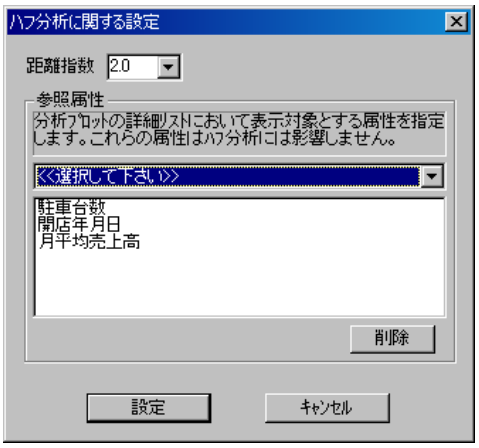
15.9.9 MCI分析設定を行う

ハフモデル計算における魅力要因を複数設定できます。また、出店候補の属性値（設定値）を入力／変更します。魅力要因の数は最大4個となっています。



15.9.10 その他の設定を行う

ハフモデル計算における距離指数を変更したり、競合店リストに表示される属性を設定します。



16 凡例操作を行う

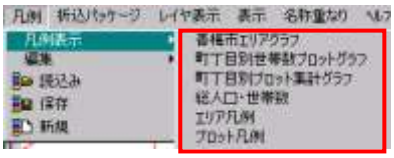
本章では凡例の操作方法について説明します。

16.1 凡例パレットを表示/非表示する

以下では、凡例パレットの表示/非表示について説明します。

16.1.1 凡例パレットを表示する

1. 「凡例表示」から作成されている凡例パレットが選択できます。



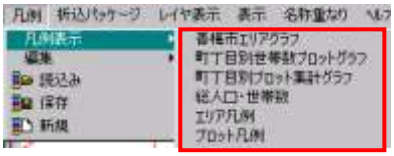
2. 凡例パレットの名前を選択すると地図上に凡例が表示されます。

表示設定されている凡例パレットにはチェックマークが付いています。

16.1.2 凡例パレットを非表示にする

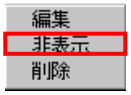
1) 凡例メニューから非表示にする。

「凡例表示」をからチェックマークの付いている凡例パレットを選択するとチェックマークが外れて非表示設定になります。



2) 表示されている凡例パレットを指定して非表示にする。

凡例パレットの上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。メニューから「非表示」を選択すると該当パレットのみ非表示になります。



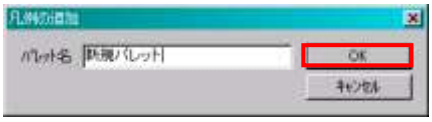
16.2 凡例パレットを作成・編集する

以下では、凡例パレットの作成・編集について説明します。

16.2.1 凡例パレットを新規作成する

1. 「凡例の追加」画面を表示します。

2. パレット名を設定して[OK]ボタンをクリックすると「凡例編集」画面が表示されます。以降の操作は既存の凡例の編集方法と同じです。

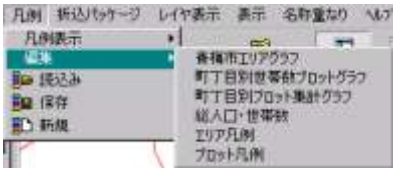


「16.2.2 凡例パレットを編集する」(p. 16-2)

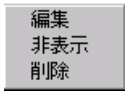
「凡例編集」画面から直接、新規作成することもできます。

16.2.2 凡例パレットを編集する

1. 「凡例編集」画面を表示します。



凡例メニュー



凡例パレットポップアップメニュー

2. 「凡例編集」画面は 2 つの部分で構成されています。凡例項目リストから表示する項目を選択して凡例編集ボックスで表示方法を設定することで凡例パレットが完成します。

①

②

①凡例項目リストの操作

「16.2.2.1 凡例項目リストを操作する」(p. 16-3)

②凡例編集ボックスの操作

「16.2.2.2 凡例編集ボックスを操作する」(p. 16-6)

16.2.2.1 凡例項目リストを操作する

凡例のタイプごとに設定内容が異なります。

「16.2.2.1.1 グラフ凡例」(p. 16-3)
「16.2.2.1.2 プロット凡例」(p. 16-4)
「16.2.2.1.3 エリア凡例」(p. 16-5)
「16.2.2.1.4 地図凡例」(p. 16-6)

16.2.2.1.1 グラフ凡例

以下ではグラフ凡例の場合の項目設定を説明します。

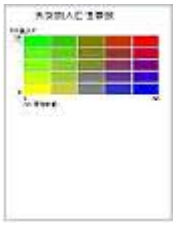
統計データ集計の場合、集計完了時に凡例を作成することができます。プロット集計・プロットグラフ・エリアグラフは集計完了時に自動作成されます。自動作成された凡例はグラフの表示編集と連動していますが凡例項目追加等を行うことはできません。ここで説明するのは手動作成の凡例で、この場合は凡例項目追加等を行うことができますがグラフ表示編集とは連動しません。

「13 集計・グラフ操作を行う」(p. 13-1)

1. 凡例を作成するグラフを選択します。

2. 表示形式を選択します。

表示形式は以下の 2 種類です。


<<マトリックス>>

<<リスト>>

クロス表示に設定されているグラフのみ選択することができます。それ以外のグラフはリスト表示しかできません。

「13.6.8.2.5.3 クロス集計表示」(p. 13-62)

3. 凡例項目リストに表示されたものはマウスで行選択ができます。(複数行選択可)。[追加>>]ボタンをクリックすると、選択した行が右側の凡例編集ボックスにコピーされます。

16.2.2.1.2 プロット凡例

以下ではプロット凡例の場合の項目設定を説明します。

1. 凡例をするプロットグループを選択します。

「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

2. 分類形式を選択します。

分類形式は以下の 3 種類です。

<<アイコン指定無し>>

<<アイコン種類指定あり>>

<<アイコンサイズ指定あり>>

グループ自体に条件アイコンの設定がされていなければ「アイコン指定無し」以外を選択しても無効です。

「10.2.6.5.2 属性値によるアイコンを条件式によって設定する」(p. 10-14)

3. 凡例項目リストに表示されたものはマウスで行選択ができます。(複数行選択可)。[追加>>]ボタンをクリックすると、選択した行が右側の凡例編集ボックスにコピーされます。

16.2.2.1.3 エリア凡例

以下ではエリア凡例の場合の項目設定を説明します。

凡例項目リストには、エリアグループ毎に1件の凡例が表示されます。リストに表示された凡例リストから、凡例として登録する項目を選択します。

グループ選択はできません。存在する全てのエリアグループが表示されます。

16.2.2.1.4 地図凡例

以下では地図凡例の場合の項目設定を説明します。

凡例を作成したい地図を選択します。

レイヤまたはシンボルの種類毎に1件の凡例を表示します。

16.2.2.2 凡例編集ボックスを操作する

16.2.2.2.1 パレット名を設定する

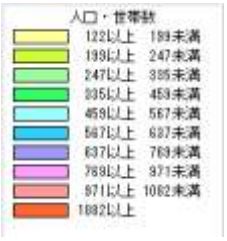
パレット名を設定します。

新規に作成される凡例の場合には「新しい凡例 n」という文字が自動的に表示されます。凡例パレットを指定している場合や読込みを行った場合には、編集対象のパレットの名称が表示されます。

16.2.2.2.2 表示形態を設定する

凡例編集ボックス上部のボタンで項目の表示形態を設定します。

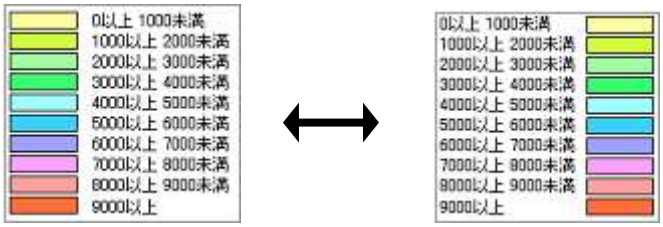
1. リスト表示



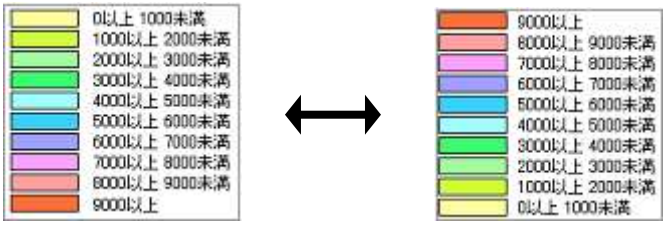
2. 並べて表示

凡例パレットはマウスでリサイズすることができます。その際の画面サイズ(横幅)に応じて並べて表示されます。

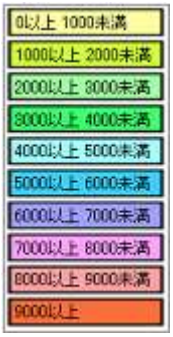
3. 左右反転



4. 上下反転



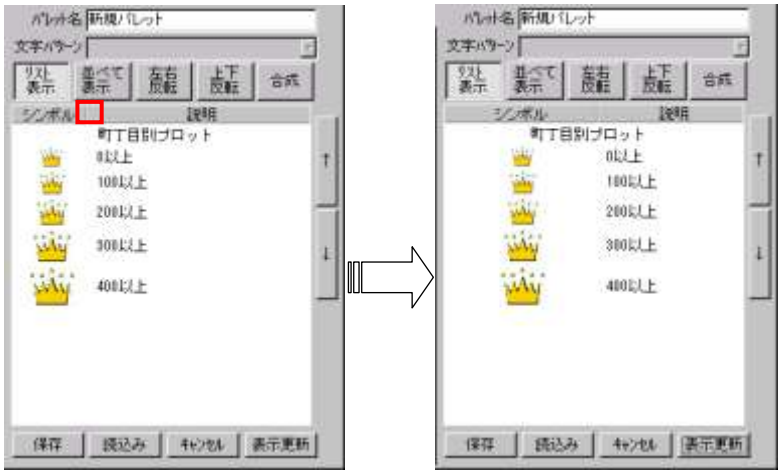
5. 合成



グラフ凡例、エリア凡例の場合のみ設定可能です。凡例パターンの中に文字が納まるように自動調整します。

16.2.2.2.3 シンボルの横幅を調整する

シンボルと説明の表示割合はタイトルバーをマウスで調整することで変更できます。



16.2.2.2.4 書式設定を行う

凡例パレットの背景色などの設定を行います。

1. 「凡例の書式設定」画面を表示します。

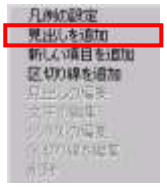
凡例編集ボックスポップアップメニュー

2. 「凡例の書式設定」画面が表示されます。

文字色と背景色は … をクリックすると色を選択できます。

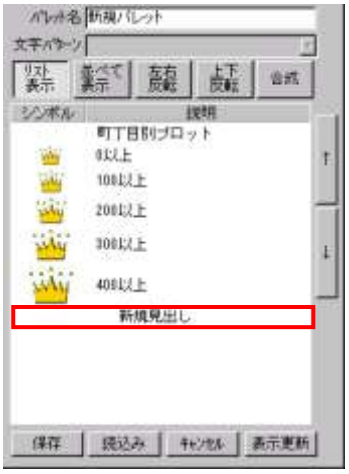
16.2.2.2.5 見出しを追加する

1. 「見出しを追加」を選択します。



凡例編集ボックスポップアップメニュー

2. 見出しが追加されます。

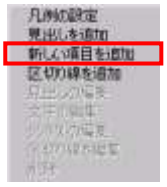


「16.2.2.2.8 見出しを編集する」(p. 16-11)
「16.2.2.2.9 文字を編集する」(p16-12)

自動作成のグラフ凡例の場合は設定できません。

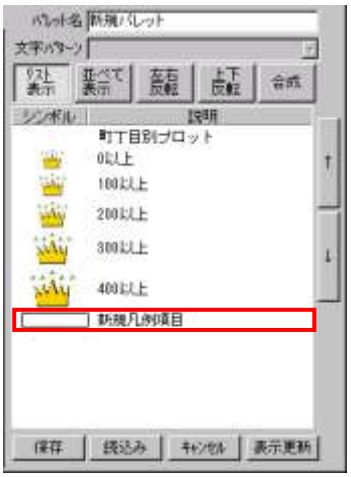
16.2.2.2.6 項目を追加する

1. 「新しい項目を追加」を選択します。



凡例編集ボックスポップアップメニュー

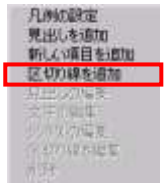
2. 新規凡例項目が追加されます。



⚠自動作成のグラフ凡例の場合は設定できません。

16.2.2.2.7 区切り線を追加する

1. 「区切り線を追加」を選択します。



凡例編集ボックスポップアップメニュー

2. 区切り線が追加されます。

☞「16.2.2.2.11 区切り線を編集する」(p. 16-14)

⚠自動作成のグラフ凡例の場合は設定できません。

16.2.2.2.8 見出しを編集する

1. 凡例編集ボックスで見出しを指定してから「見出しの編集」を選択します。

2. 「見出し設定」画面が表示されます。

文字色、囲み線色、背景色は … をクリックすると色を選択できます。
フォントは … をクリックすると設定できます。
「16.2.2.2.5 見出しを追加する」(p. 16-9)
「16.2.2.2.9 文字を編集する」(p. 16-12)
自動作成のグラフ凡例の場合は設定できません。

16.2.2.2.9 文字を編集する

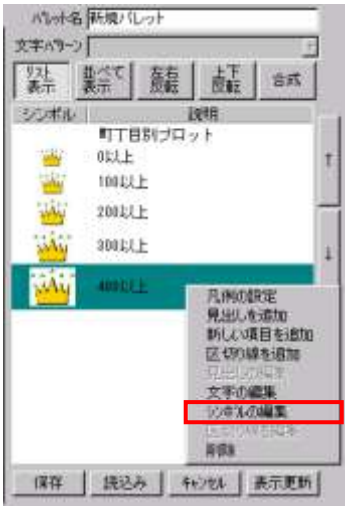
1. 凡例編集ボックスで文字項目を指定してから「文字の編集」を選択します。

2. 「テキスト編集」画面が表示されます。

文字色は … をクリックすると色を選択できます。
フォントは … をクリックすると設定できます。
凡例項目が選択されていない場合や、選択されている凡例項目が「文字の編集」の対象外の場合は設定できません。
凡例項目が複数選択されている場合には、フォントサイズと色だけ編集可能です。
「16.2.2.2.5 見出しを追加する」(p. 16-9)
「16.2.2.2.8 見出しを編集する」(p. 16-11)
自動作成のグラフ凡例の場合は設定できません。

16.2.2.2.10 シンボルを編集する

1. 凡例編集ボックスでシンボルのある項目指定してから「シンボルの編集」を選択します。



2. 「シンボル編集」画面が表示されます。

塗りつぶしと線の色は … をクリックすると色を選択できます。

アイコンは[アイコン選択]ボタンをクリックして表示される「マルチメディアファイル一覧」画面から選択できます。

地図凡例に対しては設定できません。

「16.2.2.2.9 文字を編集する」(p. 16-12)

自動作成のグラフ凡例の場合は設定できません。

16.2.2.2.11 区切り線を編集する

1. 凡例編集ボックスで区切り線を指定してから「区切り線を編集」を選択します。

2. 「区切り線編集」画面が表示されます。

線色は … をクリックすると色を選択できます。

「16.2.2.2.7 区切り線を追加する」(p. 16-10)

自動作成のグラフ凡例の場合は設定できません。

16.2.2.2.12 項目を削除する

凡例編集ボックスで項目を指定してから「削除」を選ぶとその項目を削除することができます。

凡例項目を選択した状態で Delete キーを押しても削除できます。

自動作成のグラフ凡例の場合は操作できません。

16.2.2.2.13 表示を更新する

「凡例編集」画面の[表示更新]ボタンをクリックすると編集した凡例が表示に反映されます。

16.3 凡例を読み込む

保存されている凡例を読み込んで表示や編集を行うことができます。

16.3.1 個別に読み込む

「凡例編集」ダイアログの[読込み]ボタンをクリックすると保存してある凡例を読み込むことができます。

ここで読み込むことができるファイルは個別保存したファイルです。

「16.4.1 個別に保存する」(p. 16-17)

自動作成のグラフ凡例の場合は操作できません。

16.3.2 一括して読み込む

「読込み」を選択してファイルを指定してください。

凡例メニュー

ここで読み込むことができるファイルは一括保存したファイルです。

「16.4.2 一括して保存する」(p. 16-17)

16.4 凡例を保存する

作成した凡例を保存することができます。

ここで保存した凡例は読み込んで表示･編集することができます。

「16.3 凡例を読み込む」(p. 16-16)

16.4.1 個別に保存する

「凡例編集」ダイアログの[保存]ボタンをクリックすると凡例を保存することができます。

ここで保存したファイルは個別に読み込むことができます。

「16.3.1 個別に読み込む」(p. 16-16)

16.4.2 一括して保存する

「保存」を選択して凡例を保存してください。

凡例メニュー

ここで保存したファイルは一括して読み込むことができます。

「16.3.2 一括して読み込む」(p. 16-17)

16.5 凡例を印刷する

地図上に凡例を表示していれば印刷時に凡例も印刷することができます。その場合の印刷ページやサイズの設定は印刷プレビューで行います。

☞「20.3.13.1.1 凡例の印刷設定を行う」(p. 20-32)

16.6 凡例パレットを削除する

地図上に表示されている凡例パレット上のポップアップメニューから「削除」を選択すると該当する凡例パレットが削除されます。

17 探索操作を行う

本章では探索の操作方法について説明します。

17.1 概説

探索機能とは大きく分けて到達圏機能と経路探索機能からなります。
到達圏機能とは、例えば自分の家から徒歩 15 分以内に行ける領域や、ある店舗に車で 10 分以内に行ける領域を見つけ出し、画面上に図示することができます。

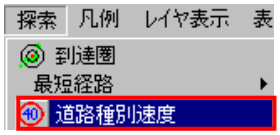
経路探索機能とは、例えば自分の家から、学校に寄り道して最終目的地の最寄駅に行くための最短経路を見つけ出し、画面上に図示することができます。

経路探索ではこの他にも、1 対多（ひとつの地点から複数の地点まで）、多対 1（複数の地点からひとつの地点まで）、巡回経路探索（ひとつの地点から複数の地点を任意に最短で巡回して最終目的地まで）などが可能です。

17.2 道路種別速度を編集する

以下では、道路種別速度の編集方法について説明します。

「道路種別登録」画面を表示します。



17.2.1 道路種別速度を作成する

以下では、道路種別速度の作成について説明します。

1. [追加]ボタンをクリックすると、道路種別設定の入力が可能となります。

2.　使用する道路にチェックを付けて道路毎の速度を入力します。

速度は 1～200km/h で設定してください。

3.　有料道路を使用する場合はチェックを付けます。

4. 種別名称を入力して[追加]ボタンをクリックすると、設定された内容で道路種別速度の追加処理を行います。

17.2.2 道路種別速度を変更する

以下では、道路種別速度の変更について説明します。

1. 種別設定一覧で既存の道路種別速度を指定してから[変更]ボタンをクリックします。

2. 必要事項を修正し[変更]ボタンをクリックすると、修正された内容で道路種別速度の変更処理を行います。

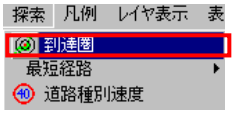
17.2.3 道路種別速度を削除する

種別設定一覧で既存の道路種別速度を指定してから[削除]ボタンをクリックしてください。

17.3 到達圏探索を行う

以下では、到達圏探索について説明します。

「到達圏探索」画面を表示します。



17.3.1 到達圏の探索実行

以下では、到達圏の探索実行について説明します。

1. 探索条件を設定します。探索条件は移動手段によって設定項目が異なります。移動手段を「車」、「徒歩」、「自転車」のいずれかから選択してください。

- 「車」の場合

1) [道路速度設定]ボタンをクリックすると「道路種別変更」画面が表示されます。

2)　既存の種別設定を使用する場合は種別設定一覧から使用する種別設定を選択して[読込]ボタンをクリックします。

3)　種別設定を入力して[設定]ボタンをクリックすると種別設定変更画面を閉じます。

4)　優先条件で「距離」を選択した場合は設定値名が「距離」に、「時間」「交通センサス」を選択した場合は「時間」になります。「距離」は 100m～3000000m の間で、「時間」は 1 分～6000 分の間で指定してください。

5)　「優先条件」の「交通センサス」は移動手段が「車」の場合のみ有効です。
「交通センサス」を利用した探索とは、道路ネットワークデータの「旅行速度」を考慮した検索となります。「旅行速度」は国土交通省の交通量調査において、混雑時に実際に車で走って計測した値になります。つまり、「交通センサス」を利用した探索とは、混雑する道路は避けて時間優先で探索するという意味合いになります。なお、この「旅行速度」はすべての道路について調査されている訳ではなく、主要な道路についてのみ調査されています。未調査の道路については、「道路速度設定」で設定した値を用いて探索を行います。

6)　「分析角」には到達圏ポリゴンの分析角を 1 度～30 度の間で入力してください。

- 「徒歩」「自転車」の場合

1)　「時速」を 1Km/h～200km/h の間で入力してください。

2)　「優先条件」「分析角」を入力します。入力方法は前述「●「車」の場合。」と同様です。

3)　「優先条件」の「交通センサス」は移動手段が「車」の場合のみ有効です。

3.　探索結果の表示方法を設定します。ハッチパターン、枠線の色・線種を選択してください。

4.　探索始点を指定します。探索始点は指定方法によって設定項目が異なります。指定方法を「マウス」、「プロット」のいずれかから選択してください。

また、始点を到着点として指定する場合は「到着点として指定する」にチェックを付けます。

- 「マウス」の場合
  地図上の任意の地点をクリックしてください。始点名称は編集可能です。

⚠地図上をクリックすると、「マウス」ボタン 選択は解除されます。地点を指定し直す場合は再度「マウス」ボタンを押下してから地図上をクリックしてください。

- 「プロット」の場合

1) 使用するプロットグループ・プロットを選択して[選択]ボタンをクリックしてください。

⚠プロットの指定を行わないと、[選択]ボタンはクリックできません。
☞「10.14 プロットグループ選択」(p. 10-56)

2) 地点名として使用する名称を選択します。

5. [探索実行]ボタンをクリックすると、設定された内容で到達圏の探索を行います。

⚠探索の範囲は車設定で数時間あるいは数百 Km を目安に設定して下さい。徒歩や自転車ではそれ以下となります。

17.3.2 到達圏の保存

以下では、到達圏の探索保存について説明します。

1. 探索実行後に[保存]ボタンをクリックします。

⚠到達圏探索の実行を行わないと、[保存]ボタンはクリックできません。

2. 「到達圏をエリアとして保存」画面が表示されます。エリア名を設定して[保存]ボタンをクリックしてください。

☞「11.14 エリアグループ選択」(p. 11-81)

17.3.3 緯度経度出力

以下では、到達圏探索結果の緯度経度出力について説明します。

1. 探索実行後に[緯度経度出力]ボタンをクリックします。

⚠ 到達圏探索の実行を行わないと、[緯度経度出力]ボタンはクリックできません。

2. 出力先を指定してファイル名を設定すると指定した場所に到達圏探索結果の頂点の緯度経度が出力されます。

17.4 最短経路探索(1 対 1)を行う

以下では、最短経路探索(1 対 1)について説明します。

「最短経路探索(1 対 1)」画面を表示します。

17.4.1 最短経路探索(1 対 1)の探索実行

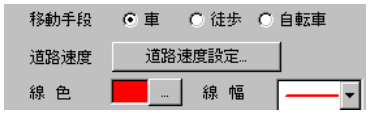
以下では、最短経路探索(1 対 1)の探索実行について説明します。

1. 優先条件を設定します。

「優先条件」の「交通センサス」は移動手段が「車」の場合のみ有効です。
「交通センサス」を利用した探索とは、道路ネットワークデータの「旅行速度」を考慮した検索となります。「旅行速度」は国土交通省の交通量調査において、混雑時に実際に車で走って計測した値になります。つまり、「交通センサス」を利用した探索とは、混雑する道路は避けて時間優先で探索するという意味合いになります。なお、この「旅行速度」はすべての道路について調査されている訳ではなく、主要な道路についてのみ調査されています。未調査の道路については、「道路速度設定」で設定した値を用いて探索を行います。

2. 探索条件を設定します。探索条件は移動手段によって設定項目が異なります。移動手段を「車」、「徒歩」、「自転車」のいずれかから選択してください。

- 「車」の場合



1) [道路速度設定]ボタンをクリックすると道路種別変更画面が表示されます。

「17.2 道路種別速度を編集する」(p. 17-2)

- 「徒歩」「自転車」の場合

「徒歩」「自転車」の場合は時速のみの設定となります。時速は 1Km/h～200km/h の間で入力してください。

3. 地点登録を行います。地点の指定方法は「マウス」、「プロット」の 2 通りあります。地点ごとに異なる方法で地点登録することも可能です。

1) 出発点を設定します。[出発点]ボタンをクリックして「マウス」か「プロット」で地点を指定してください。指定した場所に地点名が表示されます。

2) 到着点を設定します。[到着点]ボタンをクリックして「マウス」か「プロット」で地点を指定してください。指定した場所に地点名が表示されます。

3) 通過点がある場合は[通過点]ボタンをクリックします。指定方法は出発点・到着点と同様です。

「17.4.1.1 探索地点リストについて」(p. 17-13)

4. [探索実行]ボタンをクリックすると、設定された内容で最短経路(1 対 1)の探索を行います。

17.4.1.1 探索地点リストについて

以下では、最短経路探索(1 対 1)の探索地点リストについて説明します。

1. 「最短経路探索(1 対 1)」画面の探索地点リスト表示にチェックを付けます。

2. 「1 対 1 最短経路探索:地点リスト」画面が表示されます。

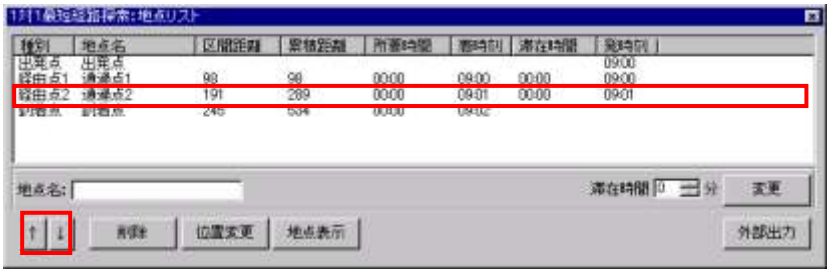
17.4.1.1.1 探索地点の属性変更

探索地点リストで地点を指定して修正事項を入力してから[変更]ボタンをクリックすると、探索地点の属性が変更することができます。

⚠出発点と到着点の滞在時間は設定できません。

17.4.1.1.2 探索地点の順序変更

探索地点リストで地点を指定してから[↑][↓]ボタンをクリックすると探索地点の順序を変更することができます。



⚠出発点と到着点の順序変更はできません。

17.4.1.1.3 探索地点の削除

探索地点リストで地点を指定してから[削除]ボタンをクリックすると探索地点を削除することができます。

⚠出発点の削除はできません。

17.4.1.1.4 探索地点の位置変更

以下では、最短経路探索(1 対 1)の探索地点の位置変更について説明します。

1. 探索地点リストで地点を指定してから[位置変更]ボタンをクリックします。その後、地図上で位置変更後の地点をクリックしてください。

2. 選択された地点の位置が変更されます。

17.4.1.1.5 探索地点の地点表示

以下では、最短経路探索(1 対 1)の探索地点の地点表示について説明します。

1. 探索地点リストで地点を指定してから[地点表示]ボタンをクリックしてください。

2. 選択された地点が地図の中央に表示されます。

17.4.1.1.6 探索地点の外部出力

「1 対 1 最短経路探索：地点リスト」画面で[外部出力]ボタンをクリックすると地点情報をファイル出力することができます。

17.4.2 最短経路探索（1 対 1）の保存

以下では、最短経路探索（1 対 1）の保存について説明します。

1. 探索実行後に[保存]ボタンをクリックします。

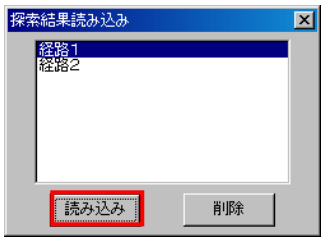
2. 「探索結果保存」画面が表示されます。名称を入力して[保存]ボタンをクリックします。

17.4.3 最短経路探索(1 対 1)の読み込み

以下では、最短経路探索(1 対 1)の読み込みについて説明します。

1. 「最短経路探索(1 対 1)」画面の[読み込み]ボタンをクリックします。

2. 「探索結果読み込み」画面が表示されます。一覧から選択して[読み込み]ボタンをクリックしてください。

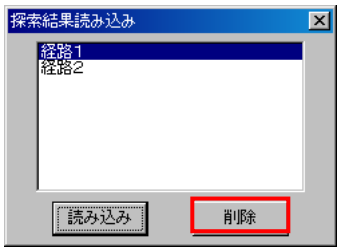


17.4.4 最短経路探索(1 対 1)の削除

以下では、最短経路探索(1 対 1)の削除について説明します。

1. 「最短経路探索(1 対 1)」画面の[読み込み]ボタンをクリックします。

2. 「探索結果読み込み」画面が表示されます。一覧から選択して[削除]ボタンをクリックしてください。



17.5 最短経路探索(1 対多)を行う

以下では、最短経路探索(1 対多)について説明します。

「最短経路探索(1 対多)」画面を起動します。

17.5.1 最短経路探索(1 対多)の探索実行

以下では、最短経路探索(1 対多)の探索実行について説明します。

探索条件、地点登録の設定事項を入力して[探索実行]ボタンをクリックしてください。

探索条件の設定方法は最短経路探索(1 対 1)の場合と同じです。

「17.4.1 最短経路探索(1 対 1)の探索実行」(p. 17-11)

「17.5.1.1 探索地点リストについて」(p. 17-18)

17.5.1.1 探索地点リストについて

以下では、最短経路探索(1 対多)の探索地点リストについて説明します。

1. 「最短経路探索(1 対多)」画面の探索地点リスト表示にチェックを付けます。

2. 探索地点リスト画面が表示されます。

17.5.1.1.1 探索地点の属性変更

探索地点リストで地点を指定し、地点名を変更してから[変更]ボタンをクリックすると探索地点名を変更することができます。

17.5.1.1.2 探索地点の削除

探索地点リストで地点を指定してから[削除]ボタンをクリックすると探索地点を削除することができます。

⚠出発点の削除はできません。

17.5.1.1.3 探索地点の位置変更

以下では、最短経路探索(1 対多)の探索地点の位置変更について説明します。

1. 探索地点リストで地点を指定してから[位置変更]ボタンをクリックします。

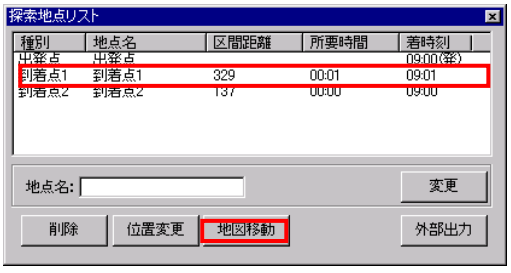
2. その後、地図上で位置変更後の地点をクリックしてください。

3. 選択された地点の位置が変更されます。

17.5.1.1.4 探索地点の地点表示

以下では、最短経路探索(1 対多)の探索地点の地点表示について説明します。

1. 探索地点リストで地点を指定してから[地図移動]ボタンをクリックしてください。



2. 選択された地点が地図の中央に表示されます。

17.5.1.1.5 探索地点の外部出力

「探索地点リスト」画面で[外部出力]ボタンをクリックすると地点情報をファイル出力することができます。

17.5.2 最短経路探索(1 対多)の保存

探索結果の保存方法は最短経路探索(1 対 1)と同じです。

「17.6.2 最短経路探索(多対 1)の保存」(p. 17-22)

17.5.3 最短経路探索(1 対多)の読み込み

探索結果の読み込み方法は最短経路探索(1 対 1)と同じです。

「17.4.3 最短経路探索(1 対 1)の読み込み」(p. 17-16)

17.5.4 最短経路探索(1 対多)の削除

探索結果の削除方法は最短経路探索(1 対 1)と同じです。

「17.4.4 最短経路探索(1 対 1)の削除」(p. 17-16)

17.6 最短経路探索(多対 1)を行う

以下では、最短経路探索(多対 1)について説明します。

「最短経路探索(多対 1)」画面を表示します。

17.6.1 最短経路探索(多対 1)の探索実行

以下では、最短経路探索(多対 1)の探索実行について説明します。

探索条件、地点登録を設定してから[探索実行]ボタンをクリックしてください。

探索条件の設定方法は最短経路探索(1 対 1)の場合と同じです。

「17.4.1 最短経路探索(1 対 1)の探索実行」(p. 17-11)

「17.6.1.1 探索地点リストについて」(p. 17-22)

17.6.1.1 探索地点リストについて

以下では、最短経路探索(多対 1)の探索地点リストについて説明します。

1. 「最短経路探索(多対 1)」画面の探索地点リスト表示にチェックを付けます。

2. 「探索地点リスト」画面が表示されます。

「探索地点リスト」画面の操作方法は最短経路探索(1 対多)と同じです。

「17.5.1.1 探索地点リストについて」(p. 17-18)

17.6.2 最短経路探索(多対 1)の保存

探索結果の保存方法は最短経路探索(1 対 1)と同じです。

「17.6.2 最短経路探索(多対 1)の保存」(p. 17-22)

17.6.3 最短経路探索(多対 1)の読み込み

探索結果の読み込み方法は最短経路探索(1 対 1)と同じです。

「17.4.3 最短経路探索(1 対 1)の読み込み」(p. 17-16)

17.6.4 最短経路探索(多対 1)の削除

探索結果の削除方法は最短経路探索(1 対 1)と同じです。

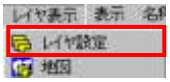
「17.4.4 最短経路探索(1 対 1)の削除」(p. 17-16)

18 レイヤ操作を行う

レイヤとは地図、エリア、グラフ、プロットなどが描かれた”透明なシート“のようなもので、それらを重ね合わせることにより、1 つの地図画面を表示しています。よって、これらの上下関係を変えることで一番表現したいプロットを手前に持ってくることや、または地図のあるレイヤの表示方法を変更するなどといったことが可能となります。

18.1 レイヤ設定を行う

「レイヤ設定」画面を表示します。

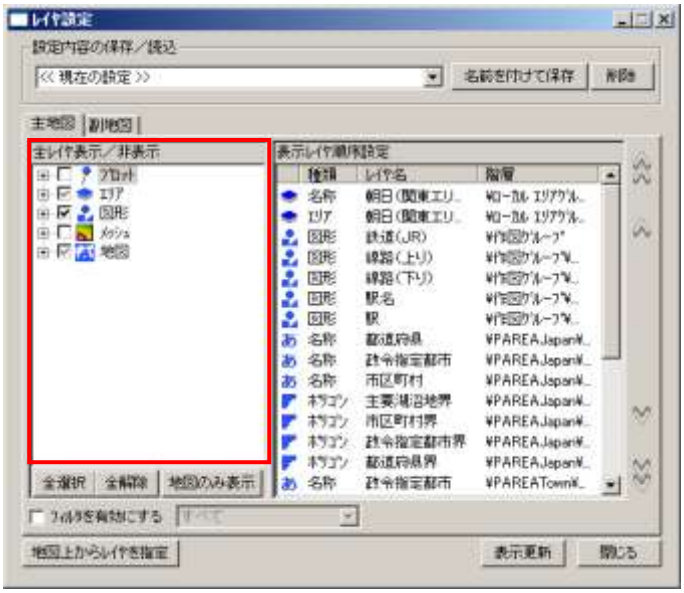


レイヤ設定は主地図・副地図それぞれの設定がタブによって切り替えられ、操作方法は同じです。（副地図を表示していない場合は「副地図」タブをクリックしてもレイヤは何も表示されません。）

18.1.1 レイヤ設定画面を操作する

18.1.1.1 全レイヤー覧

1. 表示可能なレイヤが全てツリー表示されています。



- 登録されている全てのプロット
  ☞「10 プロット操作を行う」(p. 10-1)
- 登録されている全てのエリア
  ☞「11 エリア操作を行う」(p. 11-1)
- 登録されている全ての図形
  ☞「14 作図操作を行う」(p. 14-1)
- 作成されている全てのグラフ
  ☞「13 集計・グラフ操作を行う」(p. 13-1)
- 選択されている全ての地図
  ☞「6.1 地図を表示する」(p. 6-1)
  ☞「6.2 特殊な地図を表示する(数値地図 50m メッシュ)」(p. 6-2)

ℹ左画面の操作と同じようにチェックの付け外しによって表示/非表示の設定、[名称]ボタンのクリックによって名称の表示/非表示を行うことができます。

2. レイヤを指定してから右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

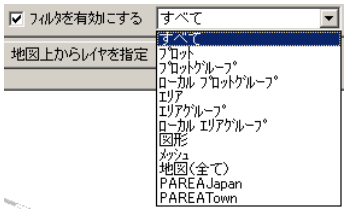
ツリーのポップアップメニューと右側の個別レイヤに対するポップアップメニューがありますが、ツリーに対しては主に、グループ全体あるいは地図全体に対する強調表示、←→対応レイヤの選択、プロパティ(縮尺設定)が可能です。

「18.1.1.7 レイヤを強調表示する」(p. 18-9)
「18.1.1.8 対応レイヤを選択する」(p. 18-10)
「18.1.4 レイヤのプロパティを設定する」(p. 18-13)
「18.1.5 地図のプロパティを設定する」(p. 18-17)

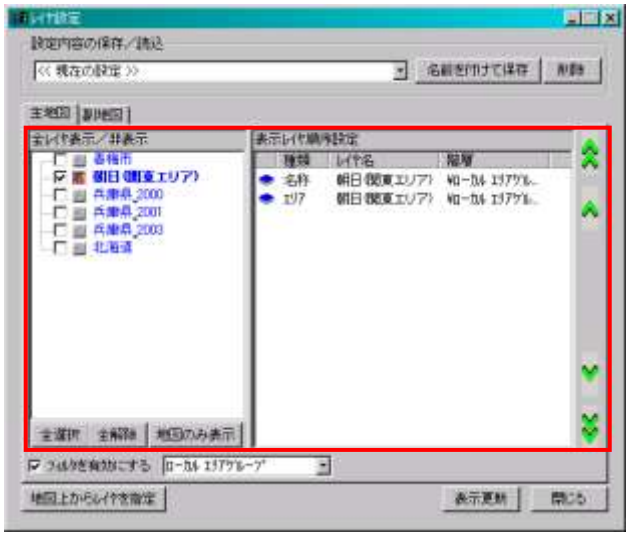
18.1.1.1.1 フィルタ表示

全レイヤー覧の表示を操作したいレイヤだけの表示に切り替えることができます。

1. 「フィルタを有効にする」にチェックを付けてドロップダウンから操作したいレイヤの種類を選択してください。

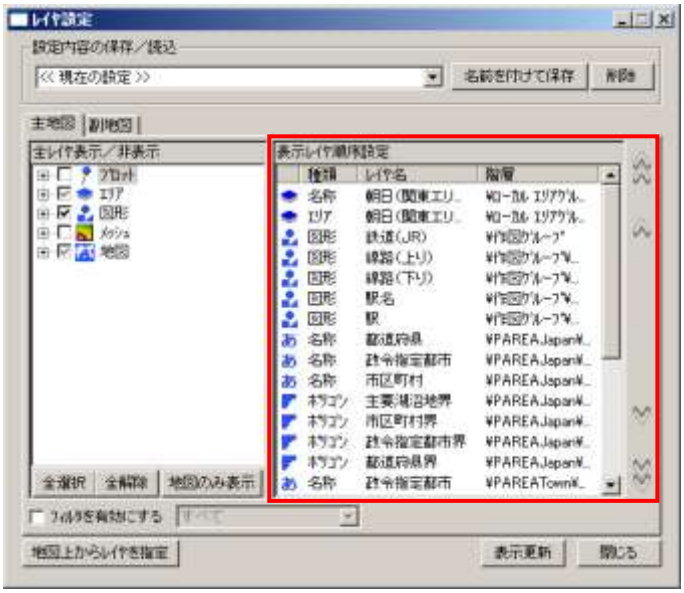


2. レイヤ一覧と表示レイヤ順序設定欄に選択した種類のレイヤだけが表示されます。



18.1.1.2 表示レイヤ順序設定欄

表示レイヤが表示順序に従って上から順に表示されています。



Ctrl キーや Shift キーを使用して一度に複数のレイヤを指定することができます。

レイヤを指定してから をクリックすると表示順序を変更することができます。

「18.1.3 レイヤの表示順序を設定する」(p. 18-11)

レイヤを指定してから右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

「18.1.1.7 レイヤを強調表示する」(p. 18-9)
「18.1.1.8 対応レイヤを選択する」(p. 18-10)
「18.1.3 レイヤの表示順序を設定する」(p. 18-11)
「18.1.2 レイヤの表示/非表示を設定する」(p. 18-11)
「18.1.4 レイヤのプロパティを設定する」(p. 18-13)

18.1.1.3 地図のみを表示する

[地図のみ表示]ボタンをクリックすると地図レイヤのみの表示になります。

18.1.1.4 レイヤ設定を保存する

レイヤの設定情報を保存することができます。

1. [名前を付けて保存]ボタンをクリックします。

2. 「レイヤ設定の保存」画面が表示されます。

3. 名称を入力して[保存]ボタンをクリックしてください。

ここで保存したレイヤ設定は設定を読み込むことができます。

「18.1.1.5 レイヤ設定を読み込む」(p. 18-7)

18.1.1.5 レイヤ設定を読み込む

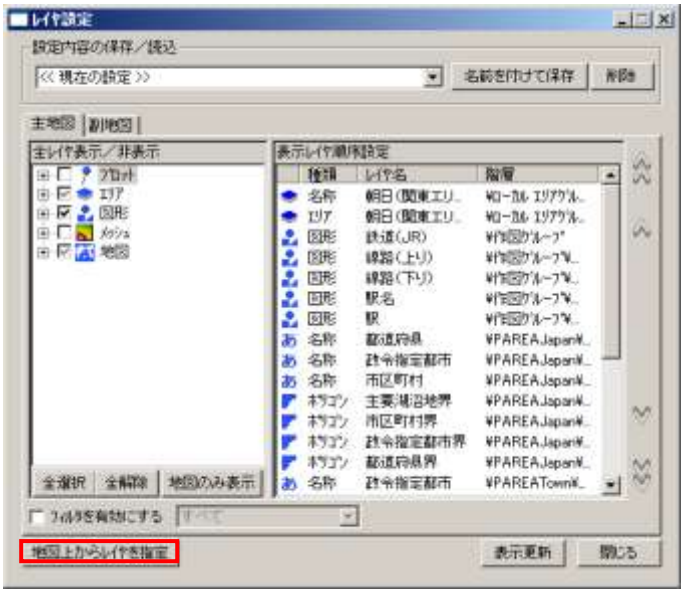
名前を付けて保存したレイヤ設定はドロップダウンから選択して読み込むことができます。

☞「18.1.1.4 レイヤ設定を保存する」(p. 18-6)

18.1.1.6 地図からレイヤを指定する

地図上に表示されているレイヤの種類がわからない時には地図からレイヤを指定することができます。

1. [地図上からレイヤを指定]ボタンをクリックします。

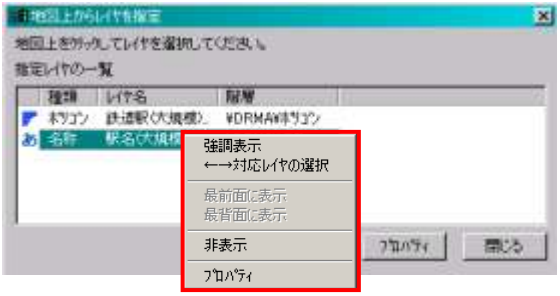


2. 「地図上からレイヤを指定」画面が表示されます。

3. 地図上で詳細を見たいレイヤをクリックします。

4. クリックした箇所に表示されているレイヤの一覧が表示されます。

5. 一覧でレイヤを指定して右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

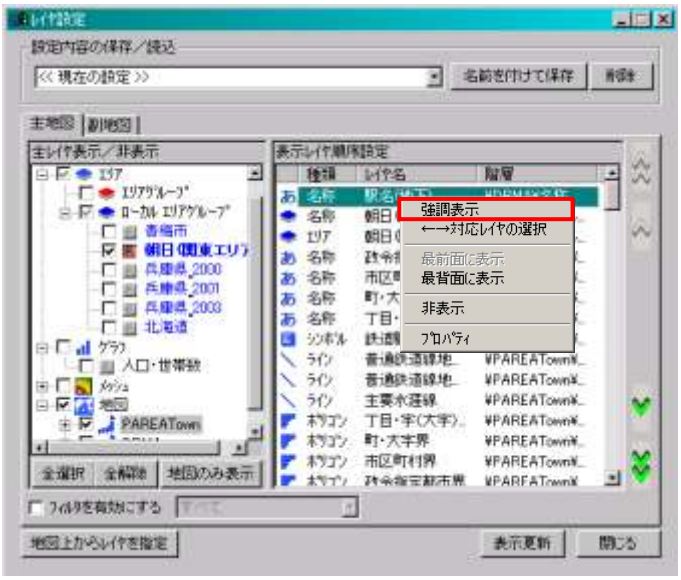


☞「18.1.1.7 レイヤを強調表示する」(p. 18-9)
☞「18.1.1.8 対応レイヤを選択する」(p. 18-10)
☞「18.1.2 レイヤの表示/非表示を設定する」(p. 18-11)
☞「18.1.4 レイヤのプロパティを設定する」(p. 18-13)

18.1.1.7 レイヤを強調表示する

指定したレイヤを地図上で強調表示することができます。

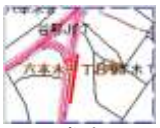
1. レイヤを指定して、ポップアップメニューから「強調表示」を選択します。

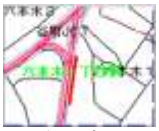


「強調表示」を選択できるポップアップメニューは全レイヤー覧・表示レイヤ順序設定欄・「地図上からレイヤを指定」画面から表示できます。

「18.1.1.1 全レイヤー覧」(p. 18-2)
「18.1.1.2 表示レイヤ順序設定欄」(p. 18-4)
「18.1.1.6 地図からレイヤを指定する」(p. 18-7)

2. 指定したレイヤが強調表示されます。


<<通常表示>>


<<強調表示>>

18.1.1.8 対応レイヤを選択する

全レイヤー覧・表示レイヤ順序設定欄でそれぞれ対応したレイヤを選択することができます。

1. 全レイヤー覧でレイヤを指定して、ポップアップメニューから「←→対応レイヤの選択」を選択します。

「←→対応レイヤの選択」を選択できるポップアップメニューは全レイヤー覧・表示レイヤ順序設定欄から表示できます。

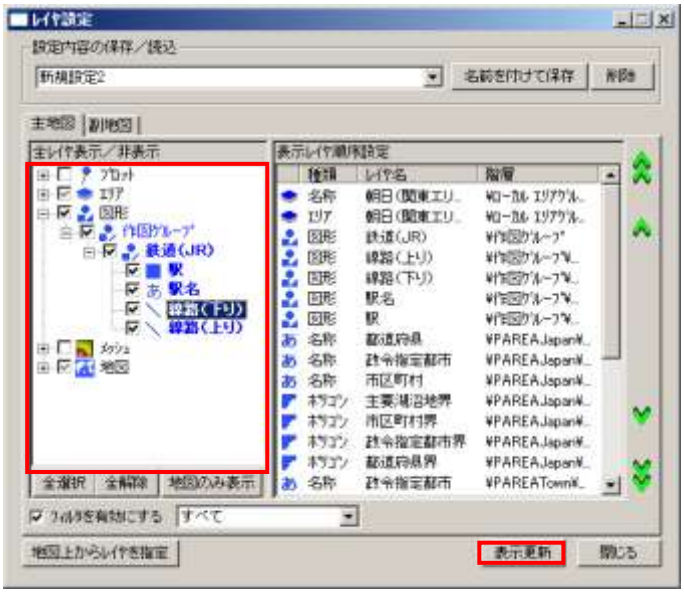
「18.1.1.1 全レイヤー覧」(p. 18-2)
「18.1.1.2 表示レイヤ順序設定欄」(p. 18-4)

2. 表示レイヤ順序設定欄で対応しているレイヤが選択されます。

表示レイヤ順序設定欄でレイヤを指定して全レイヤー覧の対応しているレイヤを選択することもできます。

18.1.2 レイヤの表示/非表示を設定する

全レイヤー覧でチェックを付け外して表示/非表示を設定することができます。設定後に[表示更新]ボタンをクリックすると地図上に反映されます。



[全選択][全解除]ボタンで全表示/全非表示を設定できます。

表示レイヤ順序設定欄と「地図上からレイヤ指定」画面のポップアップメニューから非表示にすることができます。

「18.1.1.2 表示レイヤ順序設定欄」(p. 18-4)

「18.1.1.6 地図からレイヤを指定する」(p. 18-7)

エリア・プロット・グラフは名称のみを表示設定することはできません。

グラフの名称を非表示にすると界面グラフ上の名称・値が非表示になります。

18.1.3 レイヤの表示順序を設定する

地図上で表示されているレイヤの表示順序を変更することができます。ここでは都市高速道路のラインレイヤとインターチェンジの名称レイヤを例に説明します。

1. インターチェンジ名の上に都市高速道路ラインが掛かっています。

2. 表示レイヤ順序設定欄で都市高速道路ラインを指定して をクリックします。

3. 都市高速道路ラインの順序がひとつ下がってインターチェンジ名の下になりました。[表示更新]ボタンをクリックしてください。

4. 都市高速道路ラインの上にインターチェンジ名が表示されています。

をクリックすると最前面/最背面に移動することができます。

18.1.4 レイヤのプロパティを設定する

レイヤのプロパティを変更することができます。レイヤのプロパティとは名称レイヤのフォントやラインレイヤの色などです。

1. レイヤを指定してポップアップメニューから「プロパティ」を選択します。

「プロパティ」を選択できるポップアップメニューは全レイヤー覧・表示レイヤ順序設定欄・「地図上からレイヤを指定」画面から表示できます。

「18.1.1.1 全レイヤー覧」(p. 18-2)
「18.1.1.2 表示レイヤ順序設定欄」(p. 18-4)
「18.1.1.6 地図からレイヤを指定する」(p. 18-7)

グラフレイヤはプロパティを設定できません。「グラフ表示編集」画面で行ってください。

「13-51 プロパティを操作する」(p. 13-51)

2. 指定したレイヤの「レイヤのプロパティ」画面が表示されます。[更新]ボタンをクリックすると地図上に反映されます。

設定できる項目はレイヤ種類によります。

- グラフレイヤ以外の全レイヤ
  「18.1.4.5 表示縮尺を設定する」(p. 18-15)
  「18.1.4.6 リサイジングを設定する」(p. 18-16)
- プロット
  「18.1.4.1 プロットアイコンのサイズを設定する」(p. 18-15)
- エリア
  「18.1.4.2 塗り潰しを設定する」(p. 18-15)
  「18.1.4.3 線を設定する」(p. 18-15)
- 地図(名称)
  「18.1.4.4 文字を設定する」(p. 18-15)
- 地図(ライン)
  「18.1.4.3 線を設定する」(p. 18-15)
- 地図(ポリゴン)
  「18.1.4.2 塗り潰しを設定する」(p. 18-15)
  「18.1.4.3 線を設定する」(p. 18-15)

複数のレイヤを指定して設定することもできます。
「18.1.4.7 複数のレイヤをまとめて設定する」(p. 18-16)

18.1.4.1 プロットアイコンのサイズを設定する

この設定はプロットの場合にのみ可能です。

表示倍率を入力するか、スライダーバーで設定してください。

18.1.4.2 塗り潰しを設定する

この設定はエリア・地図（ポリゴン）の場合に有効です。

塗り潰される矩形内の色とハッチパターンを設定できます。

18.1.4.3 線を設定する

この設定はエリア・地図（ライン）・地図（ポリゴン）の場合に有効です。

線の色、幅、種類を設定できます。

18.1.4.4 文字を設定する

この設定は地図（名称）の場合にのみ有効です。

フォント、色を設定できます。また文字の背景を塗り潰したり外枠線を付けることもできます。

「背景塗り潰し」と「外枠線あり」はチェックを付けると色を設定できるようになります。

18.1.4.5 表示縮尺を設定する

この設定はグラフレイヤ以外の全てのレイヤに有効です。

地図自体は 1/200000 まで表示できるが市区町村名称は 1/100000 までしか表示したくない、という場合に設定します。

18.1.4.6 リサイジングを設定する

この設定はグラフレイヤ以外の全てのレイヤに有効です。

地図縮尺に応じてレイヤをリサイズすると地図が見やすくなります。「縮尺に応じてリサイズする」にチェックを付けてから下限値・基準値・上限値を設定してください。

- 下限値:この縮尺まではレイヤを小さくします。(これ以上は小さくしません)
- 基準値:この縮尺時を基準にしてリサイズします。
- 上限値:この縮尺まではレイヤを大きくします。(これ以上は大きくしません)

例)地下鉄駅名称レイヤを下限値:1/15000、基準値:1/10000、上限値:1/5000 で設定した場合

<<1/15000>>

<<1/10000>>

<<1/5000>>

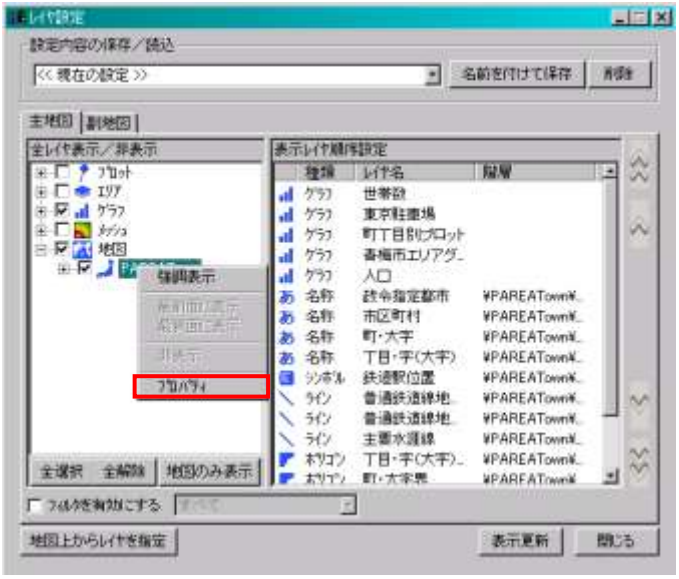
18.1.4.7 複数のレイヤをまとめて設定する

複数のレイヤを指定した場合はレイヤ名欄に指定したレイヤが表示されます。各設定欄で「設定を反映させる」のチェックボックスが有効になりますので設定したい項目でチェックを付けて[更新]ボタンをクリックしてください。

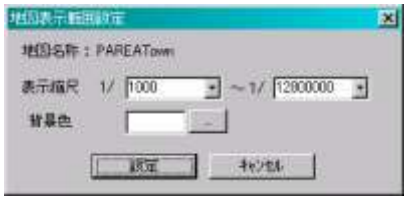
18.1.5 地図のプロパティを設定する

地図ごとに表示縮縮尺範囲と背景色を設定することができます。

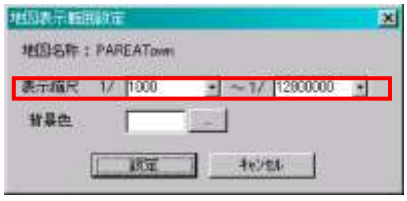
1. 地図を指定してポップアップメニューから「プロパティ」を選択します。



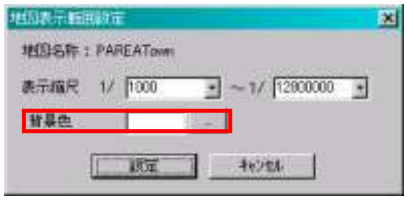
2. 「地図表示範囲設定」画面が表示されます。



3. 表示縮尺範囲を設定してください。



4. 背景色を設定してください。



背景色を設定すると地図上で何もない部分が設定した色で表示されます。

背景色未設定の地図

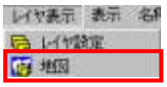
背景色を設定した地図

5. [設定]ボタンをクリックすると地図上に反映されます。

18.2 地図レイヤ表示を設定する

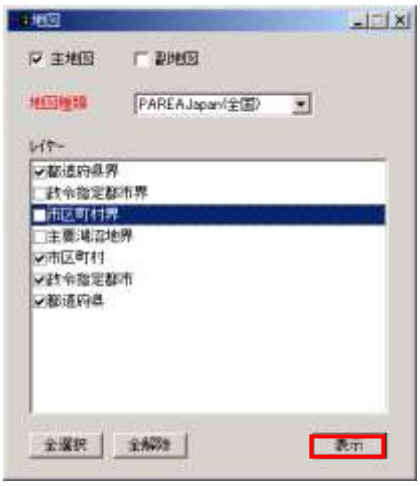
以下では地図レイヤ表示の設定について説明します。

1. 「地図」画面を表示します。



2. 地図レイヤ表示の設定は主地図と副地図のそれぞれで行います。画面の「主地図」と「副地図」のチェックを付け替えることでそれぞれの設定画面に切り替えることができます。

3. 地図種類を選択するとレイヤ欄に選択された地図の地図レイヤが一覧表示されます。一覧の中から表示するレイヤのチェックボックスにチェックを付けます。非表示にするレイヤはチェックを外します。表示設定が終わったら[表示]ボタンをクリックします。地図上に設定が反映されます。



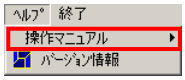
⚠ひとつ以上の変更を行わないと[表示]ボタンはクリックできません。

19 その他の操作

19.1 操作マニュアルの表示

操作マニュアルを PDF 形式で表示します。

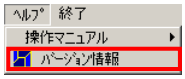
1. 「操作マニュアル」を選択します。



19.2 バージョン情報の表示

バージョン情報を表示します。

2. 「バージョン情報」を選択します。



3. 画面上にインストールされている製品モジュールのバージョン、EarthFinder のバージョンが表示されます。(「地図」タブをクリックすると地図のバージョン情報が確認できます)

画面起動時はモジュールのバージョン情報が選択されています。

「モジュール」タブでは、インストールされているモジュール名称と、そのバージョンが表示されます。「地図」タブでは、利用できる地図の名称、バージョン、更新日、国土地理院の承認番号、備考が表示されます。

19.3 ローカルファイル更新

ローカルファイル更新とは、ローカルプロット、ローカルエリア、作図オブジェクトの保存を強制的に行う機能です。変更を加えた、または新たに追加したローカルプロット、ローカルエリア、作図オブジェクトは EarthFinder 終了時に保存されますので、電源異常など不測の事態に備えて EarthFinder 起動中に強制的に保存させたい場合などに使用します。

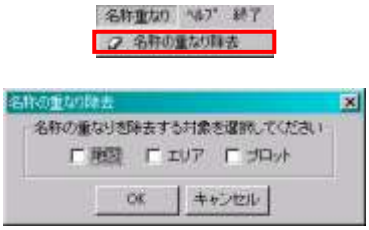
「ローカルファイル更新」を選択してください。

19.4 名称の重なり除去

地図上でレイヤ名称同士が重なって表示されている場合があります。その場合は重なりを除去すると見やすくなります。ここでは地図レイヤ名称の重なり除去を例に説明します。

1. 丁目・字名称と町・大字名称が重なっています。

2. 「名称の重なり除去」画面を表示します。



3. 重なりを除去するレイヤの種類を選択して[OK]ボタンをクリックします。

4. 重なりが除去されました。

20 印刷を行う

以下では、印刷について説明します。

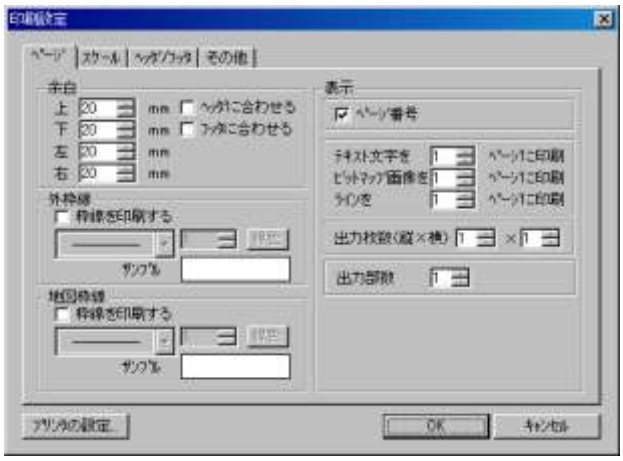
- 実際の印刷イメージ

印刷機能では主に以下の項目を設定することができます。

1) 表示している地図の印刷範囲
2) ヘッダ/フッタ・余白等の印刷レイアウト
「20.2 印刷範囲を設定する」(p.20-11)
3) 印刷時にのみ反映されるテキスト文字・ビットマップ画像
「20.1 印刷設定を行う」(p.20-2)
4) 1)～3)の設定確認
「20.3 プレビューを行う」(p.20-16)

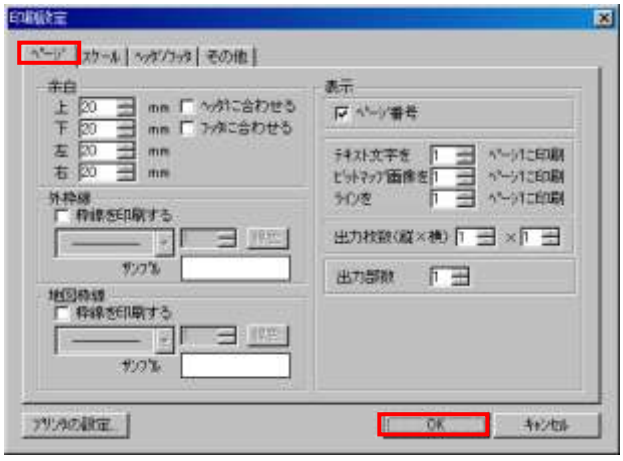
20.1 印刷設定を行う

「印刷設定」画面を表示します。



20.1.1 ページ設定を行う

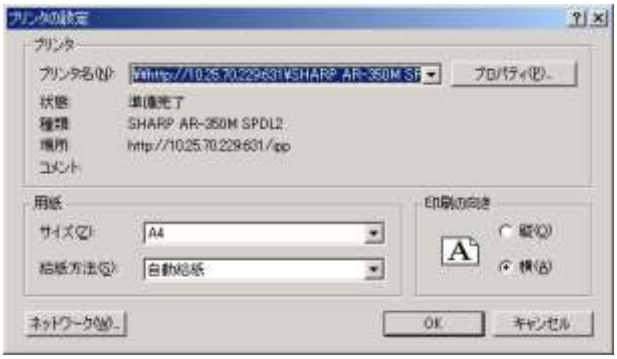
1. 「ページ」タブをクリックするとページ設定を行うことができます。[OK]ボタンをクリックすると設定が反映されます。



この内容は EarthFinder を起動している間中、有効です。

[キャンセル]ボタンをクリックすると設定内容を破棄して「印刷設定」画面を閉じます。

2. [プリンタの設定]ボタンをクリックすると「プリンタの設定」画面が表示されます。



用紙のサイズと印刷の向きはこの画面で設定してください。

20.1.1.1 余白の設定

上・下・左・右の余白を指定します。「ヘッダに合わせる」、「フッタに合わせる」にチェックを付けると上・下の入力値に関わらずヘッダ/フッタに合わせて設定されます。

余白は 0～100 の半角数字で設定してください。

20.1.1.2 外枠線の設定

外枠線は余白を除いた最外郭に表示される枠線です。「枠線を印刷する」にチェックが付いていない場合、外枠線は印刷されません。

1. 「枠線を印刷する」にチェックを付けると外枠線の設定が行えるようになります。

2. ドロップダウンから線種を選択します。

3. 線幅を設定します。

線幅は 1～20 の半角数字で設定してください。

4. [線色]ボタンをクリックすると色を選択できます。

5. 設定内容がサンプルに表示されます。

20.1.1.3 地図枠線の設定

地図枠線は余白の内郭に表示される枠線です。「枠線を印刷する」にチェックが付いていない場合、地図枠線は印刷されません。

1. 「枠線を印刷する」にチェックを付けると地図枠線の設定が行えるようになります。

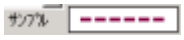
2. ドロップダウンから線種を選択します。

3. 線幅を設定します。

⚠線幅は 1～20 の半角数字で設定してください。

4. [線色]ボタンをクリックすると色を選択できます。

5. 設定内容がサンプルに表示されます。

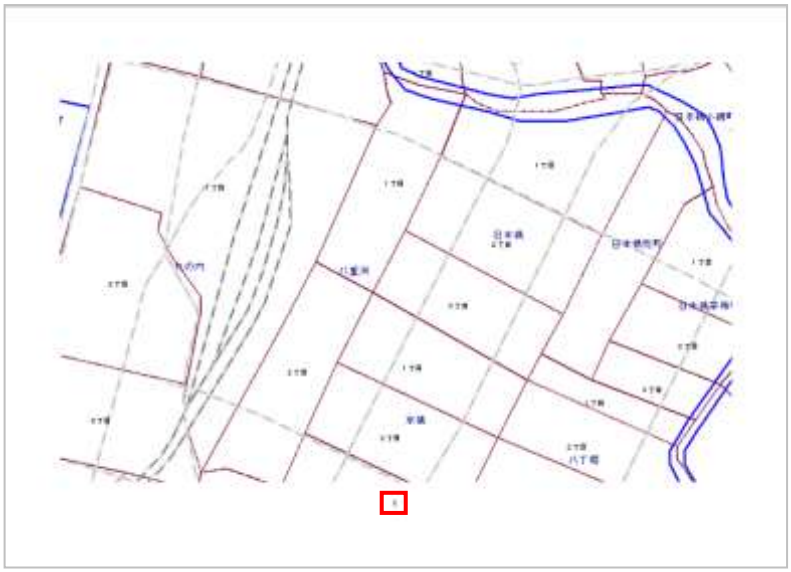


20.1.1.4 表示設定

地図と合わせてページ数や印刷用に作成した画像等を印刷することができます。ここでは、その表示設定を行います。

20.1.1.4.1 ページ番号の表示設定

「ページ番号」にチェックを付けると各ページ下部にページ番号が印刷されます。



20.1.1.4.2 文字・画像の表示設定

印刷用に作成した文字・画像・ラインの印刷ページを指定することができます。

☞「20.3.2 文字書込みを行う」(p. 20-18)
☞「20.3.3 画像書込みを行う」(p. 20-21)
☞「20.3.4 ライン書込みを行う」(p.20-25)

⚠印刷ページ数は半角数字で、設定した出力枚数内に設定してください。

⚠テキスト文字とビットマップ画像は異なるページに印刷することができますが、テキスト文字内・ビットマップ画像・ライン内で個別に印刷するページを設定することはできません。

20.1.1.4.3 出力枚数の設定

1×1～3×3 の間で出力枚数を設定することができます。

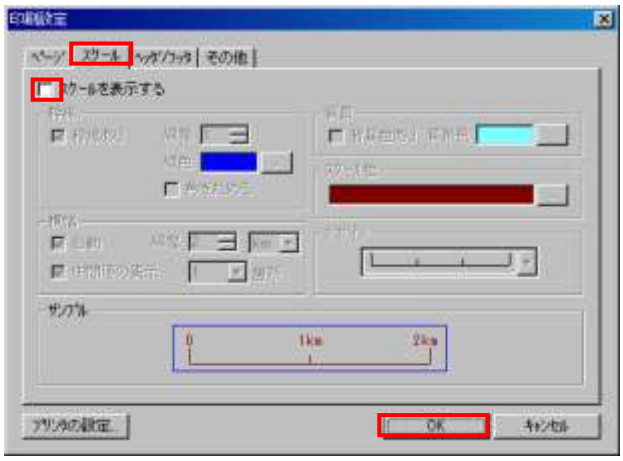
縦・横とも 1～3 の半角数字で設定してください。

20.1.1.4.4 出力部数の設定

印刷する部数を設定することができます。

20.1.2 スケールの表示設定を行う

「スケール」タブをクリックして「スケールを表示する」にチェックを付けると表示設定が行えるようになります。[OK]ボタンをクリックすると設定が反映されます。



スケールは最終ページに印刷されます。スケールの印刷位置はプレビューで調整することができます。

「20.3.13 挿入オブジェクトの調整を行う」(p. 20-32)

この内容は EarthFinder を起動している間中、有効です。

[キャンセル]ボタンをクリックすると設定内容を破棄して「印刷設定」画面を閉じます。

20.1.2.1 枠線設定

1. 「枠線あり」にチェックを付けると枠線の設定が行えるようになります。

2. 線幅を設定します。

線幅は 1～10 の半角数字で設定してください。

3. [線色]ボタンをクリックすると色を選択できます。

4. 設定内容がサンプルに表示されます。

20.1.2.2 横幅設定

1. 「自動」のチェックを外すと横幅が設定できるようになります。線幅を半角数字で入力して単位を選んでください。

2. 「中間値の表示」にチェックを付けると箇所数が設定できるようになります。箇所数は「1」～「5」で選んでください。

20.1.2.3 背景設定

1. 「背景色あり」にチェックを付けると背景色を設定できるようになります。

2. [線色]ボタンをクリックすると色を選択できます。

3. 設定内容がサンプルに表示されます。

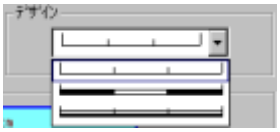
20.1.2.4 スケール色設定

1. [線色]ボタンをクリックしてスケールの色を設定することができます。

2. 設定内容がサンプルに表示されます。

20.1.2.5 デザイン設定

1. ドロップダウンからスケールのデザインを選ぶことができます。



2. 設定内容がサンプルに表示されます。

20.1.3 ヘッダ/フッタ設定を行う

「ヘッダ/フッタ」タブをクリックするとヘッダとフッタを設定できます。[OK]ボタンをクリックすると設定が反映されます。

出力枚数が複数枚の場合、ヘッダは 1 ページ目、フッタは最終ページに印刷されます。

ヘッダ/フッタを設定しても印刷されない場合は余白が「0」に設定されていて且つ「ヘッダに合わせる」「フッタに合わせる」にチェックがついていない可能性があります。

この内容は EarthFinder を起動している間中、有効です。

[キャンセル]ボタンをクリックすると設定内容を破棄して「印刷設定」画面を閉じます。

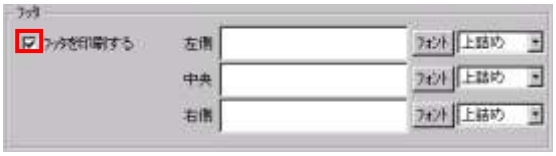
20.1.3.1 ヘッダの設定

「ヘッダを印刷する」にチェックを付けるとヘッダの設定を行えるようになります。

1. 左側・中央・右側に文字列を設定できます。
2. [フォント]ボタンをクリックするとフォントを設定できます。
3. 印刷位置は上詰め・中央揃え・下詰めから選択できます。

20.1.3.2 フッタの設定

「フッタを印刷する」にチェックを付けるとフッタの設定を行えるようになります。



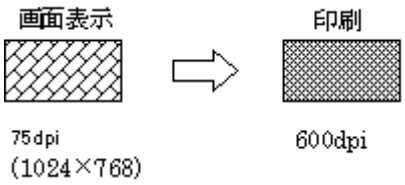
設定方法はヘッダと同じです。

「20.1.3.1 ヘッダの設定」(p. 20-9)

20.1.4 ハッチパターン間隔調整を行なう

プリンタによっては、画面の解像度と印刷の解像度の違いが考慮されずハッチ間隔が表示されるので、画面イメージと異なる印刷結果をなる場合があります。

- 画面表示と印刷が異なる場合の例

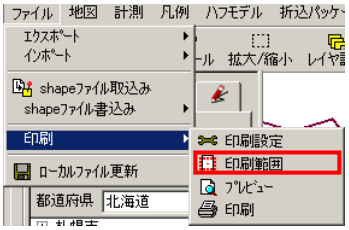


「その他」タブをクリックするとここではアプリケーションとプリンタのどちらでハッチ間隔を調整するかを設定できます。

デフォルト値は設定ファイル(EarthFinder.ini)で設定されています。

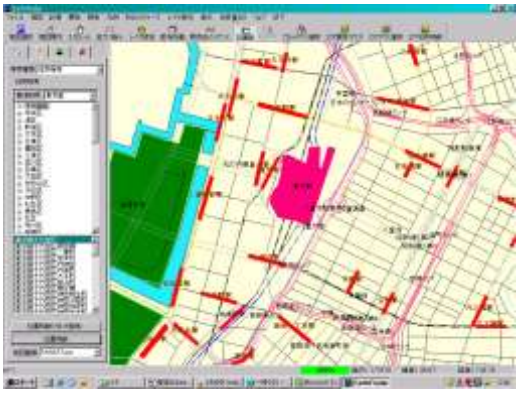
20.2 印刷範囲を設定する

以下では、「印刷範囲ツール」画面を表示します。



20.2.1 印刷範囲を決定する

初期設定ではその時点の表示位置を中心に印刷時縮尺と用紙によって印刷範囲が設定されています。



<<地図表示>>

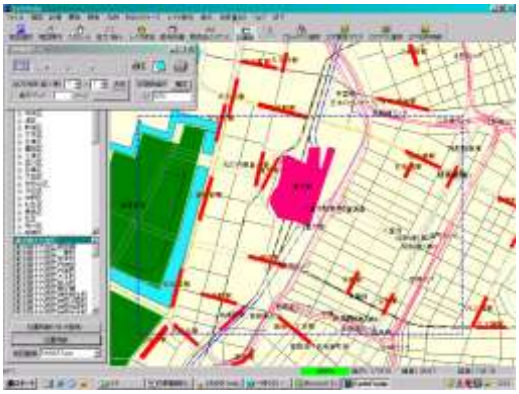
<<印刷イメージ>>
（用紙が A4 横に設定されている場合）

20.2.1.1 矩形による範囲設定

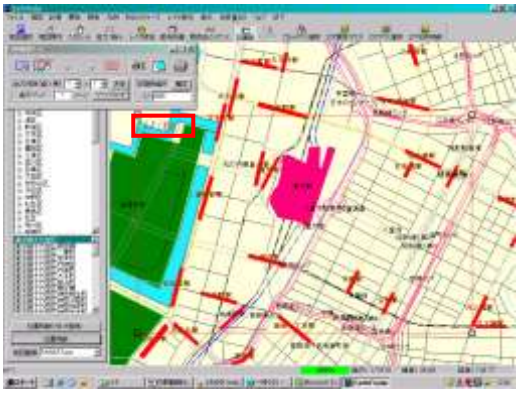
マウス作図による矩形で印刷範囲を設定することができます。

1. をクリックして凹んだ状態にします。(「印刷範囲ツール」画面初期表示時は凹んでいます。)

2. 地図上でマウスをドラッグして矩形を描画します。



3. 設定されている用紙の向きで印刷範囲が描画されます。



設定されている用紙の種類・向きが印刷範囲左上に表示されます。用紙の向きはプリンタの設定で行ってください。

「20.1.1 ページ設定を行う」(p. 20-2)

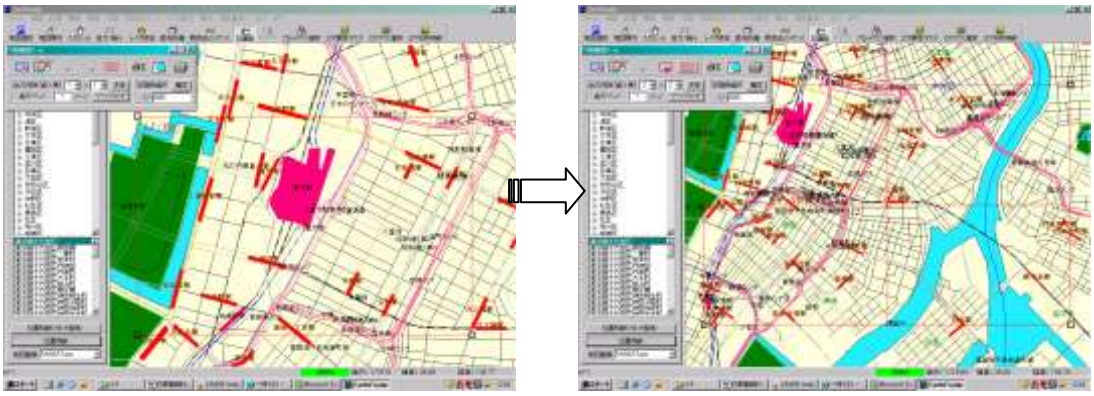
4. 描画した印刷範囲に従って印刷縮尺が設定されます。

5. が凹んでいる状態では何度でも描画しなおすことができます。

6. 出力枚数を複数に設定している場合は描画した矩形部分を1ページとして設定したページ数分、枠を表示します。

20.2.2 印刷範囲の全表示

をクリックすると印刷範囲を画面いっぱいに全表示します。



<<出力枚数:2×2 の場合>>

20.2.3 外枠線を移動する

外枠線をドラッグして印刷範囲を移動することができます。

1. をクリックして凹んだ状態にします。

2. 地図上でクリックするとその地点を中心に印刷範囲が移動します。

20.2.4 印刷範囲の移動とリサイズを行う

外枠線の頂点をドラッグして印刷範囲を変更することができます。

1. をクリックして凹んだ状態にします。

2. 外枠線の頂点が移動可能になります。

3. 頂点をドラッグすると外枠線が変更され、印刷縮尺にも反映されます。

20.2.5 出力枚数を決定する

1×1～3×3 の間で出力枚数を設定することができます。

20.2.5.1 出力枚数の設定

1. 縦・横の出力枚数を設定して[決定]ボタンをクリックします。

出力枚数は縦・横とも、1～3 の半角数字で設定してください。

2. 印刷範囲の枠線に反映されます。

<<1×1>>

<<2×2>>

20.2.5.2 地図の改ページ表示

出力枚数を複数枚に設定している場合のみ操作できます。

出力枚数が 1×1 の場合はボタンが無効になっています。

20.2.5.2.1 1 ページごとに表示する

1. をクリックすると次ページの地図を表示します。
2. をクリックすると前ページの地図を表示します。

表示している地図が先頭ページの場合は、最終ページの場合はが無効になります。

20.2.5.2.2 表示ページを指定する

1. 表示ページ欄にページ数を設定して[ページジャンプ]ボタンをクリックします。

表示ページは半角数字で、設定した出力枚数内の値を入力してください。

2. 指定したページの地図が表示されます。

20.2.6 縮尺を決定する

印刷する地図自体の縮尺と表示されるレイヤの縮尺を設定することができます。

20.2.6.1 地図縮尺の設定

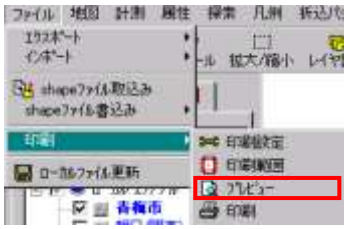
1. 印刷時縮尺欄に縮尺を設定して[確認]ボタンをクリックします。

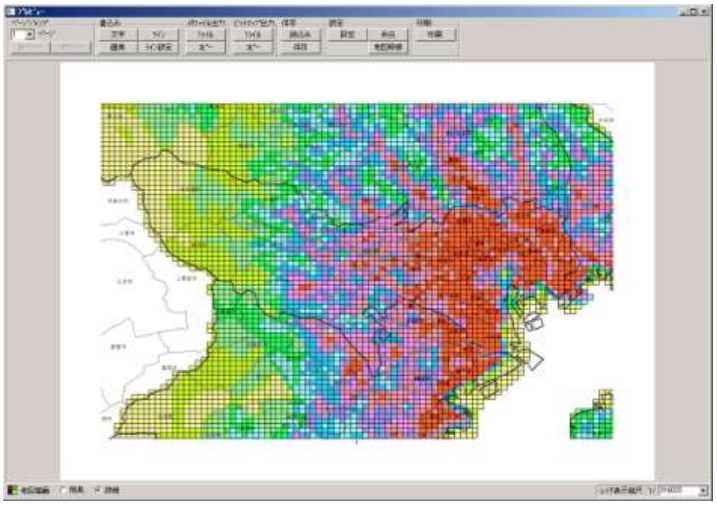
印刷時縮尺は 1～9999999 の半角数字で設定してください。

2. 地図上の印刷範囲と[レイヤ表示時縮尺]欄に反映されます。

20.3 プレビューを行う

「プレビュー」画面を表示します。





大きい用紙サイズ（A0 など）を指定してプレビュー表示を行うとメモリ不足によりカラー表示できない場合があります。その場合はプレビューがモノクロ表示となり左下のアイコン表示が になります。但し、実際にカラープリンタ等で印刷するときはカラーで印刷されます。

「プレビュー」画面下部で「簡易」を選択すると高速でプレビューを行うことができます。見映えは実際の印刷とは異なりますが、印刷範囲を素早く確認するときに便利です。

20.3.1 地図の改ページ表示

出力枚数を複数枚に設定している場合のみ操作できます。

出力枚数が 1×1 の場合はボタンが無効になっています。

20.3.1.1 表示ページを指定する

1. 設定した出力枚数がページ数ドロップダウンに反映されています。

<<出力枚数:3×3 の場合>>

2. ドロップダウンから表示するページ数を選択します。

3. 選択したページのプレビューが表示されます。

20.3.1.2 1 ページごとに表示する

1. [前ページ]ボタンをクリックすると前ページのプレビューを表示します。

2. [次ページ]ボタンをクリックすると次ページのプレビューを表示します。

表示している地図が先頭ページの場合は[前ページ]ボタン、最終ページの場合は[次ページ]ボタンが無効になります。

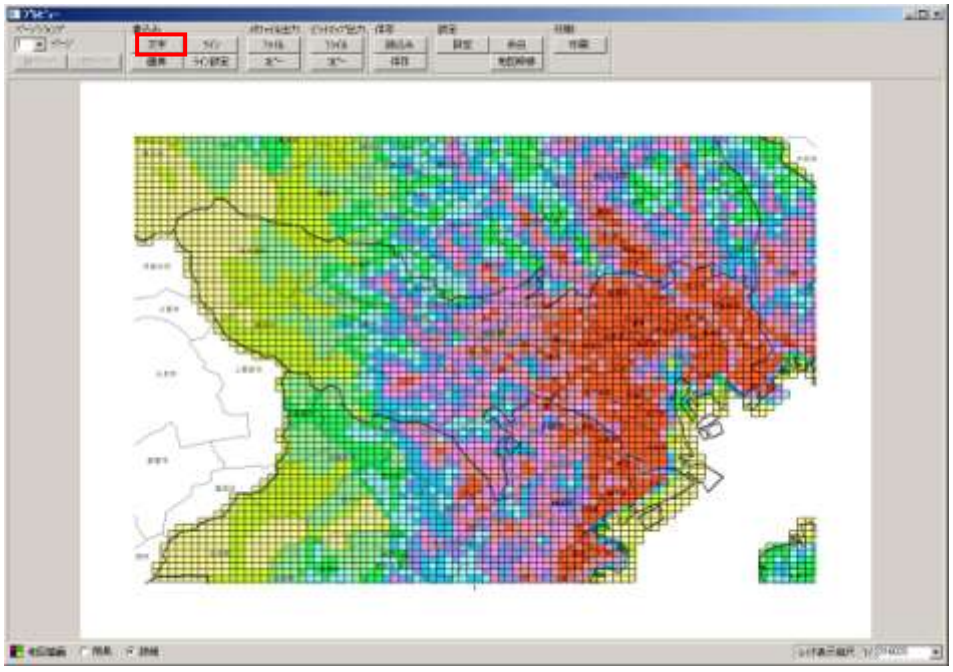
20.3.2 文字書込みを行う

地図上に印刷されるテキスト文字を書き込むことができます。

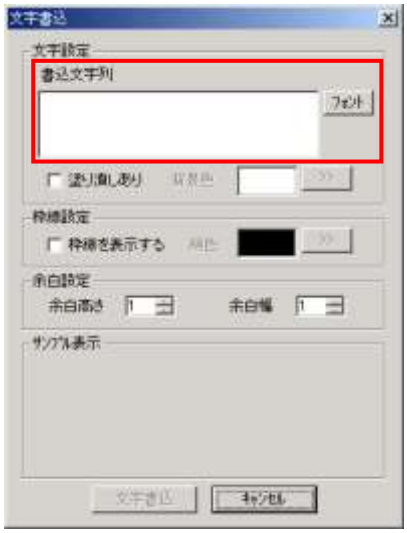
書き込んだテキスト文字は削除動作を行わなければ次回 EarthFinder を起動したときにも保存されています。

「20.3.13.2 削除する」(p. 20-33)

1. [文字書込]ボタンをクリックすると「文字書込」画面が表示されます。



2. 書込文字列欄に挿入する文字列を設定します。



[フォント]ボタンをクリックするとフォント設定を行うことができます。

3. [塗り潰しあり]にチェックを付けると背景色が設定できるようになり、挿入する文字列の背景が塗り潰されます。

- 塗り潰し無しの場合

東京駅周辺図

- 塗り潰しありの場合

東京駅周辺図

4. 「枠線を表示する」にチェックを付けると枠線色が設定できるようになり、挿入する文字列の周りに枠線が表示されます。

- 枠線無しの場合

東京駅周辺図

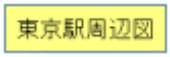
- 枠線ありの場合

東京駅周辺図

5. 文字列の周りの余白を設定します。

- 余白高さ:1、余白幅:1 の場合

- 余白高さ:10、余白幅:10 の場合



⚠余白は高さ・幅ともに 1～50 の半角数字で設定してください。

6. 設定内容がサンプルに反映されています。

7. [文字書込]ボタンをクリックすると設定内容を保持して「文字書込」画面を閉じ、プレビュー上に反映されます。

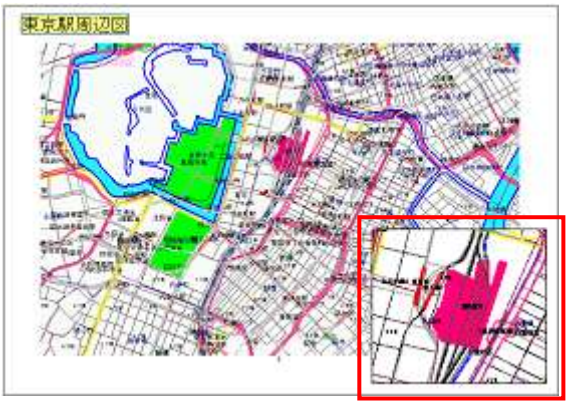
⚠[キャンセル]ボタンをクリックすると設定内容を破棄して「文字書込」画面を閉じます。

ℹ書き込んだテキスト文字はプレビュー上で印刷位置を移動することができます。

☞「20.3.13 挿入オブジェクトの調整を行う」(p. 20-32)

20.3.3 画像書込みを行う

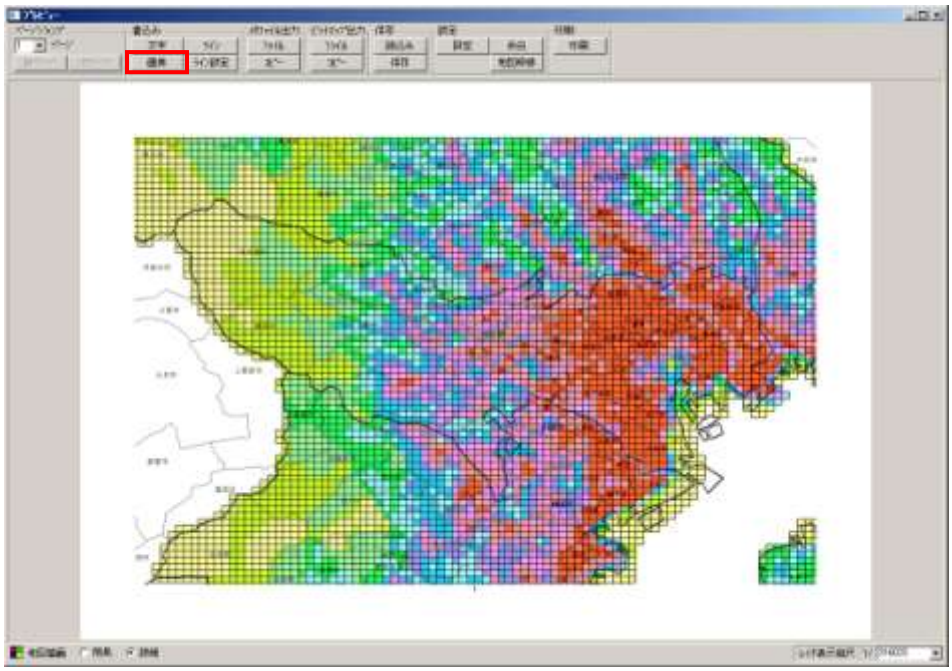
地図上に印刷されるビットマップ画像を書き込むことができます。



書き込んだビットマップ画像は削除動作を行わなければ次回 EarthFinder を起動したときにも保存されています。

「20.3.13.2 削除する」(p. 20-33)

1. [画像書込]ボタンをクリックすると「画像書込」画面が表示されます。



2. 挿入する画像を取得します。

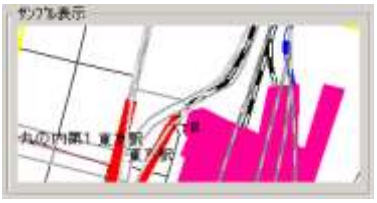
- ファイルから取得

1) 「ファイル」を選択して[取得]ボタンをクリックします。

2) 挿入する画像ファイルを選択します。

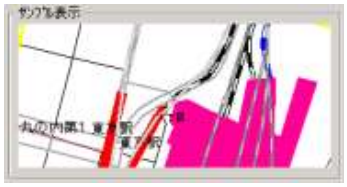
⚠選択できるのは拡張子が「.bmp」のファイルのみです。

3) サンプルに反映されています。



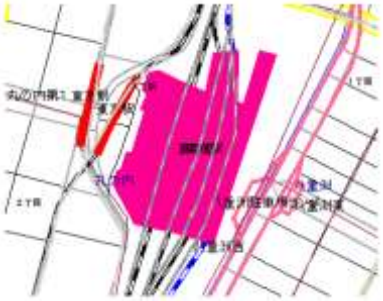
- クリップボードから取得
  1) 「クリップボード」を選択して[取得]ボタンをクリックします。

  2) クリップボードに保存されている画像がサンプルに反映されます。

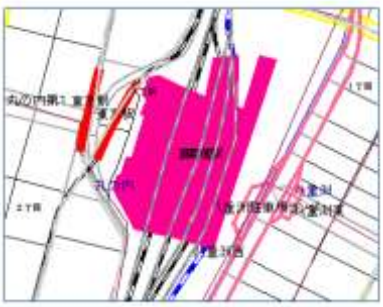


3. 「枠線を表示する」にチェックを付けると枠線色が設定できるようになり、挿入する画像の周りに枠線が表示されます。

- 枠線無しの場合



- 枠線ありの場合



4. 画像の表示倍率を設定します。

⚠表示倍率は 25～500 の半角数字で設定してください。

5. 設定内容がサンプルに反映されています。

6. [画像書込]ボタンをクリックすると設定内容を保持して「画像書込」画面を閉じ、プレビュー上に反映されます。

⚠[キャンセル]ボタンをクリックすると設定内容を破棄して「画像書込」画面を閉じます。
ℹ書き込んだテキスト文字はプレビュー上で印刷位置を移動することができます。
☞「20.3.13 挿入オブジェクトの調整を行う」(p. 20-32)

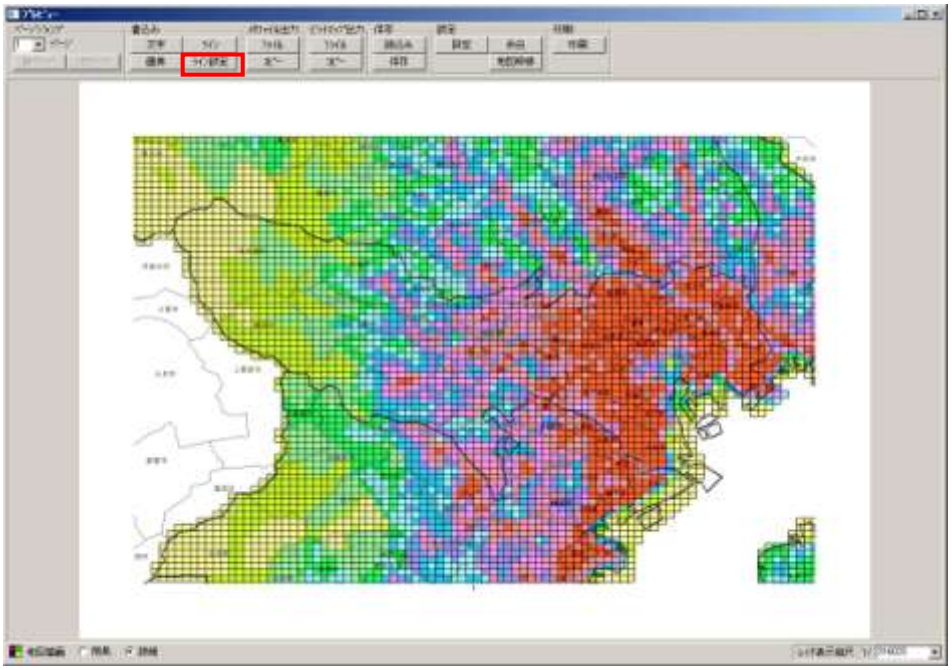
20.3.4 ライン書込みを行う

地図上に印刷されるラインを書き込むことができます。

書き込んだラインは削除動作を行わなければ次回 EarthFinder を起動したときにも保存されています。

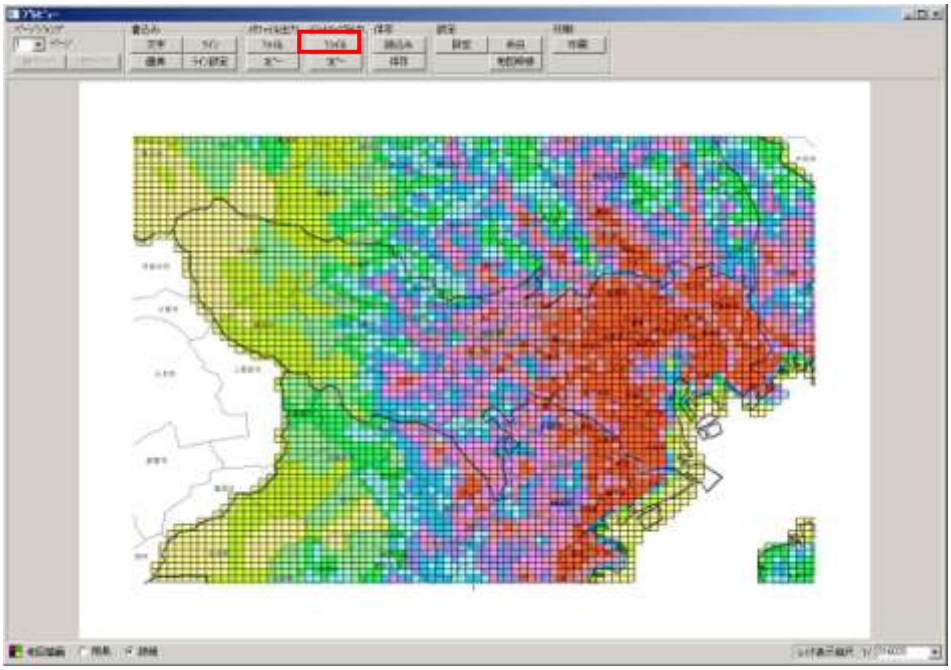
「20.3.13.2 削除する」(p. 20-33)

1. [ライン設定]ボタンをクリックすると「ライン書込み設定」が表示されます。



2. 色、線種、線幅を設定して[OK]ボタンをクリックしてください。

3. [ライン]ボタンをクリックするとプレビュー画面上にマウスでラインが描けます。



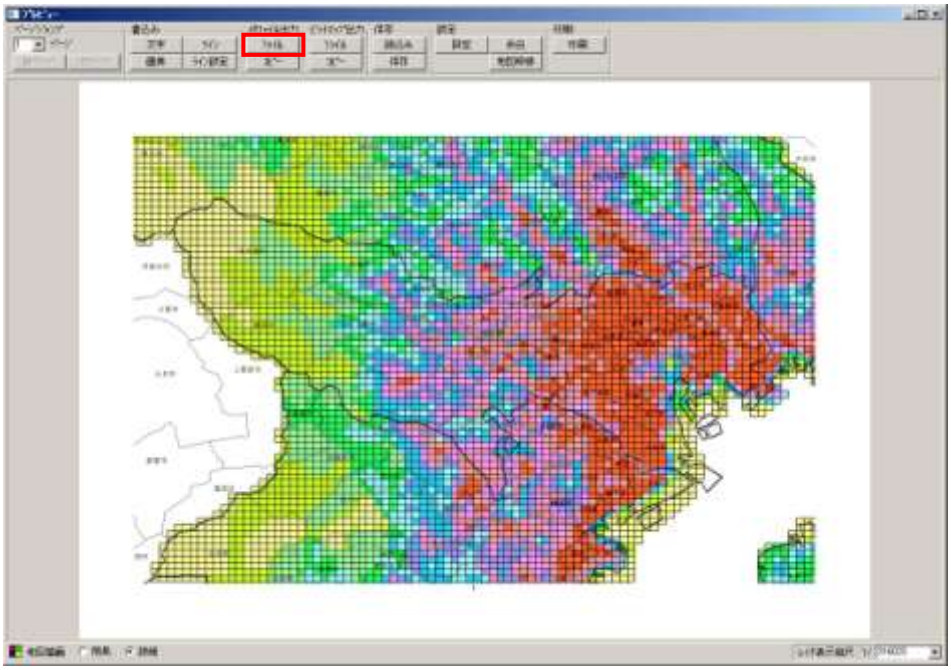
4. 右クリックするとポップアップメニューが表示されて「確定」「一点取消」「全点取消」「続行」が選択できます。

5. 「確定」を選択するとラインが確定します。

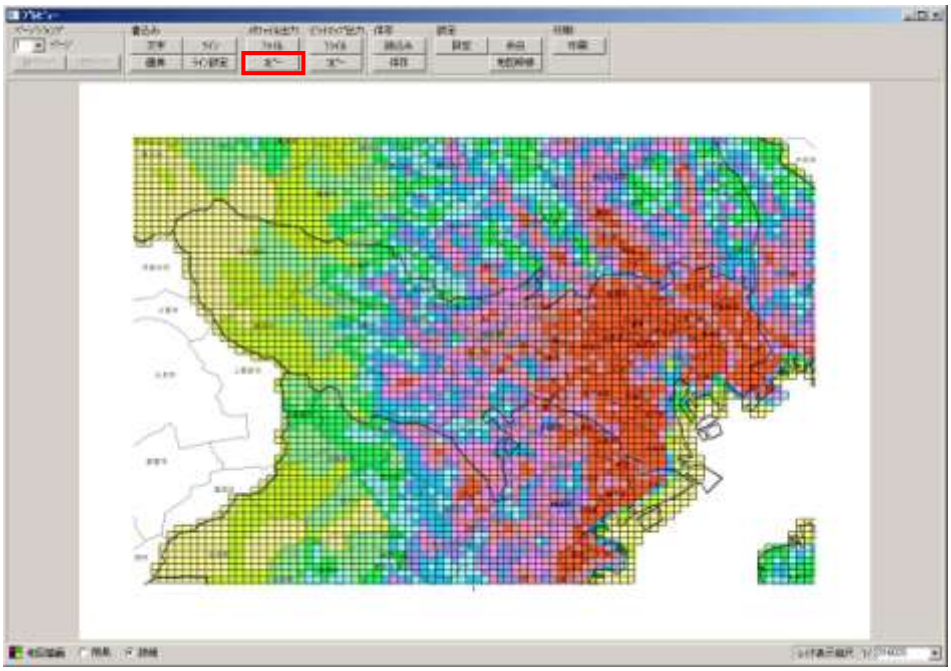
20.3.5 メタファイル出力を行う

プレビュー画像をメタファイル形式（拡張子.emf）で出力します。

1. メタファイル出力欄の[ファイル]ボタンをクリックし、ファイル名称を付けて保存してください。



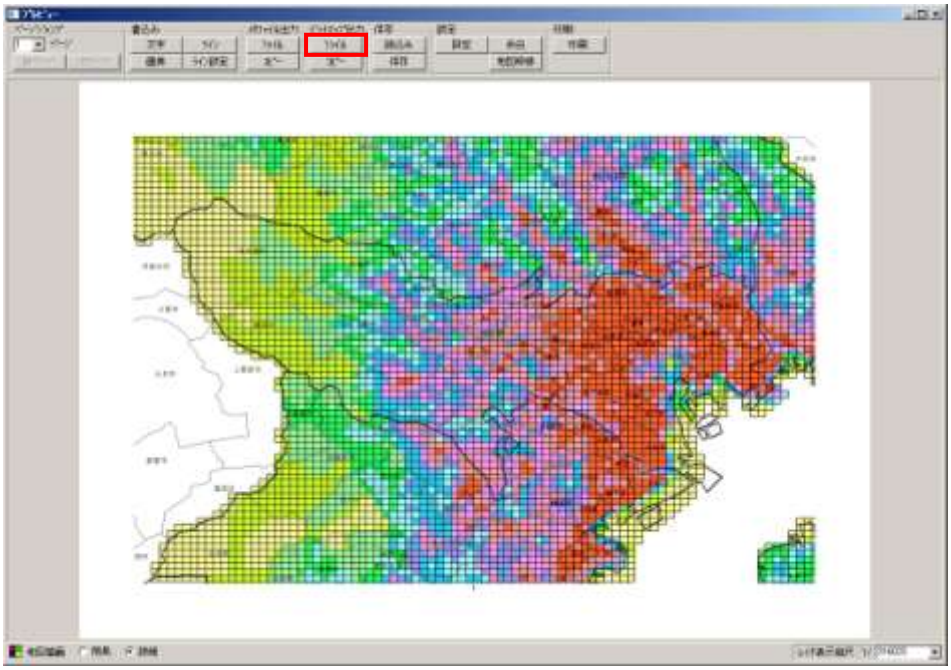
2. [コピー]ボタンをクリックすると、プレビュー画像がクリップボードに格納されます。



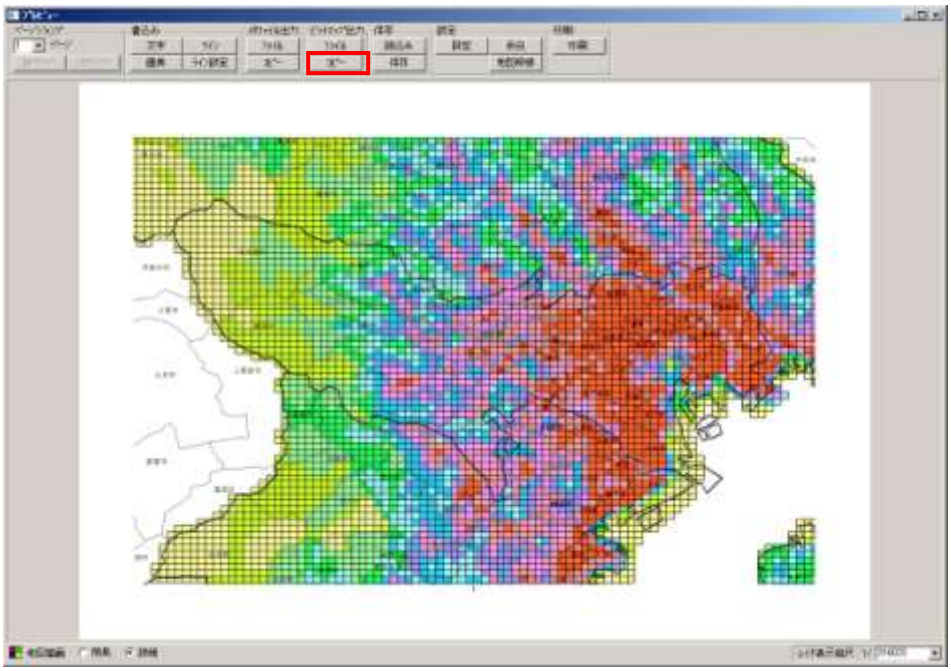
20.3.6 ビットマップ出力を行う

プレビュー画像をビットマップ形式（拡張子.bmp）に保存します。

1. ビットマップ出力欄の[ファイル]ボタンをクリックし、ファイル名称を付けて保存してください。

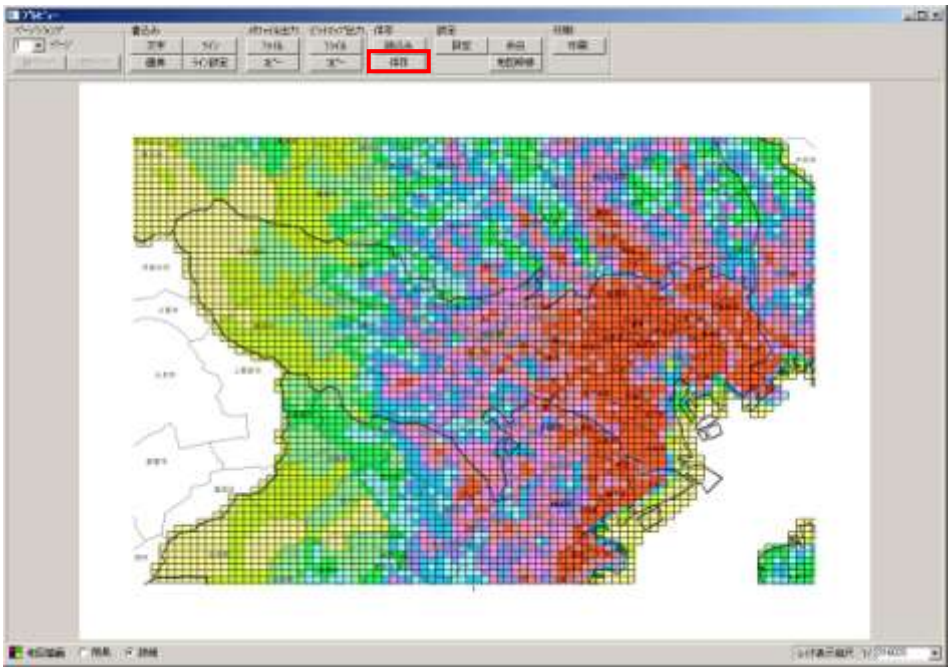


2. [コピー]ボタンをクリックすると、プレビュー画像がクリップボードに格納されます。



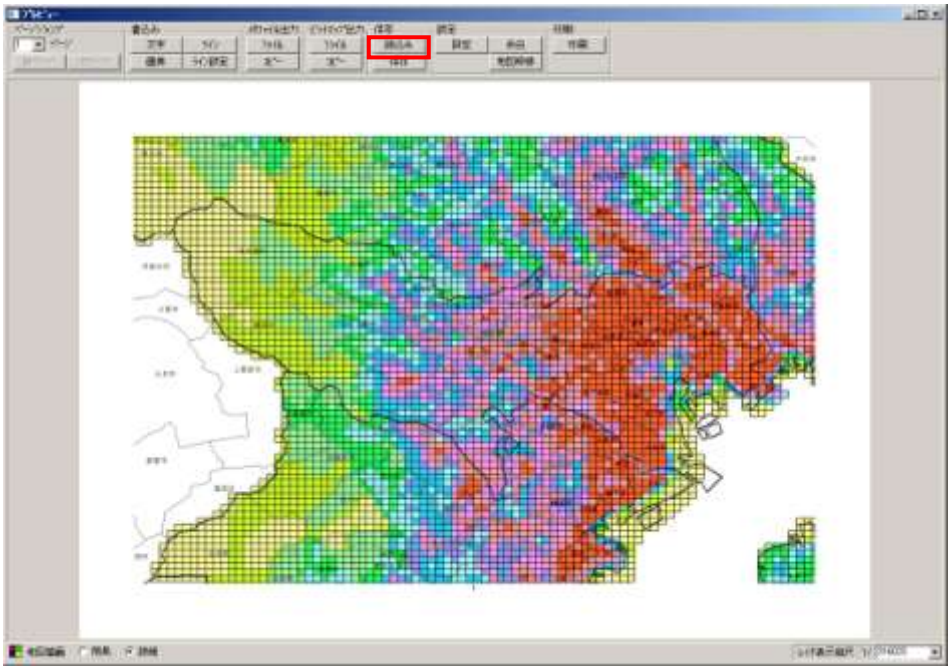
20.3.7 プレビュー場所の表示情報を保存する

保存欄の[保存]ボタンをクリックするとプレビュー場所の表示情報を保存することができます。



20.3.8 保存した地図の表示情報をプレビューに復元する

保存欄の[読込み]ボタンをクリックすると保存したプレビュー場所の表示情報を復元することができます。



「20.3.7 プレビュー場所の表示情報を保存する」(p. 20-29)

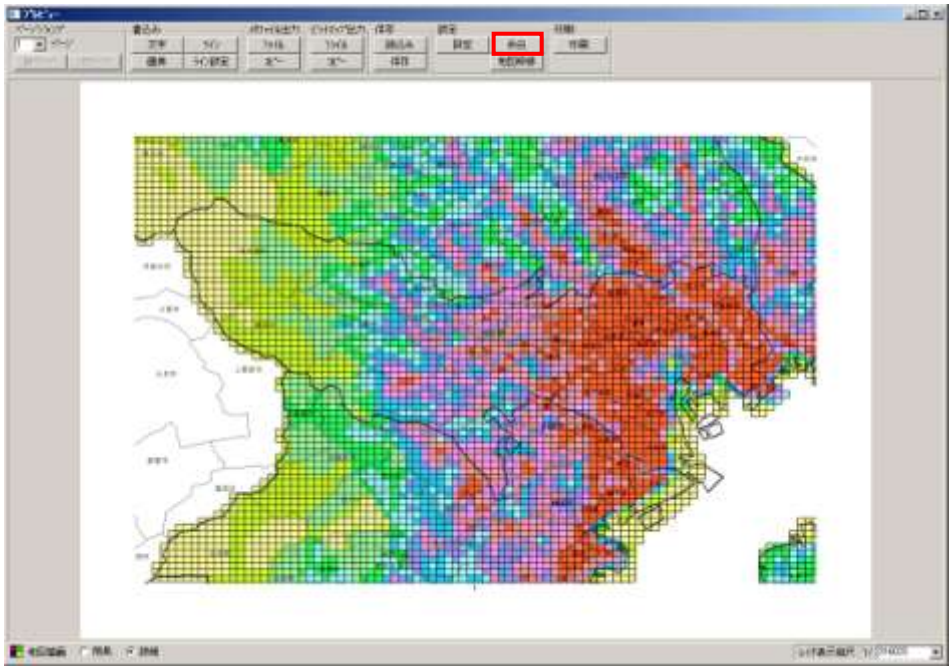
20.3.9 印刷設定を行う

[設定]ボタンをクリックすると「印刷設定」画面が表示されます。

☞「20.1 印刷設定を行う」(p. 20-2)

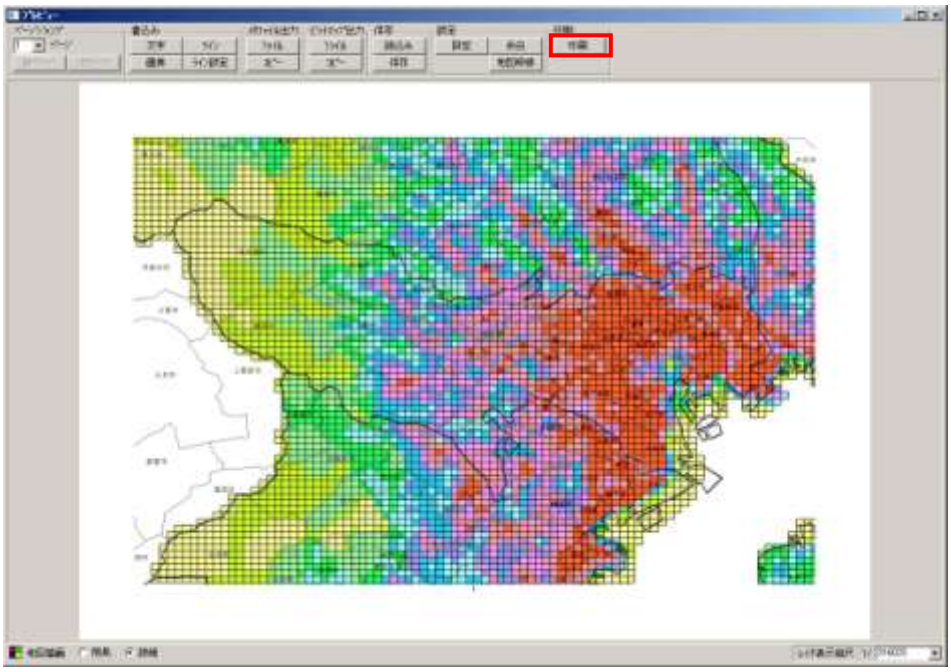
20.3.10 余白設定を行う

[余白]ボタンをクリックするとプレビュー上の地図枠線が点線で表示され、ドラッグすることで変更できます。



20.3.11 印刷を行う

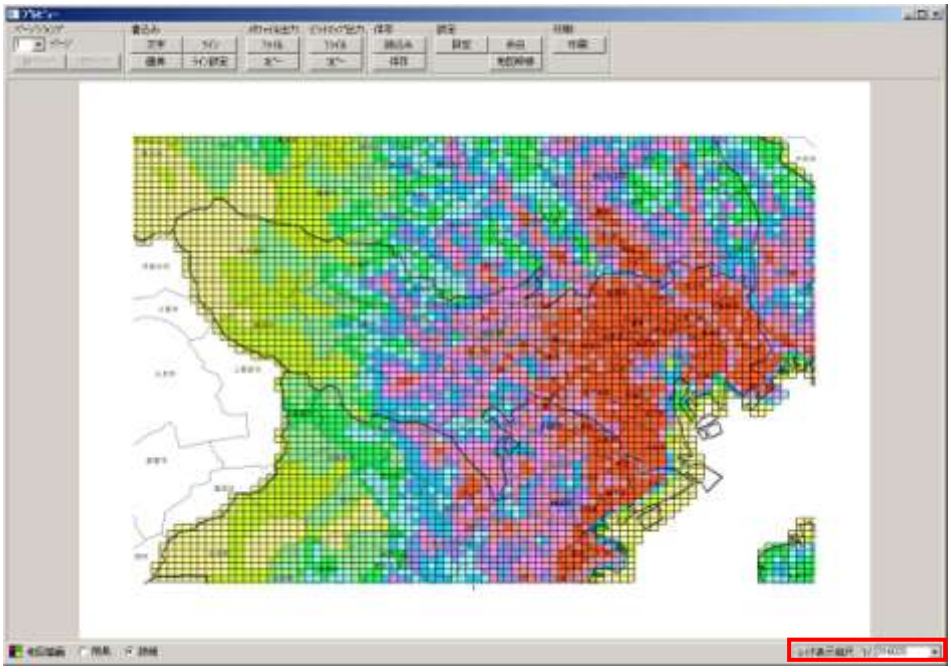
印刷を実行するには[印刷]ボタンをクリックします。



「20.4 印刷を実行する」(p. 20-34)

20.3.12 レイヤ表示縮尺を設定する

レイヤの表示縮尺をドロップダウンで変更することができます。



20.3.13 挿入オブジェクトの調整を行う

プレビュー上で挿入オブジェクト(テキスト文字・ビットマップ画像・スケール・凡例)の調整を行うことができます。

1. プレビュー上に表示された挿入オブジェクトにカーソルを合わせるとポインタが✣になります。

2. ポインタが✣の状態でドラッグ &ドロップすると印刷位置を移動することができます。

20.3.13.1 編集画面を表示する

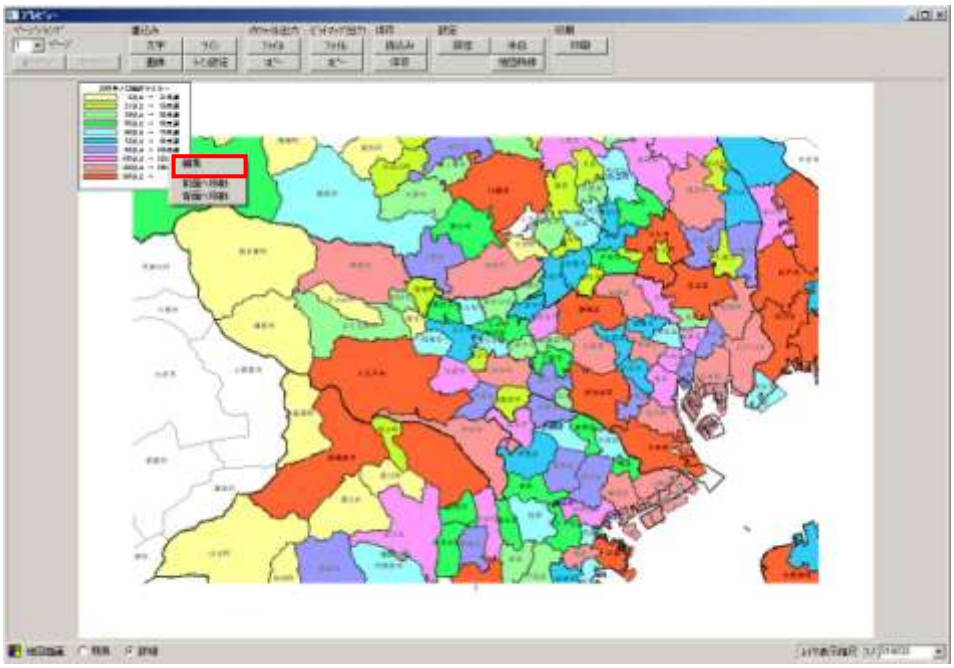
プレビュー上に表示された挿入オブジェクトの上で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。「編集」を選択すると各オブジェクトの編集画面が表示されます。

編集方法はオブジェクトの作成時と同じです。

「20.3.2 文字書込みを行う」(p. 20-18)
「20.3.3 画像書込みを行う」(p. 20-21)

20.3.13.1.1 凡例の印刷設定を行う

1. 凡例の上で右クリックしてポップアップメニューから「編集」を選択します。



2. 「凡例」画面が表示されます。

3. 表示倍率・印刷ページを設定することができます。

20.3.13.2 削除する

テキスト文字・ビットマップ画像・ラインはポップアップメニューから削除することができます。

1. 「削除」を選択すると右クリックしたオブジェクトを削除します。

2. 「全て削除」を選択すると挿入した全てのテキスト文字・ビットマップ画像を削除します。

20.3.13.3 前面/背面に移動する

全ての挿入オブジェクトはポップアップメニューから前背面の位置調整が行えます。

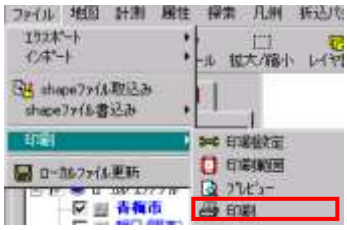
1. 「前面へ移動」を選択すると右クリックしたオブジェクトを他の挿入オブジェクトの前面に移動します。

2. 「背面へ移動」を選択すると右クリックしたオブジェクトを他の挿入オブジェクトの背面に移動します。

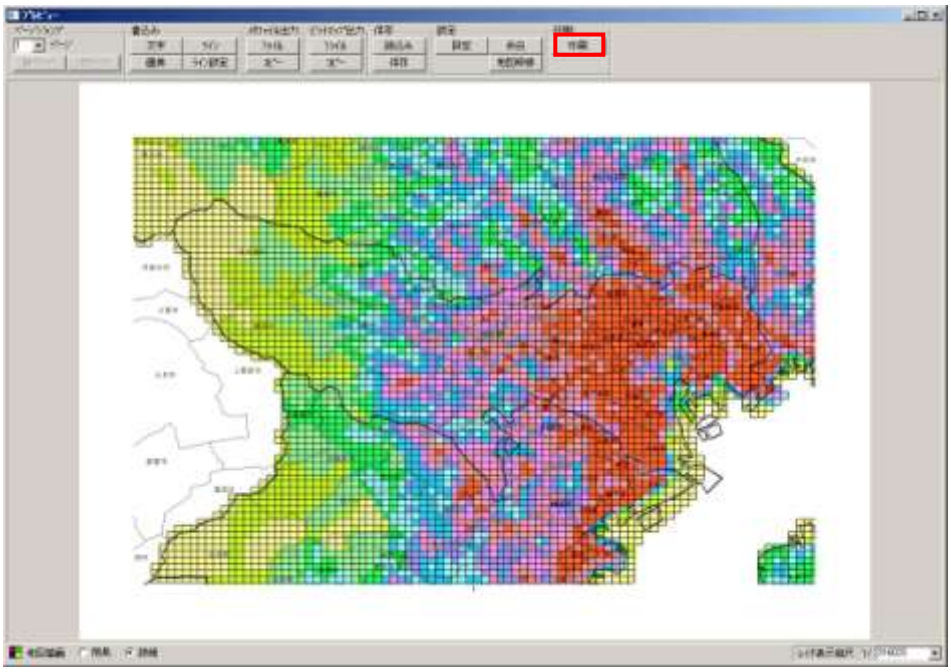
20.4 印刷を実行する

以下では、印刷の実行について説明します。

1. 「印刷」を選択します。



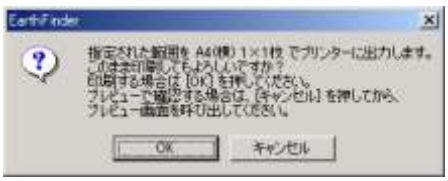
ファイルメニュー



「プレビュー」画面

「印刷範囲ツール」画面

2. 印刷確認が表示されます。



設定した用紙と出力枚数が表示されています。再度、確認してください。

3. [OK]ボタンをクリックすると印刷確認を閉じて印刷が実行されます。

[キャンセル]ボタンをクリックすると印刷確認を閉じて「プレビュー」画面が表示され、印刷設定の変更を行うことができます。

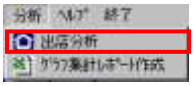
21 分析を行う

21.1 出店分析を行う

以下では出店分析について説明します。

分析メニューまたは、

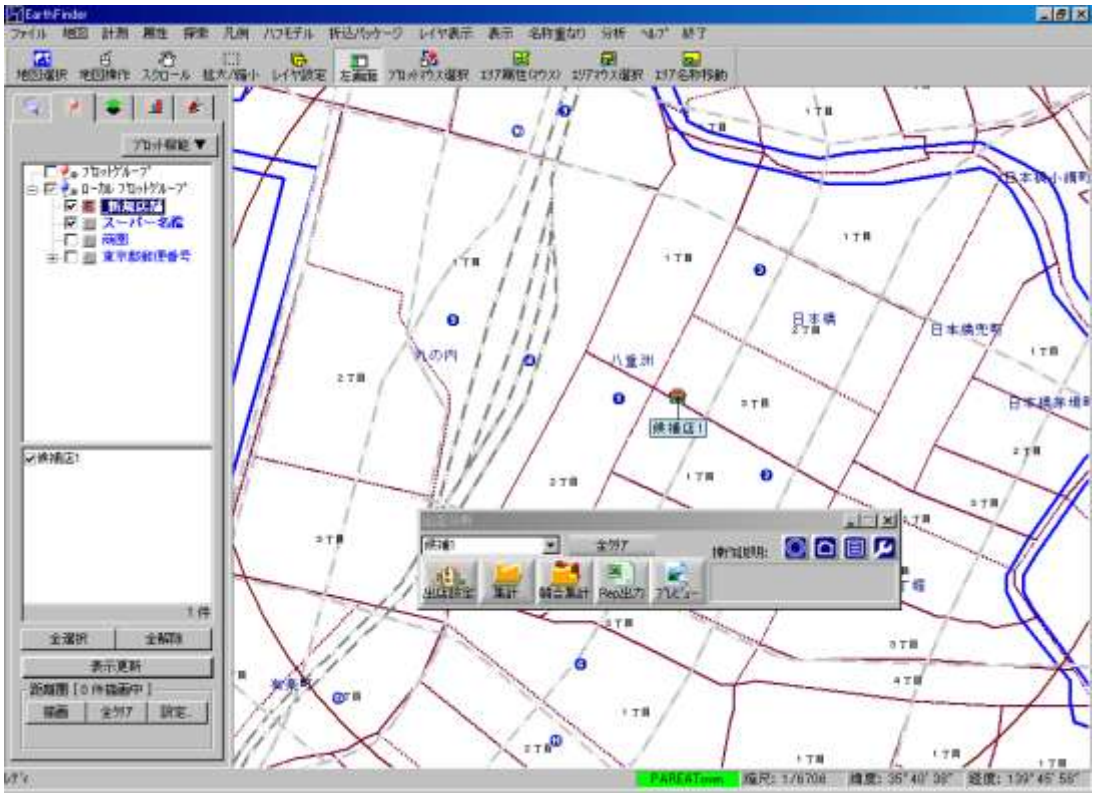
ボタンで「出店分析」画面を表示します。



21.1.1 出店設定を行う

1. [出店設定]ボタンをクリックするとカーソルが のようになり、地図上をクリックできるようになります。

2. 地図上のクリックした地点は候補店プロットとして保存されます。



候補は「候補 1」～「候補 5」をドロップダウンで選ぶことができます。
[全クリア]ボタンをクリックすると保存した候補店が削除されます。

3. ボタンをクリックすると候補店を中心とした同心円距離圏を描くことができます。

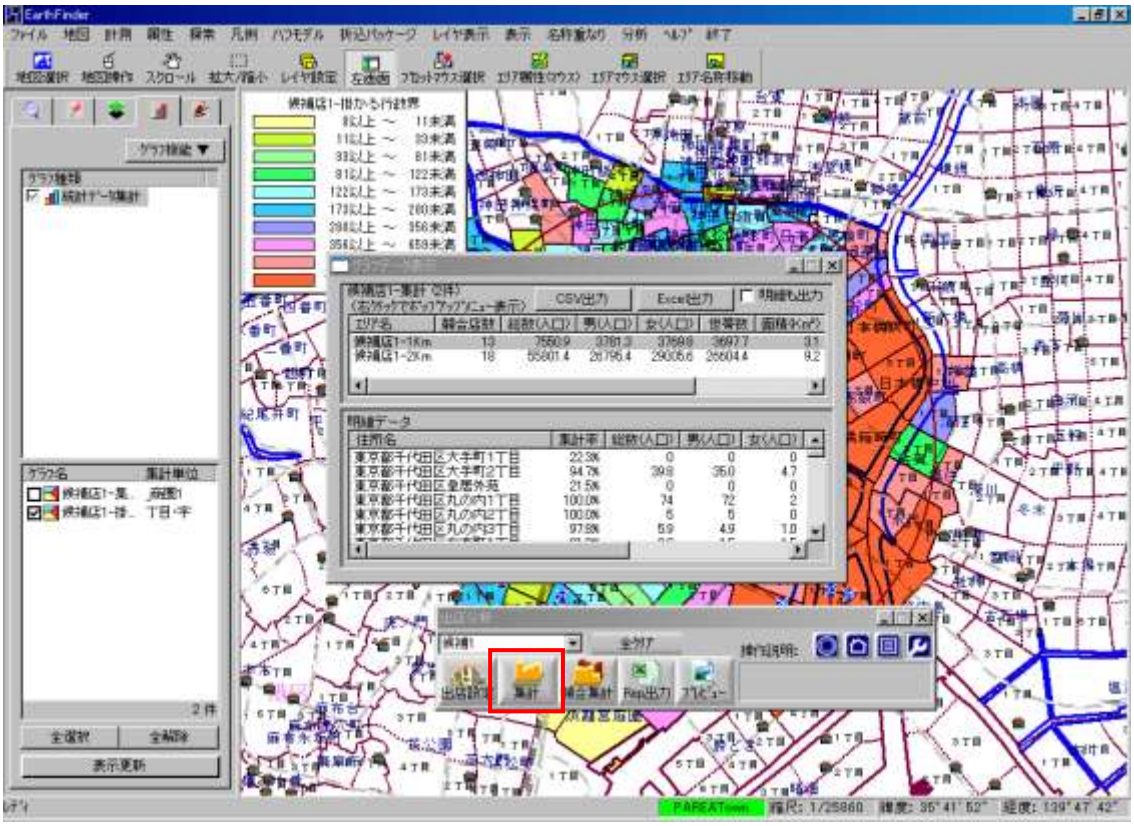
4. ボタンをクリックすると競合店プロットグループを指定して距離圏を描くことができます。

5. ボタンをクリックすると集計で使用する指標を設定することができます。

「21.1.2 商圏の集計を行う」(p. 21-3)

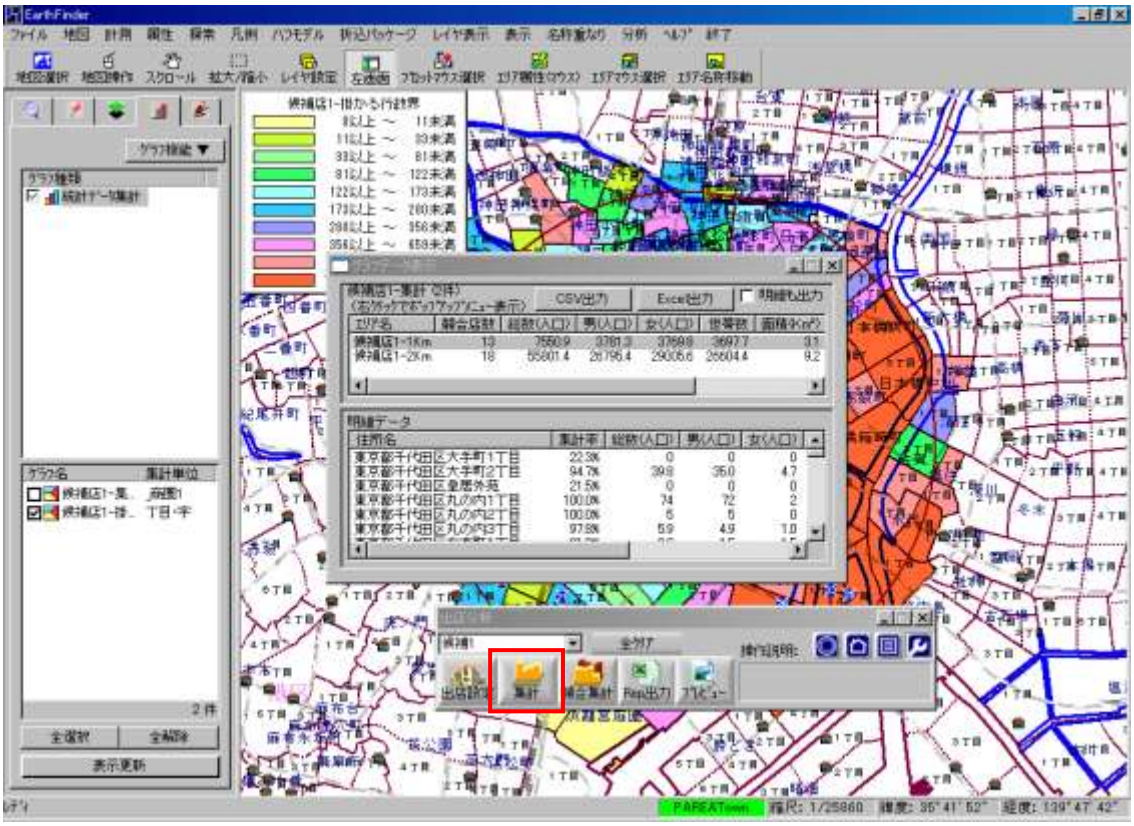
21.1.2 商圏の集計を行う

「集計」ボタンをクリックすると候補店に対して集計が行われ、グラフが表示されます。



21.1.3 競合店の集計を行う

「競合集計」ボタンをクリックすると競合店に対して集計が行われ、グラフが表示されます。



21.1.4 レポートを出力する

「Rep 出力」ボタンをクリックすると地図上に表示されている情報・候補店や競合店の集計結果を Excel 保存します。

21.1.5 プレビューを行う

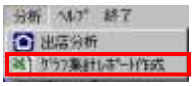
「プレビュー」ボタンをクリックすると「印刷設定」画面が表示されて、プレビューの設定を行うことができます。

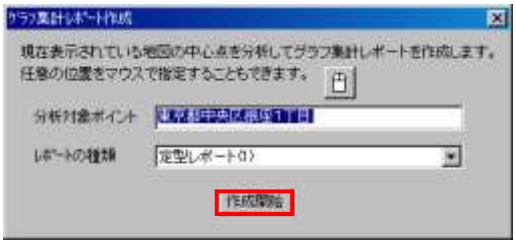
☞「20.1 印刷設定を行う」(p. 20-2)

21.2 レポートを作成する

以下ではグラフ集計のレポート作成について説明します。

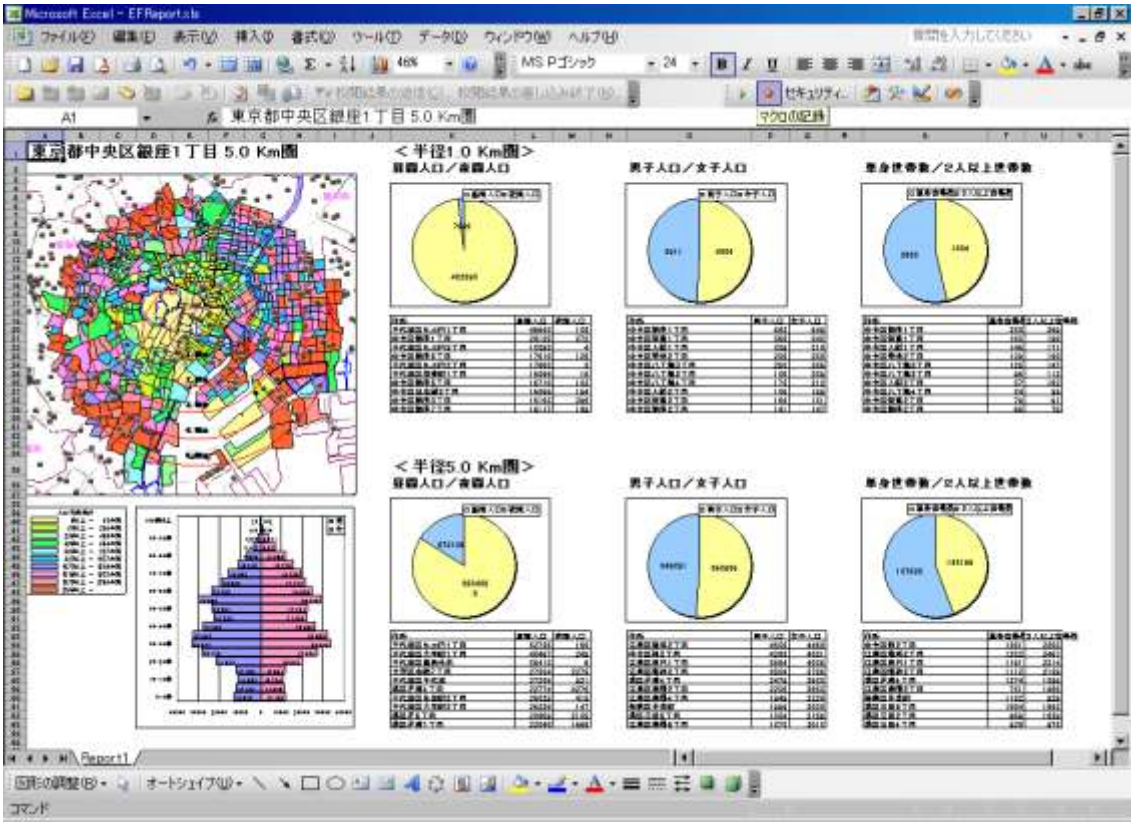
1. 「グラフ集計レポート作成」画面で中心位置を決定し、[作成開始]ボタンをクリックしてください。



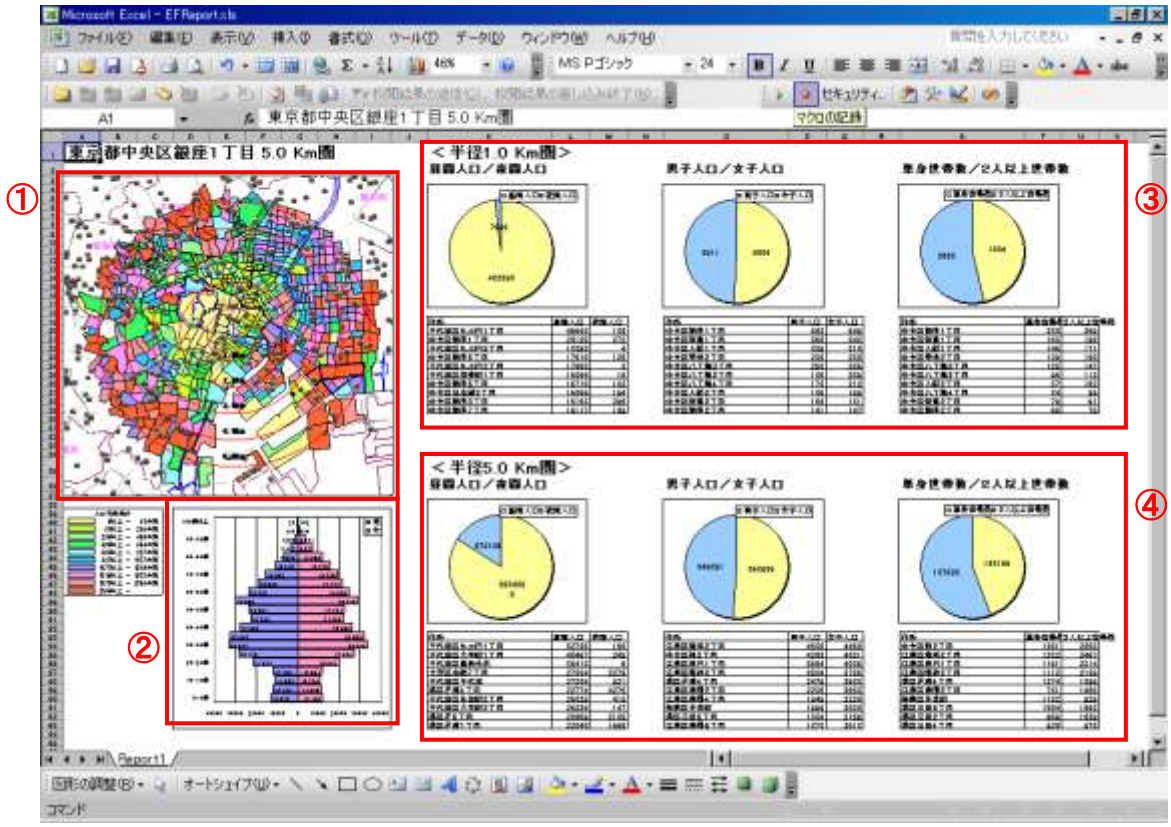


地図の中心位置が自動で分析対象ポイントとなり、地図上に でマークされます。地図上の任意の場所をクリックするとその地点が分析対象ポイントとなります。

2. レポートが作成されて Excel が表示されます。



レポート画面は4つの構成になっています。



① 5km圏町丁目人口の界面グラフ
　左上には分析対象ポイントを中心とした半径5．0km圏の界面グラフが表示されます。

② 人口プラミッド
　左下には①の界面グラフに相応する人口ピラミッドが表示されます。

③ 半径1．0km圏の円グラフ
④ 半径5．0km圏の円グラフ
　右側には半径1．0km圏と半径5．0km圏それぞれに指標ごとの円グラフと町丁目別に内訳が表示されます。

レポートの形式は予め定義されており、現在は定型レポート（1）の一種類です。

22 付録

22.1 取り込みファイルのフォーマット

本章では取り込む外部ファイル（CSV 形式）のフォーマットついて説明します。

22.1.1 グラフデータのフォーマット

以下では、グラフデータを取り込む際に使用する外部ファイル（CSV 形式）のフォーマットを説明します。

22.1.1.1 一般グラフデータ

CSV ファイルを使用します。ファイルは 2 部構成とし、グラフ項目の見出し情報を設定する「見出し部」と、グラフの値情報を設定する「データ部」から構成されます。

① 見出し部

- グラフの横軸に表示する項目名を記述する行で、必ずファイルの 1 行目に定義します。
- 統計値をグラフデータとして取り込むのか取り込まないかを、ファイルの 2 行目に定義します（省略可能。省略した場合、全ての項目が取り込まれます）。

  取り込まない：S（半角大文字）

  取り込む　　：N（半角大文字）

  ※文字情報（例えば、住所や顧客名など）はグラフ統計値として取り込んでも意味が無いため、当行を設定することにより、統計値として必要な項目を指定できます。
- 統計値のサイズ（整数部桁や小数部桁）を、ファイルの3行目に定義します（2行目を省略した場合のみ省略可能）。以下は、設定方法のサンプルです。

  5（小数桁を扱わず、整数のみで管理します。「5.0」という書式でも同様の管理を行います。）

  3.2（整数を 3 桁まで、小数第 2 位まで管理します。）
- 第 1 項目には必ず「住所コード」を設定します。
- 第 2 項目以降に、グラフデータの項目名を記述します。
- グラフ表示用の終了項目を判断するため、項目名に「EOF」(半角大文字文字列。特殊コードではない)を記述します（将来の拡張フィールド用に準備してあります）。

② データ部

- グラフを表示する基となる統計値を記述する行で、ファイルの 4 行目以降に定義します。

No.	項目名	桁	備考
1	住所コード	40	都道府県コード～街区コード
2	（カンマ）	1	
3	グラフデータを順に記述		

③ 制限・制約事項、その他

- CSV 形式のため、各項目間はカンマ“,”で区切り、行間は改行記号(LF)で区切ります。
- データ行に記述される数値データは、カンマ編集を行わないでください。
- 格納されるデータ件数には、制限はありません。

④ サンプル

上記仕様に基づくCSVファイルサンプルは以下の通りです。なお『EOF』以降にある項目(『備考』)は、グラフ表示には影響されません。

住所コード、人工総数、"人口、男"、"人口、女"、地域名、EOF、備考[CR][LF]
S、N、N、N、S、S、S[CR][LF]
0、7、6、6、0、0、0[CR][LF]
13101000000、170349、517265、490837、東京都千代田区、、[CR][LF]
13102000000、170349、19283、9283、東京都中央区、、[CR][LF]

統計値としてシステムに反映されるのは
・ 人口総数(7 桁)
・ 人口、男(6 桁)
・ 人口、女(6 桁)
の 3 項目だけである。

⚠[CR][LF]は、実際には記述しません。

⚠表中の"、"(全角カンマ)は、実際には","(半角カンマ)で記述してください。","を表記しても判断しにくいため、"、"で表記してあります。

22.1.1.2 メッシュグラフデータ

CSV ファイルを使用します。ファイルは 2 部構成とし、グラフ項目の見出し情報を設定する「見出し部」と、グラフの値情報を設定する「データ部」から構成されます。

① 見出し部

- グラフの横軸に表示する項目名を記述する行で、必ずファイルの 1 行目に定義します。
- 統計値をグラフデータとして取り込むのか取り込まないかを、ファイルの 2 行目に定義します(省略可能。省略した場合、全ての項目が取り込まれます)。

  取り込まない:S(半角大文字)

  取り込む :N(半角大文字)

  ※文字情報はグラフ統計値として取り込んでも意味が無いため、当行を設定することにより、統計値として必要な項目を指定できます。
- 統計値のサイズ(整数部桁や小数部桁)を、ファイルの3行目に定義します(2行目を省略した場合のみ省略可能)。以下は、設定方法のサンプルです。

  5(小数桁を扱わず、整数のみで管理します。「5.0」という書式でも同様の管理を行います。)

  3.2(整数を 3 桁まで、小数第 2 位まで管理します。)
- 第 1 項目には必ず「メッシュコード」を設定します。
- 第 2 項目以降に、グラフデータの項目名を記述します。
- グラフ表示用の終了項目を判断するため、項目名に「EOF」(半角大文字文字列。特殊コードではない)を記述します(将来の拡張フィールド用に準備してあります)。

② データ部

- グラフを表示する基となる統計値を記述する行で、ファイルの 4 行目以降に定義します。

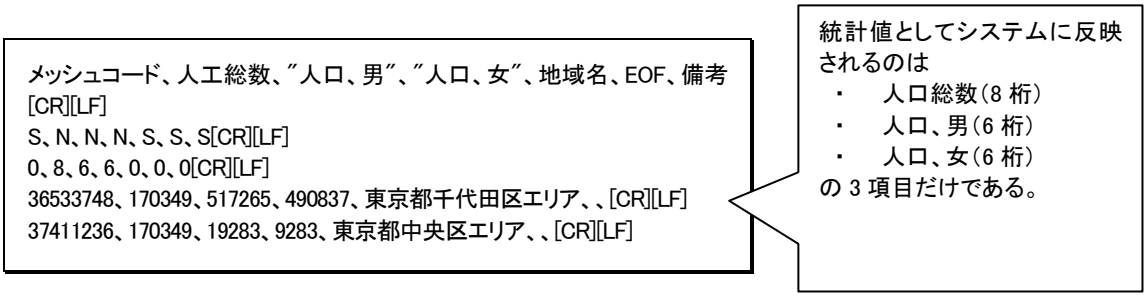
No.	項目名	桁	備考
1	メッシュコード	8	第三次地域区画
2	(カンマ)	1	
3	グラフデータを順に記述		

③ 制限・制約事項、その他

- CSV 形式のため、各項目間はカンマ","で区切り、行間は改行記号(LF)で区切ります。
- データ行に記述される数値データは、カンマ編集を行わないでください。
- 格納されるデータ件数には、制限はありません。

④ サンプル

上記仕様に基づくCSVファイルサンプルは以下の通りです。なお『EOF』以降にある項目(『備考』)は、グラフ表示には影響されません。



⚠[CR][LF]は、実際には記述しません。

⚠表中の“、”(全角カンマ)は、実際には“,”(半角カンマ)で記述してください。“,”を表記しても判断しにくいため、“、”で表記してあります。

22.1.2 プロットデータのフォーマット

以下では、プロットデータを取り込む際に使用する外部ファイルのフォーマットを説明します。形式は CSV あるいは Excel 形式です。

ファイルは 2 部構成とし、プロットの管理項目情報を設定する「管理項目部」と、プロットの値情報を設定する「データ部」から構成されます。

① 管理項目部

- プロットデータを取り込む際にキーとなる項目を 1 行目に定義します(省略可能)。
- プロットの管理項目を記述する行で、キー項目を設定した場合はファイルの 2 行目に、設定しなかった場合はファイルの 1 行目に必ず定義します。
- 管理項目を文字列で管理するのか数字で管理するのかを、プロットの管理項目を記述した行の次の行に定義します(省略可能)。
- 文字列管理 :S(半角大文字)
- 数字管理 :N(半角大文字)
- 管理項目のサイズ(文字長や整数部桁や小数部桁)を、管理項目の型(文字列または数字)を定義した行の次の行に定義します(管理項目の型の定義を省略した場合のみ省略可能)。以下は、設定方法のサンプルです。

  文字列管理:10(10 バイト長の場合)

  数字管理 :5(小数桁を扱わず、整数のみで管理する。もちろん、「5.0」という書式でも可能)

  3.2(整数を 3 桁まで、小数第 2 位まで管理する)

⚠管理項目の型とサイズの定義を省略した場合、全管理項目を 128 バイト長の文字列データとして扱います。

⚠数字項目のサイズが 3.2 のとき、データ部に書かれている値の整数部が 4 桁以上の場合はエラーとなりその行のデータは取り込まれません。小数部が 3 桁以上の場合は小数点第 3 位が四捨五入されて取り込まれます。例えば、「123.125」のときは「123.13」として登録されます。

⚠プロットデータ書き出しを行った場合、管理データ種別が「P」となった項目が追加される場合がありますが、この項目はシステム内で同一データか否かを管理するための ID 項目ですので、編集しないでください。また、ユーザーが作成する CSV ファイルには項目種別「P」を作成しないでください。

② データ部
- プロットの管理値を記述してください。

③ 制限・制約事項、その他
- CSV 形式のため、各項目間はカンマ“,”で区切り、行間は改行記号(LF)で区切ります。
- データ行に記述される数値データは、カンマ編集を行わないでください。
- 格納されるデータ件数、ならびに項目数に制限はありません。

④ サンプル

以下に、上記仕様に基づく CSV ファイルのサンプルを例としてあげます。

例 1:管理項目の型とサイズを指定した場合

```
顧客コード、顧客名、郵便番号、住所、電話番号、世帯数、敷地面積[CR][LF]
S、S、S、S、S、N、N[CR][LF]
10、64、10、64、20、4.1[CR][LF]
A128、赤〇　高士、130-00?3、東京都千代田区△町 281、03-2318-XXXX、5、65.9[CR][LF]
K716、加藤　広〇、130-00?9、東京都千代田区×町 918-18、03-2319-XXXX、2、35.0[CR][LF]
```

例 2:管理項目の型とサイズを省略した場合

```
顧客コード、顧客名、郵便番号、住所、電話番号、世帯数、敷地面積[CR][LF]
A128、赤〇　高士、130-00?3、東京都千代田区△町 281、0765-23-XXXX、5、65.9[CR][LF]
K716、加藤　広〇、130-00?9、東京都千代田区×町 918-18、0765-23-XXXX、2、35.0[CR][LF]
```

⚠[CR][LF]は、実際には記述しません。

⚠表中の“、”(全角カンマ)は、実際には“,”(半角カンマ)で記述してください。“,”を表記しても判断しにくいため、“、”で表記してあります。

22.1.3 エリアデータのフォーマット

以下では、エリアデータを取り込む際に使用する外部ファイル（テキスト形式）のフォーマットを説明します。エリアの形状は住所単位となり、住所コードで規定します。

拡張子を".acode"としたテキストファイルで、行毎に"エリア名称,住所コード"を定義します。以下にサンプルを示します。

```
#コメントです。エリア名称と住所コードをカンマで区切ります。[CR][LF]
エリア1, 13101001001[CR][LF]
エリア1, 13101001002[CR][LF]
エリア1, 13101001003[CR][LF]
エリア2, 13101040001[CR][LF]
エリア3, 13101040002[CR][LF]
#これもコメントです。[CR][LF]
```

住所コードに対応したエリアを定義します。
同一のエリア名称の場合は形状のORを取ります。すなわち、いくつかの住所を統合したエリアを作成することができます。
#から始まる行はコメント扱いとなります。

住所コードは一般グラフデータと同様です。

「22.1.1.1 一般グラフデータ」(p. 22-1)